志木市の文化財　第79集

西原大塚遺跡第228地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

２０２１

埼玉県志木市教育委員会

志木市の文化財　第79集
西原大塚遺跡第228地点　埋蔵文化財発掘調査報告書
埼玉県志木市教育委員会

志木市の文化財　第79集

西原大塚遺跡第228地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2021

埼玉県志木市教育委員会

はじめに

志木市教育委員会
教育長　柚木　博

ここに刊行する『西原大塚遺跡第 228 地点埋蔵文化財発掘調査報告書』は、教育委員会が令和元年度に受託事業として実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

現在、市内には、15 カ所の埋蔵文化財包蔵地が登録されています。これらの埋蔵文化財は祖先が残してきた貴重な文化遺産であり、私たちはこれを大切に保護し後世に伝えていく使命があると言えます。

また、西原大塚遺跡については、これまでの調査成果から、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世までの幅広い時期にわたる複合遺跡であることが判明しています。

さて、今回報告する西原大塚遺跡第 228 地点では、縄文時代～近世にかけての遺構・遺物が多数発見されました。

このように、今回の調査においても本市の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料を得ることができました。この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別の御理解と御協力を頂いた事業主体者、そして深い御理解と御協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

例　言

1．本書は、令和元年度に発掘作業を実施した、埼玉県志木市に所在する遺跡である西原大塚遺跡第228地点の発掘調査報告書である。

2．本調査は、分譲住宅建設に伴う記録保存のための発掘調査として、志木市教育委員会が土木工事主体者の個人から委託を受け、調査主体者として実施した。

3．埋蔵文化財保存事業の実施にあたり、第１期の発掘作業・整理作業を関東文化財振興会株式会社（代表取締役　宮田和男）に、第２期の整理作業・報告書刊行作業を株式会社東京航業研究所（代表取締役　中本直士）に支援業務を委託した。

4．発掘調査の期間は、以下のとおりである。

○令和元年度（第１期）

発掘作業・整理作業：令和元年９月２日から令和２年３月25日

○令和２年度（第２期）

整理作業・報告書刊行作業：令和２年６月９日から令和３年３月26日

5．本書は尾形則敏・徳留彰紀・大久保聡が監修し、編集は小森暁生が行った。執筆は第１章、第２章第１節を尾形則敏、第３章第１節（3）を小森暁生、付編を株式会社東京航業研究所地球科学分析室、それ以外を宅間清公が担当した。

6．本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターで一括して保管している。

7．調査組織は以下の通りである。

【志木市教育委員会組織】

調査主体者	志木市教育委員会
教育長	柚木　博
教育政策部長	土岐隆一（～令和元年度）
〃	北村竜一（令和２年度～）
教育政策部次長	北村竜一（～令和元年度）
〃	大熊克之（令和２年度～）
生涯学習課長	原田謙二（～令和元年度）
〃	山本　勲（令和２年度～）
生涯学習課副課長	中原敦也（令和２年度～）
生涯学習課主幹	中原敦也（～令和元年度）
	浅見千穂（令和２年度～）
生涯学習課主査	浅見千穂（～令和元年度）
〃	武井香代子
〃	尾形則敏
〃	徳留彰紀（令和２年度～）
生涯学習課主任	松永真知子
〃	徳留彰紀（～令和元年度）

〃　大久保　聡
調査担当者　尾形則敏
〃　徳留彰紀
〃　大久保　聡
生涯学習課主事補　鈴木楓月
志木市文化財保護審議会　井上國夫（会長）
深瀬　克（委員）
上野守嘉（委員）
新田泰男（委員）
金子博一（委員）（令和２年４月１日～）
高橋　豊（委員）（～令和２年３月31日）

【関東文化財振興会株式会社】

○第１期：発掘作業・整理作業

調査員　佐々木藤雄
調査補助員　小久顕治・今井千恵・村山彩子
現場代理人　杉原宗久
作業員　阿部純子・厚川貞夫・石毛博之・大川早苗・大木一芳・加久和俊
上川明美・小西義弘・田中　勇・田中晃二・田中　進・綱島昭四郎
永澤孝子・長嶋光也・中野僚太・野口芳孝・原山島子・廣川美佳
福江貴浩・古屋秀明・本嶋宗泰・増澤勝実・南　勝也・八重倉幸子
矢野　正・吉葉照彦

【株式会社東京航業研究所】

○第２期：整理作業・報告書刊行作業

調査員　宅間清公
整理補助員　小森暁生
作業員　石原好美・大川亜弓・大久保文子・岡田ヒサコ・荻島里江・兼目恵美
酒井成男・島崎美代子・高橋　昇・田上達恵・田口陽祐・竹内あい
田邊文章・東條高士・中原はつね・中山幸恵・西村由美子・野島　泉
羽鳥久子・林　洋子・布施比登美・松山純示・宮崎浩子・村井建三
村上京子・持田つる子・森田　望・柳澤美樹・大和　修・山羽　孝

８．発掘作業及び整理作業・報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課・（公財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館

江原　順・加藤秀之・川畑隼人・隈本健介・小出輝雄・斉藤　純・齋藤欣延
笹森健一・斯波　治・鈴木一郎・照林敏郎・中岡貴裕・野沢　均・早坂廣人
堀　善之・前田秀則・松本富雄・柳井章宏・山本　龍・和田晋治・渡辺邦仁

9．本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記の通りである。

○周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

令和元年８月５日付け　教文資第４－840号

○埋蔵物の文化財認定について（通知）

令和２年６月30日付け　教文資第７－39号

凡　　例

1．本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第１図　　1：10,000「志木市全図」アジア航測株式会社調製

第２図　　1：5,000　ゼンリン電子住宅地図　デジタウン「埼玉県志木市」平成27年４月発行　株式会社ゼンリン

2．本書の国家座標、緯度、経度は、世界測地系に則している。

3．挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。

4．遺構挿図版中の水糸レベルは、海抜標高を示す。

5．ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位はcmである。また、同一遺構内にあるピットでも、おそらく後世のピットと思われるものには、数値を省略した。

6．遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個体別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。

7．挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内に内容を示した。

8．土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は［　］、推定値は（　）を付した。

高：器高　　口：口径　　底：底径　　厚：器厚

9．遺構の略記号は、以下のとおりである。

Ｊ＝縄文時代の住居跡　　Ｙ＝弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡

Ｈ＝奈良・平安時代の住居跡　　Ｄ＝土坑　　柵＝柵列状遺構　　Ｐ＝ピット

目　　次

はじめに
例　　言／凡　　例／挿図目次／表 目 次／図版目次
第１章　遺跡の立地と環境…… 1
　第１節　市域の地形と遺跡…… 1
　第２節　遺跡の概要…… 7
第２章　発掘調査の概要…… 10
　第１節　調査に至る経緯…… 10
　第２節　調査の経過…… 12
　第３節　基本層序…… 14
第３章　検出された遺構と遺物…… 17
　第１節　縄文時代…… 17
　第２節　弥生時代後期～古墳時代前期…… 83
　第３節　奈良・平安時代…… 131
　第４節　中世以降…… 138
　第５節　遺構外出土遺物…… 157
第４章　調査のまとめ…… 164
　第１節　縄文時代…… 164
　第２節　弥生時代後期～古墳時代前期…… 166

［付編］自然科学分析
　黒曜石の産地推定結果報告書…… 171

図　　版
報告書抄録

挿図目次

第 1 図　市域の地形と遺跡分布（1／20,000）…… 2
第 2 図　西原大塚遺跡の調査地点（1／5,000）…… 9
第 3 図　確認調査遺構分布図（1／300）…… 11
第 4 図　ＴＰ配置図（1／400）…… 14
第 5 図　基本層序（1／60）…… 15
第 6 図　遺構分布図（1／400）…… 16
第 7 図　縄文時代遺構全体図（1／400）…… 17
第 8 図　87 号住居跡（1／60）・炉（1／30）…… 19
第 9 図　87 号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 20
第 10 図　87 号住居跡出土遺物（1）（1／4）…… 21
第 11 図　87 号住居跡出土遺物（2）（1／3）…… 22
第 12 図　87 号住居跡出土遺物（2／3・1／3）…… 23
第 13 図　89 号住居跡（1／60）…… 26
第 14 図　89 号住居跡埋甕出土状態（1／30）…… 27
第 15 図　89 号住居跡出土遺物（1／4・1／3）…… 27
第 16 図　195 号住居跡（1／60）・炉（1／30）…… 29
第 17 図　195 号住居跡炉（1／30）・貯蔵穴（1／30）・埋甕出土状態（1／30）・遺物出土状態（1／60）…… 30
第 18 図　195 号住居跡出土遺物（1）（1／4）…… 31
第 19 図　195 号住居跡出土遺物（2）（1／3）…… 32
第 20 図　195 号住居跡出土遺物（3）（1／3）…… 33
第 21 図　196 号住居跡（1／60）・炉（1／30）…… 35
第 22 図　196 号住居跡出土遺物（1／3）…… 36
第 23 図　197 号住居跡（1／60・1／30）…… 38
第 24 図　197 号住居跡出土遺物（1／3）…… 39
第 25 図　198 号住居跡（1／60）…… 40
第 26 図　198 号住居跡遺物出土状態（1／60）・炉（1／30）・埋甕出土状態（1／30）…… 41
第 27 図　198 号住居跡出土遺物（1）（1／3・1／4）…… 42
第 28 図　198 号住居跡出土遺物（2）（1／4・1／3）…… 43
第 29 図　198 号住居跡出土遺物（3）（1／3）…… 44
第 30 図　198 号住居跡出土遺物（4）（1／3・2／3）…… 45
第 31 図　199 号住居跡（1／60）…… 50
第 32 図　199 号住居跡出土遺物（1／3）…… 50
第 33 図　200 号住居跡（1／60）・埋甕炉（1／30）… 51
第 34 図　200 号住居跡遺物出土状態（1／60）・埋甕炉（1／30）…… 52
第 35 図　200 号住居跡出土遺物（1）（1／4・1／3）… 53
第 36 図　200 号住居跡出土遺物（2）（1／4・1／3）…… 54
第 37 図　200 号住居跡出土遺物（3）（1／3）…… 55
第 38 図　201 号住居跡（1／60）…… 57
第 39 図　201 号住居跡炉（1／30）…… 58
第 40 図　201 号住居跡出土遺物（1）（1／4・1／3）…… 58
第 41 図　201 号住居跡出土遺物（2）（1／3）…… 59
第 42 図　202 号住居跡（1／60）…… 61
第 43 図　202 号住居跡出土遺物（1／3）…… 61
第 44 図　203 号住居跡・204 号住居跡（1／60）…… 62
第 45 図　203 号住居跡埋甕炉（1／30）・204 号住居跡埋甕炉（1/30）…… 63
第 46 図　203 号住居跡・204 号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 64
第 47 図　203 号住居跡出土遺物（1）（1／4・1／3）…… 64
第 48 図　203 号住居跡出土遺物（2）（1／3）…… 65
第 49 図　204 号住居跡出土遺物（1／6・1／4）…… 67
第 50 図　204 号住居跡出土遺物（1／3）…… 68
第 51 図　縄文時代土坑（1）（1／60）…… 75
第 52 図　縄文時代土坑（2）（1／60）…… 76
第 53 図　881 号土坑出土遺物（1／3）…… 76
第 54 図　882 号土坑出土遺物（1／3）…… 76
第 55 図　883 号土坑出土遺物（1／3）…… 77
第 56 図　884 号土坑出土遺物（1／3）…… 77
第 57 図　885 号土坑出土遺物（1／3）…… 78
第 58 図　889 号土坑出土遺物（1／4）…… 78

第 59 図　891 号土坑出土遺物（1／3）…… 78
第 60 図　892 号土坑出土遺物（1／3）…… 78
第 61 図　893 号土坑出土遺物（1／3）…… 79
第 62 図　896 号土坑出土遺物（1／3）…… 80
第 63 図　897 号土坑出土遺物（1／3）…… 80
第 64 図　898 号土坑出土遺物（1／3）…… 81
第 65 図　899 号土坑出土遺物（1／3）…… 82
第 66 図　弥生時代後期～古墳時代前期遺構全体図（1／400）…… 83
第 67 図　293 号住居跡（1／60）・炉（1／30）…… 85
第 68 図　293 号住居跡出土遺物（1／3）…… 86
第 69 図　294 号住居跡（1／60）…… 86
第 70 図　294 号住居跡出土遺物（1／4・1／3）…… 87
第 71 図　337 号住居跡（1／60）…… 87
第 72 図　605 号住居跡（1／60）・炉（1／30）・貯蔵穴（1／30）…… 89
第 73 図　605 号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 90
第 74 図　605 号住居跡出土遺物（1／4・1／3）…… 90
第 75 図　606 号住居跡（1／60）・炉（1／30）…… 91
第 76 図　606 号住居跡出土遺物（1／4）…… 91
第 77 図　607 号住居跡（1／60）・炉（1／30）…… 93
第 78 図　607 号住居跡出土遺物（1／4）…… 94
第 79 図　608 号住居跡（1／60）・炉（1／30）…… 95
第 80 図　609 号住居跡（1／60）・炉（1／30）…… 95
第 81 図　610 号住居跡（1／60）・炉（1／30）…… 97
第 82 図　610 号住居跡出土遺物（1／4）…… 97
第 83 図　611 号住居跡（1／60）・炉（1／30）・貯蔵穴（1／30）…… 98
第 84 図　611 号住居跡遺物出土状態（1／60）…… 99
第 85 図　611 号住居跡出土遺物（1／4・1／3）……100
第 86 図　612 号住居跡（1／60）……101
第 87 図　613 号住居跡（1／60）・炉（1／30）……102
第 88 図　613 号住居跡遺物出土状態（1／60）……103
第 89 図　613 号住居跡出土遺物（1／4・1／3）……104
第 90 図　614 号住居跡（1／60）……105
第 91 図　615 号住居跡（1／60）・炉（1／30）……106
第 92 図　615 号住居跡出土遺物（1／3）……107
第 93 図　616 号住居跡（1／60）・炉（1／30）……108
第 94 図　616 号住居跡出土遺物（1／3）……108
第 95 図　617 号住居跡・619 号住居跡（1／60）・617 号住居跡炉・619 号住居跡炉（1／30）……110
第 96 図　618 号住居跡（1／60）・炉（1／30）……112
第 97 図　618 号住居跡遺物出土状態（1／60）・貯蔵穴（1／30）……113
第 98 図　618 号住居跡出土遺物（1／4・1／3）……114
第 99 図　620 号住居跡・627 号住居跡（1／60）・620 号炉・627 号炉（1／30）……115
第 100 図　620 号住居跡出土遺物（1／4）……116
第 101 図　621 号住居跡（1／60）・炉（1／30）……117
第 102 図　621 号住居跡出土遺物（1／3）……118
第 103 図　622 号住居跡（1／60）・炉（1／30）……119
第 104 図　622 号住居跡出土遺物（1／3）……120
第 105 図　623 号住居跡（1／60）・炉（1／30）……121
第 106 図　623 号住居跡（1／30）・炉（1／30）……122
第 107 図　624 号住居跡遺物出土状態（1／60）……123
第 108 図　624 号住居跡出土遺物（1）（1／4）……123
第 109 図　624 号住居跡出土遺物（2）（1／4・1／3）……124
第 110 図　625 号住居跡（1／30）・炉（1／30）……127
第 111 図　625 号住居跡出土遺物（1／3）……128
第 112 図　626 号住居跡（1／30）・炉（1／30）……129
第 113 図　626 号住居跡出土遺物（1／4・1／3）……130
第 114 図　奈良・平安時代遺構全体図（1／400）……131
第 115 図　23 号住居跡（1／60）……132
第 116 図　23 号住居跡カマド（1／30）……133
第 117 図　23 号住居跡出土遺物（1／4・1／3）……133
第 118 図　24 号住居跡（1／60）・カマド（1／30）……135
第 119 図　24 号住居跡出土遺物（1／4）……136
第 120 図　25 号住居跡（1／60）……136
第 121 図　25 号住居跡カマド（1／30）……137
第 122 図　25 号住居跡出土遺物（1／4）……137
第 123 図　中世以降の遺構全体図（1／400）……138
第 124 図　1 号櫃列状遺構（1）（1／100）……140
第 125 図　1 号櫃列状遺構（2）（1／60）……141
第 126 図　1 号櫃列状遺構（3）（1／60）……142
第 127 図　2 号櫃列状遺構（1）（1／150・1／60）……143

第128図　2号櫛列状遺構（2）（1／60）…… 144
第129図　2号櫛列状遺構（3）（1／60）…… 145
第130図　3号櫛列状遺構（1）（1／150・1／60）…… 146
第131図　3号櫛列状遺構（2）（1／60）…… 147
第132図　4号櫛列状遺構（1）（1／100）…… 148
第133図　4号櫛列状遺構（2）（1／60）…… 149
第134図　886号土坑（1／60）…… 155
第135図　遺構外出土遺物（1）（2／3・1／3）…… 157
第136図　遺構外出土遺物（2）（1／3）…… 158
第137図　遺構外出土遺物（3）（1／3）…… 159
第138図　遺構外出土遺物（4）（1／3）…… 160
第139図　弥生時代住居模式図パターン …… 167
第140図　西原大塚遺跡　弥生住居規模散布図 …… 168
第141図　望月ダイアグラム（Rb分率図／0.5g以上）…… 177
第142図　望月ダイアグラム（Sr分率図／0.5g以上）…… 177
第143図　望月ダイアグラム（Rb分率拡大図／0.5g以上①）… …… 178
第144図　望月ダイアグラム（Sr分率拡大図／0.5g以上①）… …… 178
第145図　望月ダイアグラム（Rb分率拡大図／0.5g以上②）… …… 179
第146図　望月ダイアグラム（Sr分率拡大図／0.5g以上②）… …… 179
第147図　望月ダイアグラム（Rb分率拡大図／0.5g未満）…… …… 180
第148図　望月ダイアグラム（Sr分率拡大図／0.5g未満）…… …… 180

表目次

第1表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧 …… 1
第2表　発掘調査工程表 …… 13
第3表　87号住居跡出土遺物一覧（1）…… 23
第4表　87号住居跡出土遺物一覧（2）…… 24
第5表　87号住居跡出土遺物一覧（3）…… 25
第6表　89号住居跡出土遺物一覧 …… 28
第7表　195号住居跡出土遺物一覧（1）…… 33
第8表　195号住居跡出土遺物一覧（2）…… 34
第9表　196号住居跡出土遺物一覧 …… 36
第10表　197号住居跡出土遺物一覧 …… 39
第11表　198号住居跡出土遺物一覧（1）…… 46
第12表　198号住居跡出土遺物一覧（2）…… 47
第13表　198号住居跡出土遺物一覧（3）…… 48
第14表　199号住居跡出土遺物一覧 …… 50
第15表　200号住居跡出土遺物一覧（1）…… 55
第16表　200号住居跡出土遺物一覧（2）…… 56
第17表　201号住居跡出土遺物一覧 …… 59
第18表　202号住居跡出土遺物一覧 …… 61
第19表　203号住居跡出土遺物一覧 …… 65
第20表　204号住居跡出土遺物一覧（1）…… 69
第21表　204号住居跡出土遺物一覧（2）…… 70
第22表　881号土坑出土遺物一覧 …… 76
第23表　882号土坑出土遺物一覧 …… 77
第24表　883号土坑出土遺物一覧 …… 77
第25表　884号土坑出土遺物一覧 …… 77
第26表　885号土坑出土遺物一覧 …… 78
第27表　889号土坑出土遺物一覧 …… 78
第28表　891号土坑出土遺物一覧 …… 78
第29表　892号土坑出土遺物一覧 …… 79
第30表　893号土坑出土遺物一覧（1）…… 79
第31表　893号土坑出土遺物一覧（2）…… 80
第32表　896号土坑出土遺物一覧 …… 80
第33表　897号土坑出土遺物一覧 …… 81
第34表　898号土坑出土遺物一覧 …… 81
第35表　899号土坑出土遺物一覧 …… 82
第36表　293号住居跡出土遺物一覧 …… 86
第37表　294号住居跡出土遺物一覧 …… 87
第38表　605号住居跡出土遺物一覧 …… 90
第39表　606号住居跡出土遺物一覧 …… 91
第40表　607号住居跡出土遺物一覧 …… 94

第 41 表　610 号住居跡出土遺物一覧 …… 97
第 42 表　611 号住居跡出土遺物一覧 …… 100
第 43 表　613 号住居跡出土遺物一覧 …… 104
第 44 表　615 号住居跡出土遺物一覧 …… 107
第 45 表　616 号住居跡出土遺物一覧 …… 108
第 46 表　618 号住居跡出土遺物一覧 …… 114
第 47 表　620 号住居跡出土遺物一覧 …… 116
第 48 表　621 号住居跡出土遺物一覧 …… 118
第 49 表　622 号住居跡出土遺物一覧 …… 120
第 50 表　624 号住居跡出土遺物一覧 …… 125
第 51 表　625 号住居跡出土遺物一覧 …… 128
第 52 表　626 号住居跡出土遺物一覧 …… 130
第 53 表　23 号住居跡出土遺物一覧 …… 134
第 54 表　24 号住居跡出土遺物一覧 …… 136
第 55 表　25 号住居跡出土遺物一覧 …… 137
第 56 表　1 号柵列状遺構内ピット一覧（1） …… 150
第 57 表　1 号柵列状遺構内ピット一覧（2） …… 151
第 58 表　2 号柵列状遺構内ピット一覧（1） …… 151
第 59 表　2 号柵列状遺構内ピット一覧（2） …… 152
第 60 表　2 号柵列状遺構内ピット一覧（3） …… 153
第 61 表　3 号柵列状遺構内ピット一覧（1） …… 153
第 62 表　3 号柵列状遺構内ピット一覧（2） …… 154
第 63 表　4 号柵列状遺構内ピット一覧 …… 154
第 64 表　ピット一覧（1） …… 155
第 65 表　ピット一覧（2） …… 156
第 66 表　遺構外出土遺物一覧（1） …… 160
第 67 表　遺構外出土遺物一覧（2） …… 161
第 68 表　遺構外出土遺物一覧（3） …… 162
第 69 表　遺構外出土遺物一覧（4） …… 163
第 70 表　西原大塚遺跡埋甕一覧 …… 165
第 71 表　分析の各種条件 …… 173
第 72 表　試料の X 線強度 …… 175
第 73 表　試料の元素濃度 …… 176
第 74 表　推定された判別群 …… 181

図版目次

図版 1
1．調査区全景
図版 2
1．87 号住居跡（東から）
2．87 号住居跡遺物出土状態（東から）
3．87 号住居跡炉（北東から）
4．89 号住居跡・198 号住居跡（南東から）
5．89 号・198 号住居跡遺物出土状態（東から）
6．89 号住居跡埋甕（南から）
7．89 号住居跡・198 号住居跡埋甕出土状態（南東から）
8．195 号住居跡埋甕（北から）
図版 3
1．195 号住居跡炉（東から）
2．195 号住居跡遺物出土状態（西から）
3．195 号住居跡貯蔵穴（南から）
4．196 号住居跡（北から）
5．196 号住居跡炉 1（南から）
6．197 号住居跡（北から）　7．198 号住居跡埋甕（南から）
8．198 号住居跡炉土層断面（南から）
図版 4
1．199 号住居跡（南東から）　2．200 号住居跡（南東から）
3．200 号住居跡遺物出土状態（東から）
4．200 号住居跡埋甕炉　5．201 号住居跡（南東から）
6．201 号住居跡炉（南東から）　7．202 号住居跡（西から）
8．203 号住居跡（北東から）
図版 5
1．203 号住居跡遺物出土状態（南から）
2．203 号住居跡埋甕（南から）
3．204 号住居跡遺物出土状態（東から）
4．204 号住居跡炉体土器（東から）
5．881 号土坑・17 P（南東から）
6．882 号土坑遺物出土状態（東から）
7．883 号土坑（南から）
8．884 号土坑遺物出土状態（東から）

図版6

1．885号土坑（南から） 2．887号土坑（南から）

3．888号土坑（南から） 4．889号土坑（南から）

5．890号土坑（南から） 6．891号土坑（南から）

7．892号土坑（西から） 8．893号土坑（東から）

図版7

1．894号土坑（南から） 2．895号土坑（南東から）

3．896号土坑（南から） 4．897号土坑（南から）

5．898号土坑（東から） 6．898号土坑（南から）

7．899号土坑（南から） 8．900号土坑（東から）

図版8

1．199号住居跡・293号住居跡（北東から）

2．293号住居跡（北から） 3．293号住居跡炉（南から）

4．293号住居跡貯蔵穴(北から) 5．294号住居跡(東から)

6．294号住居跡貯蔵穴(南から) 7．337号住居跡(北から)

8．605号住居跡（南から）

図版9

1．605号住居跡焼土・炭化材出土状態（北から）

2．605号住居跡炉（西から）

3．605号住居跡貯蔵穴（西から）

4．605号住居跡赤色砂利層（西から）

5．606号住居跡（西から） 6．606号住居跡炉（南から）

7．606号住居跡貯蔵穴（南から）

8．607号住居跡（南から）

図版10

1．607号住居跡焼土・炭化材検出状態（北から）

2．607号住居跡炉（南から）

3．607号住居跡貯蔵穴土層断面（南から）

4．608号住居跡（南から） 5．608号住居跡炉（東から）

6．608号住居跡貯蔵穴(南から) 7．609号住居跡(南から)

8．609号住居跡貯蔵穴（東から）

図版11

1．609号住居跡炉（西から） 2．610号住居跡（南から）

3．610号住居跡遺物出土状態（北から）

4．610号住居跡炉(南から) 5．611号住居跡(北西から)

6．611号住居跡炭化材出土状態（北から）

7．611号住居跡遺物出土状態（北東から）

8．611号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）

図版12

1．611号住居跡赤色砂利層（西から）

2．612号住居跡（南から） 3．612号住居跡炉（南から）

4．613号住居跡（南から）

5．613号住居跡遺物出土状態（東から）

6．613号住居跡炉（東から） 7．614号住居跡（南西から）

8．615号住居跡（西から）

図版13

1．615号住居跡遺物出土状態（南から）

2．615号住居跡炉（南から）

3．615号住居跡貯蔵穴（南から）

4．615号住居跡貯蔵穴・赤色砂利層（西から）

5．616号住居跡（東から）

6．616号住居跡遺物出土状態（東から）

7．616号住居跡炉（南から）

8．616号住居跡赤色砂利層（西から）

図版14

1．617号住居跡（東から） 2．617号住居跡炉（南から）

3．618号住居跡（西から）

4．618号住居跡遺物出土状態（東から）

5．618号住居跡磨製石斧出土状態（東から）

6．618号住居跡炉（南から）

7．618号住居跡貯蔵穴（南から）

8．619号住居跡（南東から）

図版15

1．619号住居跡炉（南から）

2．620号住居跡・627号住居跡（東から）

3．620号住居跡炉（南東から）

4．621号住居跡（北東から）

5．621号住居跡炉（南から）

6．621号住居跡炉（新・旧）掘り方（東から）

7．622号住居跡（東から） 8．622号住居跡炉（南から）

図版16

1．622号住居跡炉2（南から） 2．623号住居跡（南から）

3．623号住居跡炉（東から） 4．624号住居跡（南西から）

5．624号住居跡遺物出土状態（東から）

6．624号住居跡土器出土状態（北から）

7．624号住居跡土器出土状態（東から）

8．624 号住居跡土器出土状態（東から）

図版 17

1．624 号住居跡炉（北から）
2．624 号住居跡貯蔵穴（北から）
3．624 号住居跡炉（南から）　4．625 号住居跡（北西から）
5．625 号住居跡炉（東から）
6．625 号住居跡貯蔵穴（東から）
7．626 号住居跡（東から）　8．626 号住居跡炉（東から）

図版 18

1．23 号住居跡（南から）　2．23 号住居跡カマド（南から）
3．24 号住居跡（南東から）
4．24 号住居跡遺物出土状態（南西から）
5．24 号住居跡カマド（南東から）　6．25 号住居跡（南から）
7．25 号住居跡カマド（南から）　8．1 号柵列（北西から）

図版 19

1．1・2 号柵列状遺構（東から）
2．1 号柵列状遺構Ｐ 8・9 土層断面（南から）
3．1 号柵列状遺構Ｐ 14 ～ 17・22・23・45・70（南から）
4．1 号柵列状遺構Ｐ 14 ～ 16 土層断面（南から）
5．1 号柵列状遺構Ｐ 27 土層断面（北から）
6．1 号柵列状遺構Ｐ 29 ～ 31 土層断面（南西から）
7．1 号柵列状遺構Ｐ 34 土層断面（南東から）
8．1 号柵列状遺構Ｐ 37 ～ 40（南から）

図版 20

1．2 号柵列状遺構（南から）　2．2 号柵列状遺構（北から）
3．2 号柵列状遺構断面（南から）
4．2 号柵列状遺構Ｐ 4 ～ 6 土層断面（南から）
5．2 号柵列状遺構Ｐ 18 ～ 20（東から）
6．2 号柵列状遺構Ｐ 23 ～ 25（東から）
7．2 号柵列状遺構Ｐ 23 ～ 25 土層断面（東から）
8．2 号柵列状遺構Ｐ 33 ～ 35 土層断面（東から）

図版 21

1．2 号柵列状遺構Ｐ 38 ～ 40（東から）
2．2 号柵列状遺構Ｐ 38 ～ 40 土層断面（東から）
3．2・3 号柵列状遺構（南から）
4．2・3 号柵列状遺構（北から）
5．3 号柵列状遺構Ｐ 1 土層断面（東から）
6．3 号柵列状遺構Ｐ 5（東から）
7．3 号柵列状遺構Ｐ 7 土層断面（東から）
8．3 号柵列状遺構Ｐ 22 ～ 24（北西から）

図版 22

1．4 号柵列状遺構（西から）　2．4 号柵列状遺構（東から）
3．4 号柵列状遺構Ｐ 1 土層断面（北から）
4．4 号柵列状遺構Ｐ 2 土層断面（南から）
5．4 号柵列状遺構Ｐ 6 ～ 8（北から）
6．4 号柵列状遺構Ｐ 12・13 土層断面（南から）
7．4 号柵列状遺構Ｐ 21（南から）
8．18・19 号ピット（南から）

図版 23

1．87 号住居跡出土遺物（1）

図版 24

1．87 号住居跡出土遺物（2）

図版 25

1．87 号住居跡出土遺物（3）　2．89 号住居跡出土遺物

図版 26

1．195 号住居跡出土遺物（1）

図版 27

1．195 号住居跡出土遺物（2）

図版 28

1．195 号住居跡出土遺物（3）　2．196 号住居跡出土遺物
3．197 号住居跡出土遺物

図版 29

1．198 号住居跡出土遺物（1）

図版 30

1．198 号住居跡出土遺物（2）

図版 31

1．198 号住居跡出土遺物（3）

図版 32

1．198 号住居跡出土遺物（4）　2．199 号住居跡出土遺物

図版 33

1．200 号住居跡出土遺物（1）

図版 34

1．200 号住居跡出土遺物（2）

図版 35

1．201 号住居跡出土遺物

図版 36
1．202 号住居跡出土遺物　2．203 号住居跡出土遺物
3．204 号住居跡出土遺物（1）
図版 37
1．204 号住居跡出土遺物（2）　2．881 号土坑出土遺物
3．882 号土坑出土遺物　4．883 号土坑出土遺物
5．884 号土坑出土遺物
図版 38
1．885 号・889 号・891 号・892 号土坑出土遺物
2．893 号土坑出土遺物　3．896 号土坑出土遺物
4．897 号土坑出土遺物　5．898 号土坑出土遺物
6．899 号土坑出土遺物
図版 39
1．293 号住居跡出土遺物　2．294 号住居跡出土遺物
3．605 号住居跡出土遺物
図版 40
1．606 号住居跡出土遺物　2．607 号住居跡出土遺物
3．610 号住居跡出土遺物
図版 41
1．611 号住居跡出土遺物　2．613 号住居跡出土遺物
図版 42
1．615 号住居跡出土遺物　2．616 号住居跡出土遺物
3．618 号住居跡出土遺物
図版 43
1．620 号住居跡出土遺物　2．621 号住居跡出土遺物
3．622 号住居跡出土遺物　4．624 号住居跡出土遺物（1）
図版 44
1．624 号住居跡出土遺物（2）　2．625 号住居跡出土遺物
図版 45
1．626 号住居跡出土遺物　2．23 号住居跡出土遺物
3．24 号住居跡出土遺物　4．25 号住居跡出土遺物
図版 46
1．遺構外出土遺物（1）
図版 47
1．遺構外出土遺物（2）
図版 48
1．遺構外出土遺物（3）

第１章　遺跡の立地と環境

第１節　市域の地形と遺跡

（１）地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北 4.71km、東西 4.73km の広がりをもち、面積は 9.05㎢（註１）、人口約７万５千人の自然と文化の調和する都市である。

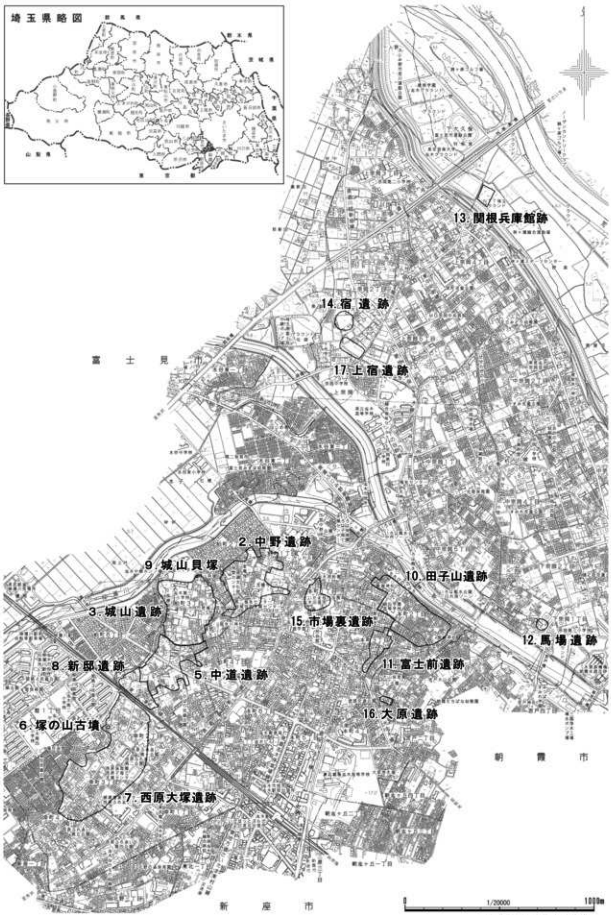
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が拡がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の３本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（７）、新邸遺跡（８）、中道遺跡（５）、城山遺跡（３）、中野遺跡（２）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、関根兵庫館跡（13）が認められる。最新では、平成 30 年 12 月、新たに新河岸川左岸流域で上宿遺跡（17）

№.	遺跡名	遺跡の規模		地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中野	67,620	㎡	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄（早～後）、弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器
3	城山	82,100	㎡	畑・宅地	城館跡・集落跡	旧石器、縄（草創～後）、弥（後）、古（前～後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、鋳造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、鋳造関連遺物等
5	中道	54,420	㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（早～後）弥（後）古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800	㎡	林	古墳？	古　墳？	古　墳？	なし
7	西原大塚	164,960	㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄（前～後）、弥（後）、古（前）後）、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新邸	20,080	㎡	畑・宅地	"貝塚・集落跡・墓跡"	縄（早～中）、古（前～後）、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900	㎡	林	貝　塚	縄（前）	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田子山	74,030	㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄（草創～後）、弥（後）、古（後）、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富士前	14,830	㎡	宅　地	集落跡	縄文、弥（後）～古（前）、平安、近世以降	住居跡、土坑？、溝跡？	弥生土器、土師器
12	馬場	2,800	㎡	畑	集落跡	古（前）	住居跡？	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900	㎡	グランド	館　跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700	㎡	水　田	館　跡	中世	溝跡、井桁状構築物	木・石製品
15	市場裏	13,800	㎡	宅　地	集落跡・墓跡	弥（後）～古（前）、中世以降	住居跡、方形周溝墓、土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大原	1,700	㎡	宅　地	不　明	近世以降？	溝跡	なし
17	上宿	8,600	㎡	水田・宅地	集落跡	平安、中・近世	住居跡、溝跡	土師器、須恵器
	合計	519,240	㎡					

令和２年 12 月 28 日現在

第１表　志木市埋蔵文化財包蔵地一覧



第１図　市域の地形と遺跡分布（１／20,000）

が発見され、自然堤防上に位置する遺跡の存在も明らかにされつつある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した13遺跡に塚の山古墳（6）、城山貝塚（9）を加えた15遺跡である（第1図・第1表）。

（2）歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

1．旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の富士見・大原線（現ユリノキ通り）の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で文化層が確認されており、礫群、石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成6（1994）年度には2ヶ所、平成7年（1995）度には1ヶ所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。最新では、令和元（2019）年に第224地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層から石器集中地点と礫群が検出されている。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。平成27（2016）年に発掘調査された中野遺跡第91㉗地点からは、礫群1基が検出された。

また、城山遺跡では、平成13（2001）年に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の2ヶ所で石器集中地点が検出されている。平成20・21年に発掘調査が実施された第62地点（道路・駐車場部分）でも1ヶ所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。平成23（2011）年に発掘調査が実施された第71地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部で石器集中地点2ヶ所、礫群9基が検出された。令和元（2019）年には第96地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層で石器集中地点と礫群が検出されている。

2．縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉（諸磯式期）の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成4（1992）年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器1点、平成6（1994）年に発掘調査が実施された城山第21地点から多縄文系土器3点、第22地点から爪形文系土器1点、平成10（1998）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器1点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡として、平成18（2006）年に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点で検出された早期末葉（条痕文系）の10号住居跡1軒が最古のものと言える。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。最新資料では、平成23（2011）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から撚糸文系土器・石器がまとまって出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚遺跡・新邸遺跡で住居跡（黒浜式期）、城山遺跡では住居跡（諸磯式期）が検出されている。そのうち、新邸遺跡・城山遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。平成２年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曽利Ｅ式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で 180 軒以上の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡１軒が確認されているが、平成 27（2016）年に発掘調査された中道遺跡第 76 地点からは、加曽利ＥⅣ式の両耳壺を出土する住居跡１軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡１軒と加曽利Ｂ式期の住居跡１軒、遺物集中地点１ヶ所、平成 25（2013）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第 85 地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居（敷石住居）１軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31 地点で、土坑１基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。最新資料として、平成 26（2015）年に発掘調査された西原大塚遺跡第 204 地点や平成 27･28（2016･2017）年に発掘調査された中野遺跡第 91 地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期（称名寺式～堀之内式期）の遺物が比較的まとまって出土している。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行Ⅲ Ｃ式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代後期まで空白の時代となる。

３．弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、前期の遺跡は検出されていないが、中期については、令和元（2019）年に発掘調査された城山遺跡第 96 地点で、市内初となる宮ノ台式期の住居跡１軒、方形周溝墓１基が検出された。住居跡からは、壷、甕、高坏、抉入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁が良好な状態で出土している。後期から古墳時代前期と考えられる遺跡は数多く検出されている。中でも、平成 27（2016）年に発掘調査された中野遺跡第 91 地点からは、弥生時代後期前葉に比定される久ヶ原式土器を出土する住居跡が発見されている。平成６（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第 31 地点の 21 号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壷形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が約 600 軒確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122 号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成 24（2012）年に発掘調査が実施された第 179 地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の鋤鍬が出土している。

昭和 62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の３遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、最新では、平成 15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第８地点と平成 18（2006）年に実施された中道遺跡第 65 地点でも、それぞれ１基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることに注目される。また、平成11（1999）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の3要素の特徴を示す壺が出土している。なお、鳥形土製品1と壺形土器4点の計点は、考古資料として市指定文化財に指定されている。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

4．古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第2地点の1号住居跡と平成15（2003）年に発掘調査が実施された第8地点の2～8号住居跡は、古墳時代前期でも比較的に新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成7（1995）年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、5世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

5世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に6世紀後半から7世紀後半にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的古い5世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、6世紀後半以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第8地点で初めて古墳時代後期（7世紀中葉）の住居跡が1軒検出されている。この住居跡は、3×3.5mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、5世紀後半から7世紀後半にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で約230軒、次いで中野遺跡で約55軒、中道遺跡と田子山遺跡で16軒ずつ、新邸遺跡で1軒を数える。

また住居跡以外では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、6世紀後半以降のものと考えられる4.1×4.7mの不整円形で2ヶ所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が1基確認されている。さらに、平成14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見に期待されている。

5．奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成8（1996）年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「冨」1文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、

これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片1点、布目瓦の小破片2点などが出土している。平成20・21（2008・2009）年の城山遺跡第62地点の調査では、平安時代の241号住居跡から皇朝十二銭の一つである富壽神寶が2枚とその近くからは鉄鎌1点と土錘1点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された第24地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして100基を越える土坑群が検出されている。平成6（1994）年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群（入間市）の製品と南比企窯跡群（鳩山町）の製品という生産地の異なる須恵器坏が共伴して出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。
なお、以上のうち、城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか9点の遺物と城山遺跡第241号住居跡出土の富壽神寶ほか2点の遺物は、考古資料として、平成25年3月1日付けで、市指定文化財に指定されている。

6．中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『舘村旧記』（註2）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『廻国雑記』（註3）に登場する「大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、「大塚十玉坊」についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山　1988・2002）。
また、平成7（1995）年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成8（1996）年度に発掘調査が実施された第35地点から、鋳造関連の遺構が検出されている。130号土坑については鋳造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鋳型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成27・28（2015・2016）年に発掘調査された第89地点の調査により、第35地点の鋳造関連の捨て場が明らかになった。この調査により、鍋本体の大型鋳型、鍋の耳部分の小型鋳型、三叉状・四叉状土製品・トリベ・砥石などの道具類や鉄滓（スラッグ）などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

平成13(2001)年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成6（1994）年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、鐙の札である鉄製品1点と鉄鏃1点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、段切状遺構の坑底面から頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑、その他、ピット列・土

坑・井戸跡・溝跡などが検出された。その後、平成27（2015）年度に第49地点の北側に隣接する第95地点の調査が実施され、段切状遺構の坑底面より、新たに土坑45基・井戸跡2基・溝跡1本・ピット231本などが検出された。特に、土坑のうち、市内で初めて「T字形」の火葬土坑5基が検出されたことは特筆すべきである。こうした墓域的な様相が僅かながら判明しつつある中、この一帯が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する遺構ではないかとの見方がある。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の第2地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成7（1995）年の中道遺跡第37地点からは、人骨と古銭5枚を出土した土坑墓1基と13世紀に比定される青磁盤1点を出土した道路状遺構1条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60（1985）年の第1地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15（2003）年の新邸遺跡第8地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓2基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大受院」関連遺構と考えられる。その後、平成25（2013）年には、第74地点の発掘調査が実施され、段切状遺構の平場から多数のピットや溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

7．近代以降

近代以降の遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治2～5年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年の新邸遺跡第8地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの錆着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

第2節　遺跡の概要

西原大塚遺跡は、志木市の南西端部にある幸町2～4丁目一帯に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の西方約1kmに位置している。北東－南西方向に約700m、北西－南東方向に約150mの広がりをもち、遺跡面積164,960㎡の市内最大規模の遺跡である。

本遺跡は、柳瀬川を北西に望む武蔵野台地北東端の台地の縁辺に形成されている。標高は10～18mと遺跡内で8mの比高差があるが、遺跡範囲の大部分は標高14～16mに位置しており、おおむね緩やかな傾斜をもち台地から低地に移行している。遺跡北西部分の台地下では、今でも小規模な湧水点が確認されている。

昭和48（1973）年に最初の調査が実施されて以降、志木市教育委員会、志木市遺跡調査会、志木市史編さん室による度重なる調査が実施されてきた。平成元（1989）年から平成19（2007）年までは、西原特定土地区画整理事業に伴い、道路新設部分を中心に公園予定地・保留地を対象とした発掘調査が継続的に実施された。近年では区画整理事業の完了に伴い、共同住宅や分譲住宅、個人住宅の建設などの各種土木工事が盛期を迎え、それらに伴う発掘調査も増加傾向にある。

本遺跡は、これまでに 233 回の調査（令和２年 12 月 28 日現在）が実施され、旧石器時代から近世までの複合遺跡であることが判明している。特に、縄文時代中期では住居跡約 180 軒以上からなる大規模な環状集落が形成され、また、弥生時代後期から古墳時代前期では、住居跡約 630 軒、方形周溝墓 36 基が調査され、さらに環濠の存在が確認されている。

特に本遺跡から発見された資料として、以下の２件が、平成 24 年度に市指定文化財に指定され、大きな成果を上げることができた。

①西原大塚遺跡出土の動物形土製品

②西原大塚遺跡 17 号方形周溝墓出土遺物

［註］

註１　平成 26 年度「全国都道府県市区町村別面積調」により、9.06㎢から 9.05㎢に変更された。

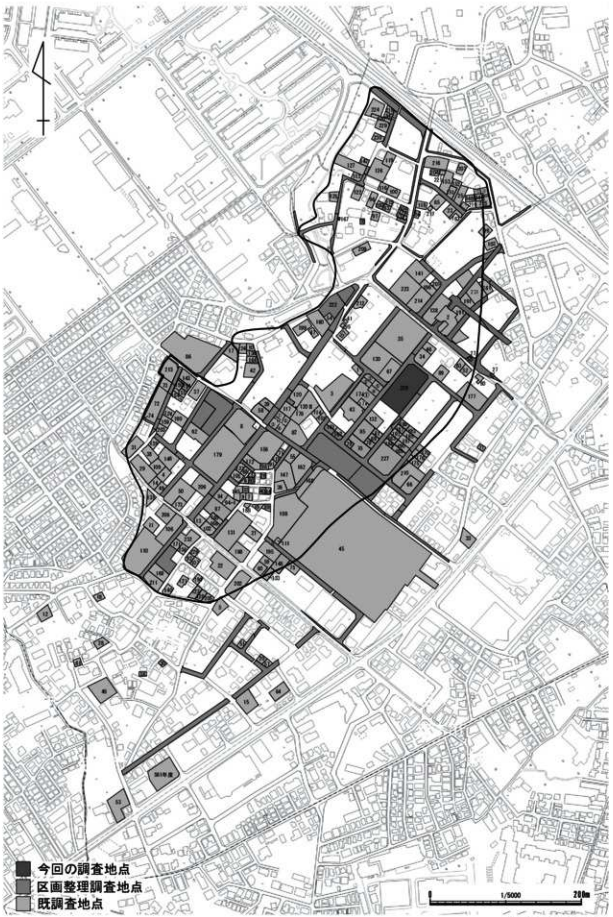
註２　『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主（なぬし）宮原（みやはら）仲（な）右（か）衛門（えもん）仲（なか）恒（つね）が、享保 12 ～ 14（1727 ～ 1729）年にかけて執筆したものである。

註３　『廻国雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明 18 年（1486）６月から 10 ヶ月間、北陸路から関東各地をめぐり、駿河甲斐にも足をのばし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

［引用文献］

神山健吉　1988「『廻国雑記』に現れる　大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察」『郷土志木』第７号

2002「道興をめぐる二つの誤読を糾す」『郷土志木』第 31 号



第２図　西原大塚遺跡の調査地点（１／５,000）

第２章　発掘調査の概要

第１節　調査に至る経緯

平成 30 年９月、株式会社中央住宅から志木市教育員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市幸町３丁目 7193 ～ 7195（面積 2,156.00㎡）地内（旧幸町第二市民農園）に分譲住宅建設を行うというものである。

これに対し、教育委員会は、当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である西原大塚遺跡（コード 11228 － 09 － 007）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

１．埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該開発予定地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。

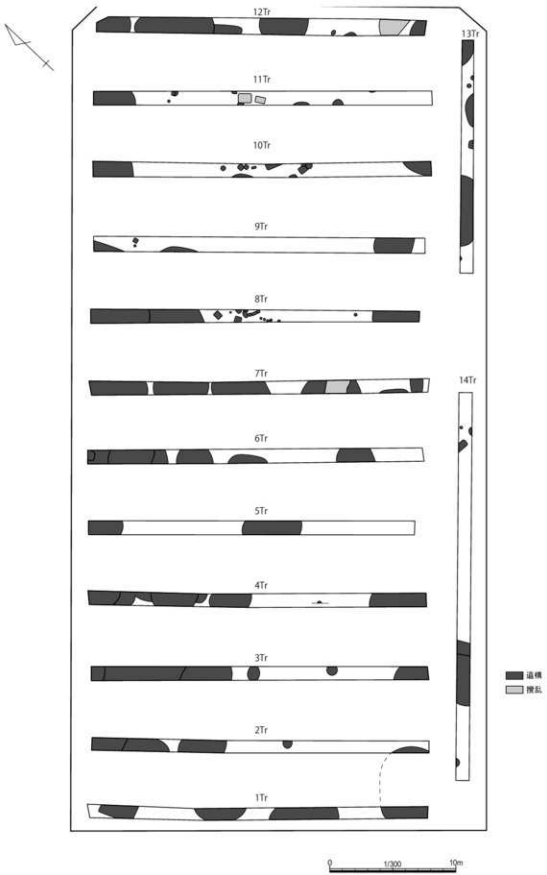
２．上記１の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を講ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

平成 31 年２月 13 日、教育委員会は、土木工事主体者である個人より確認調査依頼書を受理し、西原大塚遺跡第 228 地点として、４月９～ 13 日にかけて確認調査を実施した。確認調査は、第３図に示すように調査区短軸方向に 12 本（１～ 12 Ｔｒ）、長軸方向に２本のトレンチ（13･14 Ｔｒ）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、調査区全面に縄文時代中期の住居跡 25 軒・土坑 10 基、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡 26 軒・溝跡１本、中世以降の土坑８基、その他ピット 29 本等を確認した。教育委員会は、この結果をただちに土木工事主体者に報告し、保存措置について検討を依頼した。その結果、今回の工事内容については十分な文化財保護層が確保できないことから、発掘調査を実施することに決定した。

令和元年５月 21 日、志木市は土木工事主体者より志木市埋蔵文化財保存事業委託申請書が提出されたため、志木市埋蔵文化財保存事業受託要綱第２条第２項に基づき、８月５日に発掘調査実施に向けた事前協議を実施した。８月 16 日、土木工事主体者と志木市埋蔵文化財保存事業に係る協議書を取り交わし、同日に委託契約を締結した。

また、調査主体者となる教育委員会は、発掘調査の実施にあたり、民間調査組織の支援を受けることとし、７月 17 日に競争入札を行った。その結果、支援を依頼する民間調査組織として関東文化財振興会株式会社（代表取締役　宮田和男）に決定し、８月 16 日に委託契約を締結した。

教育委員会は、８月５日付けで埋蔵文化財発掘の届出及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出した。以上により、教育委員会を調査主体に９月２日から発掘調査を実施した。



第３図　確認調査遺構分布図（１／３００）

第２節　調査の経過

発掘調査は、令和元年９月２日から令和２年３月 25 日まで実施した。調査に際しては、概ね調査区北半部を１区、調査区南半部を２区と区分し、前半は１区、後半は２区の順で調査を進行させる計画とした。

ここでは、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第２表の発掘調査工程表に示した。

９月 ２日には調査実施の準備段階として安全柵の設置を開始した。３日より調査区北半部の１工区について、重機により表土剥ぎ作業に着手、合わせて遺構確認作業を開始した。９月 20 日には１工区の遺構検出状況の写真撮影を行い、24 日以降、１工区北側の弥生時代後期～古墳時代前期（605・607 Y）、奈良・平安時代の住居跡（23 H）から遺構精査作業を開始した。以降、順次遺構精査作業（608 Y他）を進めた。

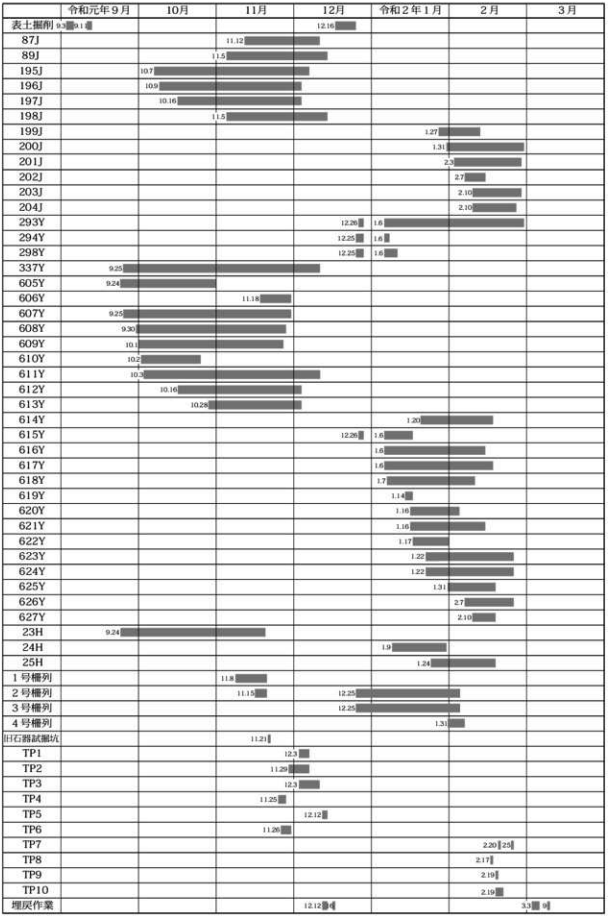
10 月上旬、607 ～ 611 Y、23 Hの精査作業を継続した。４日には焼失住居と想定される 605 Yより建築材の一部と推定される炭化物を検出した。７日には縄文時代の住居跡（195 J）、９日には 196 Jの精査作業を開始した。10 月下旬では住居跡を中心に調査を継続して実施した。16 日には 612 Yの精査作業を開始、17 日には 195 J で埋甕を検出した。28 日には 613 Yの精査作業に着手した。

11 月上旬、引き続き住居跡を中心に遺構精査作業を継続した。５日には 89・198 Jの精査を開始した。６日には 196 Jより石囲炉を検出した。11 日には１号柵列状遺構の精査に着手し、12 日には 87 Jの精査を開始した。11 月 18 日より 606 Yの精査作業を開始した。20 日には１工区全景の航空撮影を実施、終了後、各遺構は掘り方の調査に移行した。21 日には旧石器試掘坑（テストピット）の掘削を開始。以降テストピット１～６で順次調査を進めた。

12 月４日、５日には志木市内の中学校生徒の職場体験学習による発掘体験が行われた。調査はテストピットと住居跡掘り方の調査を中心として進めた。12 日には１工区の全ての調査を終了し、埋め戻しを開始した。16 日には調査区南半部の２工区について表土剥ぎ作業に着手し、合わせて遺構確認作業を開始した。順次遺構を検出し、25 日には２工区の遺構検出状況の写真撮影を行った。同日、294 Yの精査作業に着手し、26 日には 293・615 Y、２・３号柵列状遺構の精査を開始した。

１ 月６日には 616・617 Yの、７日には 618 Yの遺構精査作業に着手した。９日には 24 Hの遺構精査作業を開始した。14 日には 618 Yから炭化材と焼土を検出。また、619 Yの遺構精査作業に着手した。１ 月 16 日には 620・621 Yの、17 日には 622 Yの遺構精査作業を開始した。以降、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡を中心に遺構精査作業を行った。20 日には 614 Yに着手し、22 日には 623・624 Y、24 日には 25 Hの精査作業を開始した。27 日には 199 Jの、31 日には 200 J・625 Yと精査作業も開始した。

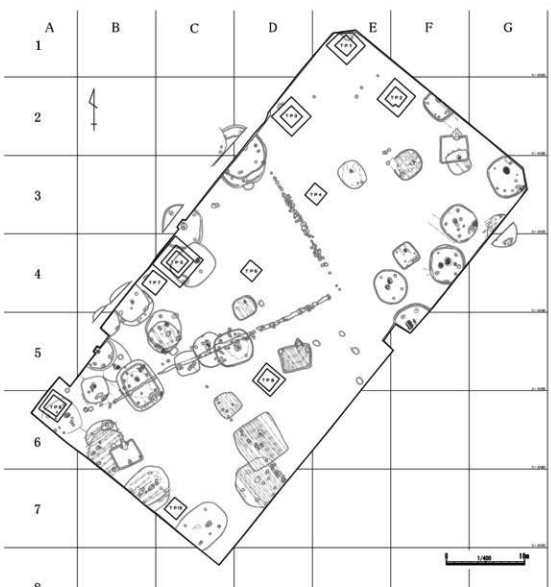
２ 月３日には 201 Jの、７日には 202 J・626 Yの遺構精査作業を開始した。10 日には 203・204 J・627 Yの遺構精査作業を開始し、全ての遺構調査に着手した。14 日には２工区全景の航空撮影を実施し、終了後、各遺構は掘り方の調査に移行した。また、旧石器試掘坑（テストピット）８の掘削を開始した。２月下旬にはテストピットの掘削と住居跡掘り方の調査を中心に作業した。19 日にはテストピット９と 10 の掘削を開始。29 日には現場調査を終了、３月３日には埋戻作業を開始。３月 25 日、現場事務所撤去をもって全ての現場作業を終了した。


令和元年９月
10月
11月
12月
令和２年１月
２月
３月
表土掘削
87J
89J
195J
196J
197J
198J
199J
200J
201J
202J
203J
204J
293Y
294Y
298Y
337Y
605Y
606Y
607Y
608Y
609Y
610Y
611Y
612Y
613Y
614Y
615Y
616Y
617Y
618Y
619Y
620Y
621Y
622Y
623Y
624Y
625Y
626Y
627Y
23H
24H
25H
１号棚列
２号棚列
３号棚列
４号棚列
旧石器試掘坑
TP1
TP2
TP3
TP4
TP5
TP6
TP7
TP8
TP9
TP10
埋戻作業

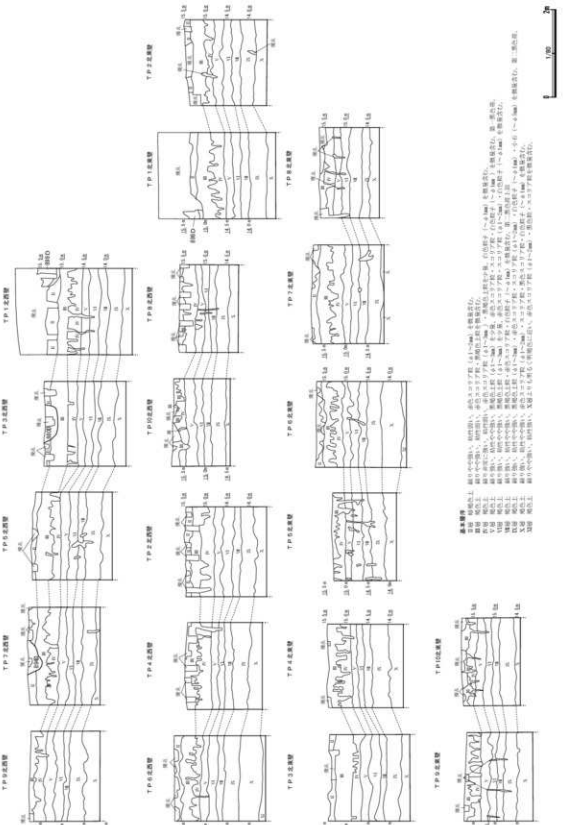
第２表　発掘調査工程表

第３節　基本層序

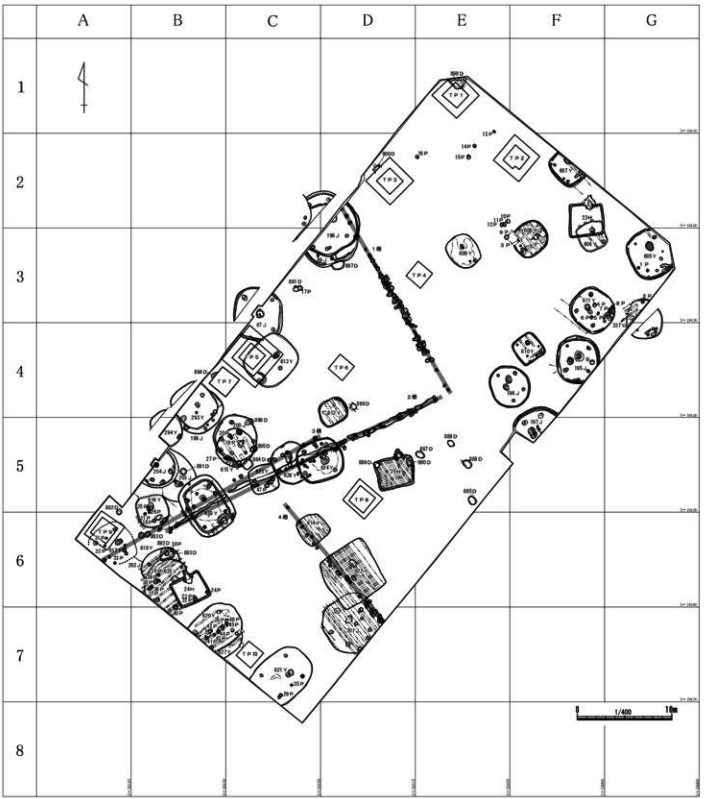
基本層序の確認のため、旧石器時代の調査を兼ねたテストピットを10箇所設定した（第４・５図）。テストピットは２×２ｍを基本とし、立川ローム第Ｘ層が確認できるまで掘削した。遺構確認面は概ねⅡ層中である。Ⅲ層からＸ層は立川ローム第Ⅲ層から第Ｘ層に相当する。テストピット内では第Ⅵ層は確認されなかった。TP １・３・５・７・９の西壁を基準にした場合、南側から北側に向けて傾斜している。Ｘ層上面で見た場合TP ９とTP １では１ｍ近い標高差が認められる。東西方位では東側から西側に向かい緩やかに傾斜している。Ｘ層以降の堆積もこの傾斜を維持して堆積している。



第４図　TP配置図（１／400）



第5図　基本層序（1／60）



第６図　遺構分布図（１／400）

第３章　検出された遺構と遺物

第１節　縄文時代

（１）概　要

今回の調査では縄文時代中期中葉から後半の住居跡 12 軒と同時期の土坑 19 基が検出された。住居跡は調査区西側のＢ～Ｄ－３～６グリッドと北東側のＥ・Ｆ－４・５グリッドを中心とする２群に分かれており、住居跡は略円形を基本とする。南側に埋甕を持つ住居跡（89・195・198 Ｊ）や、炉体土器を持つ住居跡（87・200・203・204 Ｊ）も認められる。出土した主な土器型式は阿玉台Ⅰｂ・Ⅱ・Ⅲ式、勝坂式（藤内式段階から井戸尻式段階）、加曽利ＥⅠ・Ⅱ・Ⅲ式、曽利Ⅱ式などである。

第７図　縄文時代遺構全体図（１／400）

（２）住居跡

87 号住居跡

遺　構（第８・９図）

［位　置］（Ｃ－３・４）グリッド。

［検出状況］遺存状況は概ね良好である。北西側は区画整理第 13 Ⅳ地点へ延びる。南側で 613 Ｙに切られる。

［構　造］**平面形：**略円形ないし隅丸方形を呈する。**規模：**5.58 ｍ／ 5.35 ｍ／深さ 32㎝。**主軸方位：**Ｎ－９°－Ｅ。**壁溝：**北東側の一部を除き検出範囲では認められる。上幅 15 ～ 21㎝／下幅６～ 15㎝／深さ４～ 15㎝。**床面：**貼床がなされ、概ね平坦である。**炉：**住居跡中央に位置する。石囲埋甕炉で、平面形は略円形で断面はやや凹凸のある底面から斜めに立ち上がる。石囲いの礫は長軸 20 ～ 30㎝、短軸 15 ～ 20㎝で 1000 ～ 1500g の砂岩及びチャートを用いている。規模は 86 × 84㎝、深さ 22㎝である。南側に深鉢形土器が正位で埋設される。**柱穴：**従前の調査で１本、今回の調査で２本の合計３本検出された。いずれも壁際によるが主柱穴と思われ、４本主柱の住居跡であろう。Ｐ２は 45 × 36㎝、深さ 58㎝、Ｐ３は 38 × 32㎝、深さ 56㎝である。

［覆　土］８層に分層される。８層が掘り方の埋土である。覆土は褐色土を基本とした自然堆積で壁際に三角堆積が認められる。

［遺　物］深鉢形土器、浅鉢形土器、鉢形土器、有孔鍔付土器、土器片錘、石鏃、打製石斧、磨製石斧、石皿が出土している。覆土中と床面から出土している。１は炉内南側から出土した。３は炉から近接して出土している。区画整理第 13 Ⅳ地点側から出土した遺物は、『志木市遺跡調査会報告　13 集　西原大塚遺跡　第１分冊』（志木市遺跡調査会　2009）を参照されたい。

［時　期］縄文時代中期後半（加曽利ＥⅡ式）。

遺　物（第 10 ～ 12 図、図版 23 － 1、図版 24 － 1、図版 25 － 1、第３～５表）

［土　器］（第 10 ～ 11 図１～ 25、図版 23 － 1 － 1 ～ 6、図版 24 － 1 － 7 ～ 25、第３～５表）

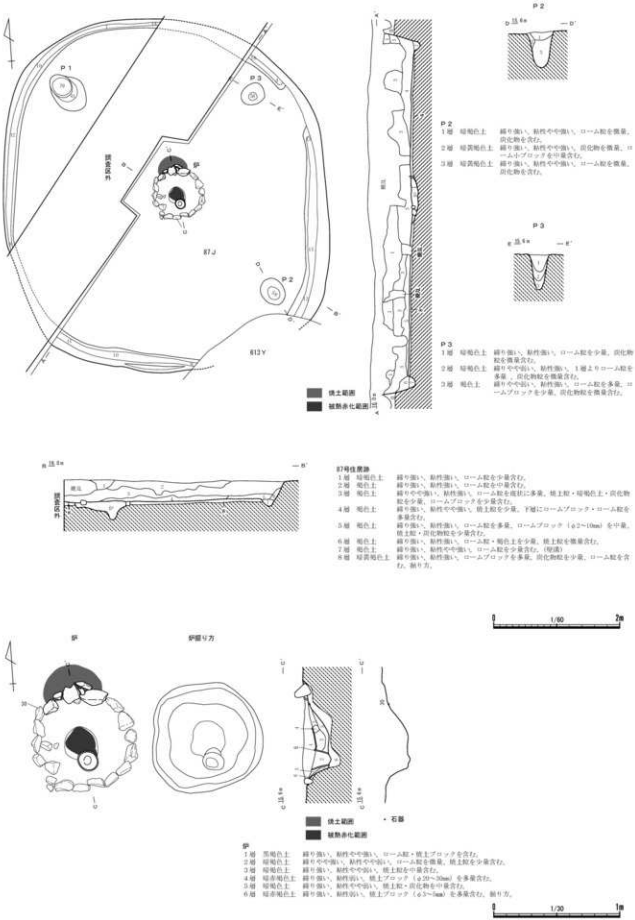
１は加曽利ＥⅠ式の深鉢形土器口縁部、２は加曽利ＥⅡ式の鉢形土器胴部、３は連弧文土器の深鉢形土器口縁部から胴部、４は中期後半の深鉢形土器口縁部から底部、５は中期後半の深鉢形土器口縁部から胴部、６は中期後半の浅鉢形土器の口縁部、７・12 は加曽利ＥⅠ式の深鉢形土器の胴部、８は勝坂式の有孔鍔付土器口縁部、９・10 は勝坂式（藤内式段階）の深鉢形土器口縁部、13 は加曽利ＥⅡ式の深鉢形土器口縁部、14 は加曽利ＥⅡ式の深鉢形土器胴部、15 は曽利Ⅱ式の深鉢形土器胴部、16 は曽利Ⅱ式の深鉢形土器口縁部から胴部。17 ～ 22 は連弧文土器の口縁部から胴部、23 から 25 は連弧文土器の深鉢形土器胴部である。

［土 製 品］（第 11 図 26、図版 24 － 1 － 26、第５表）

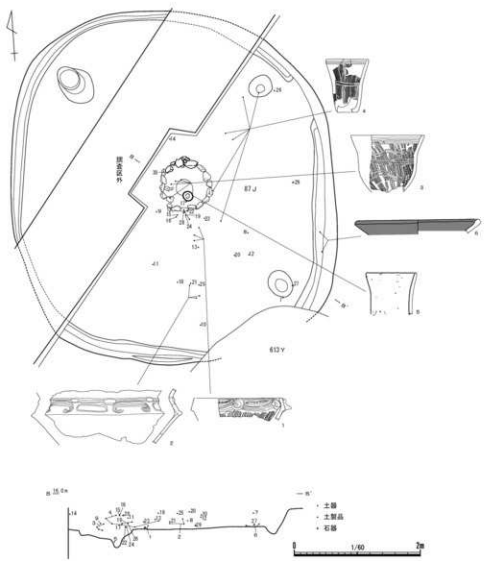
26 は勝坂式（新道式段階）の土器片錘である。

［石　器］（第 12 図 27 ～ 30、図版 24 － 1 － 27・28、図版 25 － 29・30、第５表）

27 は黒曜石の石鏃、28 は頁岩の打製石斧、29 は中粒緑色凝灰岩の磨製石斧、30 は斑糲岩の石皿である。



第８図　87 号住居跡（１／60）・炉（１／30）



第９図　87 号住居跡遺物出土状態（１／60）

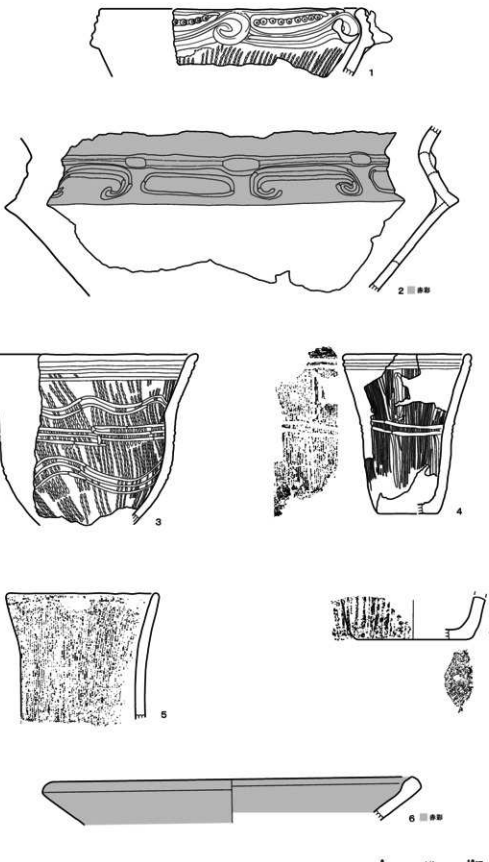
89 号住居跡

遺　　構（第 13・14 図）

［位　　置］（C・D－３）グリッド。

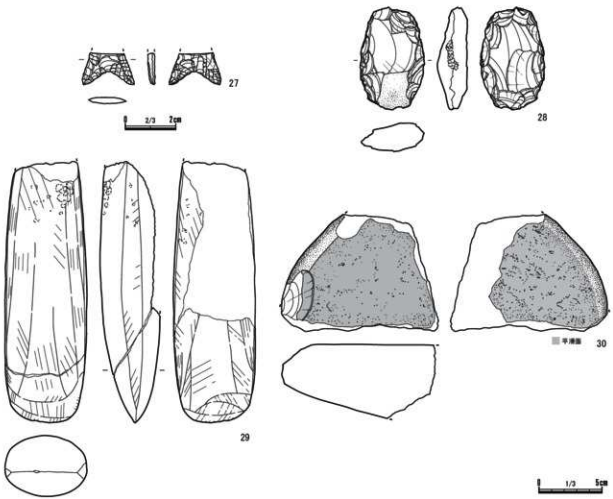
［検出状況］北側の大部分を 198 J により壊されている。１柵に切られ、897 D との切り合いは不明である。壁面直下に壁溝が認められない箇所がある。区画整理第 13 Ⅲ地点で検出した北壁は 198 J であると思われる。

［構　　造］**平面形：**楕円形を呈していると思われる。**規模：**6.55 m／ 5.83 m／深さ 40㎝。**主軸方位：**N－ 11°－ E。**壁溝：**断続的に検出され、東側と北西・南側の一部で認められない。上幅 12 ～ 22㎝／下幅５～ 13㎝／深さ８～ 13㎝。**床面：**貼床される。壁際から中央に向かい若干高くなる。**炉：**検出されなかった。**柱穴:**従前の調査で２本、今回の調査で３本、合計５本検出された。Ｐ３は 36 × 25㎝、深さ 64㎝、Ｐ４は 23 × 21㎝、深さ 77㎝、Ｐ５は 35 × 31㎝、深さ 38㎝である。Ｐ２は位置からして入り口部のピットと思われる。**埋甕：**口縁部と底部を打ち欠いている。掘り方は略円形を呈する。規模は 35 × 34㎝、深さ 21㎝である。土器内側と掘り方の覆土が共にローム土を主体とする。



第10図　87号住居跡出土遺物（1）（1／4）

第 11 図　87 号住居跡出土遺物（２）（１／３）



第 12 図　87 号住居跡出土遺物（3）（2／3・1／3）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴	備　考
第 10 図 1 図版 23- 1 - 1	深鉢	炉南部覆土中 (床上 2～6㎝)	口縁部 10%	高　[7.0] 口　(28.0)	にぶい 赤褐	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英・雲	口縁部文様帯は隆帯により渦巻連繋文と沈線で楕円区画し内部に竹管状工具による刺突／撚糸Ｌ／内面横ナデ	加曽利ＥⅠ式
第 10 図 2 図版 23- 1 - 2	鉢	南部覆土中 (床上 8～16㎝)	胴部 30%	高　[17.5]	にぶい 橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	屈曲部を隆帯により区画、区画内に沈線による楕円文・鉤手文を交互に配置／屈曲部より上を赤彩／内面横磨き、赤彩痕	加曽利ＥⅡ式
第 10 図 3 図版 23- 1 - 3	深鉢	炉中央部やや西部炉面	口縁部～胴部 40%	高　[18.1] 口　23.5	にぶい 赤褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英・雲母	撚糸Ｌ／口縁部直下及び括れ部に横位沈線３条、その間に沈線２条による連弧文、胴部最大径付近に沈線３条による連弧文／内面に横方向のナデ調整	連弧文土器
第 10 図 4 図版 23- 1 - 4	深鉢	中央部から北部覆土中 (床上 4～21㎝)	口縁部～底部 60%	高　16.7 口　(13.4) 底　6.3	にぶい 赤褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	６本一単位の櫛歯状工具による縦方向の条線／口縁部直下に横方向の沈線が２条、胴部中位にやや蛇行す横方向の沈線が２条、未端が連結する縦方向の沈線を２条／内面に横方向のナデ後、部分的に縦方向の磨き	中期後半
第 10 図 5 図版 23- 1 - 5	深鉢	炉体土器	口縁部～胴部 60%	高　[13.2] 口　16.1	にぶい 橙	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	口縁部直下から６本一単位の櫛歯状工具による縦方向の条線／内面に横方向のナデ調整	中期後半

第３表　87 号住居跡出土遺物一覧（1）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴	備　考
第10図6 図版23・1・6	浅鉢	東壁付近 覆土中 (床上2～4cm)	口縁部 10%	高　[4.6] 口　(38.5)	にぶい 赤褐	黒色粒子・白色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	口縁部縦い波状／横方向の磨き、 赤彩／内面は横方向の磨き／赤彩 痕	中期後半
第10図7 図版24・1・7	深鉢	南東壁付近 覆土中 (床上21cm)	胴部～ 底部 5% 未満	高　[4.0] 底　(12.0)	橙	白色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	燃糸Ｒ縦位施文／二本一単位の低 い隆帯を垂下	加曽利ＥⅠ式
第11図8 図版24・1・8	有孔鍔付 土器	南部覆土中 (床上13cm)	口縁～ 胴部 5% 未満	厚　0.9	にぶい 黄橙	黒色粒子・白色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英・	口縁部やや下に鍔をめぐらす、鍔 部に等間隔に垂直方向に焼成前穿 孔／内面横ナデ	加曽利ＥⅡ式
第11図9 図版24・1・9	深鉢	東南部覆土中 (床上23cm)	口縁部 ～胴部 5% 未満	厚　0.9	にぶい 黄褐	白色粒子・赤色粒子・ 角閃石・石英・ 雲母	キザミのある横位隆帯間に連続幅 広爪形文と波状沈線／内面横ナデ	勝坂式 (藤内式段階)
第11図10 図版24・1・10	深鉢	炉南西部 覆土中 (床上22cm)	口縁部 ～胴部 5% 未満	厚　1.3	にぶい 黄褐	黒色粒子・白色粒子・ 赤色粒子・角閃石・ チャート・石英	口縁部に接続してキザミのある隆 帯で区画し、内部に縦位沈線、キ ザミのある隆帯でモチーフを描く ／内面横ナデ	勝坂式 (藤内式段階)
第11図11 図版24・1・11	深鉢	南壁付近 覆土中 (床上18cm)	胴部 5% 未満	厚　1.0	にぶい 褐	黒色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	半内彫的な横位溝巻文と縦位キザ ミ／内面横ナデ	勝坂式 (井戸尻式段階)
第11図12 図版24・1・12	深鉢	南部覆土中 (床上19cm)	胴部 5% 未満	厚　1.0	暗赤褐	黒色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	無節Ｌｒ縦位施文／沈線を垂下／ 内面横ナデ	加曽利ＥⅠ式
第11図13 図版24・1・13	深鉢	東南部覆土中 (床上16cm)	口縁部 ～胴部 5% 未満	厚　0.7	褐	黒色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英・雲母	ＲＬ縦位施文／口縁部に沿って二 列の刺突列、横位Ｓ字状に隆線貼 り付け、沈線による蛇行文の垂下 ／内面横ナデ	加曽利ＥⅡ式
第11図14 図版24・1・14	深鉢	炉南部覆土中 (床上24cm)	胴部 5% 未満	厚　1.1	にぶい 褐	黒色粒子・白色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	ＲＬ縦位施文／縦位の隆帯／内面 横磨き	加曽利ＥⅡ式
第11図15 図版24・1・15	深鉢	炉北部覆土中 (床上26cm)	胴部 5% 未満	厚　1.1	にぶい 橙	白色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	櫛歯状工具による縦位条線／隆帯 による直線・蛇行文を垂下／内面 横ナデ	曽利Ⅱ式
第11図16 図版24・1・16	深鉢	炉南部覆土中 (床上21cm)	口縁部 ～胴部 5% 未満	厚　1.1	褐	黒色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	縄い波状口縁／二本同時施文具に よる重弧文／内面横ナデ	曽利Ⅱ式
第11図17 図版24・1・17	深鉢	炉南部覆土中 (床上7cm)	口縁部 ～胴部 5% 未満	厚　1.0	褐	黒色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英・礫	口縁部に小突起を持つ、そこから 隆帯を垂下させる／浅い沈線によ る重弧文／内面横ナデ	連弧文土器
第11図18 図版24・1・18	深鉢	炉南部覆土中 (床上26cm)	口縁部 ～胴部 5% 未満	厚　1.2	にぶい 赤褐	黒色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	無節Ｌｒ縄文／口縁部に沿って沈 線による横方向の楕円文、その下 に沈線３条による波状文／内面横 ナデ	連弧文土器
第11図19 図版24・1・19	深鉢	南部覆土中 (床上12cm)	口縁部 ～胴部 5% 未満	厚　1.2	にぶい 赤褐	黒色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	無節Ｌｒ縄文／口縁部に沿って沈 線による横方向の楕円文、その下 に沈線３条による波状文／内面横 ナデ	連弧文土器
第11図20 図版24・1・20	深鉢	炉南部覆土中 (床上27cm)	口縁部 ～胴部 5% 未満	厚　1.1	にぶい 黄褐	黒色粒子・白色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	縦位の櫛歯状工具による条線／口 縁部に沿って３条の横位沈線、以 下に同一工具による連弧文／内面 にはよこ方向のナデ	連弧文土器
第11図21 図版24・1・21	深鉢	東南部覆土中 (床上12cm)	口縁部 ～胴部 5% 未満	厚　1.1	にぶい 橙	黒色粒子・白色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	燃糸Ｌ縦施文／口縁部に沿って３ 条の沈線／以下に連弧文／内面横 ナデ	連弧文土器
第11図22 図版24・1・22	深鉢	南部覆土中 (床上4cm)	口縁部 ～胴部 5% 未満	厚　1.0	にぶい 黄橙	白色粒子・角閃石・ チャート・石英	口縁部内側断面三角形状に突出／ 櫛歯状工具による縦位の細かな条 線／口縁部に沿って３条の沈線、 以下に波状文／内面横ナデ	連弧文土器
第11図23 図版24・1・23	深鉢	炉南部覆土中 (床上11cm)	胴部 5% 未満	厚　1.0	褐	黒色粒子・白色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	櫛歯状工具による縦位条線／沈線 による曲線文（重弧文）／内面に は縦方向の磨き	連弧文土器
第11図24 図版24・1・24	深鉢	炉南側覆土中 (床上4cm)	胴部 5% 未満	厚　0.9	にぶい 黄橙	黒色粒子・白色粒子・ 角閃石・チャート	燃糸Ｒ縦位施文／沈線による楕円 区画／内面横ナデ	連弧文土器

第４表　87号住居跡出土遺物一覧（２）

掲図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第11図25 図版24・1・25	深鉢	炉南側覆土中 (床上25cm)	胴部 5％ 未満	厚　1.0	明褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	櫛歯状工具による縦位条線、沈線による連弧文／内面横ナデ	連弧文土器

掲図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第11図26 図版24・1・26	土器片錘	北東部覆土中 (床上11cm)	－	3.8	4.2	1.4	20.5	ペン先状工具による三角押文／内面横ナデ／割れ口の両端部にキザミを付し土器片錘として使用	勝坂式 (新道式段階)

掲図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第12図27 図版24・1・27	石鏃	東南部覆土中 (床上3cm)	基部 残存	黒曜石	(13.0)	21	2.5	0.6	凹基無茎／上部欠損／薄手で、側縁は鋸歯状を呈する	
第12図28 図版24・1・28	打製 石斧	炉縁辺部 覆土中 (床上23cm)	完形	頁岩	81.2	51.3	24	112.5	完形／短冊型／表に自然面、裏中央に主要剥離面を残す／全体に外縁から剥離を施し、さらに細かな調整を施す	
第12図29 図版25・1・29	磨製 石斧	東南壁付近 覆土中 (床上2cm)	刃部 残存	中粒緑色凝灰岩	(206.4)	(65.2)	(46.3)	960.3	乳棒状磨製石斧で基部から裏面を大きく欠損／刃部は非常に丁寧に研磨されている／基部にかけて研磨で消え切らない敲打痕が残る	
第12図30 図版25・1・30	石皿	炉外縁部 (底面)	一部 残存	斑糲岩	(92.2)	(124.1)	(58.0)	882.2	表裏面に平滑面を持つ／欠損した部分も使用により平滑になっている	

第5表　87号住居跡出土遺物一覧（3）

［覆　　土］8層に分層される。8層は掘り方の埋土である。覆土は褐色土から暗褐色土を基本とする自然堆積と思われる。

［遺　　物］深鉢形土器・土器片錘、磨石が出土している。南東壁際のピット内から深鉢形土器（埋甕）が出土している。底部と口縁部を打ち欠いた胴部中位を利用している。摩滅が激しく同一個体であるが接合点が見いだせない破片が多数ある。2は覆土中層から出土している。区画整理第13Ⅲ地点側から出土した遺物は、『志木市遺跡調査会報告　13集　西原大塚遺跡　第1分冊』（志木市遺跡調査会2009）を参照されたい。

［時　　期］縄文時代中期後半（加曽利ＥⅠ式）。

［遺　　物］（第15図、図版25－2、第6表）

［土　　器］（第15図1・2、図版25－2－1・2、第6表）

1は加曽利ＥⅠ式の深鉢形土器胴部、2は勝坂式（井戸尻式段階）の深鉢形土器口縁部、3は中期後半の土器片錘である。

［土 製 品］（第15図3、図版25－2－3、第6表）

26は中期後半の土器片錘である。

［石　　器］（第15図4、図版25－2－4、第6表）

4は安山岩の磨石・敲石・凹石である。

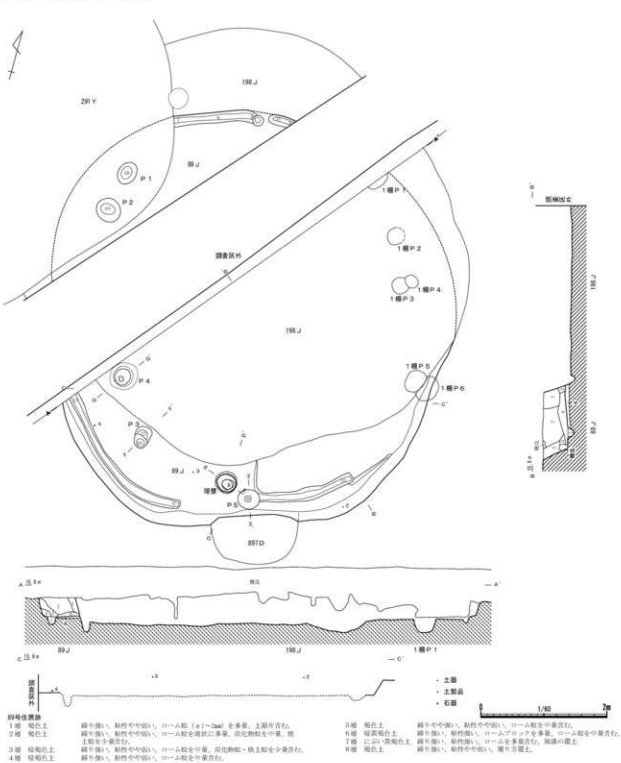
195号住居跡

［遺　　構］（第16・17図）

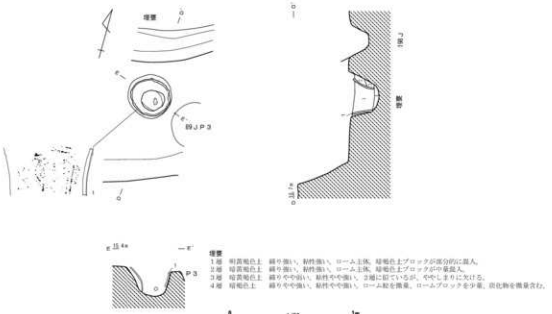
［位　　置］（F－4）グリッド。

［検出状況］遺存状態は良好で南東側が調査区外へ延びる。

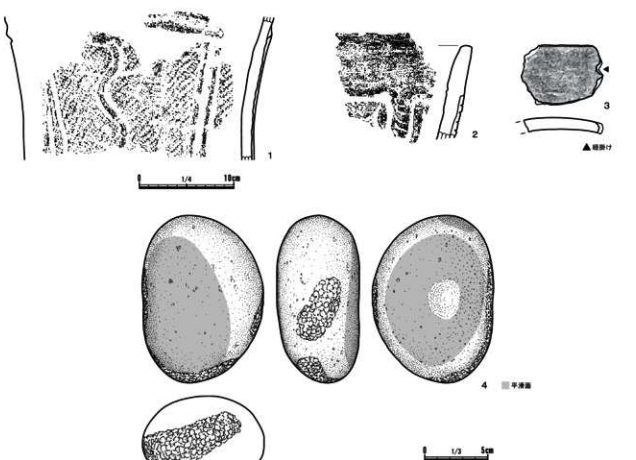
［構　　造］**平面形**：略円形を呈する。**規模**：5.09m ／ 4.56m ／深さ 38cm。**主軸方位**：座標北。**壁溝**：



第 13 図　89 号住居跡（１／60）



第14図　89号住居跡埋甕出土状態（1／30）



第15図　89号住居跡出土遺物（1／4・1／3）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第15図1 図版25-2-1	深鉢	東南部壁付近 埋甕	胴部 30%	高 [15.0]	にぶい 赤褐	白色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英・礫	ＲＬ縦位施文／胴部上端に横位隆帯、そこから直線・蛇行隆帯を垂下させる／内面横ナデ	加曽利ＥⅠ式
第15図2 図版25-2-2	深鉢	南壁付近 (床上29cm)	口縁部 ～胴部 5％ 未満	厚　1.4	暗褐	黒色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	口縁部無文／キザミのある隆帯を垂下、沈線で枠状に区画し、三叉文や刺突を充填／内面横ナデ	勝坂式 (井戸尻式段階)

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第15図3 図版25-2-3	土器片錘	東南壁付近 覆土中 (床上31cm)	側面 欠損	4.7	6.5	1.3	37.0	内外面磨き／長軸端部にキザミを付し土器片錘として利用	中期後半

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第15図4 図版25-2-4	磨石 敲石 凹石	西壁付近床面	完形	安山岩	132.8	96.2	65.8	1266.4	表裏面に平滑面あり、裏中央に浅い凹みあり／敲打痕は側縁部約半周に広がる	

第６表　89号住居跡出土遺物一覧

ほぼ全周する。上幅 12 ～ 30cm／下幅３～ 15cm／深さ７～ 38cm。**床面**：貼床がなされ、概ね平坦である。**炉**：２基検出された。炉１は住居跡中央に位置している。平面形は不整円形で、断面形は皿状である。規模は 113 × 95cm、深さ９cmである。炉２は住居跡中央やや西側に位置している。平面形は略楕円形で、断面形は浅い皿状である。規模は 82 × 70cm、深さ３cm。**柱穴**：４本検出された。いずれも主柱穴で、４本主柱の住居跡である。Ｐ１を除き柱の抜き取り痕を思われるテラスを持つ。Ｐ１は 28 × 26cm、深さ 55cm、Ｐ２は 49 × 33cm、深さ 63cm、Ｐ３は 38 × 32cm、深さ 71cm、Ｐ４は 56 × 42cm、深さ 73cmである。**貯蔵穴**：東壁付近に位置している。平面形は円形を呈し、断面形は平坦な底面から直線的に立ち上がる。一部にテラスを持つ。規模は 49 × 48cm、深さ 17cmである。**埋甕**：底部を打ち欠き正位で用いられ、口縁部が床面レベルより突出する。掘り方は略円形を呈し、規模は 36 × 36cm、深さ 18cmである。埋甕に西接して、楕円形に近い落ち込みが認められた。規模は 48 × 21cm、深さ 19cmである。上面から磨製石斧が出土した。

［覆　土］18 層に分層される。18 層が掘り方の埋土である。覆土は褐色土を基本とした人為的な埋め戻しと思われる。

［遺　物］深鉢形土器、浅鉢形土器、磨製石斧、磨石が出土している。覆土中から床面にかけて遺物が出土している。特に炉周辺や床面近くから出土した遺物の復元率が高い。

［時　期］縄文時代中期後半（曽利Ⅱ式）。

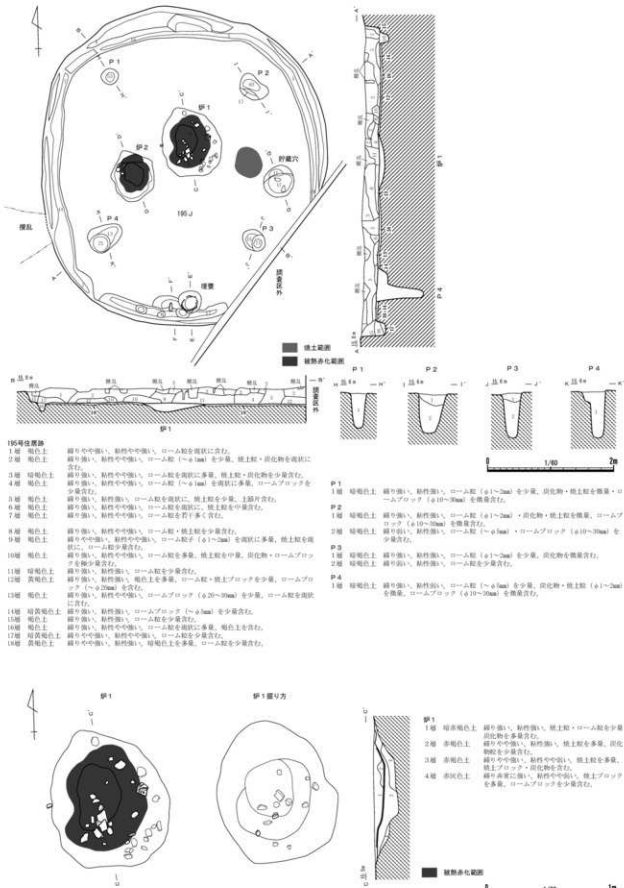
遺　物（第 18 ～ 20 図、図版 26 － 1、図版 27 － 1、図版 28 － 1、第７・８表）

［土　器］（第 18 ～ 19 図１～ 20、図版 26 － 1 － 1 ～ 5、図版 27 － 1 － 6 ～ 20、第７・８表）

１・２・９・10 は加曽利ＥⅠ式の深鉢形土器胴部、３～５は曽利Ⅱ式の深鉢形土器口縁部から胴部、６は中期後半の無文の浅鉢形土器、７・８は中期後半の深鉢形土器胴部と胴部から底部で地文は櫛歯状工具による条線、11 は曽利Ⅱ式の深鉢形土器胴部、12 ～ 18 は連弧文土器の深鉢形土器で 12 ～ 15 口縁部、16 ～ 18 が胴部である。19・20 は中期後半の深鉢形土器胴部および底部で地文に撚糸Ｌを施文する。

［石　器］（第 20 図 21・22、図版 28 － 1 － 21・22、第８表）

21 は凝灰岩の磨製石斧、22 は砂岩の磨石・敲石である。



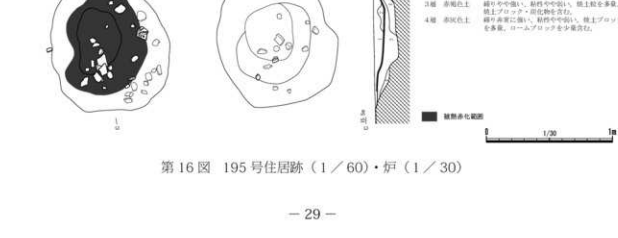
195号住居跡
1層　暗色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を微状に含む。
2層　暗色土　　締り強い、粘性やや強い、ローム粒（～φ1mm）を少量、焼土粒・炭化物を微状に含む。
3層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を微状に多量、焼土粒・炭化物を少量含む。
4層　暗色土　　締り強い、粘性やや強い、ローム粒（～φ1mm）を微状に多量、ロームブロックを少量含む。
5層　暗色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を微状に、焼土粒を少量、土器片含む。
6層　暗色土　　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を微状に、焼土粒を中量含む。
7層　暗色土　　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を若干多く含む。
8層　暗色土　　締り強い、粘性やや強い、ローム粒・焼土粒を少量含む。
9層　暗色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒子（φ1～2mm）を微状に多量、焼土粒を微状に、ローム粒を少量含む。
10層　暗色土　　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を多量、焼土粒を中量、炭化物・ロームブロックを極少量含む。
11層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
12層　黄褐色土　締り強い、粘性強い、暗色土を多量、ローム粒・焼土ブロックを少量、ロームブロック（～φ20mm）を含む。
13層　暗色土　　締り強い、粘性やや強い、ロームブロック（φ20～30mm）を少量、ローム粒を微状に含む。
14層　暗黄暗色土　締り強い、粘性強い、ロームブロック（～φ3mm）を少量含む。
15層　暗色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
16層　暗色土　　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を微状に多量、暗色土を含む。
17層　暗黄暗色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。
18層　黄褐色土　締りやや強い、粘性強い、暗褐色土を多量、ローム粒を少量含む。

P1
1層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒（φ1～2mm）を少量、炭化物・焼土粒を微量・ロームブロック（φ10～30mm）を微量含む。

P2
1層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒（φ1～2mm）・炭化物・焼土粒を微量、ロームブロック（φ10～30mm）を微量含む。
2層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒（～φ1mm）・ロームブロック（φ10～30mm）を少量含む。

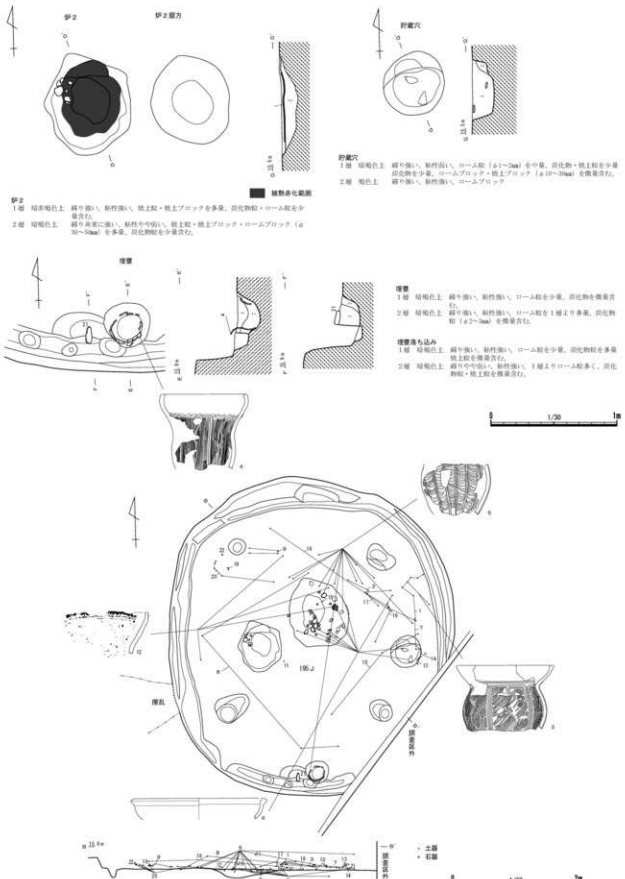
P3
1層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒（φ1～2mm）を少量、炭化物を微量含む。
2層　暗褐色土　締り弱い、粘性強い、ローム粒を少量含む。

P4
1層　暗褐色土　締り強い、粘性弱い、ローム粒（～φ1mm）を少量、炭化物・焼土粒（φ1～2mm）を微量、ロームブロック（φ10～20mm）を微量含む。

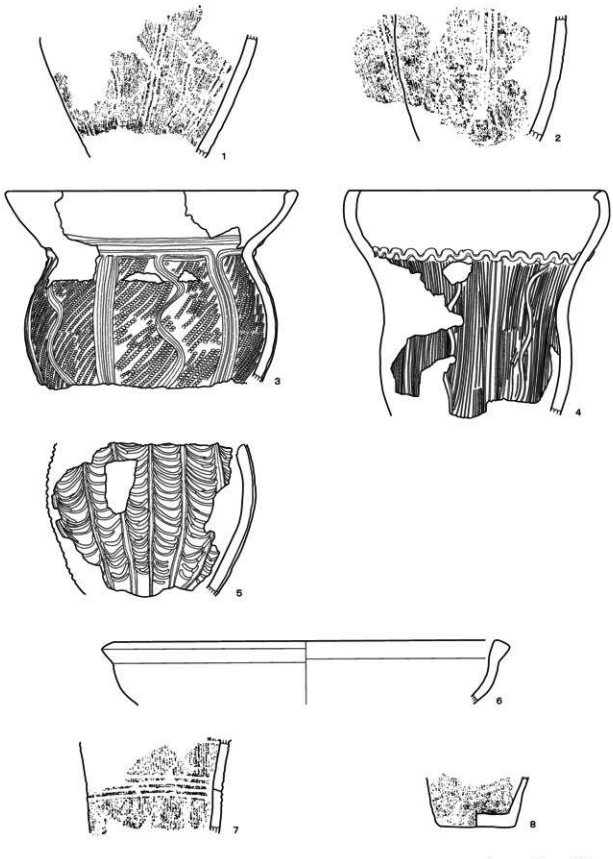


炉1
1層　暗赤褐色土　締り強い、粘性強い、焼土粒・ローム粒を少量含化物を多量含む。
2層　赤褐色土　　締りやや強い、粘性強い、焼土粒を多量、炭化物粒を少量含む。
3層　赤褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、焼土粒を多量、焼土ブロック・炭化物を含む。
4層　赤灰色土　　締り非常に強い、粘性やや強い、焼土ブロックを多量、ロームブロックを少量含む。

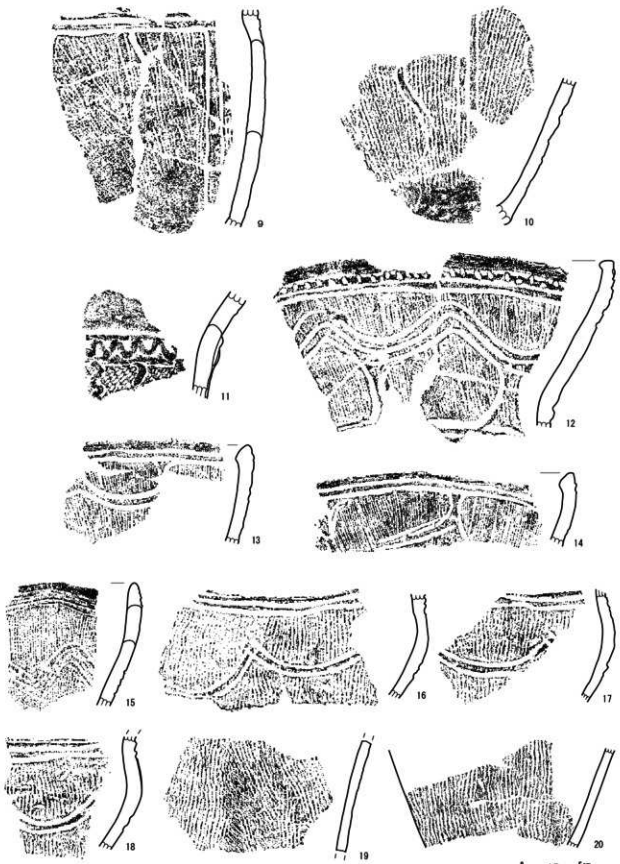
第16図　195号住居跡（1／60）・炉（1／30）



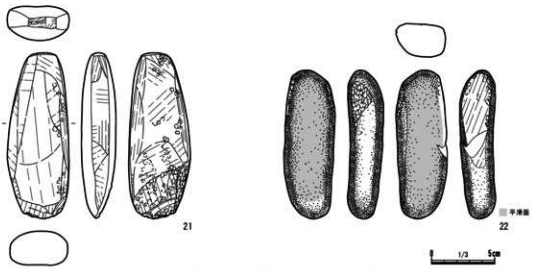
第 17 図　195 号住居跡炉（１／30）・貯蔵穴（１／30）・
埋甕出土状態（１／30）・遺物出土状態（１／60）



第18図　195号住居跡出土遺物（1）（1／4）



第 19 図　195 号住居跡出土遺物（２）（１／３）



第20図　195号住居跡出土遺物（3）（1／3）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴	備　考
第18図1 図版26-1-1	深鉢	東部覆土中 (床上9～12m)	胴部 30%	高　[12.6]	にぶい橙	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート・石英・礫	櫛歯状工具による縦位条線／直線・蛇行沈線を垂下／内面横ナデ	加曽利Ｅ1式
第18図2 図版26-1-2	深鉢	北東部床面	胴部 20%	高　[13.3]	にぶい黄橙	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート・石英・礫	撚糸Ｌ施文／沈線を垂下／内面横ナデ	加曽利Ｅ1式
第18図3 図版26-1-3	深鉢	南部埋甕	口縁部～胴部 40%	高　[20.2] 口　(30.6)	暗灰黄	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート・石英	口縁部無文／胴部ＲＬ縦位施文／括れ部に横位隆帯２条、そこから直線・蛇行隆帯を垂下／内面横ナデ	曽利Ⅱ式
第18図4 図版26-1-4	深鉢	東部覆土中 (床上6～7cm)	口縁部～胴部 50%	高　[23.8] 口　27.1	にぶい褐	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート・石英	口縁部無文／胴部櫛歯状工具による縦位条線／胴部上端に横位蛇行隆帯、そこから半截竹管状工具より直線・蛇行沈線を垂下／内面横ナデ	曽利Ⅱ式
第18図5 図版26-1-5	深鉢	北東部覆土中 (検出面床上28m)	口縁部～胴部 20%	高　[16.0] 口　(20.0)	にぶい橙	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート・石英	口縁部から隆帯を等間隔に垂下させ、間に沈線による重弧文／内面横ナデ	曽利Ⅱ式
第18図6 図版27-1-6	浅鉢	炉1内部・北東部覆土中 (床面～6cm)	口縁部 10%	高　[6.6] 口　(40.6)	にぶい黄褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	口唇部平坦／外面には横方向の磨き／内面横磨き	中期後半
第18図7 図版27-1-7	深鉢	東部覆土中 (床上3～7cm)	胴部 10%	高　[9.9]	灰黄褐	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	櫛歯状工具による縦位条線／横位沈線で区画／内面横ナデ	中期後半
第18図8 図版27-1-8	深鉢	中央部・南部・西部覆土中 (床面～21cm)	胴～底部 10%	高　[5.3] 底　7.8	明褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	櫛歯状工具による縦位条線／内面横ナデ	中期後半
第19図9 図版27-1-9	深鉢	北部覆土中 (床上4～5cm)	胴部 15%	厚　1.2	にぶい黄橙	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート・石英	撚糸Ｌ縦位及び斜位に施文／胴部上端を沈線で区画、胴部沈線で枠状に区画／内面横ナデ	加曽利Ｅ1式
第19図10 図版27-1-10	深鉢	東部・東南部覆土中 (床上6cm)	胴部 20%	厚　1.1	明褐	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	撚糸Ｌ施文／直線・蛇行沈線を垂下／内面横ナデ	加曽利Ｅ1式
第19図11 図版27-1-11	深鉢	炉2東側覆土中 (床上23cm)	胴部 10%	厚　1.4	にぶい褐	白色粒子・赤色粒子・角閃石・石英・礫	口縁部無文／ＲＬ横位施文／胴部上端に横位直線・波状隆帯、以下に蛇行隆帯を垂下させる／内面横ナデ	曽利Ⅱ式
第19図12 図版27-1-12	深鉢	炉1内部・北東部覆土中 (床面～5cm)	口縁部～胴部 30%	厚　1.3	褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	櫛歯状工具による縦位条線／口縁部に交互刺突とに横位沈線、括れ部に横位沈線を巡らし、間に沈線による波状文／内面横ナデ	連孤文土器

第7表　195号住居跡出土遺物一覧（1）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴	備　考
第19図13 図版27- 1 -13	深鉢	東部覆土中 (床上4～7cm)	口縁部 10%	厚　1.1	灰黄褐	黒色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	櫛歯状工具による縦位条線／口縁部に２条の横位沈線、以下に沈線による連弧文／内面横ナデ	連弧文土器
第19図14 図版27- 1 -14	深鉢	東部覆土中 (床上5～7cm)	口縁部 10%	厚　1.0	灰黄褐	黒色粒子・赤色粒子・ 角閃石・石英・礫	櫛歯状工具による縦位条線／口縁部に２条の横位沈線、以下に枠状の沈線／内面横ナデ	連弧文土器
第19図15 図版27- 1 -15	深鉢	炉１ (床上７cm)	口縁部 ～胴部 10%	厚　1.0	灰黄褐	黒色粒子・白色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英・礫	口縁部縄い波状／口縁部に竹管状工具による横線、以下に同一工具による波状文／内面横ナデ	連弧文土器
第19図16 図版27- 1 -16	深鉢	東部覆土中 (床上５cm)	胴部 ５% 未満	厚　1.0	明赤褐	黒色粒子・赤色粒子・ チャート・石英	燃糸Ｌ縦位施文／口縁部に３条？の横位沈線、以下に沈線による連弧文／内面横ナデ	連弧文土器
第19図17 図版27- 1 -17	深鉢	東部覆土中 (胴部～床上5cm)	胴部 ５% 未満	厚　1.0	明赤褐	黒色粒子・赤色粒子・ チャート・石英	燃糸Ｌ縦位施文／口縁部に３条？の横位沈線、以下に沈線による連弧文／内面横ナデ	連弧文土器
第19図18 図版27- 1 -18	深鉢	北部・東部 覆土中 (床上2～12cm)	胴部 ５% 未満	厚　1.2	明赤褐	黒色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英・礫	燃糸Ｒ縦位施文／口縁部に３条？の横位沈線、以下に沈線による連弧文／内面横ナデ	連弧文土器
第19図19 図版27- 1 -19	深鉢	北西部の覆土 中(床上６cm)	胴部 10%	厚　0.8	にぶい橙	白色粒子・赤色粒子・ チャート・石英	燃糸Ｌ縦位及び斜位施文／内面横ナデ	中期後半
第19図20 図版27- 1 -20	深鉢	北西部覆土中 (床上5～8cm)	胴部 10%	高　[7.7]	にぶい橙	黒色粒子・白色粒子・ 赤色粒子・角閃石・ チャート・礫	燃糸Ｒ縦位施文／内面横ナデ	中期後半

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石　材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特　徴	備　考
第20図21 図版28- 1 -21	磨製 石斧	埋甕西側 覆土中 (床上3cm)	完形	凝灰岩	130.6	49.2	27.3	298.4	刃部を一部欠損／刃部を敲打成形、研磨により再生するが、直線的な刃まで戻らず／全体に敲打痕に研磨痕がみられる	
第20図22 図版28- 1 -22	磨石 敲石	覆土中	ほぼ 完形	砂岩	117.5	40.4	27.9	204.3	中央部で一部欠損／表裏面には平滑面があり、敲打痕より古い／敲打痕が両側面下部にみられた側縁は敲打の後研磨され平になる	

第８表　195 号住居跡出土遺物一覧（２）

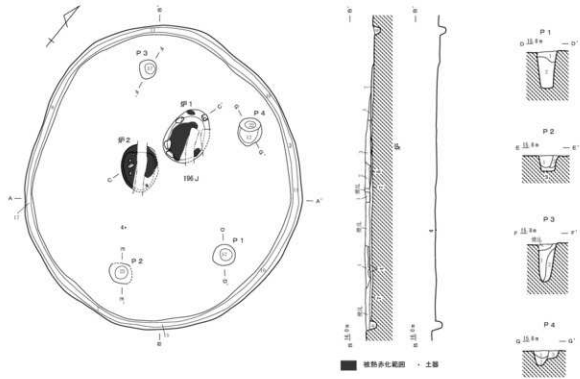
196 号住居跡

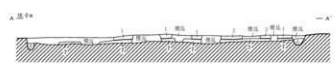
遺　構（第 21 図）

[位　置]（Ｅ・Ｆ－４）グリッド。

[検出状況] トレンチャーによる攪乱が床面を壊していて、遺存状態は悪い。

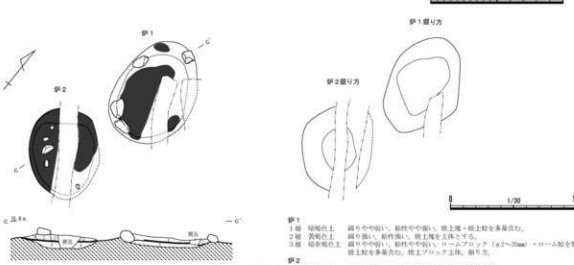
[構　造] **平面形**：略円形を呈する。**規模**：4.47m ／ 4.26m ／深さ９cm。**主軸方位**：Ｎ－９°－Ｗ。**壁溝**：全周する。上幅 11 ～ 30cm／下幅４～ 10cm／深さ７～ 15cm。**床面**：貼床される。住居中心から壁側にむけ僅かに傾斜している。**炉**：２基検出された。炉１は中央やや北側に位置している。平面形は楕円形で、断面形は皿形を呈する。規模は 85 × 65cm以上、深さ 12cmである。炉の外縁部から礫が少数認められる。石材は砂岩とチャートで被熱している。大きさは５～ 20cm前後、重さ 404 ～ 1607g である。炉２は住居跡中央やや西側に位置している。平面形は楕円形で、断面形は皿状を呈している。規模は 72cm以上× 57cm以上、深さ６cmである。炉の内側に礫が少数認められる。石材は砂岩で被熱し





196号住居跡
1層　褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を極少量含む。
2層　褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒・焼土粒を少量。
　　炭化物粒を極少量含む。
3層　褐色土　　締り強い、粘性強い、焼土粒を斑状に多量、焼土
　　ブロック（～φ5mm）・焼土粒を斑状に含む。
4層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック
　　（φ5～10mm）を少量含む。
5層　暗黄褐色土　締り強い、粘性やや強い、ロームブロック・焼土粒
　　（～φ10mm）・ローム粒を含む。
6層　暗黄褐色土　締り強い、粘性やや強い、ロームブロック（φ5～
　　10mm）を多量含む。
7層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量、炭化物を微量、
　　ロームブロック（φ20～30mm）を部分的に含む。

P 1
1層　褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を極少量含む。
2層　褐色土　締り強い、粘性やや強い、ロームブロック（～φ10mm）・ローム粒を少量含む。
P 2
1層　褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。
2層　褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
3層　暗黄褐色土　締り やや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量含む。
P 3
1層　褐色土　締り強い、粘性やや強い、ロームブロック（～φ5mm）・ローム粒を少量含む。
2層　褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を斑状に含む。
P 4
1層　褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。
2層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ロームブロック（～φ10mm）を含む。
3層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、1層の褐色土・ローム粒を多量含む。



炉 1
1層　暗褐色土　　締りやや弱い、粘性やや強い、焼土塊・焼土粒を多量含む。
2層　褐色土　　締り強い、粘性強い、焼土塊を主体とする。
3層　暗赤褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ロームブロック（φ2～20mm）・ローム粒を微量
　　焼土粒を多量含む。焼土ブロック土残、掘り方。
炉 2
1層　暗褐色土　　締りやや弱い、粘性やや強い、焼土粒を多量含む。
2層　暗赤褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、焼土粒を多量含む。
3層　暗赤褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、焼土粒を多量含む。
4層　暗赤褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ロームブロック（φ2～20mm）・ローム粒を微量
　　焼土粒を多量含む。焼土ブロック土残、掘り方。

第21図　196号住居跡（1／60）・炉（1／30）

第 22 図　196 号住居跡出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴	備　考
第 22 図 1 図版 28・2-1	深鉢	覆土中	胴部 5％ 未満	厚　1.0	褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・石英	ＲＬ縄位施文／沈線垂下／内面横ナデ	加曽利ＥⅡ式
第 22 図 2 図版 28・2・2	深鉢	覆土中	口縁部 5％ 未満	厚　0.9	褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	櫛歯状工具による縄位条線／横位沈線・連弧文／内面横ナデ	連弧文土器
第 22 図 3 図版 28・2・3	深鉢	覆土中	口縁～ 胴部 5％ 未満	厚　0.9	褐	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート	ＲＬ縄位施文／口縁部に沈線の沿う隆帯を巡らす／内面横ナデ	中期後半
第 22 図 4 図版 28・2・4	深鉢	中央部掘り方	胴部 5％ 未満	厚　0.8	にぶい 黄橙	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート	0 段多条のＲＬ縄位施文／内面には斜位方向のナデ	中期後半

第９表　196 号住居跡出土遺物一覧

ている。炉１に比べ小ぶりで、大きさは５～ 12cm前後、重さ 74 ～ 194g である。**柱穴**：４本検出された。Ｐ１は 34 × 32cm、深さ 57cm、Ｐ２は 37 × 32cm、深さ 23cm、Ｐ３は 30 × 27cm、深さ 57cm、Ｐ４は 43 × 37cm、深さ 22cmである。いずれも主柱穴で４本主柱の住居跡である。Ｐ４は南側にテラスを持つ。

［覆　　土］７層に分層される。７層が掘り方の埋土である。覆土は褐色土から暗褐色土を基本とする自然堆積である。

［遺　　物］深鉢形土器が出土している。

［時　　期］縄文時代中期後半。

遺　　物（第 22 図、図版 28 －２、第９表）

［土　　器］（第 22 図１～４、図版 28 －２－１～４、第９表）

１は加曽利ＥⅡ式の深鉢形土器胴部、２は連弧文土器の深鉢形土器口縁部、３は中期後半の深鉢形土器口縁部、４は中期後半の深鉢形土器胴部である。

197 号住居跡

遺　　構（第 23 図）

［位　　置］（Ｆ－４・５）グリッド。

［検出状況］トレンチャーによる攪乱が床面下まで及ぶため遺存状態は悪い。南側は調査区外へ延びる。

［構　　造］**平面形**：大半は調査区外であるが、円形を呈するものと思われる。**規模**：3.94m 以上／3.69m 以上／深さ 21㎝。**主軸方位**：不明。**壁溝**：検出範囲では途切れず認められる。上幅 13 ～ 25㎝／下幅 5 ～ 12㎝／深さ 10 ～ 15㎝。**床面**：貼床がなされ、概ね平坦である。**炉**：３基検出された。いずれも地床炉で住居跡中央から北に寄った部分で確認されている。炉１と炉２は重複し、炉１が炉２を切る。炉１の平面形は不整円形で、断面形はやや丸みを持つ底面から内湾気味に立ち上がる。規模は 76 × 73㎝、深さ２㎝である。炉２の平面形は略楕円形で、断面形は狭い底面から緩やかに直線的に立ち上がる。規模は 77 × 51㎝、深さ 27㎝。底面は被熱により赤化が激しい。炉３は半分程が攪乱されている。平面形は楕円形と思われ、断面形は北側が深く、南側は浅い皿状になる。規模は 86 × 36㎝以上、深さ３㎝である。**柱穴**：２本検出された。いずれも主柱穴であろう。Ｐ１は 59 × 47㎝、深さ 77㎝、Ｐ２は 60 × 45㎝、深さ 71㎝である。

［覆　　土］９層に分層される。９層が掘り方の埋土である。覆土は褐色土から暗褐色土を基本とした自然堆積である。

［遺　　物］深鉢形土器が出土している。

［時　　期］縄文時代中期後半（加曽利ＥⅡ式）。

遺　物（第 24 図、図版 28 －３、第 10 表）

［土　　器］（第 24 図１～６、図版 28 －３－１～６、第 10 表）

１は阿玉台Ⅲ式の深鉢形土器口縁部、２は加曽利ＥⅡ式の深鉢形土器口縁部、３・４は加曽利ＥⅡ式の深鉢形土器胴部、５・６は曽利Ⅱ式の深鉢形土器頸部と胴部である。

198 号住居跡

遺　構（第 25・26 図）

［位　　置］（Ｃ－３、Ｄ－２・３）グリッド。

［検出状況］遺存状況は良好である。北西側は調査区外へ延びる。南側で 89 Ｊを切り、１柵に切られる。

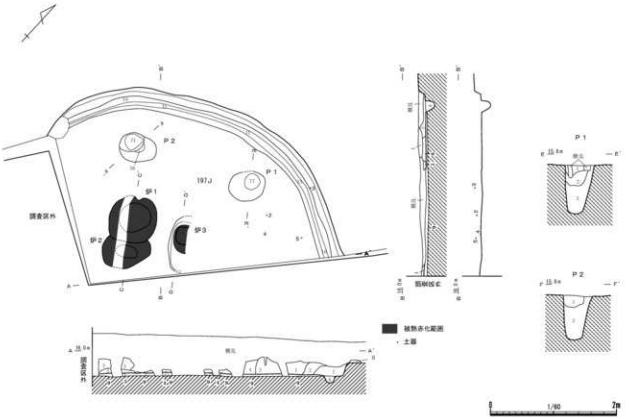
［構　　造］**平面形**：略円形を呈する。**規模**：6.23m ／ 5.22m 以上／深さ 46㎝。**主軸方位**：Ｎ－ 38°－Ｅ。**壁溝**：調査範囲では途切れず認められる。上幅９～ 25㎝／下幅６～ 13㎝／深さ５～ 17㎝。**床面**：貼床がなされ、概ね平坦である。**炉**：中央やや北東側に位置する。平面形は略円形を呈すると考えられ、調査区外へ延びる。断面形は丸みを帯びる底面から緩やかに立ち上がる。規模は 73 × 30㎝、深さ 11㎝である。**柱穴**：従前の調査で２本、今回の調査で４本の合計６本検出された。Ｐ３は 39 × 37㎝、深さ 68㎝、Ｐ４は 37 × 32㎝、深さ 75㎝、Ｐ５は 32 × 27㎝、深さ 87㎝、Ｐ６は 37 × 33㎝、深さ 66㎝である。**埋甕**：住居跡南壁溝に接するように築かれている。底部を欠いた深鉢形土器が正位で設置されている。埋甕の上端が床面の高さに等しい。掘り方は略円形を呈す。規模は 48 × 43㎝、深さ 32㎝である。

［覆　　土］９層に分層される。９層が掘り方の埋土である。覆土は褐色土から暗褐色土を基本とした自然堆積層である。

［遺　　物］深鉢形土器、器台形土器、土器片錘、土製円盤、石鏃、打製石斧、敲石、磨石・敲石、磨石・敲石・凹石が出土している。

［時　　期］縄文時代中期後半（曽利Ⅱ式）。

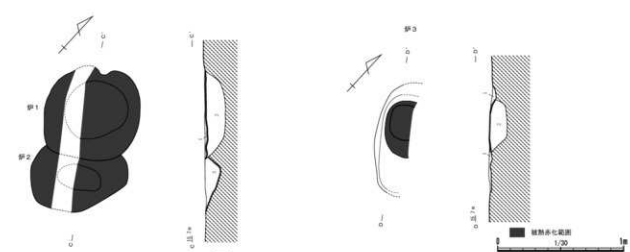
遺　物（第 27 ～ 30 図、図版 29 －１、図版 30 －１、図版 31 －１、図版 32 －１、第 11 ～ 13 表）



197号住居跡
1層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
2層　暗色土　締り強い、粘性強い、焼土粒を極少量含む。
3層　暗褐色土　締りやや弱い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
4層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒・炭化物を微状に含む。
5層　暗色土　締り強い、粘性強い、ロームブロック・ローム粒・焼土粒・炭化物を少量含む。
6層　暗黄褐色土　締り強い、粘性強い、暗色土を含む。
7層　暗色土　締り強い、粘性強い、炭化物粒を少量含む。
8層　暗色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を微量含む。
9層　暗色土　締り強い、粘性強い、焼土粒、炭化物を少量含む。

P 1
1層　暗色土　締り強い、粘性やや強い、ロームブロック（～φ5mm）を少量、ローム粒を微状に含む。
2層　暗色土　締り強い、粘性強い、暗色土を多量含む。
3層　暗黄褐色土　締り強い、粘性強い暗色土を多量含む。

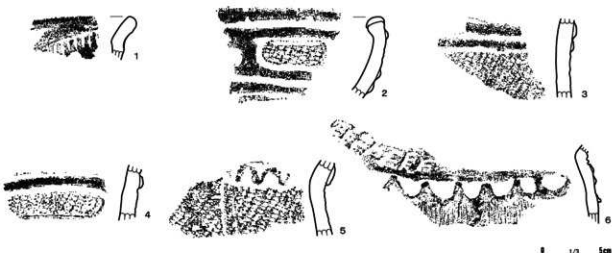
P 2
1層　暗色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。
2層　暗黄褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量、暗色土を多量含む。



炉１・２
1層　暗色土　締り強い、粘性強い、焼土粒を多量含む。
2層　赤褐色土　締り非常に強い、粘性強い、被熱により硬化し、赤く変色している。
3層　暗色土　締り強い、粘性強い、１層とほぼ同じだが、色調はやや暗い、被熱により硬化し、赤く変色している。

炉３
1層　暗褐色土　締りやや弱い、粘性強い、焼土ブロックを多量含む。
2層　赤褐色土　締り強い、粘性強い、　焼土ブロック・ロームブロックを多量含む。

第 23 図　197 号住居跡（1／60）・炉（1／30）



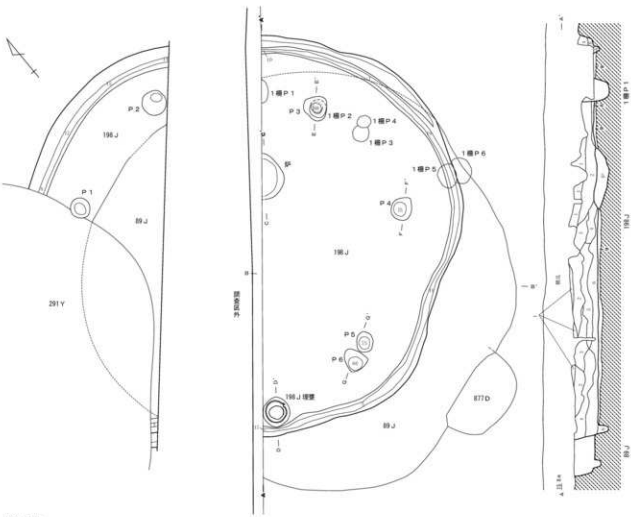
第 24 図　197 号住居跡出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴	備　考
第 24 図 1 図版 28・3・1	深鉢	覆土中	口縁部 5％ 未満	厚　0.9	にぶい橙	白色粒子・赤色粒子・石英・雲母	低い隆帯に沿って幅広の連続爪形文／内面横ナデ	阿玉台Ⅲ式
第 24 図 2 図版 28・3・2	深鉢	北部覆土中 (床上７cm)	口縁部 5％ 未満	厚　1.1	にぶい黄橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	ＲＬ縦位施文／口縁部に隆帯による枠状文と渦巻文／内面横ナデ	加曽利ＥⅡ式
第 24 図 3 図版 28・3・3	深鉢	北壁付近 覆土中 (床上 10cm)	胴部 5％ 未満	厚　1.1	にぶい褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英・礫	ＲＬ縦位施文／沈線の沿う横位隆帯／内面横ナデ	加曽利ＥⅡ式
第 24 図 4 図版 28・3・4	深鉢	北部床面	胴部 5％ 未満	厚　1.2	にぶい褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	ＲＬ縦位施文／沈線の沿う隆帯で枠状に区画／内面横ナデ	加曽利ＥⅡ式
第 24 図 5 図版 28・3・5	深鉢	北壁付近 覆土中 (床上 8cm)	胴部 5％ 未満	厚　1.1	褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・礫	ＲＬ縦位施文／括れ部に横位蛇行隆帯、以下に沈線を垂下／内面横ナデ	曽利Ⅱ式
第 24 図 6 図版 28・3・6	深鉢	覆土中	胴部 5％ 未満	厚　0.9	にぶい赤褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	櫛歯状工具による縦位条線／横位沈線、斜位の短隆帯、横位隆帯、弧状の隆帯を施し、以下に蛇行隆帯を垂下／内面横ナデ	曽利Ⅱ式

第 10 表　197 号住居跡出土遺物一覧

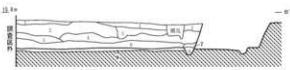
［土　　器］（第 27 ～ 30 図１～ 34、図版 29 － 1 － 1 ～ 7、図版 30 － 1 － 8 ～ 19、図版 31 － 1 － 20 ～ 34、第 11・12 表）

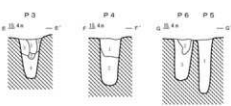
１は阿玉台Ⅰｂ式の深鉢形土器口縁部、２は勝坂式の器台形土器、３は勝坂式（井戸尻式段階）の深鉢形土器口縁部、８は曽利Ⅱ式の深鉢形土器口縁部から胴部、４・５は加曽利ＥⅠ式の深鉢形土器口縁部、６・７は加曽利ＥⅡ式の深鉢形土器で６は口縁部から頸部、７胴部、８は埋甕で、曽利Ⅱ式の深鉢形土器口縁部から胴部である。９は連弧文土器の深鉢形土器胴部、10・32・33 は中期後半の深鉢形土器で 10 は口縁部、32･33 は口縁部から胴部。11 ～ 14 は阿玉台Ⅱ式の深鉢形土器で 11･12 が口縁部、13・14 は口縁部から胴部、15 は阿玉台Ⅲ式の深鉢形土器胴部、16 は中期中葉と推定される深鉢形土器口縁部、17 は加曽利ＥⅠ式の口縁部、18 は加曽利ＥⅡ式の深鉢形土器胴部、19 ～ 22 は曽利Ⅱ式の深鉢形土器で 19 は口縁部、20 は胴部、21・22 頸部である。23 ～ 31 は連弧文土器の深鉢形土器口



196号住居跡

1 層　暗色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒・炭化物粒を微量に少量、土器片・石などを含む。
2 層　暗色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒・焼土粒・炭化物粒を微量に多量含む。
3 層　暗色土　　締り強い、粘性やや強い、ローム粒・焼土粒・炭化物粒を微量に含む。土器片含む。
4 層　暗色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を微量に多量、炭化物粒・焼土粒・ローム(φ10～20mm)を少量含む。
5 層　暗色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を微量に多量、焼土粒・炭化物粒を極少量含む。
6 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ロームブロック（φ10～30mm）を少量、ローム粒を多量、焼土粒・炭化物（φ1～2mm）を微量含む。
7 層　暗色土　　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を微量に多量含む。
8 層　暗色土　　締りやや強い、粘性強い、ロームブロック・ローム粒を多量含む。
9 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒・暗褐色土を多量、焼土ブロック（φ10～30mm）、焼土粒（1～φ10mm）を少量含む。





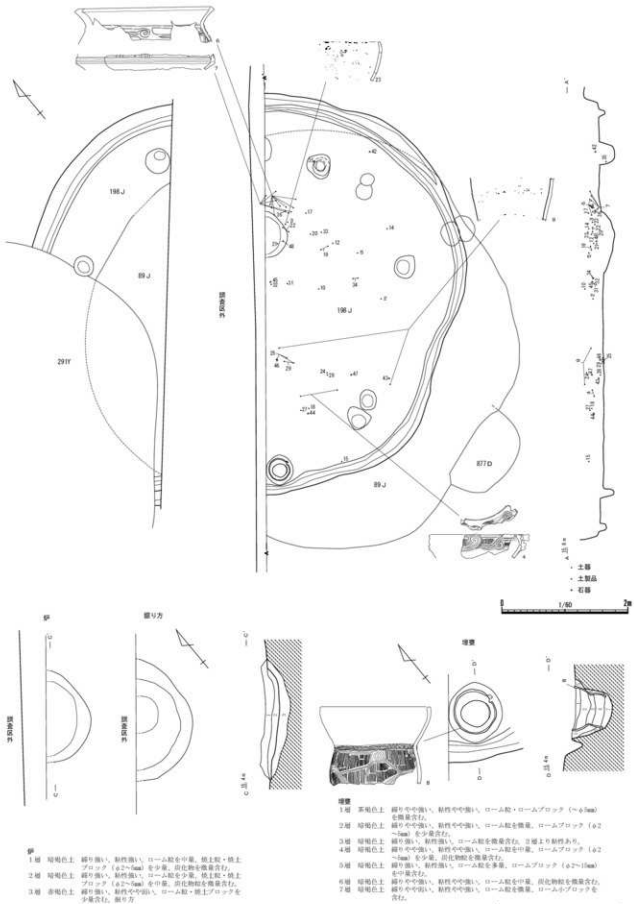
P 3
1 層　黒褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を中量、ロームブロック（φ2～10mm）を中量含む。
2 層　暗黄褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量、ロームブロック（φ2～20mm）を多量含む。
3 層　黒褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量、ロームブロック（φ2～6mm）を中量、焼土粒を微量含む。
4 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を中量、ロームブロック（φ2～10mm）を少量含む。

P 4
1 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量、ロームブロック（φ5～50mm）を少量含む。炭化物粒を微量含む。
2 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を中量含む。

P 5・6
1 層　暗黄褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量、炭化物粒を微量含む。
2 層　暗黄褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量、ロームブロック（φ10 ～50mm）を微量含む。
3 層　暗黄褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を中量、ロームブロック（φ2 ～20mm）を微量含む。

1/60　2m

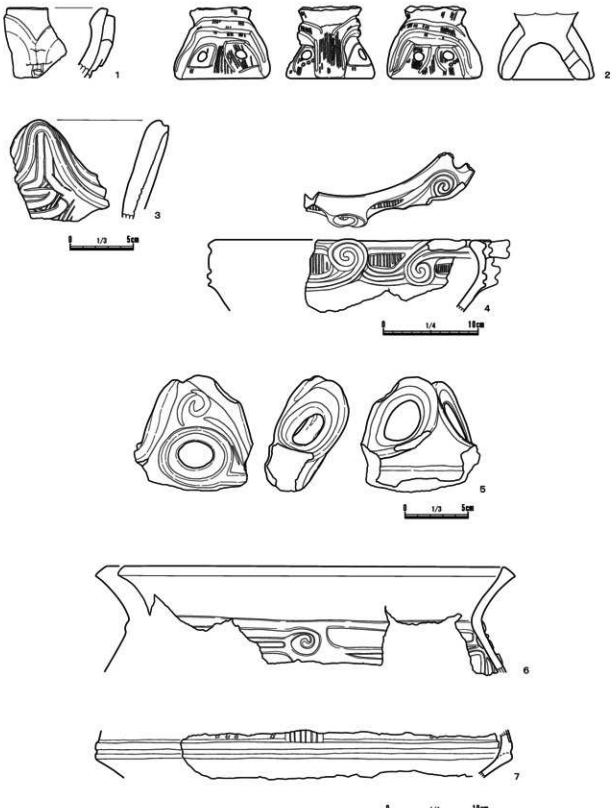
第 25 図　198 号住居跡（１／60）



炉
1 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を中量、焼土粒・焼土ブロック（φ2～5mm）を少量、炭化物を微量含む。
2 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量、焼土粒・焼土ブロック（φ2～5mm）を中量、炭化物粒を微量含む。
3 層　赤褐色土　締り強い、粘性やや弱い、ローム粒・焼土ブロックを少量含む。掘り方

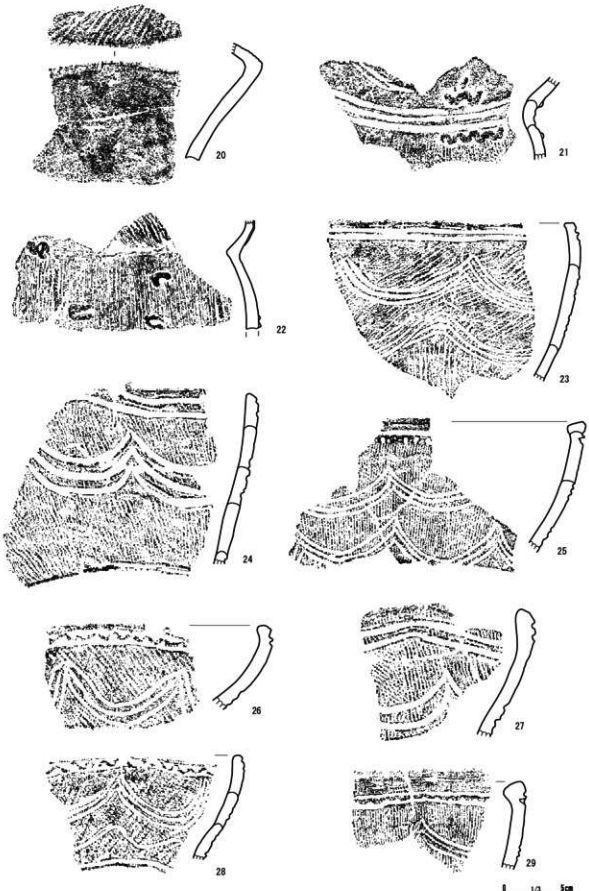
埋甕
1 層　茶褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（～φ5mm）を微量含む。
2 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を微量、ロームブロック（φ2～5mm）を少量含む。
3 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を微量含む。2 層より粘性あり。
4 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、ロームブロック（φ2～5mm）を少量、炭化物粒を微量含む。
5 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量、ロームブロック（φ2～15mm）を中量含む。
6 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、炭化物粒を微量含む。
7 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を微量、ローム小ブロックを含む。
1/30

第 26 図　198 号住居跡遺物出土状態（1／60）・炉（1／30）・埋甕出土状態（1／30）

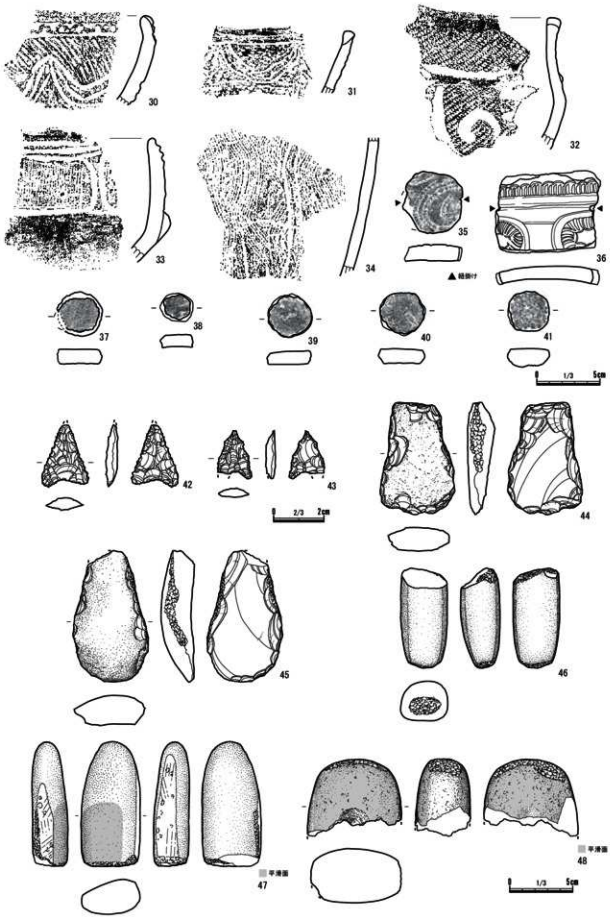


第 27 図　198 号住居跡出土遺物（1）（1／3・1／4）

第28図　198号住居跡出土遺物（2）（1／4・1／3）



第 29 図　198 号住居跡出土遺物（３）（１／３）



第30図　198号住居跡出土遺物（4）（1／3・2／3）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴	備　考
第27図1 図版29-1-1	深鉢	覆土中	口縁部 5％ 未満	厚　0.9	にぶい褐	黒色粒子・白色粒子・チャート・石英・雲母	口縁部直下からＹ字状の隆帯を垂下／内面横ナデ	阿玉台Ⅰb式
第27図2 図版29-1-2	器台	東南部覆土中 (床上17cm)	脚部 20％	高　[5.6] 底　7.6	明赤褐	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・礫	燃糸Ｌ縦位施文／２個一対の穿孔を２か所／刺突文・沈線を施文／内面横ナデ	勝坂式
第27図3 図版29-1-3	深鉢	炉東側覆土中 (床上18cm)	口縁部 5％ 未満	厚　1.3	にぶい褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	波状口縁／口縁部に沿って沈線を施す隆帯を持つ，半截竹管状工具で蛇行文／内面横ナデ	勝坂式 (井戸尻式段階)
第27図4 図版29-1-4	深鉢	南部覆土中 (床上15～18cm)	口縁部 10％	高　[7.5] 口　(28.2)	橙	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英・雲母	燃糸Ｌ縦位施文／隆帯による立体的な渦巻文と枠状文／内面横ナデ	加曽利ＥⅠ式
第27図5 図版29-1-5	深鉢	東部覆土中 (床上24cm)	口縁部 10％	高　[6.2]	にぶい黄橙	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英・礫	中空把手／沈線による円文・渦巻文／内面横ナデ	加曽利ＥⅠ式
第27図6 図版29-1-6	深鉢	炉北東側 覆土中 (床上11～15cm)	口縁部 ～頸部 20％	高　[11.1] 口　42.2	赤褐	白色粒子・角閃石・石英・礫	口縁部無文／括れ部に隆帯による枠状文と渦巻連繋文を配置，渦巻部分から隆帯を垂下／内面横ナデ	加曽利ＥⅡ式
第27図7 図版29-1-7	浅鉢	炉北東側 覆土中 (床上９～14cm)	胴部 20％	高　[5.0]	明赤褐	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英・礫	ＲＬ縦位施文／隆帯により区画／内面横ナデ	加曽利ＥⅡ式
第28図8 図版30-1-8	深鉢	埋甕	口縁部 ～胴部 50％	高　[24.6] 口　34.8	明褐	白色粒子・赤色粒子・チャート・礫	口縁部無文／胴部燃糸Ｌ縦位施文／括れ部に交互刺突文，胴部沈線により渦巻文を連繋，横状工具による刺突列を垂下／内面横ナデ	曽利Ⅱ式
第28図9 図版30-1-9	深鉢	中央部・南部 覆土中 (床上20～30cm)	胴部 20％	高　[13.7]	暗赤褐	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート・石英	燃糸Ｌ縦位施文／沈線により連弧文，胴部中位に横位沈線／内面は剥落が激しい	連弧文土器
第28図10 図版30-1-10	深鉢	中央部覆土中 (床上30cm)	口縁部 5％ 未満	厚　0.6	にぶい橙	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	口縁部に突起／細い隆帯により曲線的なモチーフを描く／内面横ナデ	中期後半
第28図11 図版30-1-11	深鉢	覆土中	口縁部 5％ 未満	厚　1.2	にぶい褐	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	口縁部に斜位のキザミ，以下角押文による２条の横位線繋に角押文による波状文を配す／内面	阿玉台Ⅱ式
第28図12 図版30-1-12	深鉢	中央部覆土中 (床上16cm)	口縁部 5％ 未満	厚　1.0	にぶい橙	白色粒子・赤色粒子・チャート・石英・雲母	波状口縁／ペン先状工具による押引文／内面横ナデ	阿玉台Ⅱ式
第28図13 図版30-1-13	深鉢	覆土中	胴部 5％ 未満	厚　1.0	にぶい褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	押引文が２条沿う隆帯を垂下／内面横ナデ	阿玉台Ⅱ式
第28図14 図版30-1-14	深鉢	東部覆土中 (床上24cm)	胴部 5％ 未満	厚　0.9	にぶい褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・石英	隆帯に沿って先端を抉った半截竹管状工具による押引文を配す，沈線・ペン先状工具によりモチーフを描く／内面横ナデ	阿玉台Ⅱ式
第28図15 図版30-1-15	深鉢	南東壁付近 覆土中 (床上23cm)	胴部 5％ 未満	厚　1.0	にぶい橙	白色粒子・赤色粒子・チャート・石英・雲母	キザミのある隆帯を垂下，横位爪形文／内面横ナデ	阿玉台Ⅲ式
第28図16 図版30-1-16	深鉢	覆土中	口縁部 5％ 未満	厚　0.9	にぶい橙	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	有節沈線を縦位施文／口縁部直下に隆帯を巡らし，以下に半截竹管状工具による横位線と上向きの連弧文／内面横ナデ	中期中葉か
第28図17 図版30-1-17	深鉢	中央部覆土中 (床上24cm)	口縁部 5％ 未満	厚　0.9	にぶい橙	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	ＲＬ縦位施文／隆帯で連弧状に区画しその交点に渦巻文を持つ／内面横ナデ	加曽利ＥⅠ式
第28図18 図版30-1-18	深鉢	南西部覆土中 (床上19cm)	胴部 10％	厚　1.0	にぶい橙	白色粒子・チャート・石英・雲母	胴部をＲＬ縦位，口縁部をＲＬ横位施文／口縁部を隆帯により区画／内面横ナデ	加曽利ＥⅡ式
第28図19 図版30-1-19	深鉢	中央部覆土中 (床上20～21cm)	口縁部 5％ 未満	厚　0.7	暗赤褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	口縁部内肌／内屈部に沈線が巡る，以下斜位の沈線／内面横ナデ	曽利Ⅱ式

第11表　198号住居跡出土遺物一覧（1）

掲図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第29図20 図版31-1-20	深鉢	中央部覆土中 (床上15cm)	胴部 10%	厚 1.1	橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	口縁部ほぼ水平に内側／内屈部に複節ＲＬＲ施文／内面横ナデ	曽利Ⅱ式
第29図21 図版31-1-21	深鉢	中央部覆土中 (床上11cm)	頸部 10%	厚 0.8	黒褐	白色粒子・角閃石・チャート・石英・礫	撚糸Ｌ施文／括れ部に幅広の横位沈線３条、隆帯による波状文／内面横ナデ	曽利Ⅱ式
第29図22 図版31-1-22	深鉢	炉東部・東側覆土中 (床上18cm)	頸部 10%	厚 0.9	にぶい褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・礫	口縁部は斜位沈線／括れ部以下は櫛歯状工具による縦位条線／括れ部に隆帯による波状文、隆帯による直線・波状文を垂下／内面横ナデ	曽利Ⅱ式
第29図23 図版31-1-23	深鉢	炉東側覆土中 (床上14cm)	口縁部～胴部 20%	厚 1.0	にぶい黄橙	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート	撚糸Ｌ縄位及び斜位に施文／口縁部に２条の沈線、以下に連弧文を２段施文／内面横ナデ	連弧文土器
第29図24 図版31-1-24	深鉢	中央部覆土中 (床上27cm)	口縁部～胴部 20%	厚 1.1	暗褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	口縁部縦い波状／撚糸Ｌ縄位及び斜位に施文／口縁部と胴部に２条の横位沈線、間に連弧文／内面は剥落が激しい	連弧文土器
第29図25 図版31-1-25	深鉢	中央部 (床面)	口縁部～胴部 10%	厚 1.0	暗褐	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート・礫	撚糸Ｌ縄位施文／口縁部に２条の沈線、下端の沈線底には刺突、以下連弧文を２段施文／内面横ナデ	連弧文土器
第29図26 図版31-1-26	深鉢	覆土中	口縁～胴部 10%	厚 1.1	にぶい黄橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・礫	無節Ｌｒ縄位施文／口縁部に沈線間を交互刺突、以下に連弧文／内面横ナデ	連弧文土器
第29図27 図版31-1-27	深鉢	南西部覆土中 (床上22cm)	口縁部～胴部 10%	厚 1.0	褐	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	口縁部縦い波状／撚糸Ｌ縄位施文／口縁部に２条の沈線、以下に連弧文／内面横ナデ	連弧文土器
第29図28 図版31-1-28	深鉢	南部覆土中 (床上５cm)	口縁部～胴部 10%	厚 0.9	暗赤褐	赤色粒子・角閃石・チャート・石英	ＲＬ縄位施文／口縁部の沈線間に交互刺突、胴部中位に横位沈線、その間に連弧文２段／内面横ナデ	連弧文土器
第29図29 図版31-1-29	深鉢	中央部 (床面)	口縁部５%未満	厚 1.1	褐	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート・礫	撚糸Ｌ縄位施文／口縁部に２条の沈線、下端の沈線底に刺突、以下に連弧文／内面横ナデ	連弧文土器
第30図30 図版31-1-30	深鉢	覆土中	口縁部～胴部５%未満	厚 1.1	にぶい橙	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英・雲母	無節ＬＲ縄位施文／口縁部の沈線間に交互刺突、以下に連弧文／内面には横位、斜位のナデ	連弧文土器
第30図31 図版31-1-31	深鉢	中央部覆土中 (床上15cm)	口縁部５%未満	厚 1.3	にぶい褐	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート・石英	口縁部に突起を持つ／ＲＬ縄位施文／口縁部と胴部上半を半截竹管状工具で幅狭に区画し連弧文施文、以下に同一工具で沈線を垂下／内面横ナデ	連弧文土器
第30図32 図版31-1-32	深鉢	中央部覆土中 (床上12cm)	口縁部～胴部10%	厚 1.0	明褐	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	口縁部やや肥厚／ＲＬ縄位施文／横位隆帯・磨消よる渦巻状のモチーフ／内面横ナデ	中期後半
第30図33 図版31-1-33	深鉢	中央部覆土中 (床上25cm)	口縁部～胴部10%	厚 1.2	にぶい橙	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	櫛歯状工具による縦位条線／口縁部に２条の横位沈線、以下に枠状の沈線／内面横ナデ	中期後半
第30図34 図版31-1-34	深鉢	中央部覆土中 (床上16～17cm)	胴部 10%	厚 0.9	にぶい橙	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	櫛歯状工具による波状条線／緩やかに蛇行する沈線を垂下／内面横ナデ	中期後半

掲図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第30図35 図版31-1-35	土器片錘	Ｐ１内 (底上14cm)	一部欠損	5.0	4.8	1.3	36.7	先端を抉った半截竹管状工具でモチーフを描く／内面は摩滅が激しい／端部に キザミを付し、土器片錘として再利用	阿玉台Ⅱ式
第30図36 図版32-1-36	土器片錘	炉東の覆土中 (床上9cm)	完形	6.3	8.5	8.5	85.6	隆帯で楕円区画し、キャタピラー文や半截竹管状工具による弧線文／内面横ナデ／割れ口の両端を打ち欠いて土器片錘として利用	勝坂式 (藤内式段階)
第30図37 図版32-1-37	土製円盤	覆土中	一部欠損	3.6	3.6	1.2	18.3	内外面ナデ／割れ面を擦り土器円盤として使用	中期後半

第12表　198号住居跡出土遺物一覧（2）

挿図番号 図版番号	器　種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 30 図 38 図版 32－1 -38	土製 円盤	覆土中	完形	2.2	2.6	1.1	6.4	内外面ナデ／割れ面を擦り土器円盤として使用	中期後半
第 30 図 39 図版 32－1 -39	土製 円盤	覆土中	完形	3.5	3.6	1.1	14.5	内外面ナデ／割れ面を擦り土器円盤として使用	中期後半
第 30 図 40 図版 32－1 -40	土製 円盤	覆土中	完形	3.4	3.5	1.2	18.5	内外面ナデ／割れ面を擦り土器円盤として使用	中期後半
第 30 図 41 図版 32－1 -41	土製 円盤	覆土中	完形	2.7	3.3	1.4	13.2	外面ナデ／内面剥落が激しい／割れ面を擦り土器円盤として利用	中期後半

挿図番号 図版番号	器　種	出土位置	遺存度	石　材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特　　徴	備　考
第 30 図 42 図版 32－1 -42	石鏃	東壁付近 覆土中 (床上 7cm)	基部 残存	黒曜石	(24.5)	1.85	0.51	1.6	浅い凹基無茎で左右非対称／先端部やや欠損／側縁は二等辺三角形状／側辺はやや鍛撓状となっている	
第 30 図 43 図版 32－1 -43	石鏃	南側覆土中 (床上 13cm)	先端部 基部 残存	黒曜石	(19.2)	(13.0)	4	0.8	凹基無茎で左脚部欠損／両側縁ともへ辺に二か所稜を持つ／全体に調整が粗く左右非対称	
第 30 図 44 図版 32－1 -44	打製 石斧	中央部覆土中 (床上 16cm)	完形	砂岩	88.7	59.2	21.3	131.9	完形／撥型／表に自然面、裏中央に主要剥離面を残す／両側縁上部に敲打による潰しが丁寧に行われ、一部は面状になっている	
第 30 図 45 図版 32－1 -45	打製 石斧	中央部覆土中 (床上 18cm)	完形	ホルンフェルス	(103.9)	59.9	26.5	182.6	完形／撥型／表に自然面、裏中央に主要剥離面を残す／両側縁上部に敲打による潰しが丁寧に行われ、丸みを帯びる／刃部は裏面のみの調整	
第 30 図 46 図版 32－1 -46	敲石	中央部覆土中 (床上 6cm)	下部 残存	砂岩	(79.3)	(37.4)	31	151.9	棒状の素材で下端部に敲打痕／上部が欠損した後、割れ口に敲打を行う	
第 30 図 47 図版 32－1 -47	磨石 敲石	南部覆土中 (床上 20cm)	上部 残存	砂岩	99	47.4	28.2	193.7	長細い自然石の側縁に敲打ののち研磨を施し、面を形成する／表面中央部は平滑／下端部は折損？後、棱線部に敲打が行われる／全体に被熱により赤化している	
第 30 図 48 図版 32－1 -48	磨石 敲石 凹石	炉南側覆土中 (床上 11cm)	上部 残存	安山岩	(60.7)	(75.4)	(45.0)	260.1	石鹸状の形状で下部を大きく欠損／表裏面中央部は平滑面で中央部に浅い凹み、上端部に敲打痕がみられる	

第 13 表　198 号住居跡出土遺物一覧（3）

縁部から胴部、32・33 は中期後半の深鉢形土器の口縁部から胴部、34 は中期後半の深鉢形土器胴部、である。

[土 製 品]（第 30 図 35 ～ 41、図版 31 － 1 － 35、図版 32 － 1 － 36 ～ 41、第 12・13 表）

35 は阿玉台Ⅱ式の土器片錘、36 は勝坂式（藤内式段階）の土器片錘、37 ～ 41 は中期後半の土製円盤である。

[石　　器]（第 30 図 42 ～ 48、図版 32 － 1 － 42 ～ 48、第 13 表）

42・43 は黒曜石の石鏃、44 は砂岩の打製石斧、45 はホルンフェルスの打製石斧、46 は砂岩の敲石、47 は砂岩の磨石・敲石、48 は安山岩の磨石・敲石・凹石である。

199 号住居跡

遺　構（第 31 図）

［位　置］（B－4・5）グリッド。

［検出状況］北西側から北側を 293 Yに、南西側を 294 Yに切られ、わずかに南西から南東側が遺存しているに過ぎない。

［構　造］**平面形：**略円形を呈すると思われる。**規模：**長軸で 4.95m／深さ 12㎝。**主軸方位：**N－50°－E。**壁溝：**検出されなかった。　**床面：**平坦である。**炉：**検出されなかった。**柱穴：**7 本検出された。P 2・P 3 は一部 293 Yにより壊されている。P 2 は入り口部のピットの可能性が高い。P 5・P 6 は 293 Yの床面下から検出された。P 1 は 21 × 20㎝、深さ 43㎝、P 2 は 40 × 31㎝、深さ 92㎝、P 3 は 44 × 38㎝、深さ 91㎝、P 4 は 27 × 26㎝、深さ 18㎝、P 5 は 42 × 41㎝、深さ 42㎝、P 6 は 26 × 25㎝、深さ 14㎝、P 7 は 39 × 28㎝、深さ 16㎝である。

［覆　土］3 層に分層される。暗褐色土を基本とした自然堆積である。

［遺　物］深鉢形土器が出土している。

［時　期］縄文時代中期中葉～後半。

遺　物（第 32 図、図版 32 －2、第 14 表）

［土　器］（第 32 図 1～3、図版 32 －2－1～3、第 14 表）

1 は勝坂式（井戸尻式段階）の深鉢形土器胴部、2 は曽利式と推定される深鉢形土器胴部、3 は中期後半の深鉢形土器口縁部である。

200 号住居跡

遺　構（第 33・34 図）

［位　置］（B－5、C－4・5）グリッド。

［検出状況］遺存状態は良好である。615 Yと 896 Dに切られる。

［構　造］**平面形：**円形を呈する。**規模：**4.95m／4.65m／深さ 28㎝。**主軸方位：**N－27°－W。**壁溝：**北西から南側にかけて部分的に検出された。上幅 17～21㎝／下幅 6～15㎝／深さ 5～18㎝。**床面：**壁際から住居中央に向かい非常に緩やかに傾斜している。**炉：**住居跡中央やや北側に位置している。埋甕炉で浅鉢形土器 2 個体と深鉢形土器 2 個体の口縁部で円形に配置し炉を築いている。土器下端部分が炉の燃焼面であったと思われる。規模は 60 × 58㎝、深さ 21㎝である。**柱穴：**6 本検出された。壁際に沿ってほぼ等間隔に配置されているが、P 2 が他に比べて小さいが 6 本主柱の住居跡である。P 1 は 47 × 43㎝、深さ 70㎝、P 2 は 32 × 30㎝、深さ 77㎝、P 3 は 40 × 36㎝、深さ 77㎝、P 4 は 49 × 41㎝、深さ 53㎝、P 5 は 40 × 36㎝、深さ 86㎝、P 6 は 54 × 51㎝、深さ 92㎝である。

［覆　土］8 層に分層される。8 層が掘り方の埋土である。覆土は褐色土から暗褐色土を基本とした自然堆積である。

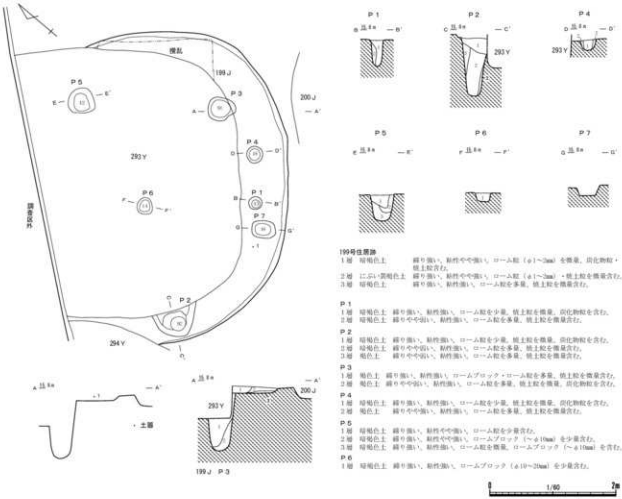
［遺　物］深鉢形土器、浅鉢形土器、有孔鍔付土器、打製石斧、敲石・凹石が出土している。

［時　期］縄文時代中期中葉（勝坂式）。

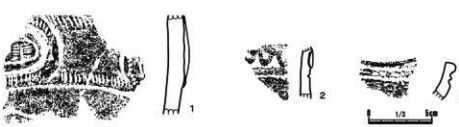
遺　物（第 35～37 図、図版 33 －1、図版 34 －1、第 15・16 表）

［土　器］（第 35・36 図 1～19、図版 33 －1－1～4、図版 34 －1－5～17、第 15・16 表）

1 は北側の炉体土器で勝坂式（井戸尻式段階）の深鉢形土器口縁部から胴部、2 は西側の炉体土器で



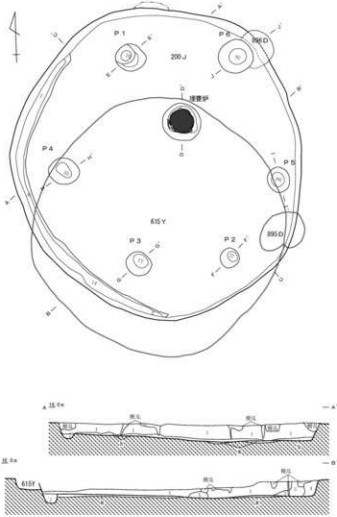
第 31 図　199 号住居跡（１／60）



第 32 図　199 号住居跡出土遺物（１／3）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴	備　考
第 32 図 1 図版 32・2・1	深鉢	覆土中	胴部 10%	厚　1.3	にぶい橙	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	キザミのある隆帯で枠状に区画し、内部に爪形文と沈線／内面横ナデ	勝坂式 （井戸尻式段階）
第 32 図 2 図版 32・2・2	深鉢	覆土中	胴部 5％ 未満	厚　0.7	灰黄褐	黒色粒子・白色粒子・チャート・石英・雲母・雲	隆帯間に連弧状の隆帯、横位隆帯に沿って押引文	曽利Ⅱ式
第 32 図 3 図版 32・2・3	深鉢	覆土中	口縁部 5％ 未満	厚　0.9	黒褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	波状口縁／口縁部にそって２条に沈線	中期後半

第 14 表　199 号住居跡出土遺物一覧



200号住居跡

1層　暗色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を斑状に多量。焼土粒・ロームブロック（～φ10mm）を微量含む。
2層　暗色土　　締り強い、粘性強い。1層と同じだが、やや色調暗い。
3層　暗色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を中量含む。
4層　暗色土　　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を微量含む。
5層　暗黄暗色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量、ロームブロックを中量含む。
6層　暗黄暗色土　締りやや強い、粘性強い、ロームブロック（～φ10mm）を中量含む。
7層　暗褐色土　　締り強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック・暗褐色土粒を含む。人為的に埋めたような状態。
8層　暗黄暗色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロックを含む。本住居の掘方部分にあたる。床面はほとんど地床といってもよい状態。

P1
1層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量、ロームブロック（φ1～5mm）を微量含む。
2層　黄褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を～ロームブロック（φ1～10mm）を微量含む。

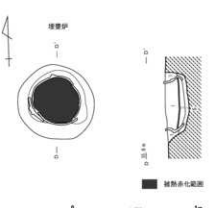
P2
1層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量、ロームブロック（φ1～2mm）を微量含む。
2層　黄褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒・暗褐色土を微量含む。

P3
1層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量、ロームブロック（φ1～20mm）を微量含む。
2層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を微量含む。

P4
1層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ1～5mm）を少量含む。
2層　黄褐色土　締り強い、粘性強い、ロームブロック主体。
3層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を微量含む。

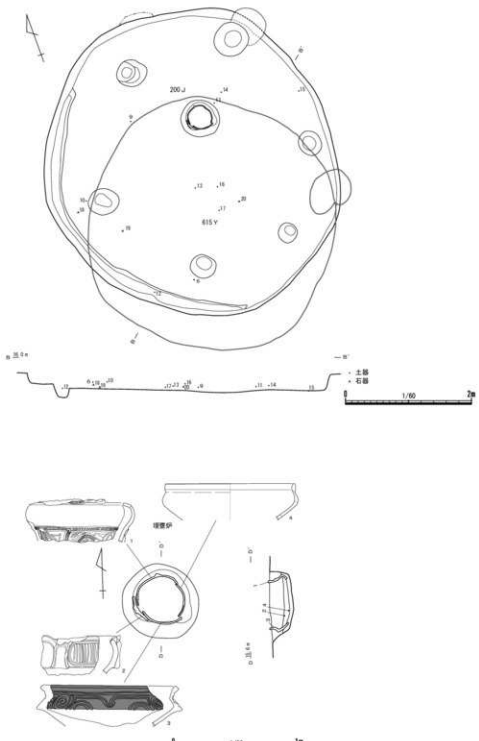
P5
1層　暗褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
2層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を中量含む。

P6
1層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック・炭化物を少量含む。
2層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒・ローム小ブロックを少量含む。

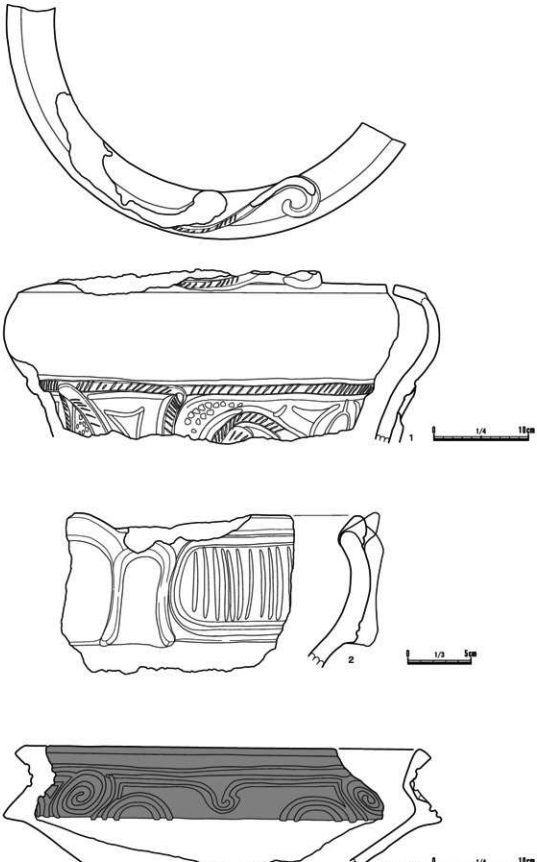


埋甕炉
1層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒・炭化物粒を少量。ロームブロック（φ2～5mm）・焼土粒・焼土ブロック（～φ2cm）微量含む。
2層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、1層よりも焼土粒・焼土ブロック・ロームブロックを多い。
3層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、ロームブロック（φ1～5mm）を少量、焼土ブロック（～φ2cm）を微量含む。
4層　暗黒褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、ロームブロック（φ1～2cm）を少量、焼ブロック（～φ2cm）を微量含む。
5層　暗茶褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、焼土粒・焼土ブロックを少量、ロームブロックを中量含む。

第33図　200号住居跡（1／60）・埋甕炉（1／30）

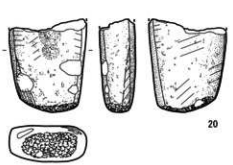


第 34 図　200 号住居跡遺物出土状態（１／60）・埋甕炉（１／30）



第35図　200号住居跡出土遺物（1）（1／4・1／3）

第 36 図　200 号住居跡出土遺物（２）（１／４・１／３）



第37図　200号住居跡出土遺物（3）（1／3）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第35図1 図版33-1-1	深鉢	北側 炉体土器	口縁～ 胴部 30%	高 [16.7] 口 (37.0)	にぶい 黄橙	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート・石英	口縁部内側／内屈部分にキザミのある隆帯でS字文／胴部キザミのある隆帯で区画し、内部に隆帯によるS字状文や刺突文・三叉文を充填／内面横ナデ	勝坂式 (井戸尻式段階)
第35図2 図版33-1-2	深鉢	西側 炉体土器	口縁～ 胴部 10%	高 [12.3] 口 [18.0]	橙	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	口縁部突起を持つ／隆帯により横円状に区画し、縦位沈線を充填／内面横ナデ	勝坂式 (井戸尻式段階)
第35図3 図版33-1-3	浅鉢	南側 炉体土器	口縁～ 胴部 30%	高 [13.1] 口 (41.9)	にぶい 黄橙	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート・石英	口縁部無文／頸部に半肉彫の沈線巻文を配置／内面横ナデ／外面口縁部から頸部赤彩、内面赤彩痕	加曽利ＥⅠ式
第36図4 図版33-1-4	浅鉢	東側 炉体土	口縁～ 胴部 10%	高 [11.6] 口 (41.1)	褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英・雲	外面には横方向の磨き／内面横ナデ	中期後半
第36図5 図版34-1-5	深鉢	覆土中	胴部 5% 未満	厚 1.1	黒褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	隆帯に沿って2条の押引文／内面横ナデ	阿玉台Ⅱ式
第36図6 図版34-1-6	深鉢	覆土中	胴部 5% 未満	厚 0.7	褐	黒色粒子・赤色粒子・チャート・石英・雲母	曲線的な隆帯に沿って3条の押引文／内面横ナデ	阿玉台Ⅱ式
第36図7 図版34-1-7	深鉢	覆土中	口縁部 5% 未満	厚 0.7	灰褐	黒色粒子・角閃石・チャート	縦位押引文／内面横ナデ	勝坂式 (狢沢式段階)
第36図8 図版34-1-8	深鉢	覆土中	口縁部 5% 未満	厚 0.6	黒褐	黒色粒子・角閃石・チャート	沈線で三角形状に囲いその内側にキャタピラ文、沈線にゆる波状文、T字状文／内面横ナデ	勝坂式 (藤内式段階)
第36図9 図版34-1-9	深鉢	北西部覆土中 (床上7cm)	胴部 5% 未満	厚 1.0	黒褐	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート	曲線的な隆帯に沿ってキャタピラー文／内面縦ナデ	勝坂式 (藤内式段階)
第36図10 図版34-1-10	深鉢	西部覆土中 (床上15cm)	胴部 5% 未満	厚 1.2	赤褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	連続爪形文・キザミを持つ隆帯で楕円状に区画、内部に縦位沈線／内面横ナデ	勝坂式 (井戸尻式段階)
第36図11 図版34-1-11	深鉢	埋甕炉東側 覆土中 (床上8cm)	口縁部 5% 未満	厚 0.6	明赤褐	赤色粒子・角閃石・チャート	波状口縁／波頂部端部に円形刺突、波頂部を起点に隆帯で区画し、内側に三叉文を充填／内面横ナデ	勝坂式 (井戸尻式段階)
第36図12 図版34-1-12	深鉢	西南壁付近 覆土中 (床面)	胴部 5% 未満	厚 1.0	にぶい 黄橙	白色粒子・赤色粒子・雲	胴部下半無文／燃糸L縦位施文／内面は剥落が激しく、煤付着	勝坂式 (井戸尻式段階)
第36図13 図版34-1-13	深鉢	中央部覆土中 (床上8cm)	胴部 5% 未満	厚 1.0	にぶい 黄橙	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート・石英	屈曲部に横位隆帯、それより上に浅く太い縦位沈線、隆帯以下に燃糸L／内面横ナデ	勝坂式 (井戸尻式段階)
第36図14 図版34-1-14	有孔鍔付 土器	埋甕炉東側 覆土中 (床上9cm)	胴部 5% 未満	厚 0.9	黒褐	黒色粒子・赤色粒子・チャート	横位隆帯（鍔）を巡らし、穿孔／内外面は横方向の磨き	中期中葉

第15表　200号住居跡出土遺物一覧（1）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴	備　考
第 36 図 15 図版 34- 1 -15	深鉢	東壁付近 床面	口縁部 10%	厚　1.2	灰	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	波状口縁／波頂部に隆帯による渦巻文／内外面二次被熱により発赤	加曽利ＥⅠ式
第 36 図 16 図版 34- 1 -16	深鉢	中央部覆土中 (床上 10cm)	口縁～ 胴部 10%	厚　1.1	にぶい褐	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート・石英	口縁部長く内屈／隆帯により渦巻文、隆帯上一部キザミ／内面横ナデ	曽利Ⅱ式
第 36 図 17 図版 34- 1 -17	深鉢	中央部覆土中 (床上 7cm)	胴部 5％ 未満	厚　1.0	褐	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	横位隆帯より上に隆帯による同心円文／内面横ナデ	中期後半

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特　徴	備　考
第 36 図 18 図版 34- 1 -18	打製 石斧	西壁付近 覆土中 (床上 6cm)	下部 残存	片岩	(113.3)	50.1	18.9	103	撥型、上部欠損／側縁部は丁寧に調整が行われ、顕著な刃を呈する	
第 36 図 19 図版 34- 1 -19	打製 石斧	南西部 覆土中 (床上 2cm)	完形	砂岩	103.6	72	23.8	186.1	完形／撥型／表に大きく自然面を残す／刃部は薄く、上部は肉厚で、側縁部は敲打で潰しが行われている	
第 37 図 20 図版 34- 1 -20	敲石 凹石	中央部南部 覆土中 (床上 9cm)	下部 残存	花崗岩	(74.0)	(61.5)	(28.9)	207.8	上部欠損／下端部に敲打痕、表面中央に上下に浅い凹みが二つ並ぶ／全体に研磨されており、もとは磨製石斧か？	

第 16 表　200 号住居跡出土遺物一覧（２）

勝坂式（井戸尻式段階）の深鉢形土器口縁部から胴部、３は南側の炉体土器で加曽利Ｅ式の浅鉢形土器口縁部、４は南側の炉体土器で中期後半の浅鉢形土器口縁部から胴部である。５・６は阿玉台Ⅱ式の深鉢形土器胴部である。７は勝坂式（狢沢式段階）の深鉢形土器口縁部、８・９は勝坂式（藤内式段階）の深鉢形土器で、８は口縁部、９胴部、10 ～ 13 は勝坂式（井戸尻式段階）の深鉢形土器で胴部、11 は口縁部である。14 は中期中葉の有孔鍔付土器胴部、15 は加曽利Ｅ I 式の深鉢形土器口縁部、16 は曽利Ⅱ式と推定される深鉢形土器口縁部から胴部、17 は中期後半の深鉢形土器胴部である。

[石　器]（第 36・37 図 18 ～ 20、図版 34 － 1 － 18 ～ 20、第 16 表）

18 は片岩の打製石斧、19 は砂岩の打製石斧、20 は花崗岩の敲石・凹石である。

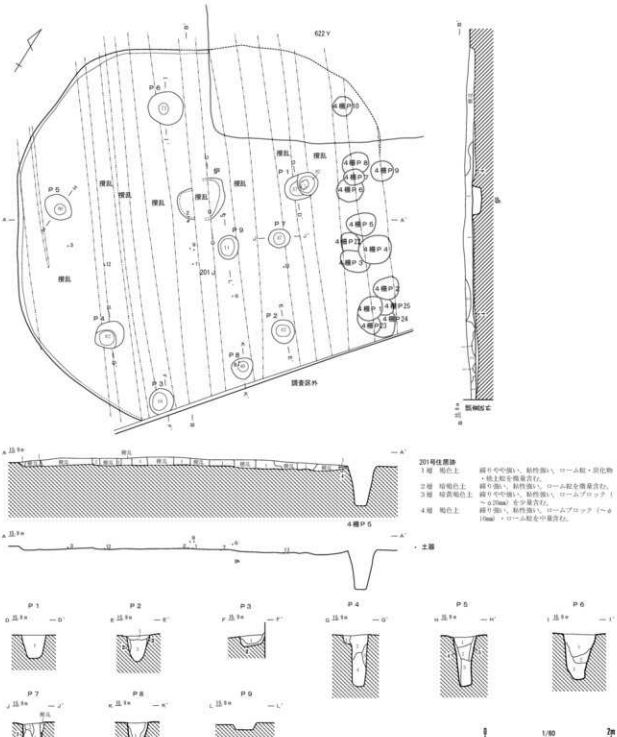
201 号住居跡

遺　構（第 38・39 図）

[位　置]（Ｄ－６・７）グリッド。

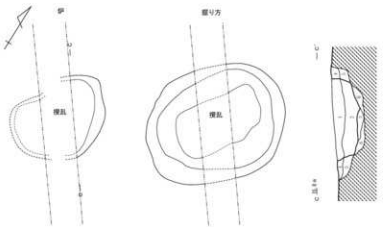
[検出状況] 大部分がトレンチャーにより攪乱され遺存状態は悪い。南東側は調査区外へ延びる。北東側で 622 Ｙ、北東～東側で４柵に切られる。

[構　造] **平面形：**隅丸方形を呈する。**規模：**5.9m 以上／ 3.09m 以上／深さ 16cm。**主軸方位：**Ｎ－６°－Ｅ。**壁溝：**検出されなかった。**床面：**やや凹凸が認められるが概ね平坦である。**炉：**住居跡中央やや北西側に位置する。平面形は楕円形を呈し、断面形は丸みのある底面から内湾気味に立ち上がる。規模は 76 × 66cm以上、深さ 22cmである。**柱穴：** ９本検出された。Ｐ１は 56 × 40cm、深さ 82cm、Ｐ２は 38 × 36cm、深さ 42cm、Ｐ３は 42 × 39cm、深さ 16cm、Ｐ４は 49 × 43cm、深さ 82cm、Ｐ５は 48 × 37cm、深さ 80cm、Ｐ６は 56 × 53cm、深さ 72cm、Ｐ７は 35 × 30cm、深さ 47cm、Ｐ８は

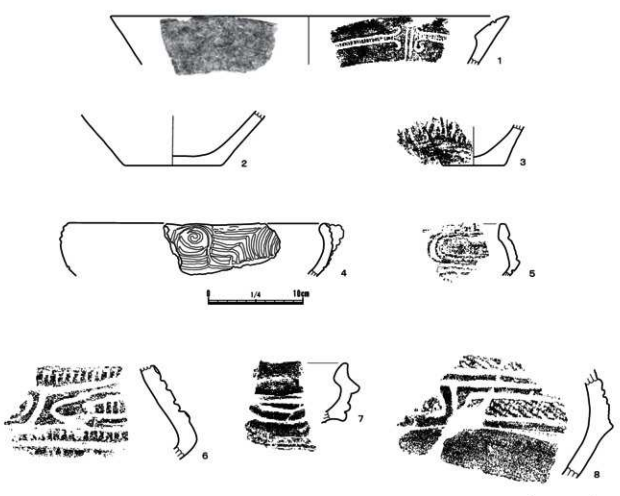


P1
1層　褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を微量に少量、炭化物を微量含む。
P2
1層　褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を微量に少量含む。
2層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒ブロック（～φ20mm）を微量含む。
3層　褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を微量に少量、下層にローム粒ブロックを微量含む。1層より粘性が強い。
P3
1層　褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を少量、焼土粒を微量含む。
2層　褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒ブロック（～φ10mm）・ローム粒・炭化物を微量含む。
P4
1層　褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を微量に少量、炭化物・焼土ブロックを微量含む。
2層　褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒・炭化物を微量に少量含む。
3層　褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を微量含む。
4層　褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を多量、ローム粒ブロック（～φ20mm）を少量含む。
P5
1層　褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を微量に少量、炭化物を微量含む。
2層　褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒・炭化物を微量に少量含む。
3層　褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を多量、ローム粒ブロック（～φ10mm）を微量含む。
P6
1層　褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を微量に少量、炭化物を微量含む。
2層　褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
3層　褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量、ローム粒ブロック（～φ10mm）を微量含む。
P7
1層　褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を微量に少量含む。
2層　褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を微量含む。
3層　暗褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を微量含む。
4層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。
P8
1層　褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を微量に少量含む。
2層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。

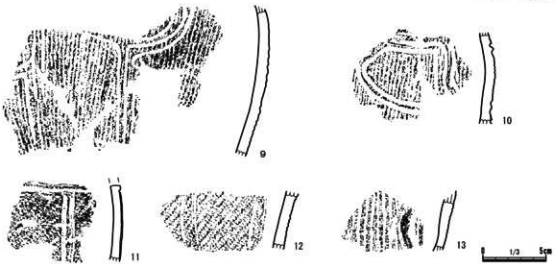
第38図　201号住居跡（1／60）



第 39 図　201 号住居跡炉（1／30）



第 40 図　201 号住居跡出土遺物（1）（1／4・1／3）



第41図　201号住居跡出土遺物（2）（1／3）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第40図1 図版35-1-1	浅鉢	中央部覆土中 （床上3cm）	口縁部 10%	高　1.2 口（42.0）	にぶい 赤褐	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	外面無文、横方向の磨き／内面には縦位沈線と末端が弧巻く横位沈線とキザミ	勝坂式 （藤内式段階）
第40図2 図版35-1-2	浅鉢	炉内部 （床上3cm）	胴部～ 底部 10%	高［5.3］ 底（10.3）	にぶい 黄橙	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	底部／内外面には横方向のナデ	勝坂式 （井戸尻式段階）
第40図3 図版35-1-3	深鉢	西部覆土中 （床上4cm）	胴部～ 底部 5% 未満	高［4.1］ 底（5.4）	にぶい 黄橙	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	底部／縦位沈線／内面横ナデ	勝坂式 （井戸尻式段階）
第40図4 図版35-1-4	深鉢	覆土中	口縁部 10%	高［5.6］ 口（27.2）	暗褐	黒色粒子・赤色粒子・チャート・礫	口縁部に貼り付け文と沈線に同心円文・クランク文／内面横ナデ	中期後半 （大木式系か）
第40図5 図版35-1-5	深鉢	覆土中	口縁部 5% 未満	厚　0.7	灰黄褐	黒色粒子・白色粒子・チャート・石英・雲母	楕円区画する隆帯に沿って押引文／内面横ナデ	阿玉台Ⅰb式
第40図6 図版35-1-6	深鉢	中央部覆土中 （床上9cm）	胴部 10%	厚　1.3	にぶい 赤褐	赤色粒子・角閃石・チャート・石英・礫	口縁部内沿／キザミのある横位隆帯で区画し、内部に沈線でモチーフを描きキザミを充填／内面横方向のナデ	勝坂式 （井戸尻式段階）
第40図7 図版35-1-7	深鉢	炉東側覆土中 （床面）	口縁部 5% 未満	厚　0.9	にぶい橙	白色粒子・角閃石・チャート・石英	隆帯による曲線文／内面横ナデ	加曽利EⅠ式
第40図8 図版35-1-8	深鉢	P8内部	胴部 10%	厚　1.3	暗赤褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	RL横位施文／隆帯によるクランク文、頭部無文／内面横ナデ	加曽利EⅠ式
第41図9 図版35-1-9	深鉢	中央部覆土中 （床上13cm）	胴部 10%	厚　0.9	にぶい褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	撚糸L縦位施文／沈線による区画／内面縦ナデ	加曽利EⅠ式
第41図10 図版35-1-10	深鉢	覆土中	胴部 5% 未満	厚　0.8	黒褐	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート・石英	撚糸L縦位施文／沈線で枠状に区画／内面横方向のナデ	加曽利EⅠ式
第41図11 図版35-1-11	深鉢	覆土中	胴部 5% 未満	厚　0.6	にぶい 黄橙	白色粒子・赤色粒子・チャート	RL縦位施文／横位沈線から直線・蛇行沈線を垂下／内面横ナデ	加曽利EⅡ式
第41図12 図版35-1-12	深鉢	東南部覆土中 （床上2cm）	胴部 5% 未満	厚　0.8	褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	RL縦位施文／縦位の磨消／内面横ナデ	加曽利EⅡ式
第41図13 図版35-1-13	深鉢	東部床面	胴部 5% 未満	厚　0.8	にぶい 黄橙	白色粒子・赤色粒子・チャート	撚糸L縦位施文／蛇行隆帯垂下	加曽利EⅡ式

第17表　201号住居跡出土遺物一覧

35 × 33㎝、深さ 49㎝、Ｐ９は 38 × 33㎝、深さ 11㎝である。

［覆　　土］４層に分層される。褐色土から暗褐色土を基本とした自然堆積である。

［遺　　物］深鉢形土器、浅鉢形土器が出土している。

［時　　期］縄文時代中期中葉～後半。

遺　　物（第 40・41 図、図版 35 －１、第 17 表）

［土　　器］（第 40・41 図１～ 13、図版 35 －１－１～ 13、第 17 表）

１は勝坂式（藤内式段階）の浅鉢形土器口縁部、２・３は勝坂式（井戸尻式段階）の浅鉢形土器胴部から底部、４は中期後半の深鉢形土器口縁部、５は阿玉台Ⅰｂ式の深鉢形土器口縁部、６は勝坂式（井戸尻式段階）の深鉢形土器胴部、７は加曽利ＥⅠ式の深鉢形土器口縁部、８は中期後半の深鉢形土器胴部、９・10 は加曽利ＥⅠ式の深鉢形土器胴部、11 ～ 13 は加曽利ＥⅡ式の深鉢形土器胴部である。

202 号住居跡

遺　　構（第 42 図）

［位　　置］（Ｂ－６）グリッド。

［検出状況］トレンチャーにより攪乱され、遺存状態は悪い。北側で 893 Ｄを切り、619 Ｙ・892 Ｄに切られる。南側で 625 Ｙに切られる。

［構　　造］**平面形：**略円形を呈するものと思われる。**規模：**4.32m／2.41m 以上／深さ 10㎝。**主軸方位：**Ｎ－ 57°－Ｅ。**壁溝：**検出されなかった。**床面：**貼床がなされ、概ね平坦である。**炉：**検出されなかった。**柱穴：**１本検出された。Ｐ１は 34 × 32㎝、深さ 10㎝である。

［覆　　土］２層に分層される。褐色土を基本とする自然堆積である。

［遺　　物］深鉢形土器が出土している。

［時　　期］縄文時代中期後半。

遺　　物（第 43 図、図版 36 －１、第 18 表）

［土　　器］（第 43 図１～３、図版 36 －１－１～３、第 18 表）

１は勝坂式（藤内式段階）の深鉢形土器胴部、２は加曽利Ⅰ式と推定される深鉢形土器胴部、３は加曽利ＥⅡ式の深鉢形土器胴部である。

203 号住居跡

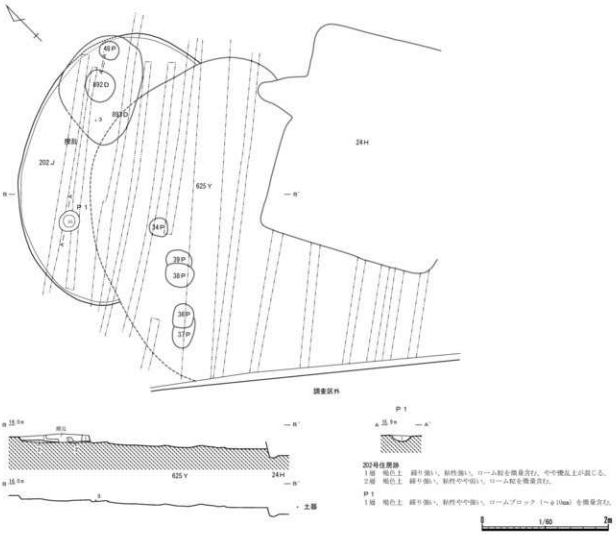
遺　　構（第 44 ～ 46 図）

［位　　置］（Ｂ－５）グリッド。

［検出状況］攪乱され、遺存状態はやや悪い。東側で 618 Ｙに西側で 204 Ｊに切られる。891 Ｄとの切り合いは不明。

［構　　造］**平面形：**楕円形に近いと思われる。**規模：**5.04m 以上／ 4.35m 以上／深さ 17㎝。**主軸方位：**Ｎ－１°－Ｅ。**壁溝：**検出されなかった。**床面：**やや起伏が認められる。**炉：**埋甕炉である。住居跡中央やや南東に位置する。平面形は不整形をなし、断面形は浅い皿状を呈する。規模は 110 × 73㎝、深さ 16㎝である。炉の西側に張り出し部が付き、そこに胴部中位以下を欠いた深鉢形土器が正位で据えられている。土器の設置下端は燃焼部とほぼ等しい。**柱穴：**検出されなかった。

［覆　　土］２層に分層される。褐色土を基本とする自然堆積である。

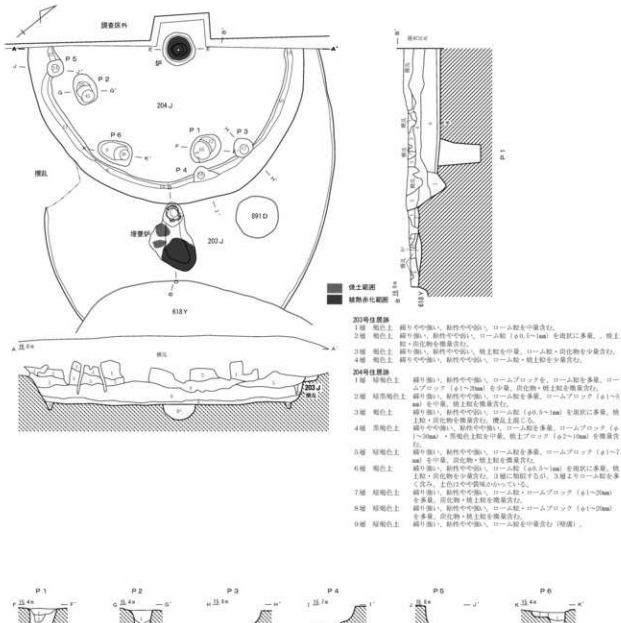


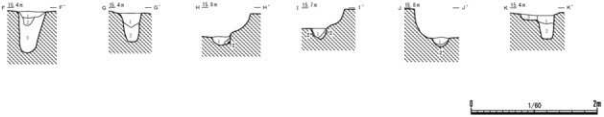
第 42 図　202 号住居跡（１／60）

第 43 図　202 号住居跡出土遺物（１／3）

神図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 （cm）	色　調	胎　土	特　徴	備　考
第 43 図 1 図版 36- 1 - 1	深鉢	覆土中	胴部 5 % 未満	厚　0.8	にぶい 黄橙	白色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	キャタピラー文と平截竹管状工具 による連続刺突／内面横ナデ	勝坂式 （藤内式段階）
第 43 図 2 図版 36- 1 - 2	深鉢	覆土中	胴部 5 % 未満	厚　0.8	明黄褐	白色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	燃糸Ｌ縦位施文／沈線の沿う曲線 状の隆帯／内面横ナデ	加曽利ＥⅠ式
第 43 図 3 図版 36- 1 - 3	深鉢	北部 （床面）	胴部 5 % 未満	厚　0.9	橙	白色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	燃糸？縦位施文か／縦位隆帯垂下 ／内面横ナデ	加曽利ＥⅡ式

第 18 表　202 号住居跡出土遺物一覧


調査区外
P 5
P 2
P 6
P 1
P 3
P 4
攪乱
204 J
891 D
埋甕炉
203 J
618 Y
焼土範囲
被熱赤化範囲
203号住層跡
1層　暗褐色土　締り弱い、粘性やや強い、ローム粒を中量含む。
2層　暗色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒（φ0.5～1mm）を均質に多量、（焼土粒・炭化物を微量含む。
3層　暗色土　締り強い、粘性やや強い、焼土粒を中量、ローム粒・炭化物を少量含む。
4層　暗色土　締り弱い、粘性やや強い、ローム粒・焼土粒を少量含む。
204号住層跡
1層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ロームブロックを、ローム粒を多量、ロームブロック（φ1～20mm）を少量、炭化物・焼土粒を微量含む。
2層　暗黒褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を多量、ロームブロック（φ1～5mm）を中量、焼土粒を微量含む。
3層　暗色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒（φ0.5～1mm）を均質に多量、焼土粒・炭化物を微量含む。攪乱上面にる。
4層　黒褐色土　締り弱い、粘性やや強い、ローム粒を多量、ロームブロック（φ1～30mm）・黒褐色土粒を中量、焼土ブロック（φ2～10mm）を微量含む。
5層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を多量、ロームブロック（φ1～7mm）を中量、炭化物・焼土粒を微量含む。
6層　暗色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒（φ0.5～1mm）を均質に多量、焼土粒・炭化物を少量含む。3層に類似するが、3層よりローム粒を多く含み、上位はやや褐味がかっている。
7層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ1～20mm）を多量、炭化物・焼土粒を微量含む。
8層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ1～20mm）を多量、炭化物・焼土粒を微量含む。
9層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を中量含む（埋戻）。



204号住層跡P 1
1層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ1～5mm）を中量、炭化物を微量含む。
2層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を中量含む。
3層　暗黒褐色土　締り弱い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。

P 2
1層　暗褐色土　締り弱い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ1～5mm）を多量、炭化物を微量含む。
2層　暗褐色土　締り弱い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ1～5mm）を少量含む。

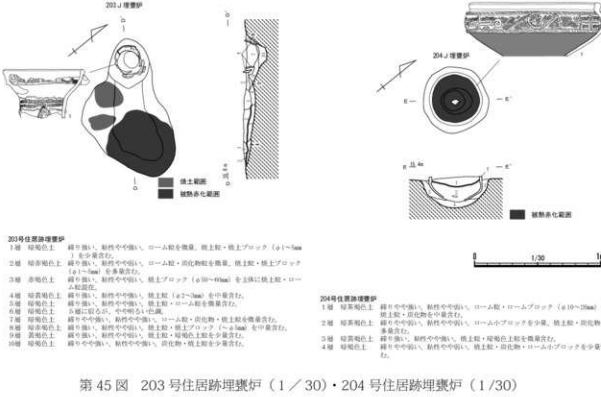
P 3
1層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、ロームブロック（φ1～2mm）を少量含む。
2層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を少量、ロームブロック（φ1～2mm）を微量含む。

P 4
1層　暗褐色　締り強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ1～2mm）を多量、炭化物を微量含む。
2層　暗黒褐色土　締り弱い、粘性やや強い、ロームブロック土焼。

P 5
1層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ1～5mm）を中量、炭化物を微量含む。
2層　暗黒褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。

P 6
1層　暗褐色土　締り弱い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ1～5mm）を多量、炭化物を微量含む。
2層　暗褐色土　締り弱い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ1～5mm）を少量含む。
3層　暗黒褐色土　締り弱い、粘性やや強い、ローム粒を中量含む。

第 44 図　203 号住居跡・204 号住居跡（1／60）



第 45 図　203 号住居跡埋甕炉（１／30）・204 号住居跡埋甕炉（1 /30）

［遺　　物］深鉢形土器、土器片錘が出土している。

［時　　期］縄文時代中期中葉（勝坂式）。

遺　　物（第 47・48 図、図版 36 －２、第 19 表）

［土　　器］（第 47・48 図１～ 10、図版 36 －２－１～ 10、第 19 表）

１は炉体土器で勝坂式（藤内式段階）の深鉢形土器口縁部・胴部である。２・５は勝坂式（井戸尻式段階）の深鉢形土器口縁部、３は勝坂式（新道式段階）の深鉢形土器胴部、４は勝坂式（藤内式段階）の深鉢形土器胴部である。６～９は中期後半の深鉢形土器で６・７は口縁部から胴部、８・９は胴部である。10 は中期後半の深鉢形土器の胴部である。

［土 製 品］（第 48 図 11、図版 36 －２－ 11、第 19 表）

11 は中期中葉の土器片錘である。

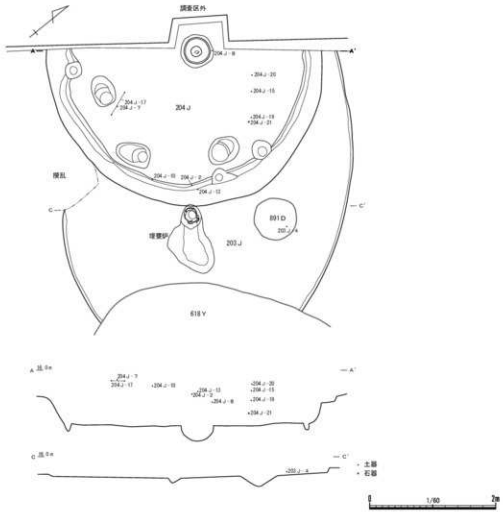
204 号住居跡

遺　　構（第 45・46 図）

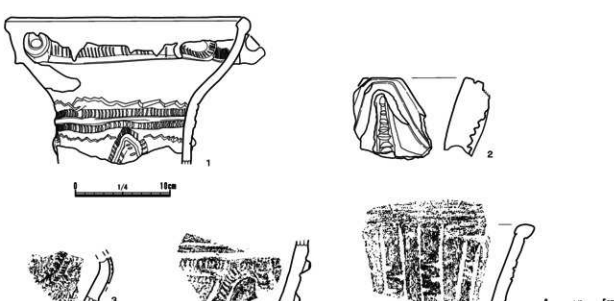
［位　　置］（Ｂ－５）グリッド。

［検出状況］遺存状態は良好で、西側は調査区外へ延びる。東側で 203 Ｊを切る。

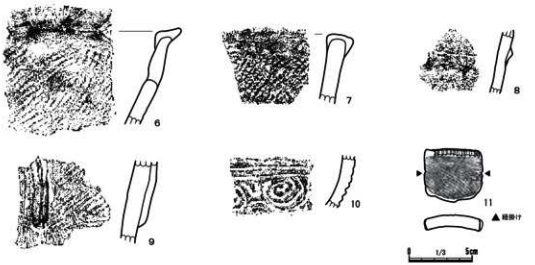
［構　　造］**平面形：**円形を呈する。**規模：**4.31m 以上／ 2.92m 以上／深さ 50㎝。**主軸方位：**Ｎ－ 38°－Ｅ。**壁溝：**調査した範囲では途切れず認められた。上幅 10 ～ 17㎝／下幅５～ 11㎝／深さ６～ 12㎝。**床面：**概ね平坦である。**炉：**住居跡の中央部に位置する。埋甕炉で浅鉢形土器の底部を打ち欠き正位で



第 46 図　203 号住居跡・204 号住居跡遺物出土状態（１／60）



第 47 図　203 号住居跡出土遺物（1）（１／４・１／３）



第 48 図　203 号住居跡出土遺物（2）（1／3）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 47 図 1 図版 36- 2- 1	深鉢	炉体土器	口縁～ 胴部 40%	高　[15.5] 口　(24.4)	にぶい褐	白色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート	口縁部に 4 単位の突起．隆帯に沿ってキャタピラー文、区画内に三角押文／頸部は無文／胴部隆帯に沿ってキャタピラー文、沈線による横位波状文／内面横ナデ	勝坂式 (藤内式段階)
第 47 図 2 図版 36- 2- 2	深鉢	覆土中	口縁部 5% 未満	厚　2.6	黒褐	黒色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 礫	波状口縁／波頂部からキザミのある隆帯を垂下／内面横ナデ	勝坂式 (井戸尻式段階)
第 47 図 3 図版 36- 2- 3	深鉢	覆土中	胴部 5% 未満	厚　0.9	にぶい褐	黒色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート	キザミのある隆帯に三角押文が 2 条沿わせる／内面横ナデ	勝坂式 (新道式段階)
第 47 図 4 図版 36- 2- 4	深鉢	東部覆土中 (床上 5cm)	胴部 10%	厚　1.0	にぶい褐	黒色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	キザミのある隆帯で区画し、内側に沈線、キャタピラー文、角押文を充填／内面には斜位のナデ	勝坂式 (藤内式段階)
第 47 図 5 図版 36- 2- 5	深鉢	覆土中	口縁～ 胴部 10%	厚　1.0	黒褐	黒色粒子・チャート・ 石英	縦位沈線と交互刺突／内面横ナデ	勝坂式 (井戸尻式段階)
第 48 図 6 図版 36- 2- 6	深鉢	覆土中	口縁～ 胴部 10%	厚　1.1	灰褐	黒色粒子・赤色粒子・ チャート	ＬＲ横位施文／内面横ナデ	中期中葉
第 48 図 7 図版 36- 2- 7	深鉢	覆土中	口縁～ 胴部 5% 未満	厚　1.2	にぶい 黄橙	白色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート	口縁部肥厚、口唇部平坦／複節ＲＬＲ施文／内面横ナデ	中期中葉
第 48 図 8 図版 36- 2- 8	深鉢	覆土中	胴部 5% 未満	厚　0.8	にぶい褐	黒色粒子・赤色粒子・ チャート・雲母	低い隆帯に沿って角押文が沿う／内面横ナデ	中期中葉
第 48 図 9 図版 36- 2- 9	深鉢	覆土中	胴部 5% 未満	厚　1.3	褐	黒色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート	ＲＬ横位施文／縦位隆帯を垂下／内面横ナデ	中期中葉
第 48 図 10 図版 36- 2-10	深鉢	覆土中	胴部 5% 未満	厚　1.0	にぶい 黄橙	白色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 白色針状物質	沈線による渦巻文と垂下線／内面横ナデ	中期後半

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第 48 図 11 図版 36- 2-11	土器 片錘	覆土中	－	4.2	4.6	1.3	28.8	口縁部キザミ／ＲＬ横位施文／内面横ナデ／割れ口にキザミを付し土器片錘として利用	中期中葉

第 19 表　203 号住居跡出土遺物一覧

設置している。掘り方の平面形は円形で、断面形は丸みを帯びる底面から内湾しながら立ち上がる。規模は 53 × 52㎝、深さ 24㎝である。**柱穴**：６本検出された。規模からＰ１・Ｐ２・Ｐ６が主柱穴と考えられ、南側に壁付近に位置するＰ５が入り口部ピットであろう。Ｐ１は 54 × 41㎝、深さ 65㎝、Ｐ２は 48 × 36㎝、深さ 45㎝、Ｐ３は 32 × 30㎝、深さ 17㎝、Ｐ４は 27 × 23㎝、深さ 16㎝、Ｐ５は 27 × 24㎝、深さ 14㎝、Ｐ６は 55 × 36㎝、深さ 38㎝である。

［覆　　土］９層に分層される。８層が掘り方の埋土である。暗褐色土を中心とした自然堆積である。

［遺　　物］深鉢形土器、浅鉢形土器、打製石斧が出土している。

［時　　期］縄文時代中期中葉。

遺　　物（第 49・50 図、図版 36 －３、図版 37 －１、第 20・21 表）

［土　　器］（第 49・50 図１～ 20、図版 36 －３－１、図版 37 －１－２～ 20、第 20・21 表）

１は炉体土器で中期中葉の浅鉢形土器口縁部から胴部である。２は勝坂式（藤内式段階）の深鉢形土器胴部、３は勝坂式（井戸尻式段階）の深鉢形土器口縁部から胴部である。４は阿玉台Ⅰｂ式の深鉢形土器口縁部～胴部、５～６は阿玉台Ⅱ式の深鉢形土器で、５は口縁部、６は口縁部から胴部である。７～ 14 のうち、10 ～ 12・14 は勝坂式（井戸尻式段階）の深鉢形土器で７は口縁部、８～ 10 は口縁部から胴部、11 ～ 14 は胴部である。15・18 は中期中葉の深鉢形土器胴部、16 は中期の深鉢形土器口縁部、17 は加曽利ＥⅠ式の深鉢形土器胴部、19 は加曽利ＥⅢ式の深鉢形土器口縁部から胴部、16・20 は中期の深鉢形土器口縁部である。20 は中期の深鉢土器口縁部から胴部である。

［石　　器］（第 50 図 21、図版 37 －１－ 21、第 21 表）

21 は緑泥片岩の打製石斧である。

（３）土　坑

881 号土坑

遺　　構（第 51 図）

［位　　置］（Ｃ－３）グリッド。

［構　　造］17 Ｐを切る。平面不整形、断面概ねＶ字形。**規模**：57 × 55㎝。**深さ**：41㎝。**長軸方位**：Ｎ－ 18°－ Ｗ。**覆土**：３層に分層される。

［遺　　物］深鉢形土器が出土している。

［時　　期］縄文時代中期後半（加曽利ＥⅡ式）。

遺　　物（第 53 図、図版 37 －２、第 22 表）

［土　　器］（第 53 図１、図版 37 －２－１、第 22 表）

１は加曽利ＥⅡ式の深鉢形土器胴部である。

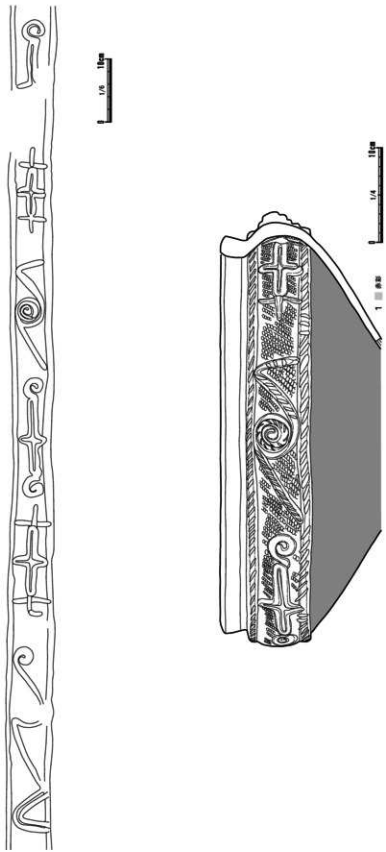
882 号土坑

遺　　構（第 51 図）

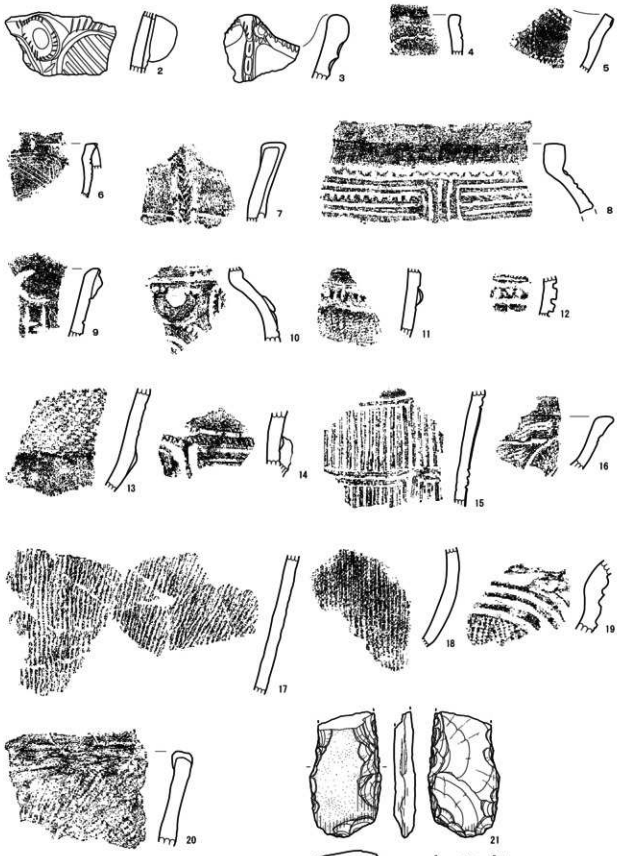
［位　　置］（Ａ－５・６）グリッド。

［構　　造］単独。平面円形、断面皿形。**規模**：57 × 56㎝。**深さ**：16㎝。**長軸方位**：Ｎ－ 42°－ Ｗ。**覆土**：単層である。

［遺　　物］深鉢形土器が出土している。



第49図　204号住居跡出土遺物（1／6・1／4）



第50図　204号住居跡出土遺物（1／3）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第49図1 図版36-1-1	浅鉢	埋甕炉	口縁～胴部 90%	高 [17.0] 口 40.0	にぶい黄褐	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	RL縄位施文／上下をキザミのある隆帯で区画し、隆帯によるS字状文や十字文などの単位文を描く／内面横ナデ	勝坂式 (井戸尻式段階)
第50図2 図版37-1-2	深鉢	東南壁覆土中 (床上50cm)	胴部 5% 未満	高 [4.7]	にぶい橙	白色粒子・赤色粒子・チャート・石英	キザミのある隆帯により区画、内部は斜位の沈線／内面横ナデ	勝坂式 (藤内式段階)
第50図3 図版37-1-3	深鉢	覆土中	口縁～胴部 5% 未満	高 [5.0]	褐	赤色粒子・チャート・雲母	波状口縁／口縁部をキザミ、沈線を沿わせる、波頂部から鎖状隆帯を垂下／内面横ナデ	勝坂式 (井戸尻式段階)
第50図4 図版37-1-4	深鉢	覆土中	口縁～胴部 5% 未満	厚 0.9	褐灰	黒色粒子・白色粒子・チャート・石英・雲母	やや肥厚する口縁部に沿って2条の角押文／内面横ナデ	阿玉台Ⅰb式
第50図5 図版37-1-5	深鉢	覆土中	口縁部 5% 未満	厚 0.7	褐灰	黒色粒子・白色粒子・チャート・石英・雲母	波状口縁／2条の角押文／内面横ナデ	阿玉台Ⅱ式
第50図6 図版37-1-6	深鉢	覆土中	口縁～胴部 5% 未満	厚 0.5	灰黄褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	口縁部の沿って隆帯で楕円状に区画、隆帯に沿って沈線を3条沿わし、斜位の沈線を充填／内面横方向のナデ	阿玉台Ⅱ式
第50図7 図版37-1-7	深鉢	西部覆土中 (床上71cm)	口縁部 5% 未満	厚 1.0	黒褐	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	波状口縁／波頂部から鍵形状のキザミを持つ隆帯を垂下／口縁部下端に横位沈線／内面横ナデ	勝坂式 (井戸尻式段階)
第50図8 図版37-1-8	深鉢	埋甕炉北東側 (床上37cm)	口縁～胴部 10%	厚 0.9	オリーブ黒	黒色粒子・白色粒子・チャート	括れ部に交互刺突、以下に沈線による長方形に区画し、刺突列・交互刺突を充填／内面横ナデ	勝坂式 (井戸尻式段階)
第50図9 図版37-1-9	深鉢	覆土中	口縁～胴部 5% 未満	厚 0.9	黒褐	黒色粒子・赤色粒子・チャート・石英・礫	緩い波状口縁／波頂部にC字状の沈線、沈線垂下し、その間を交互刺突／内面横ナデ	勝坂式 (井戸尻式段階)
第50図10 図版37-1-10	深鉢	南東壁覆土中 (床上63cm)	口縁～胴部 5% 未満	厚 0.9	黒褐	黒色粒子・チャート・石英	隆帯で曲線状のモチーフを描く、隆帯に沿って連続刺突・交互刺突／内面横ナデ	勝坂式 (井戸尻式段階)
第50図11 図版37-1-11	深鉢	覆土中	胴部 5% 未満	厚 0.9	にぶい黄褐	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	RL斜位施文／交互刺突される横位隆帯／内面横ナデ	勝坂式 (井戸尻式段階)
第50図12 図版37-1-12	深鉢	覆土中	胴部 5% 未満	厚 1.1	にぶい褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	沈線間に交互刺突／内面横ナデ／割れ口にキザミをいれ土器片錘として利用	勝坂式 (井戸尻式段階)
第50図13 図版37-1-13	深鉢	東南壁付近 覆土中 (床上54cm)	胴部 5% 未満	厚 1.0	にぶい黄橙	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	RL縄位施文／内面は摩滅が激しい	勝坂式 (井戸尻式段階)
第50図14 図版37-1-14	深鉢	覆土中	胴部 5% 未満	厚 1.1	黒褐	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート・石英	キザミのある隆帯で楕円状に区画し、内側に沈線を沿わせる／内面横ナデ	勝坂式 (井戸尻式段階)
第50図15 図版37-1-15	深鉢	東部覆土中 (床上56cm)	胴部 10%	厚 0.8	黒褐	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート	竹管状工具による縄位沈線後、同一工具でパネル状に区画／内面横ナデ	中期中葉
第50図16 図版37-1-16	深鉢	覆土中	口縁部 5% 未満	厚 0.8	灰褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	無節RL斜位施文／隆帯を貼り付け／内面横ナデ	中期
第50図17 図版37-1-17	深鉢	西部覆土中 (床上70cm)	胴部 10%	厚 0.9	にぶい赤褐	白色粒子・赤色粒子・チャート・礫	撚糸L縄位施文／内面縦ナデ	加曽利EⅠ式
第50図18 図版37-1-18	深鉢	覆土中	胴部 5% 未満	厚 1.1	褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	撚糸L縄位施文／内面横方向のナデ	中期中葉
第50図19 図版37-1-19	深鉢	東部覆土中 (床上41cm)	口縁～胴部 5% 未満	厚 1.3	にぶい黄橙	白色粒子・赤色粒子・チャート・石英・雲母	LR縄位施文／曲線的な隆帯／内面横ナデ	加曽利EⅢ式

第20表　204号住居跡出土遺物一覧（1）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第50図20 図版37-１-20	深鉢	東部覆土中 (床上66cm)	口縁～ 胴部 10%	厚　1.2	褐	黒色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英・礫	口縁部肥厚／ＬＲ横位施文／内面 横ナデ	中期

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第51図21 図版37-１-21	打製 石斧	東部覆土中 (床上21cm)	下部 残存	緑泥 片岩	[99.6]	56.7	17.7	122.4	上部欠損／撥型／刃部から 中央にかけて摩滅している ／刃部は摩滅後に再調整さ れている	

第21表　204号住居跡出土遺物一覧（２）

［時　　期］縄文時代中期。

遺　　物（第54図、図版37－３、第23表）

［土　　器］（第54図１～３、図版37－３－１～３、第23表）

１は勝坂式（井戸尻式段階）の深鉢形土器胴部、２は加曽利ＥⅠ式の深鉢形土器口縁部、３は加曽利ＥⅠ式深鉢形土器の胴部である。

883号土坑

遺　　構（第51図）

［位　　置］（Ｂ－６）グリッド。

［構　　造］単独。平面不整楕円形、断面逆台形。**規模**：68×59cm。**深さ**：29cm。**長軸方位**：Ｎ－50°－Ｅ。

覆土：単層である。

［遺　　物］深鉢形土器、浅鉢形土器、石皿が出土している。

［時　　期］縄文時代中期後半。

遺　　物（第55図、図版37－４、第24表）

［土　　器］（第55図１～２、図版37－４－１・２、第24表）

１は中期後半の深鉢形土器口縁部、２は中期後半の鉢形土器胴部である。

［石　　器］（第55図３、図版37－４－３、第24表）

３は安山岩の石皿である。

884号土坑

遺　　構（第51図）

［位　　置］（Ｃ－５）グリッド。

［構　　造］単独。平面隅丸方形、断面皿形。**規模**：110×93cm。**深さ**：20cm。**長軸方位**：Ｎ－46°－Ｅ。

覆土：２層に分層される

［遺　　物］深鉢形土器が出土している。

［時　　期］縄文時代中期後半（加曽利ＥⅡ式）。

遺　　物（第56図、図版37－5、第25表）

［土　　器］（第56図1～2、図版37－5－1・2、第25表）

1は勝坂式（井戸尻式段階）の深鉢形土器胴部、2は加曽利EⅡ式の深鉢形土器胴部である。

885号土坑

遺　　構（第51図）

［位　　置］（E－5）グリッド。

［構　　造］単独。平面楕円形、断面皿形。**規模**：64×55㎝。**深さ**：14㎝。**長軸方位**：N－24°－W。**覆土**：単層である。

［遺　　物］深鉢形土器が出土している。

［時　　期］縄文時代中期後半。

遺　　物（第57図、図版38－1、第26表）

［土　　器］（第57図1、図版38－1－1、第26表）

1は連弧文土器の深鉢形土器口縁部である。

887号土坑

遺　　構（第51図）

［位　　置］（E－5）グリッド。

［構　　造］単独。平面楕円形、断面皿形。**規模**：99×68㎝。**深さ**：19㎝。**長軸方位**：N－71°－W。**覆土**：2層に分層される。

［遺　　物］図示できる遺物は出土していない。

［時　　期］縄文時代。

888号土坑

遺　　構（第51図）

［位　　置］（E－5）グリッド。

［構　　造］単独。平面不整楕円形、断面不整形。**規模**：101×72㎝。**深さ**：19㎝。**長軸方位**：N－60°－W。**覆土**：単層である。

［遺　　物］図示できる遺物は出土していない。

［時　　期］縄文時代。

889号土坑

遺　　構（第51図）

［位　　置］（D－4）グリッド。

［構　　造］単独。平面不整形、断面皿形。**規模**：81×60㎝。**深さ**：12㎝。**長軸方位**：N－62°－W。**覆土**：単層である。

［遺　　物］深鉢形土器が出土している。

［時　　期］縄文時代。

遺　　物（第58図、図版38－1、第27表）

［土　　器］（第58図1、図版38－1－1、第27表）

1は時期不明の深鉢形土器胴部である。

890号土坑

遺　　構（第51図）

［位　　置］（D－5）グリッド。

［構　　造］単独。平面隅丸方形、断面不整形。**規模**：91×68cm。**深さ**：51cm。**長軸方位**：N－19°－W。

覆土：不明。

［遺　　物］図示できる遺物は出土していない。

［時　　期］縄文時代。

891号土坑

遺　　構（第51図）

［位　　置］（B－5）グリッド。

［構　　造］203 Jとの切り合いは不明。平面円形、断面箱形。**規模**：67×66cm。**深さ**：21cm。

長軸方位：N－45°－E。**覆土**：不明。

［遺　　物］深鉢形土器が出土している。

［時　　期］縄文時代中期。

遺　　物（第59図、図版38－1、第28表）

［土　　器］（第59図1～3、図版38－1－1～3、第28表）

1は勝坂式の深鉢形土器胴部、2・3は加曽利EⅡ式の深鉢形土器胴部である。

892号土坑

遺　　構（第51図）

［位　　置］（B－6）グリッド。

［構　　造］202 J・893 Dを切る。平面円形、断面逆台形。**規模**：50×46cm。**深さ**：22cm。

長軸方位：N－26°－E。**覆土**：2層に分層される

［遺　　物］深鉢形土器が出土している。

［時　　期］縄文時代中期中葉（勝坂式）。

遺　　物（第60図、図版38－1、第29表）

［土　　器］（第60図1～2、図版38－1－1・2、第29表）

1・2は勝坂式の深鉢形土器である。

893号土坑

遺　　構（第51図）

［位　　置］（B－6）グリッド。

［構　　造］625 Y・202 J・892 Dに切られる。平面不整楕円形、断面逆台形。**規模**：175 × 127㎝。**深さ**：28㎝。**長軸方位**：N－42°－E。**覆土**：3層に分層される。
［遺　　物］深鉢形土器、浅鉢形土器が出土している。
［時　　期］縄文時代中期後半（加曽利ＥⅠ式）。
遺　　物（第61図、図版38－2、第30・31表）
［土　　器］（第61図1～11、図版38－2－1～11、第30・31表）
1は阿玉台Ⅱ式の浅鉢形土器口縁部、2・3は阿玉台Ⅱ式の深鉢形土器胴部、4は勝坂式（井戸尻式段階）の深鉢形土器胴部、5・6は加曽利ＥⅠ式の深鉢形土器口縁部、7・9加曽利ＥⅠ式の深鉢形土器胴部、8は加曽利ＥⅠの口縁部、10は曽利Ⅱ式の深鉢形土器頸部、11は中期後半の浅鉢形土器口縁部である。

894号土坑

遺　　構（第51図）
［位　　置］（B・C－4）グリッド。
［構　　造］単独。平面不整形、断面不整形。**規模**：84㎝以上×36㎝以上**深さ**：32㎝。
長軸方位：N－37°－E。**覆土**：2層に分層される。
［遺　　物］図示できる遺物は出土していない。
［時　　期］縄文時代。

895号土坑

遺　　構（第52図）
［位　　置］（C－5）グリッド。
［構　　造］単独。平面不整形、断面不整形。**規模**：71 × 65㎝。**深さ**：33㎝。
長軸方位：N－37°－E。**覆土**：2層に分層される。
［遺　　物］図示できる遺物は出土していない。
［時　　期］縄文時代。

896号土坑

遺　　構（第52図）
［位　　置］（C－5）グリッド。
［構　　造］200 Jを切る。平面円形、断面箱形。**規模**：57 × 51㎝以上。**深さ**：29㎝。
長軸方位：N－10°－W。**覆土**：2層に分層される。
［遺　　物］深鉢形土器が出土している。
［時　　期］縄文時代中期中葉（勝坂式）。
遺　　物（第62図、図版38－3、第32表）
［土　　器］（第62図1、図版38－3－1、第32表）
1は勝坂式（井戸尻式段階）の深鉢形土器胴部である。

897 号土坑

遺　構（第 52 図）

［位　置］（Ｄ－３）グリッド。

［構　造］89 Ｊとの切り合いは不明である。平面隅丸方形、断面皿形。**規模：**138㎝以上× 80㎝以上。**深さ：**26㎝。**長軸方位：**Ｎ－ 73°－Ｅ。**覆土：**4 層に分層される。

［遺　物］深鉢形土器が出土している。

［時　期］縄文時代中期後半（加曽利ＥⅠ式）。

遺　物（第 63 図、図版 38 －４、第 33 表）

［土　器］（第 63 図１～７、図版 38 －４－１～７、第 33 表）

１・２は加曽利ＥⅠ式の深鉢形土器口縁部、３・４は加曽利ＥⅠ式の深鉢形土器胴部、５は加曽利Ｅ式の深鉢形土器胴部、６は勝坂式（藤内式段階）の深鉢形土器胴部、７は阿玉台Ⅱ式の深鉢形土器胴部である。

［石　器］（第 63 図８、図版 38 －４－８、第 33 表）

８は敲石・磨石・凹石である。

898 号土坑

遺　構（第 52 図）

［位　置］（Ｅ－１）グリッド。

［構　造］単独。平面不整形、断面箱形。**規模：**205㎝以上× 111㎝以上。**深さ：**30㎝。**長軸方位：**Ｎ－ 84°－Ｅ。**覆土：**2 層に分層される。

［遺　物］深鉢形土器が出土している。

［時　期］縄文時代中期。

遺　物（第 64 図、図版 38 －５、第 34 表）

［土　器］（第 64 図１～２、図版 38 －５－１・２、第 34 表）

１は勝坂式（井戸尻式段階）の深鉢形土器胴部、２は加曽利ＥⅡ式の深鉢形土器胴部である。

899 号土坑

遺　構（第 52 図）

［位　置］（Ｄ－４）グリッド。

［構　造］単独。平面不整楕円形、断面皿形。**規模：**134 × 109㎝。**深さ：**19㎝。**長軸方位：**Ｎ－ 17°－Ｗ。**覆土：**2 層に分層される。

［遺　物］深鉢形土器が出土している。

［時　期］縄文時代中期。

遺　物（第 65 図、図版 38 －６、第 35 表）

［土　器］（第 65 図１～２、図版 38 －６－１・２、第 35 表）

１は勝坂式（井戸尻式段階）の深鉢形土器胴部、２は加曽利ＥⅡ式の深鉢形土器胴部である。

900号土坑

遺　構（第52図）

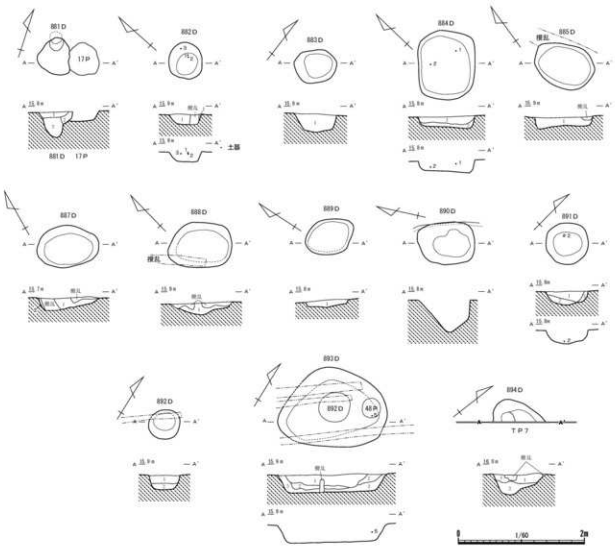
［位　置］（D－2）グリッド。

［構　造］単独。平面不整形、断面浅いU字形。**規模：**88㎝。**深さ：**34㎝。**長軸方位：**N－45°－E。

覆土：2層に分層される。

［遺　物］図示できる遺物は出土していない。

［時　期］縄文時代。



881D
1層　暗褐色土　　締り強い、粘性やや弱い、ローム粒を少量含む。
2層　暗褐色土　　締り強い、粘性やや弱い、ローム粒・焼土粒を微量含む。
3層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、ロームブロック（～φ10㎝）を微量含む、やや色調が暗い。

882D
1層　褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を微量に少量含む。

883D
1層　褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒子を現状に少量、ロームブロック（φ1㎝）を少量、炭化物、焼土粒を微量含む。

884D
1層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒、ロームブロック（～φ2㎝）、炭化粒を微量含む。
2層　黄褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を微量含む。

885D
1層　褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒、ロームブロック（φ～10㎝）を微量含む。

887D
1層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒、ロームブロック（φ～2㎝）を微量含む。
2層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を微量含む。

888D
1層　褐色土　　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を少量、ロームブロック（～φ10㎝）を微量含む。

889D
1層　褐色土　　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を微量含む。

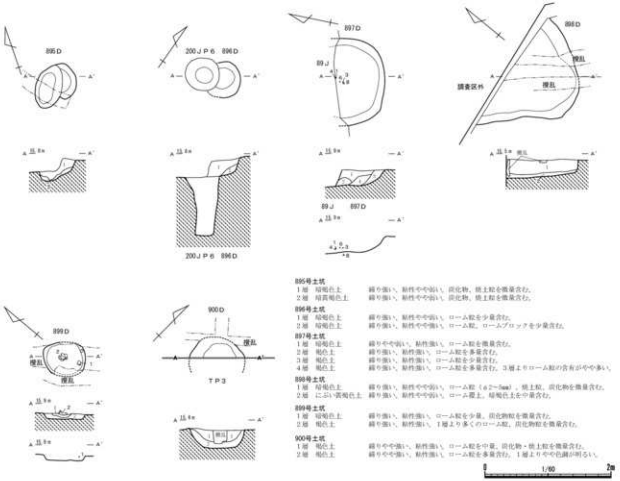
890D
1層　褐色土　　締り強い、粘性やや強い、ローム粒、炭化物を微量含む。
2層　暗褐色土　　締り強い、粘性やや強い、ロームブロック（φ20～30㎜）を中量混入。
3層　暗黄褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を多量、ロームブロック（φ20～30㎜）を混入。

892D
1層　褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒・焼土粒・炭化物を少量含む。
2層　褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒・焼土粒・ロームブロック（～φ10㎜）を少量含む。

893D
1層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒・焼土粒を現状に多量、焼土粒を少量含む。
2層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒・炭化物・焼土粒を少量含む。
3層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒・炭化物・焼土粒・暗褐色土を少量含む。

894D
1層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を微量含む。
2層　褐色土　　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。

第51図　縄文時代土坑（1）（1／60）



第 52 図　縄文時代土坑（2）（1／60）

第 53 図　881 号土坑出土遺物（1／3）

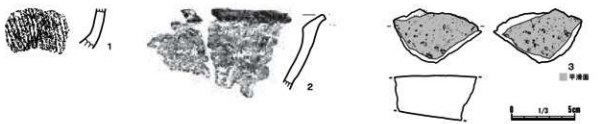
挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴	備　考
第 53 図 1 図版 37 - 2 - 1	深鉢	覆土中	胴部 5％ 未満	厚　0.9	暗赤褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	隆帯による渦巻文、縦位沈線／内面横磨き	加曽利ＥⅡ式

第 22 表　881 号土坑出土遺物一覧

第 54 図　882 号土坑出土遺物（1／3）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴	備　考
第54図1 図版37-3-1	深鉢	底上14cm	胴部 5％ 未満	厚　0.6	にぶい 赤褐	赤色粒子・赤色粒子・ 石英	ＲＬ斜位施文／横位隆帯上をキザミ／内面横方向のナデ	勝坂式 （井戸尻式段階）
第54図2 図版37-3-2	深鉢	底上13cm	口縁部 5％ 未満	厚　0.8	明褐	白色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	緩い波状口縁／波頂部に円形刺突の隆帯を貼り付け、沈線を施す／内面横方向のナデ	加曽利ＥⅠ式
第54図3 図版37-3-3	深鉢	底上13cm	胴部 5％ 未満	厚　0.7	褐	白色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート	撚糸Ｌ斜位施文／竹管状工具による横位沈線	加曽利ＥⅠ式

第 23 表　882 号土坑出土遺物一覧

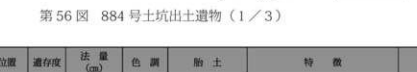


第 55 図　883 号土坑出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴	備　考
第55図1 図版37-4-1	深鉢	覆土中	胴部 5％ 未満	厚　0.7	橙	黒色粒子・赤色粒子・ チャート・石英	ＲＬ横位施文／内面横ナデ	中期後半
第55図2 図版37-4-2	浅鉢	覆土中	口縁部 ～胴部 5％ 未満	厚　0.8	にぶい 赤褐	白色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英	口縁部外側に屈曲／外面無文、横方向のナデ／内面横ナデ	中期後半

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石　材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特　徴	備　考
第55図3 図版37-4-3	石皿	覆土中	一部 残存	安山岩	(42.5)	(69.3)	(36.4)	124	大きく欠損し、全体はわからず／表裏面とも平滑	

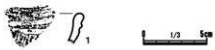
第 24 表　883 号土坑出土遺物一覧



第 56 図　884 号土坑出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴	備　考
第56図1 図版37-5-1	深鉢	底上13cm	胴部 5％ 未満	厚　0.7	にぶい 黄橙	白色粒子・赤色粒子・ チャート・石英	キザミのある横位隆帯／沈線による曲線文／内面横ナデ	勝坂式 （井戸尻式段階）
第56図2 図版37-5-2	深鉢	底上6cm	胴部 5％ 未満	厚　0.8	にぶい 黄橙	白色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート・ 石英・	撚糸Ｌ縦位施文／直線・蛇行隆帯を垂下／内面縦ナデ	加曽利ＥⅡ式

第 25 表　884 号土坑出土遺物一覧



第 57 図　885 号土坑出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 57 図 1 図版 38- 1 - 1	深鉢	覆土中	口縁部 5％ 未満	厚 0.6	にぶい褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	櫛歯状工具による縦位条線／口縁部に２条の沈線／内面横ナデ	連弧文土器

第 26 表　885 号土坑出土遺物一覧

第 58 図　889 号土坑出土遺物（１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 58 図 1 図版 38- 1 - 1	深鉢	覆土中	胴部～ 底部 5％ 未満	高 [4.0] 底 (7.2)	にぶい橙	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	外面無文、横方向のナデ／内面横ナデ	中期

第 27 表　889 号土坑出土遺物一覧

第 59 図　891 号土坑出土遺物（１／３）

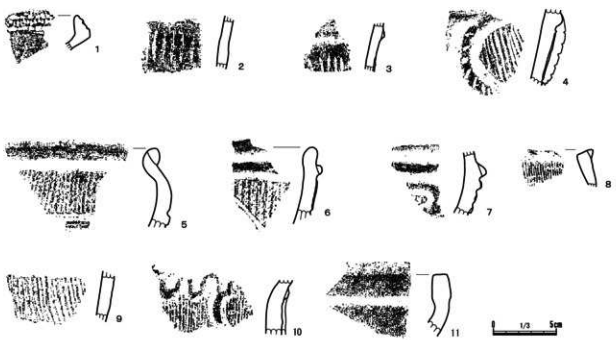
挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 59 図 1 図版 38- 1 - 1	深鉢	覆土中	胴部 5％ 未満	厚 0.9	黒	黒色粒子・赤色粒子・チャート	ＲＬ斜位施文／内面横ナデ	勝坂式
第 59 図 2 図版 38- 1 - 2	深鉢	覆土中	胴部 5％ 未満	厚 0.8	にぶい褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	撚糸Ｒ縦位施文／内面横ナデ	加曽利ＥⅠ式
第 59 図 3 図版 38- 1 - 3	深鉢	覆土中	胴部 5％ 未満	厚 1.1	橙	白色粒子・赤色粒子・チャート	撚糸Ｌ縦位施文／内面横ナデ	加曽利ＥⅠ式

第 28 表　891 号土坑出土遺物一覧

第 60 図　892 号土坑出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第60図1 図版38-1-1	深鉢	覆土中	口縁部 ～胴部 5% 未満	厚 0.9	黒褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	口縁部肥厚し内湾／外面無文、横方向のナデ／内面横ナデ	勝坂式
第60図2 図版38-1-2	深鉢	覆土中	口縁部 ～胴部 5% 未満	厚 1.0	黒褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	口唇部平坦／ＬＲ縦位施文、口縁部に沿って押引文による波状文	勝坂式

第29表　892号土坑出土遺物一覧



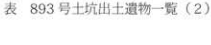
第61図　893号土坑出土遺物（1／3）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第61図1 図版38-2-1	浅鉢	覆土中	口縁部 5% 未満	厚 0.8	橙	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	口縁部内弧／口縁部に沿って3条の押引文／内面は横方向のナデ	阿玉台Ⅱ式
第61図2 図版38-2-2	深鉢	胴部 5% 未満	厚 0.8	にぶい黄橙	白色粒子・赤色粒子・チャート・石英・雲母・礫	幅広の爪形文／内面横方向のナデ	阿玉台Ⅱ式
第61図3 図版38-2-3	深鉢	覆土中	胴部 5% 未満	厚 0.7	にぶい黄褐	黒色粒子・白色粒子・石英・雲母	低い横位隆帯、幅広の爪形文／内面横方向のナデ	阿玉台Ⅱ式
第61図4 図版38-2-4	深鉢	覆土中	胴部 5% 未満	厚 1.2	黒褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	ホザミある隆帯で楕円状に区画し、内部に縦位沈線を充填／内面横ナデ	勝坂式 （井戸尻式段階）
第61図5 図版38-2-5	深鉢	底上14cm	口縁部 ～胴部 5% 未満	厚 1.2	黒褐	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート	撚糸Ｌ縦位施文／横位隆帯／内面横ナデ	加曽利ＥⅠ式
第61図6 図版38-2-6	深鉢	覆土中	口縁部 5% 未満	厚 1.0	褐	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	撚糸Ｌ縦位施文／隆帯により区画／内面横方向のナデ	加曽利ＥⅠ式

第30表　893号土坑出土遺物一覧（1）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第61図7 図版38-2-7	深鉢	覆土中	胴部 5％ 未満	厚 0.9	にぶい褐	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート・石英	撚糸Ｌ縄位施文／隆帯による区画／内面横ナデ	加曽利ＥⅠ式
第61図8 図版38-2-8	深鉢	覆土中	口縁部 5％ 未満	厚 1.0	にぶい褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	口唇部平坦／撚糸Ｒ縄位施文／内面横ナデ	加曽利ＥⅠ式
第61図9 図版38-2-9	深鉢	覆土中	胴部 5％ 未満	厚 1.0	褐	白色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	撚糸Ｌ縄位施文／内面横方向のナデ	加曽利ＥⅠ式
第61図10 図版38-2-10	深鉢	覆土中	頸部 5％ 未満	厚 1.2	にぶい橙	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート・石英・雲母	櫛歯状工具による縦位条線／括れ部に横位波状隆帯、そこから蛇行隆帯を垂下／内面横ナデ	曽利Ⅱ式
第61図11 図版38-2-11	浅鉢	覆土中	口縁部 5％ 未満	厚 1.1	黒	黒色粒子・角閃石・チャート・片石	口唇部平坦／内外面口縁部下端に凹線／内外面には横方向の磨き	中期後半

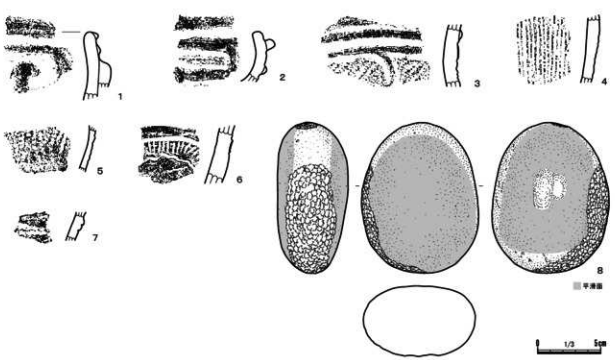
第 31 表　893 号土坑出土遺物一覧（２）



第 62 図　896 号土坑出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第62図1 図版38-3-1	深鉢	覆土中	胴部 5％ 未満	厚 0.9	暗褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	ＲＬ斜位施文／内面横ナデ	勝坂式 (井戸尻式段階)

第 32 表　896 号土坑出土遺物一覧



第 63 図　897 号土坑出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第63図1 図版38-4-1	深鉢	底上8cm	口縁部～胴部5%未満	厚 1.0	黒褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・石英	隆帯による渦巻文／内面横ナデ	加曽利EⅠ式
第63図2 図版38-4-2	深鉢	覆土中	口縁部～胴部5%未満	厚 0.9	灰黄褐	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート	撚糸L横位施文／隆帯で枠状に区画	加曽利EⅠ式
第63図3 図版38-4-3	深鉢	底上6cm	胴部5%未満	厚 1.1	灰黄褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・礫	RL縦位施文／隆帯に摺り区画／細部無文／内面横ナデ	加曽利EⅠ式
第63図4 図版38-4-4	深鉢	底上6cm	胴部5%未満	厚 0.9	褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート	撚糸L縦位施文／縦位沈線／内面横ナデ	加曽利EⅠ式
第63図5 図版38-4-5	深鉢	覆土中	胴部5%未満	厚 0.4	にぶい黄褐	黒色粒子・白色粒子・角閃石・チャート・石英	RL斜位施文／内面横ナデ	加曽利E式
第63図6 図版38-4-6	深鉢	底上7cm	胴部5%未満	厚 1.3	暗灰黄	黒色粒子・角閃石・チャート・礫	区画内にキャタピラー文、波状沈線／内面横ナデ	勝坂式 (藤内式段階)
第63図7 図版38-4-7	深鉢	覆土中	胴部5%未満	厚 0.7	にぶい黄褐	黒色粒子・白色粒子・チャート・石英・雲母	隆帯に沿って2条の押引文／内面横ナデ	阿玉台Ⅱ式

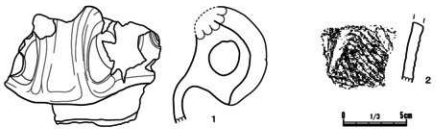
挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第63図8 図版38-4-8	敲石 磨石 凹石	底面	完形	砂岩	119.3	92.7	56	898.6	表裏面に平滑面、裏中央部に凹む／左側縁上部、中央部から下部にかけて敲打を行う／全体に被熱により赤化	

第33表　897号土坑出土遺物一覧

第64図　898号土坑出土遺物（1／3）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第64図1 図版38-5-1	深鉢	覆土中	頸部5%未満	厚 1.1	黒褐	黒色粒子・赤色粒子・角閃石・チャート・雲母	横位隆帯上に斜位のキザミ／内面横ナデ	勝坂式 (井戸尻式段階)
第64図2 図版38-5-2	深鉢	覆土中	胴部5%未満	厚 0.7	にぶい黄橙	白色粒子・チャート・石英	撚糸L縦位施文／縦位隆帯／内面横ナデ	加曽利EⅡ式

第34表　898号土坑出土遺物一覧



第 65 図　899 号土坑出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 65 図 1 図版 38- 6 - 1	深鉢	底上 9 cm	口縁部 ～頸部 10%	高　[9.0]	灰黄褐	白色粒子・赤色粒子・ チャート	口縁部下端に横状把手／内面横ナデ	勝坂式 （井戸尻式段階）
第 65 図 2 図版 38- 6 - 2	深鉢	底上 6 cm	胴部 5 % 未満	厚　0.8	褐	白色粒子・赤色粒子・ 角閃石・チャート	無節Ｌｒ縦位施文／沈線／内面横ナデ	加曽利ＥⅡ式

第 35 表　899 号土坑出土遺物一覧

第２節　弥生時代後期～古墳時代前期

（1）概　要

今回の調査では弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭の住居跡が 26 軒検出された。住居跡の平面形態は隅丸長方形（含小判形）ものと隅丸方形の二者が認められる。ともに４本主柱を基本とする。主軸は北から北東が主体である。隅丸長方形の住居跡では南側に入り口部を持ち、その右側に貯蔵穴を持つ。貯蔵穴の多くはその北側に弧状の凸堤を伴う。炉は中軸線状の中央やや北側に位置する。出土遺物は壺形土器・甕形土器を中心とするがあまり出土量は多くない。壺形土器は無文部を赤彩するものが多い。甕形土器は台付きで口唇部にキザミが認められる。

第 66 図　弥生時代後期～古墳時代前期遺構全体図（1／400）

（２）住居跡

293 号住居跡

遺　構（第 67 図）

［位　置］（Ｂ－４・５）グリッド。

［検出状況］遺存状態は概ね良好である。南西側は調査区外の区画整理第 13 Ⅳ地点へ延びる。

［構　造］**平面形：**隅丸長方形を呈する。**規模：**4.56m ／ 3.61m ／深さ 48㎝。**主軸方位：**Ｎ－ 43°－Ｅ。**壁溝：**検出されなかった。**床面：**貼床がなされ、概ね平坦である。堀方は 43㎝と非常に深い。**炉：**中央やや南東に位置している。攪乱を受けているが、平面形は略円形を呈していると思われる。断面形は皿形に近い。規模は 55 × 48㎝、深さ８㎝である。**柱穴：**１本検出された。Ｐ１は 30 × 29㎝、深さ 42㎝である。**貯蔵穴：**南西壁に接して築かれている。位置から推して貯蔵穴とした。平面形は略楕円形で、断面は平坦な底面から直線的に斜めに立ち上がる。規模は 59 × 56㎝、深さ 28㎝である。**凸堤：**検出されなかった。**赤色砂利層：**検出されなかった。

［覆　土］14 層に分層される。11 ～ 14 層が掘り方の埋土である。覆土はロームブロックを多量に含む層や、ブロック状に堆積している層があり、埋め戻された可能性がある。

［遺　物］褄形土器、敲石・磨石が出土している。

［時　期］弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭。

遺　物（第 68 図、図版 39 －１、第 36 表）

［土　器］（第 68 図１、図版 39 －１－１、第 36 表）

１は褄形土器の口縁部から胴部上半部である。

［石　器］（第 68 図２、図版 39 －１－２、第 36 表）

２は敲石・磨石である。

294 号住居跡

遺　構（第 69 図）

［位　置］（Ｂ－４・５）グリッド。

［検出状況］遺存状態は良好である。大半は調査区外の区画整理第 13 Ⅳ地点へ続く。

［構　造］**平面形：**小判形を呈する。**規模：**3.79m ／ 3.10m 以上／深さ 53㎝。**主軸方位：**Ｎ－ 38°－Ｅ。**壁溝：**検出されなかった。**床面：**概ね平坦である。**炉：**検出されなかった。**柱穴：**検出されなかった。**貯蔵穴：**南東壁に接して築かれている。平面形は略円形で、断面形は平坦な底面から直線的に斜めに立ち上がる。規模は 29 × 27㎝、深さ 14㎝である。**凸堤：**貯蔵穴に西接し、直線状を呈する。幅 11 ～ 21㎝、高さ２～６㎝である。検出されなかった。**赤色砂利層：**検出されなかった

［覆　土］11 層に分層される。覆土は暗褐色土を基本とした自然堆積である。

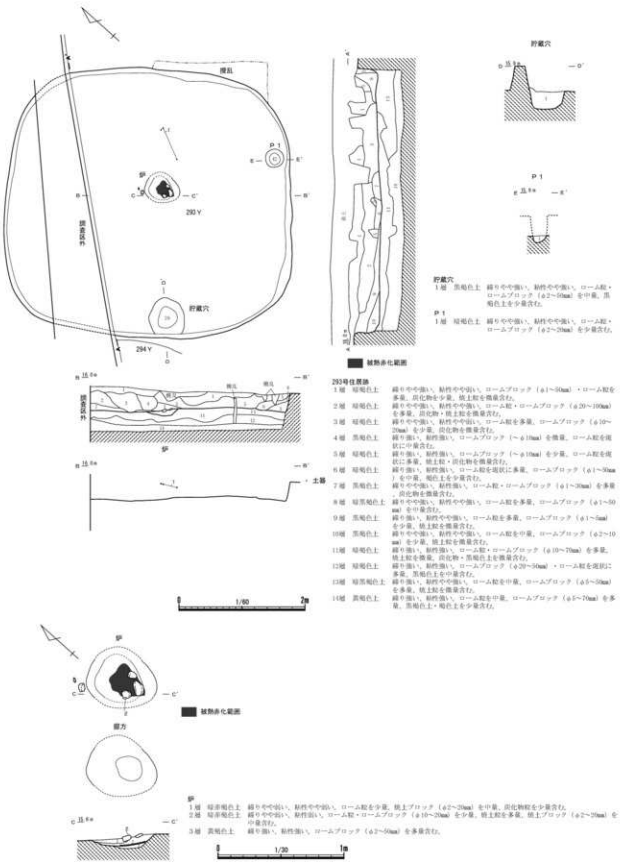
［遺　物］褄形土器が出土している。

［時　期］弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭。

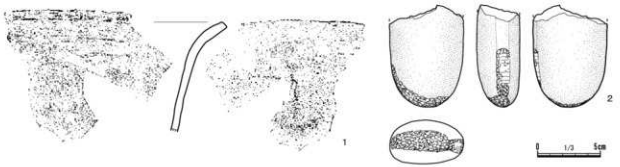
遺　物（第 70 図、図版 39 －２、第 37 表）

［土　器］（第 70 図１・２、図版 39 －２－１・２、第 37 表）

１は褄形土器の胴部から底部、２は褄形土器の脚台部である。



第 67 図　293 号住居跡（１／60）・炉（１／30）

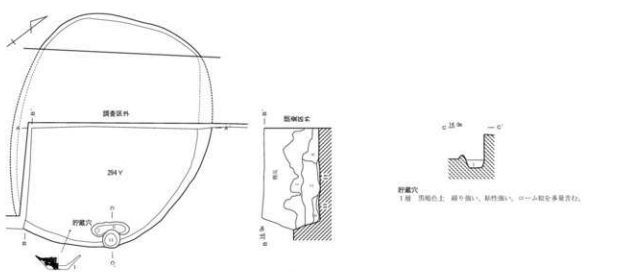


第 68 図　293 号住居跡出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴
第 68 図 1 図版 39- 1 - 1	甕	東部覆土中 (床上 16 ～ 27cm)	口縁部 ～胴部 10%	厚 0.7	にぶい橙	黒色粒子・白色粒子・ 赤色粒子・石英・ シャモット	外面口縁部横ハケ後、胴部上半縦ハケ、部分的に斜位の磨き／内面胴部上半横ナデ後、口縁部横ハケ／口唇部面取りし半坦でハケ目が残る

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴
第 68 図 2 図版 39- 1 - 2	敲石 磨石	炉内部 (床面)	下部 残存	砂岩	(80.7)	(59.3)	35	244.6	上部を大きく欠損／右側縁下部から下端部にかけて敲打が行われる／右側縁下部は敲打後研磨が行われ面状になっている

第 36 表　293 号住居跡出土遺物一覧



第 69 図　294 号住居跡（１／60）

第 70 図　294 号住居跡出土遺物（１／４・１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴
第 70 図 1 図版 39- 2 - 1	甕	東南壁付近覆土 (床上 35cm)	胴部～底部 15%	高 [4.4] 底　6.7	にぶい橙	黒色粒子・白色粒子・ 赤色粒子・シャモット・ 礫	外面縦ハケ、煤付着／内面横ナデ
第 70 図 1 図版 39- 2 - 2	台付甕	覆土中	脚台部 5 % 未満	厚　0.6	にぶい 赤褐	黒色粒子・白色粒子・ 赤色粒子・シャモット	台付甕の脚台部下端／外面下端部横 ハケ後、縦ハケ／内面横ハケ

第 37 表　294 号住居跡出土遺物一覧

337 号住居跡

遺　構（第 71 図）

［位　置］（Ｇ－３・４）グリッド。

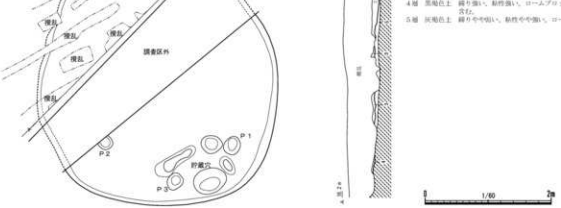
［検出状況］攪乱されるため遺存状態は悪い。南側は調査区外の区画整理第 40 Ⅲ地点へ続く。

［構　造］**平面形**：小判形を呈するものと思われる。**規模**：4.29m ／ 3.78m ／深さ 10cm。**主軸方位**：西壁を基準に考えるとＮ－ 40°－Ｅ。**壁溝**：上幅７～８cm／下幅３～６cm／深さ２～３cm。**床面**：貼床がなされるが、凹凸が認められる。**炉**：検出されなかった。**柱穴**：従前の調査では２本検出されたが、今回の調査では検出されなかった。**貯蔵穴**：従前の調査で検出されている。**凸堤**：従前の調査で検出されている。**赤色砂利層**：検出されなかった。

［覆　土］５層に分層される。５層が掘り方の埋土である。覆土は黒褐色土を基本とする自然堆積である。

［遺　物］図示できる遺物は出土していない。区画整理第 40 Ⅲ地点側から出土した遺物は、『志木市遺跡調査会報告　13 集　西原大塚遺跡　第２分冊』（志木市遺跡調査会 2009）を参照されたい。

［時　期］弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭。



第 71 図　337 号住居跡（１／ 60）

605 号住居跡

遺　　構（第 72・73 図）

［位　　置］（G－3）グリッド。

［検出状況］部分的に攪乱されるが、遺存状態は良好である。東側は調査区外へ延びる。床面の赤化や炭化材が集中して検出されたことから、焼失住居の可能性が高い。

［構　　造］**平面形**：隅丸方形を呈する。**規模**：5.2m ／ 4.51m 以上／深さ 37㎝。**主軸方位**：N－16°－W。**壁溝**：検出範囲では北西隅付近を除き認められる。上幅 6 ～ 11㎝／下幅 7 ～ 11㎝／深さ 4 ～ 16㎝。**床面**：緩やかな起伏が認められる。床面上に被熱による赤化が認められる。**炉**：住居跡中央やや北側に位置する。平面形は楕円形で、断面形は平坦な底面が南東側に傾斜し、立ち上がりは斜めに立上る。規模は 101 × 80㎝、深さ 21㎝である。**柱穴**：7 本検出された。P 1 は 23 × 21㎝、深さ 51㎝、P 2 は 40 × 36㎝、深さ 55㎝、P 3 は 29 × 28㎝、深さ 26㎝、P 4 は 32 × 29㎝、深さ 24㎝、P 5 は 30 × 26㎝、深さ 24㎝、P 6 は 37 × 29㎝、深さ 31㎝、P 7 は 16 × 16㎝、深さ 13㎝である。P 1 ～ 3・6 が主柱穴で、P 5 が入り口部のピットであろう。P 5 は底面が北側に傾斜している。**貯蔵穴**：南東壁に接して築かれる。規模は 31 × 29㎝、深さは 6 ㎝である。平面形は略楕円形で、断面形は丸みのある底面から緩やかに立ち上がる。規模は 54 × 41㎝、深さ 19㎝である。**凸堤**：貯蔵穴の北側に位置し、弧状を呈す。規模は幅 29㎝前後、高さ 5 ～ 6 ㎝である。**赤色砂利層**：貯蔵穴の北東側に構築され、凸堤の一部を覆う。規模は 97 × 58㎝、高さ 17㎝である。

［覆　　土］12 層に分層される。11・12 層が掘り方の埋土である。覆土は暗褐色土を主体とした自然堆積である。

［遺　　物］高坏形土器、甕形土器、壺形土器が出土している。

［時　　期］弥生時代後期後半。

遺　　物（第 74 図、図版 39 － 3、第 38 表）

［土　　器］（第 74 図 1 ～ 3、図版 39 － 3 － 1 ～ 3、第 38 表）

1 は高坏形土器の脚部、2 は甕形土器の脚台部、3 は壺形土器の胴部である。

606 号住居跡

遺　　構（第 75 図）

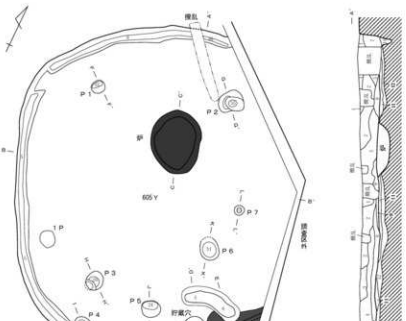
［位　　置］（F・G－2・3）グリッド。

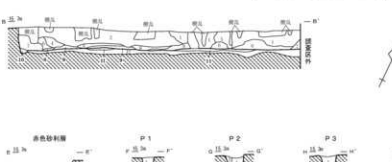
［検出状況］遺存状態は概ね良好である。23 Hに切られる。

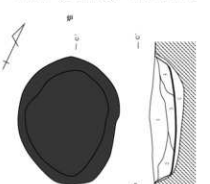
［構　　造］**平面形**：隅丸方形を呈する。**規模**：3.09m ／ 2.92m ／深さ 40㎝。**主軸方位**：N － 27° － W。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：貼床がなされ、平坦である。**炉**：住居跡中央やや北側に位置している。平面形は略楕円形で、断面形は浅い皿状を呈する。規模は 59 × 49㎝、深さ 5㎝である。**柱穴**：検出されなかった。**貯蔵穴**：南東隅付近に位置する。平面形は略楕円形で、断面形は丸みを帯びる底面から緩やかに立ち上がる。規模は 42 × 32㎝、深さ 12㎝である。**凸堤**：検出されなかった。**赤色砂利層**：検出されなかった。

［覆　　土］10 層に分層される。10 層が掘り方の埋土である。覆土は暗褐色土から暗黄褐色土を基本とした自然堆積である。

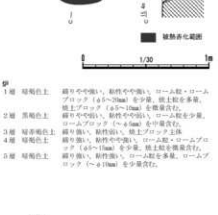
［遺　　物］壺形土器、甕形土器がともに出土している。







炉
1層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ5～30mm）を少量、焼土粒を多量、焼土ブロック（φ5～10mm）を微量含む。
2層　黒褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量、ロームブロック（～φ5mm）を中量含む。
3層　暗赤褐色土　締り強い、粘性強い、焼土ブロック主体
4層　暗褐色土　　締り強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ5～15mm）を少量、焼土粒を微量含む。
5層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量、ロームブロック（～φ10mm）を少量含む。



貯蔵穴
1層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。
2層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を中量含む。
3層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ10～20mm）を多量含む。

605号住居跡
1層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、焼土粒を微量、ローム粒（φ1～2mm）を混状に多量、ロームブロック（φ20～30mm）を少量、炭化物粒を少量含む。
2層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック（φ5～10mm）を斑状に多量、焼土粒を少量含む。
3層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量含む。
4層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量、ロームブロック（～φ5mm）を少量含む。
5層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性強い、黄褐色土粒を少量、ローム粒を斑状に含む。
6層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、焼土粒・ローム粒を多量、ロームブロック（φ5～20mm）・炭化物粒を少量、炭化物粒（φ10～20mm）を微量含む。
7層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量、焼土ブロック（～φ20mm）・ロームブロック（φ5～10mm）を少量、焼土粒を微量含む。
8層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、焼土粒・ローム粒を多量、ロームブロック（φ5～15mm）・炭化物粒・黄褐色土粒を少量、焼土ブロック（～φ5mm）を微量、炭化物（～φ10mm）を含む。
9層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、炭化物粒を少量、ローム粒・焼土粒を多量、焼土ブロック（～φ10mm）を含む。
10層　黒褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を極少量含む。
11層　明黄褐色土　締りやや強い、粘性強い、暗褐色土を多量含む。部分的に被熱により硬化している。一部赤変している。貼床の硬化面
12層　暗褐色土　　締り強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ30～50mm）を多量含む。一部土器の被熱により硬化している。

赤色砂利層
1層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量、炭化物粒を微量、赤砂利を少量混入。
2層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量、ロームブロック（～φ20mm）・炭化物粒を微量含む。赤砂利混入。
3層　暗黄褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。赤砂利微量混入。

P1
1層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、焼土粒を微量含む。
2層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒・焼土粒を少量含む。

P2
1層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、炭化物粒を微量含む。
2層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。
3層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量、ロームブロック（～φ15mm）を微量含む。

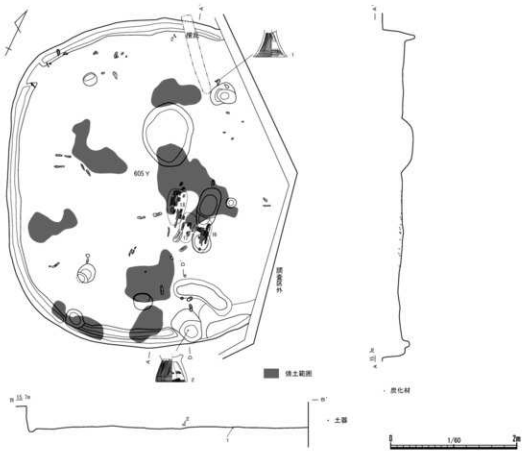
P3
1層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。
2層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量、ロームブロック（～φ10mm）を微量含む。

P4
1層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量、ロームブロック（φ5～10mm）・焼土粒・炭化物粒を微量含む。
2層　暗黄褐色土　締り強い、粘性強い、ロームブロック（φ20～30mm）を中量含む。

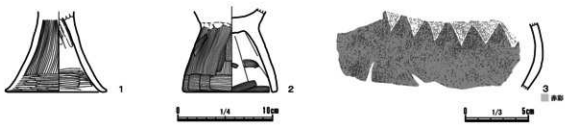
P5
1層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。

P6
1層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒（～φ5mm）を少量、焼土粒・ロームブロック（φ20～30mm）微量含む。
2層　にぶい黄褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロックを多量含む。

第 72 図　605 号住居跡（１／60）・炉（１／30）・貯蔵穴（１／30）



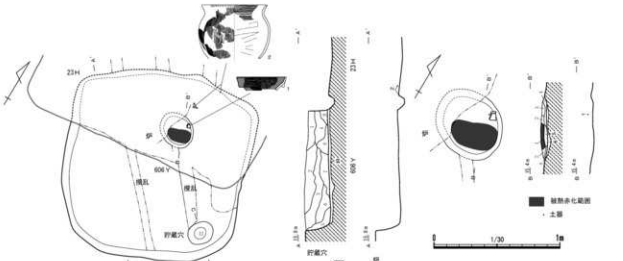
第 73 図　605 号住居跡遺物出土状態（1／60）



第 74 図　605 号住居跡出土遺物（1／4・1／3）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴
第 74 図 1 図版 39- 3 - 1	高坏	北部 （床面）	脚部 15%	高 [10.8] 底　(8.6)	にぶい橙	黒色粒子・白色粒子・石英	外面脚部縦磨き／内面横ナデ
第 74 図 2 図版 39- 3 - 2	甕	北壁付近覆土中 （床上 6cm）	脚台部 10%	高　[8.5] 底　10.0	にぶい橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・シャモット	台付甕／脚台部縦位ハケ後、下端部横ハケ／内面胴部横ナデ、脚台部横ナデ
第 74 図 3 図版 39- 3 - 3	壺	貯蔵穴	胴部 5 % 未満	厚　0.7	にぶい赤褐	黒色粒子・白色粒子・石英・シャモット	ＲＬ横位施文後、磨消による連続山形文、無文部磨き、赤彩／内面横ナデ

第 38 表　605 号住居跡出土遺物一覧

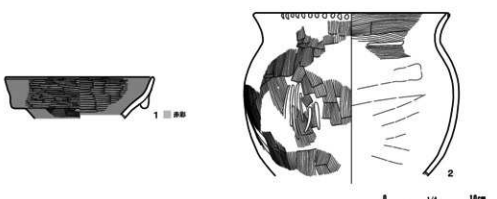


606号住居跡
1層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を中量、炭化物粒を少量、ロームブロック（φ2～15mm）を微量含む。
2層　暗黄褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量、炭化物粒を中量、ロームブロック（φ2～10mm）を多量含む。
3層　暗黒褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を中量、ロームブロック（φ2～5mm）を微量含む。
4層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量、炭化物粒を微量、ロームブロック（φ2～15mm）を少量含む。
5層　暗黄褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量、ロームブロック（φ2～5mm）を中量含む。
6層　黒褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を少量、炭化物粒を微量、ロームブロック（～φ2mm）を微量含む。
7層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック（φ2～30mm）を中量含む。
8層　暗黒褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、ロームブロック（φ2～20mm）を多量含む。
9層　黒褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量、ロームブロック（～φ2mm）を微量含む。
10層　暗黄褐色土　締り強い、粘性強い、ローム土体、上面中心に暗褐色土ブロック混在。

貯蔵穴
1層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。
2層　褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量、炭化物粒を微量含む。

炉
1層　暗赤褐色土　締り強い、粘性やや弱い、焼土粒・焼土ブロック（φ3～10mm）を多量、炭化物粒を微量含む。
2層　褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ10～20mm）を多量、焼土粒を少量含む。
3層　暗褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒・焼土粒を少量含む。
4層　暗黄褐色土　締り強い、粘性やや強い、ロームブロック（φ5～10mm）を少量、ローム粒を多量含む。
5層　黄褐色土　締り強い、粘性やや弱い、暗褐色土を中量含む。
6層　暗黄褐色土　締り強い、粘性強い、ローム土体、上面中心に暗褐色土ブロック混在。

第 75 図　606 号住居跡（１／60）・炉（１／30）



第 76 図　606 号住居跡出土遺物（１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴
第 76 図 1 図版 40- 1 - 1	壺	炉内部 （床上３cm）	口縁部 ～胴部 ５％ 未満	高［15.8］ 口　(4.4)	明赤褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子	複合口縁／外面頸部縦ハケ、口縁部横磨き／内面ハケ調整後、横磨き／内外面赤彩
第 76 図 2 図版 40- 1 - 2	甕	炉北側 覆土中 （床上 8cm）	口縁部 ～胴部 30％	高［17.1］ 口 (20.0)	褐灰	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英・シャモット	外面口唇部に木口状工具によるキザミ、口縁部縦ハケ、胴部縦及び斜位のハケ後、部分的に縦ナデ／内面口縁部から胴部上端横ハケ、胴部横ナデ

第 39 表　606 号住居跡出土遺物一覧

［時　　期］弥生時代後期後半。

遺　　物（第 76 図、図版 40 － 1、第 39 表）

［土　　器］（第 76 図１・２、図版 40 － 1 － 1・２、第 39 表）

１は壺形土器の口縁部から胴部、２は甕形土器の口縁部から胴部である。

607 号住居跡

遺　　構（第 77 図）

［位　　置］（Ｆ－２）グリッド。

［検出状況］トレンチャーによる攪乱が床面以下まで及ぶため、遺存状態はやや悪い。北東側は調査区外へ延びる。床面が被熱により赤化することと炭化材が集中して検出されたことから、焼失住居の可能性が高い。

［構　　造］**平面形：**隅丸方形を呈する。**規模：**3.96m ／ 2.33m 以上／深さ 33㎝。**主軸方位：**Ｎ－ 46°－Ｗである。**壁溝：**調査範囲では西隅以外では認められる。上幅３～９㎝／下幅３～９㎝／深さ３～６㎝。**床面：**貼床されるが、若干の起伏が認められる。**炉：**住居跡中央やや北側に位置している。平面形は不整円形を呈すると思われる。断面形は皿状を呈する。規模は 82 × 52㎝、深さ９㎝である。**柱穴：**４本検出された。Ｐ１は 22 × 21㎝、深さ 13㎝、Ｐ２は 31 × 26㎝、深さ 58㎝、Ｐ３は 32 × 24㎝、深さ 51㎝、Ｐ４は 45 × 41㎝、深さ 31㎝である。Ｐ２・３が主柱穴で４本主柱の住居跡であろう。Ｐ４は入口施設と思われる。**貯蔵穴：**検出されなかった。**凸堤：**Ｐ４の北西に位置し、直線状を呈す。規模は幅 23 ～ 33㎝、高さ３～４㎝である。**赤色砂利層：**検出されなかった。

［覆　　土］11 層に分層される。11 層が掘り方の埋土である。覆土は褐色土から暗褐色土を基本とした自然堆積である。

［遺　　物］壺形土器、甕形土器が出土している。１・２は炉の西側で床面からやや浮いた位置でつぶれて出土している。

［時　　期］弥生時代後期後半。

遺　　物（第 78 図、図版 40 － 2、第 40 表）

［土　　器］（第 78 図１～３、図版 40 － 2 － 1 ～３、第 40 表）

１は壺形土器の胴部から底部、２は甕形土器の口縁部から底部、３は甕形土器の脚台部である。

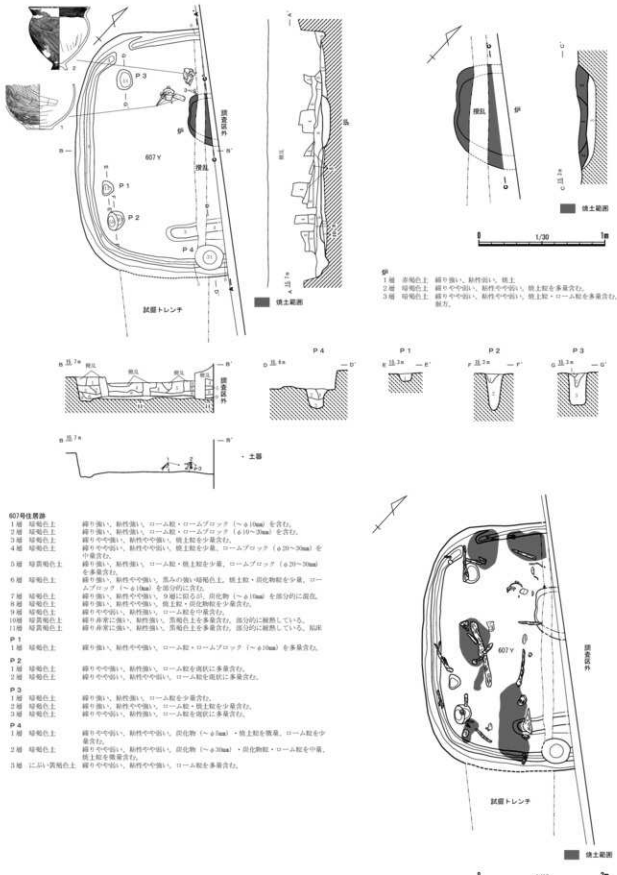
608 号住居跡

遺　　構（第 79 図）

［位　　置］（Ｆ－２・３）グリッド。

［検出状況］トレンチャーにより攪乱され遺存状態は悪い。

［構　　造］**平面形：**小判形を呈する。**規模：**3.79m ／ 3.45m ／深さ５㎝。**主軸方位：**Ｎ－ 49°－Ｅ。**壁溝：**全周するものと思われる。上幅８～ 18㎝／下幅３～８㎝／深さ５～９㎝。**床面：**貼床がなされ、概ね平坦である。**炉：**住居跡中やや北東に位置する。平面形は略楕円形で、断面形は浅い皿状を呈する。規模は 69 × 24㎝以上、深さ９㎝である。**柱穴：**１本検出された。Ｐ１は 31 × 29㎝、深さ 31㎝である。位置から入り口部のピット思われる。**貯蔵穴：**住居跡南東側に位置する。平面形は円形で、断面形は丸みのある底面から緩やかに立ち上がる。規模は 31 × 30㎝、深さ 14㎝である。**凸堤：**貯蔵穴の北側に



炉
1層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、焼土
2層　暗褐色土　締やや強い、粘性やや強い、焼土粒を多量含む。
3層　暗褐色土　締やや弱い、粘性やや強い、焼土粒・ローム粒を多量含む。
炭方。

607号住居跡
1層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック（～φ10mm）を含む。
2層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック（φ10～20mm）を含む。
3層　暗褐色土　締やや強い、粘性やや強い、焼土粒を少量含む。
4層　暗褐色土　締やや弱い、粘性やや強い、焼土粒を少量、ロームブロック（φ20～30mm）を
中量含む。
5層　暗黒褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒・焼土粒を少量、ロームブロック（φ20～30mm
を多量含む。
6層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、黒みの強い暗褐色土。焼土粒・炭化物粒を少量、ロー
ムブロック（～φ10mm）を部分的に含む。
7層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、3層に粒子が、炭化物（～φ10mm）を部分的に混在。
8層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、焼土粒・炭化物粒を少量含む。
9層　暗褐色土　締やや弱い、粘性強い、ローム粒を中量含む。
10層　暗黒褐色土　締やや弱い、粘性強い、黒褐色土を多量含む。部分的に縞無している。
11層　暗黒褐色土　締やや非常に強い、粘性強い、黒褐色土を多量含む。部分的に縞無している。貼床

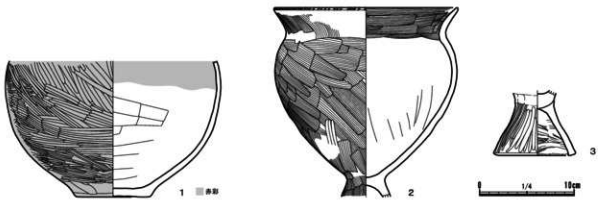
P 1
1層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（～φ10mm）を多量含む。

P 2
1層　暗褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を斑状に多量含む。
2層　暗褐色土　締やや弱い、粘性やや強い、ローム粒を斑状に多量含む。

P 3
1層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
2層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒・焼土粒を少量含む。
3層　暗褐色土　締やや弱い、粘性やや強い、ローム粒を斑状に多量含む。

P 4
1層　暗褐色土　締やや弱い、粘性やや強い、炭化物（～φ5mm）・焼土粒を微量、ローム粒を少
量含む。
2層　暗褐色土　締やや弱い、粘性やや強い、炭化物（～φ10mm）・炭化物粒・ローム粒を中量、
焼土粒を微量含む。
3層　にぶい黄褐色土　締やや弱い、粘性やや強い、ローム粒を多量含む。

第 77 図　607 号住居跡（1／60）・炉（1／30）



第 78 図　607 号住居跡出土遺物（１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴
第 78 図 1 図版 40-2-1	壺	炉西側 （床面～床上 11cm）	胴部～底部 50％	高 [14.4] 底　7.8	赤	黒色粒子・白色粒子・ 赤色粒子・シャモット	外面横ハケ後、横及び斜位の磨き、赤彩／内面横ナデ、一部赤彩
第 78 図 2 図版 40-2-2	甕	炉西側 （床面～床上 11cm）	口縁部 ～底部 70％	高 [20.0] 口　19.4	にぶい橙	黒色粒子・白色粒子・ 赤色粒子・シャモット	台付甕／外面口唇部に木口状工具によるキザミ、口縁部縦ハケ後、胴部最大径以下縦及び斜位のハケ後、胴部最大径以上横及び斜位のハケ、脚台部縦ハケ／内面口縁部横ハケ、胴部横ナデ
第 78 図 3 図版 40-2-3	甕	炉西側 （床上 3cm）	脚台部 15％	高 [8.8] 底 (7.0)	にぶい褐	黒色粒子・白色粒子・ シャモット	台付甕／外面接合部横ナデ、脚台部縦ハケ後、縦ナデ／内面脚台部横ナデ

第 40 表　607 号住居跡出土遺物一覧

位置し、弧状をを呈す。規模は幅 19 ～ 24㎝、高さ 4㎝である。**赤色砂利層**：検出されなかった。

［覆　　土］２層に分層される。２層が掘り方埋土である。覆土は暗黄褐色土を基本とした自然堆積と思われる。

［遺　　物］図示できる遺物は出土していない。

［時　　期］弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭。

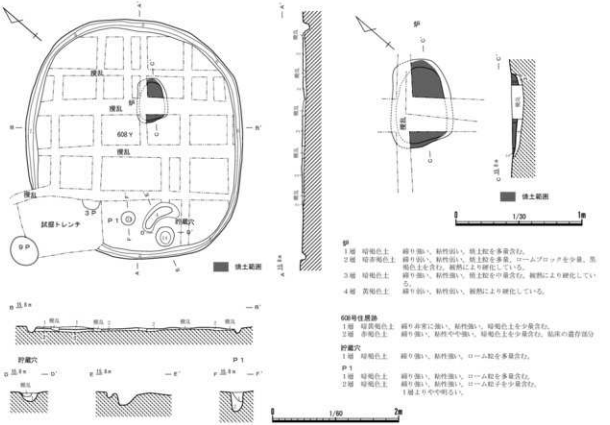
609 号住居跡

遺　　構（第 80 図）

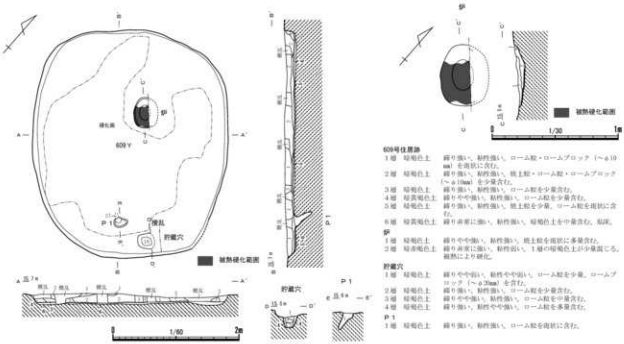
［位　　置］（Ｅ－３）グリッド。

［検出状況］遺存状態は概ね良好である。

［構　　造］**平面形**：略小判形を呈する。**規模**：3.61m ／ 3.10m ／深さ 16㎝。**主軸方位**：Ｎ－ 35°－Ｗである。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：貼床がなされ平坦である。住居跡中央部を中心に硬化面が認められる。**炉**：住居跡中央やや北西側に位置する。規模は 49 × 39㎝、深さ７㎝である。**柱穴**：１



第 79 図　608 号住居跡（１／60）・炉（１／30）



第 80 図　609 号住居跡（１／60）・炉（１／30）

本検出された。P 1は22×17㎝、深さ27㎝で、位置からして入り口部のピットであろう。**貯蔵穴**：住居跡南東辺中央やや東側に位置する。平面形は隅丸方形で、断面形は丸みを帯びる底面から緩やかに立ち上がる。規模は26×25㎝、深さ18㎝である。**凸堤**：検出されなかった。**赤色砂利層**：検出されなかった。

［覆　　土］6層に分層される。暗褐色土を基本とした自然堆積である。

［遺　　物］図示できる遺物は出土していない。

［時　　期］弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭。

610号住居跡

遺　　構（第81図）

［位　　置］（F－4）グリッド。

［検出状況］攪乱が床下まで及ぶところがあるため、遺存状態はやや悪い。

［構　　造］**平面形**：隅丸方形を呈する。**規模**：2.95m／2.89m／深さ16㎝。**主軸方位**：N－53°－Eである。**壁溝**：ほぼ全周する。上幅10～20㎝／下幅2～8㎝／深さ3～8㎝。**床面**：貼床がなされ、概ね平坦である。**炉**：住居跡中央やや北西に位置する。平面形は略楕円形で、断面形は皿状を呈する。規模は49×44㎝、深さ5㎝である。**柱穴**：5本検出された。P 1は18×17㎝、深さ10㎝、P 2は20×20㎝、深さ14㎝、P 3は21×20㎝、深さ13㎝、P 4は20×18㎝、深さ12㎝、P 5は24×20㎝、深さ12㎝である。P 1～3が主柱穴であろう。北側の柱穴は攪乱のため壊されていると思われ、4本主柱の住居跡であろう。P 5は位置からして入り口部のピットだと推定される。**貯蔵穴**：南東隅付近に位置し、南東壁に接して築かれている。平面形は楕円形で、断面形は丸みを帯びる底面から緩やかに立ち上がる。規模は35×28㎝、深さ24㎝である。**凸堤**：P 5・貯蔵穴の北西側に位置し、直線状を呈す。幅8～22㎝、高さ3㎝程である。**赤色砂利層**：検出されなかった。

［覆　　土］10層に分層される。9・10層が掘り方の埋土である。覆土は暗褐色土を基本とした自然堆積である。

［遺　　物］甕形土器が出土している。

［時　　期］弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭。

遺　　物（第82図、図版40－3、第41表）

［土　　器］（第82図1、図版40－3－1、第41表）

1は甕形土器の口縁部から底部である。

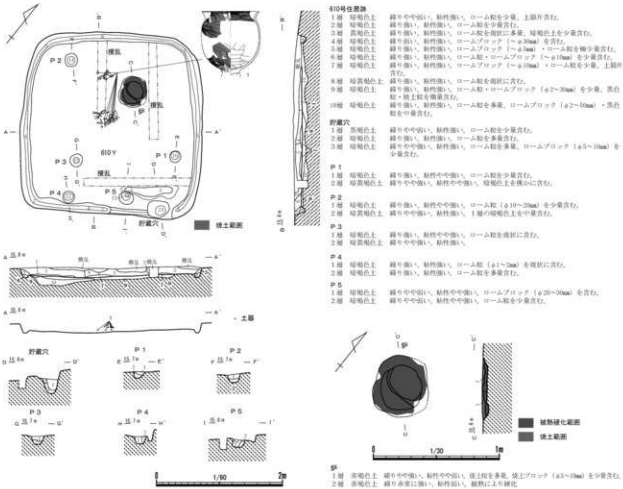
611号住居跡

遺　　構（第83・84図）

［位　　置］（F・G－3・4）グリッド。

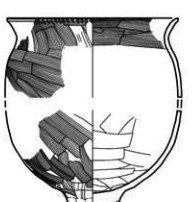
［検出状況］攪乱が部分的に床下まで及ぶため、遺存状態はやや悪い。

［構　　造］**平面形**：隅丸長方形を呈する。**規模**：4.63m／4.32m／深さ36㎝。**主軸方位**：N－48°－Wである。**壁溝**：西隅付近で認められない。その他の部分では断続的に認められる。上幅10～29㎝／下幅5～10㎝／深さ3～11㎝。**床面**：貼床がなされるが、壁際から住居跡中央に向かい緩やかに傾斜する。**炉**：住居跡中央やや北西側に位置する。平面形は略楕円形で、断面は皿形を呈する。炉内の



610号住居跡
1 層　暗褐色土　締りやや弱い、粘性強い、ローム粒を少量、土器片含む。
2 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
3 層　黄褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を斑状に多量、暗褐色土を少量含む。
4 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
5 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
6 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
7 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
8 層　暗黄褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を斑状に含む。
9 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒・ローム粒を少量含む。
10層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量、ローム粒を少量含む。
貯蔵穴
1 層　黒褐色土　締りやや弱い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
2 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。
3 層　暗褐色土　締りやや弱い、粘性強い、ローム粒を多量、ローム粒を少量含む。
P 1
1 層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。
2 層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、暗褐色土を斑状に含む。
P 2
1 層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。
2 層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性強い、1 層の暗褐色土を中量含む。
P 3
1 層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を斑状に含む。
2 層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性強い。
P 4
1 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒（φ1～3mm）を斑状に含む。
2 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。
P 5
1 層　暗褐色土　締りやや弱い、粘性やや強い、ローム粒ブロック（φ20～30mm）を含む。
2 層　暗褐色土　締りやや弱い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。
炉
1 層　赤褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、焼土粒を多量、焼土ブロック（φ5～10mm）を少量含む。
2 層　赤褐色土　締り赤黒に強い、粘性強い、被熱による硬化

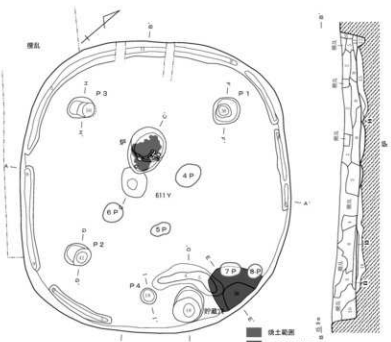
第 81 図　610 号住居跡（１／60）・炉（１／30）



第 82 図　610 号住居跡出土遺物（１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴
第 82 図 1 図版 40- 3- 1	甕	炉西側・炉南側 （床上３～ 11cm）	口縁部 ～底部 40%	高　[20.2] 口　(18.1)	褐	黒色粒子・白色粒子・ 赤色粒子・石英・ シャモット	台付甕／外面口唇部に木口状工具による中ザミ、胴部下半斜位のハケ、胴部上半横ハケ後、口縁部縦ハケ／内面胴部横ナデ、口縁部横ハケ

第 41 表　610 号住居跡出土遺物一覧



611号住居跡

1 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
2 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ロームブロック（～φ10mm）を少量、焼土粒を極少量、ローム粒を中量含む。
3 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒・焼土粒を多量、炭化物粒・ロームブロック（～φ10mm）を少量、焼土ブロックを含む。
4 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒（φ1～2mm）を少量、ロームブロック（φ5～10mm）を含む。
5 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を中量、ロームブロック（～φ30mm）を少量含む。
6 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック（φ10～20mm）を含む。
7 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ロームブロック（～φ10mm）を少量、炭化物粒・焼土粒を極少量、ローム粒を斑状に含む。
8 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒（～φ1mm）を斑状に多量含む。
9 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量、ロームブロック（～φ30mm）を含む。
10層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒（～φ1mm）を少量、ロームブロック（～φ20mm）を含む。
11層　黒褐色土　締りやや強い、粘性強い、焼土粒を少量含む。
12層　明黄褐色土　締り非常に強い、粘性やや強い、暗褐色土を多量含む。私床硬化層
13層　暗褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック（φ10～30mm）を斑状に少量含む。
14層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック（～φ10mm）を少量含む。
15層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック（～φ10mm）を少量含む。

赤色砂利層

1 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量、焼土粒を多量含む。
2 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ロームブロック（φ5～10mm）を少量、下層に焼土粒を少量含む。
3 層　赤褐色土　締り強い、粘性強い、焼土土体。（粘土粒）
4 層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、ロームブロック（φ2～15mm）を微量、焼土粒を少量含む。
5 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、炉の落ち込み、ローム粒・焼土粒・炭化物粒を微量含む。

P 1

1 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒（～φ1mm）を斑状に多量含む。
2 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。
3 層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量含む。

P 2

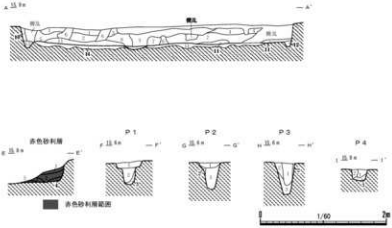
1 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
2 層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ロームブロック（φ10～20mm）を少量、ローム粒を多量含む。
3 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を含む。

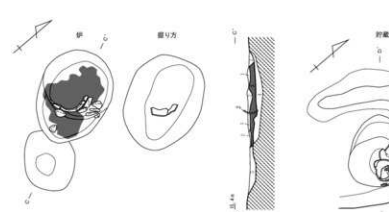
P 3

1 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を斑状に多量含む。
2 層　暗黄褐色土　締り強い、粘性やや強い、暗褐色土を多量、ローム粒を少量含む。
3 層　暗黄褐色土　締り強い、粘性強い、暗褐色土を少量、ロームブロック（～φ10mm）を含む。
4 層　暗黄褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。

P 4

1 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック（～φ10mm）を少量含む。
2 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒（φ1～2mm）を斑状に含む。
3 層　暗黄褐色土　締り強い、粘性やや強い、ロームブロック（φ5～10mm）を微量含む。





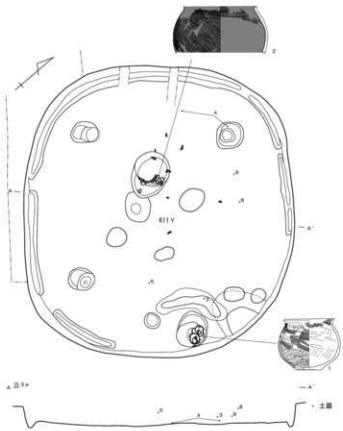
炉

1 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量、焼土粒を多量含む。
2 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ロームブロック（φ5～10mm）を少量、下層に焼土粒を少量含む。
3 層　赤褐色土　締り強い、粘性強い、焼土土体。（粘土粒）
4 層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、ロームブロック（φ2～15mm）を微量、焼土粒を少量含む。
5 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、炉の落ち込み、ローム粒・焼土粒・炭化物粒を微量含む。

貯蔵穴

1 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、ロームブロック（φ5～10mm）を微量含む。
2 層　暗黄褐色土　締り強い、粘性強い、ロームブロック土体
3 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量、ロームブロック（φ5～10mm）を少量含む。
4 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。
5 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を微量含む。

第 83 図　611 号住居跡（１／60）・炉（１／30）・貯蔵穴（１／30）



第 84 図　611 号住居跡遺物出土状態（１／60）

中央部分から赤彩された壺が出土している。全周はしないが炉体土器の一部と考えられる。また土器が検出された部分の底面で若干の段差が認められることから、炉の作り替えの可能性が高い。規模は 77 × 57㎝、深さ７㎝。**柱穴：** ４本検出された。Ｐ１は 43 × 42㎝、深さ 38㎝、Ｐ２は 42 × 35㎝、深さ 42㎝、Ｐ３は 43 × 34㎝、深さ 5㎝、Ｐ４は 26 × 26㎝、深さ 18㎝である。Ｐ１～３が主柱穴で、Ｐ４は入り口部のピットである。**貯蔵穴：** 南東側に位置する。平面形は略楕円形で、断面形は概ね平坦な底面から緩やかに立ち上がり、北側にテラスを持つ。規模は 57 × 50㎝、深さ 18㎝である。**凸堤：** 貯蔵穴の北西側に位置し、弧状を呈する。幅 24 ～ 30㎝、高さ４～５㎝である。**赤色砂利層：** 住居跡東隅に接して認められる。北端は凸堤を覆うように認められる。規模は 114 × 64㎝、高さ 26㎝である。

［覆　　土］16 層に分層される。14 ～ 16 層が掘り方の埋土である。覆土は暗褐色土を基本とした自然堆積である。

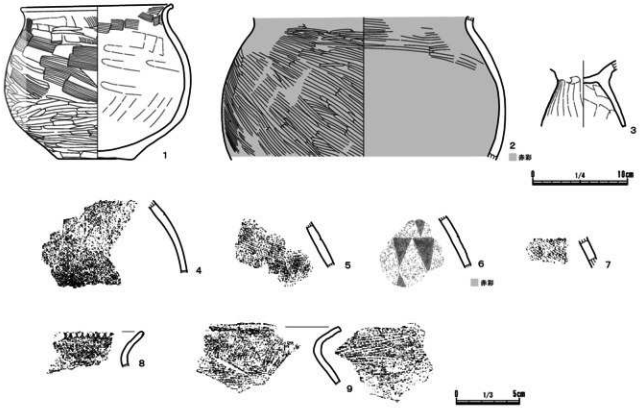
［遺　　物］壺形土器、甕形土器が出土している。１は貯蔵穴の上層から出土している。２は炉体土器の一部と思われる。

［時　　期］弥生時代後期後半。

遺　　物（第 85 図、図版 41 － 1、第 42 表）

［土　　器］（第 85 図１～９、図版 41 － 1 － 1 ～９、第 42 表）

１はほぼ完形の広口壺形土器、２は壺形土器の胴部から頸部、３は甕形土器の接合部、４～７は壺形土器の胴部上半、８・９は甕形土器の口縁部から頸部である。



第 85 図　611 号住居跡出土遺物（1／4・1／3）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴
第 85 図 1 図版 41- 1 - 1	広口壺	貯蔵穴内部	口縁部 ～底部 95%	高 16.1 口 16.1 底 8.0	にぶい橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・チャート・シャモット	外面胴部上半横及び斜位のハケ後、口縁部縦ハケ、その後口縁部から胴部上半部分的に横ナデ、胴部下半横ナデ／口縁部から胴部上端横ハケ、胴部横ナデ
第 85 図 2 図版 41- 1 - 2	壺	炉脇り方	胴部 30%	高 [15.0]	赤褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・シャモット	外面横ハケ後、横及び斜位の磨き、赤彩／内面横ハケ後、横磨き、赤彩
第 85 図 3 図版 41- 1 - 3	甕	貯蔵穴北側 覆土中 (床上 13cm)	接合部 15%	高 [6.9]	にぶい橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英・シャモット	台付甕／外面縦ナデ、煤付着／内面胴部下端横ナデ、脚台部横ナデ
第 85 図 4 図版 41- 1 - 4	壺	北部覆土中 (床上 4～7 cm)	胴部 5% 未満	厚 0.6	明赤褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・シャモット・礫	外面ハケ調整後磨き、ＲＬ横位施文、下端に連続鋸歯文／内面横ナデ
第 85 図 5 図版 41- 1 - 5	壺	覆土中	胴部 5% 未満	厚 0.5	にぶい橙	黒色粒子・白色粒子・シャモット	外面横ナデ後無節Ｒｌ横位施文、連続鋸歯文を重畳／内面横ナデ
第 85 図 6 図版 41- 1 - 6	壺	南東部覆土中 (床上 20cm)	胴部 5% 未満	厚 0.6	にぶい橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英・シャモット	外面無節羽状縄文横位施文後、連続鋸歯文を重畳させ赤彩／内面横ナデ
第 85 図 7 図版 41- 1 - 7	壺	覆土中	胴部 5% 未満	厚 0.7	橙	黒色粒子・白色粒子・シャモット	外面無節Ｒｌ横位施文後、ヘラ描き(連続鋸歯文か)／内面横ナデ
第 85 図 8 図版 41- 1 - 8	甕	東北部覆土中 (床上 27cm)	口縁部 5% 未満	厚 0.4	褐灰	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英	外面斜位のハケ後、横ナデ、口唇部等間隔にキザミ／内面ハケ調整後、横ナデ
第 85 図 9 図版 41- 1 - 9	甕	東北部覆土中 (床上 11cm)	口縁部 5% 未満	厚 0.6	褐灰	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・シャモット	外面口縁部縦ハケ後、胴部上半横ハケ／内面横ハケ／口唇部横ハケ

第 42 表　611 号住居跡出土遺物一覧

612 号住居跡

遺　構（第 86 図）

［位　置］（C・D－4・5）グリッド。

［検出状況］トレンチャーによる攪乱が床面下まで及ぶため、遺存状態はやや悪い。

［構　造］**平面形：**隅丸長方形を呈する。**規模：**3.15m ／ 2.71m ／深さ 14cm。**主軸方位：**長軸方位を主軸と考えると、N－53°－Eである。**壁溝：**北壁中央付近で途切れる以外は認められる。上幅 11 ～ 18cm／下幅 5 ～ 13cm／深さ 6 ～ 17cm。**床面：**北東側に向かいやや傾斜が認められる。**炉：**住居跡中央やや北に位置する。平面形は略楕円形の範囲で焼土が検出されたが、明確な掘り込みは見つからなかった。**柱穴：**検出されなかった。**貯蔵穴：**検出されなかった。**凸堤：**検出されなかった。**赤色砂利層：**検出されなかった。

［覆　土］10 層に分層される。10 層が掘り方の埋土である。覆土は暗褐色土を基本とした自然堆積である。

［遺　物］図示できる遺物は出土していない。

［時　期］弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭。

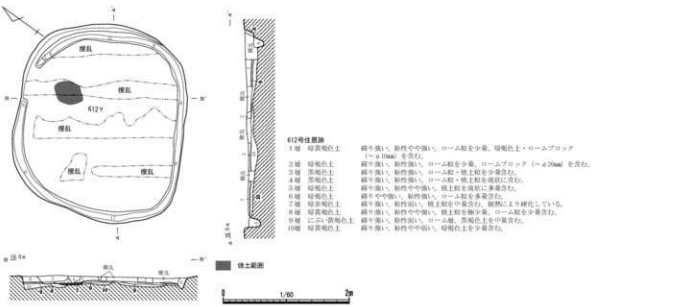
613 号住居跡

遺　構（第 87・88 図）

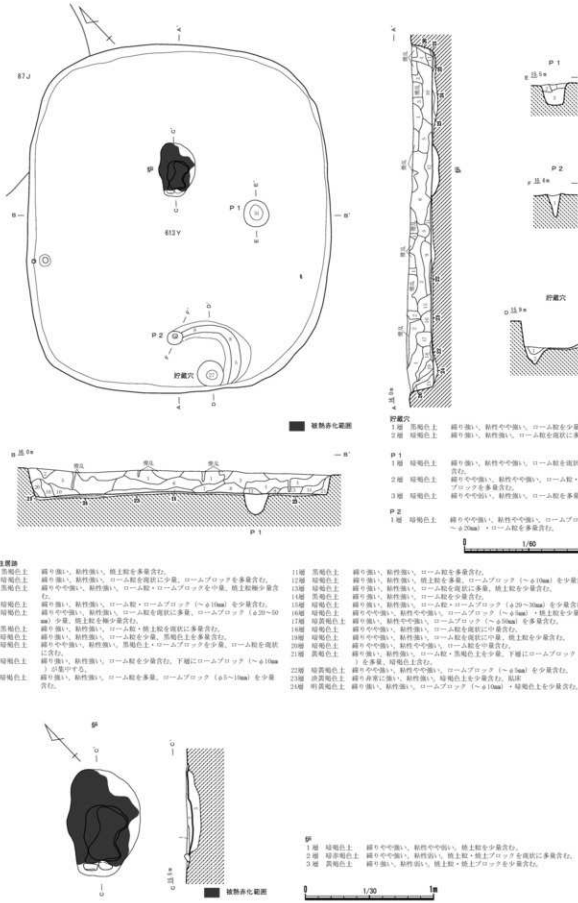
［位　置］（C－4）グリッド。

［検出状況］遺存状態は概ね良好である。北側で 87 J を切る。

［構　造］**平面形：**隅丸長方形を呈する。**規模：**5.43m ／ 4.75m ／深さ 44cm。**主軸方位：**N－47°－Eである。**壁溝：**検出されなかった。**床面：**貼床がなされるが、中央から西側に向かい若干傾斜する。**炉:**中央やや北東に位置している。平面形は不整楕円形で、断面形は皿状を呈する。規模は 84 × 57cm、



第 86 図　612 号住居跡（１／60）



613号住居跡

1層　黒褐色土　　締り強い、粘性強い、焼土粒を多量含む。
2層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を微状に少量、ロームブロックを多量含む。
3層　黒褐色土　　締りやや強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロックを中量、焼土粒極少量含む。
4層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック（～φ10mm）を少量含む。
5層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を微状に多量、ロームブロック（φ20～50mm）少量、焼土粒を極少量含む。
6層　黒褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒・焼土粒を微状に多量含む。
7層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量、黒褐色土を多量含む。
8層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性強い、黒褐色土・ロームブロックを少量、ローム粒を微状に含む。
9層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。下層にロームブロック（～φ10mm）が集中する。
10層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量、ロームブロック（φ5～10mm）を少量含む。
11層　黒褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。
12層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、焼土粒を多量、ロームブロック（～φ10mm）を少量含む。
13層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を微状に多量、焼土粒を少量含む。
14層　黒褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
15層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック（φ20～30mm）を少量含む。
16層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（～φ3mm）・焼土粒を少量含む。
17層　暗黄褐色土　締り強い、粘性やや強い、ロームブロック（～φ10mm）を多量含む。
18層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を微状に中量含む。
19層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を微状に中量、焼土粒を少量含む。
20層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を中量含む。
21層　黒褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒・黒褐色土を少量。下層にロームブロック（～φ20mm）を多量、暗褐色土含む。
22層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ロームブロック（～φ5mm）を少量含む。
23層　淡黄褐色土　締りやや強い、粘性強い、暗褐色土を少量含む。粘土。
24層　明黄褐色土　締り強い、粘性強い、ロームブロック（～φ10mm）・暗褐色土を少量含む。

貯蔵穴

1層　黒褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。
2層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を微状に多量含む。

P 1

1層　暗褐色土　　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を微状に少量含む。
2層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロックを多量含む。
3層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。

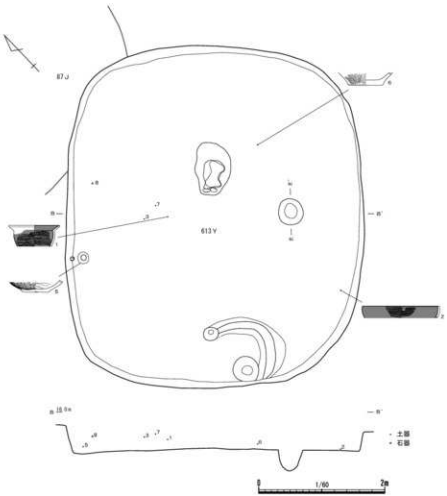
P 2

1層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ロームブロック（～φ20mm）・ローム粒を多量含む。

炉

1層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、焼土粒を少量含む。
2層　暗赤褐色土　締りやや強い、粘性弱い、焼土粒・焼土ブロックを微状に多量含む。
3層　黒褐色土　　締り強い、粘性弱い、焼土粒・焼土ブロックを少量含む。

第87図　613号住居跡（1／60）・炉（1／30）



第 88 図　613 号住居跡遺物出土状態（１／60）

深さ５㎝である。底面は被熱により赤化している。**柱穴**：２本検出された。Ｐ１は 42 × 39㎝、深さ 34㎝、Ｐ２は 23 × 23㎝、深さ 36㎝である。Ｐ２は位置から、入り口部のピットである。**貯蔵穴**：南西壁やや中央やや東側に位置し、壁に接し築かれている。規模は 43 × 35㎝、深さ 25㎝である。**凸堤**：貯蔵穴の南東から北側に位置し、弧状を呈する。北端はＰ２と接続する。規模は幅 22 ～ 41㎝、高さ８㎝である。**赤色砂利層**：検出されなかった。

［覆　　土］24 層に分層される。暗褐色土を基本する。ブロック状に堆積することから人為的な埋め戻しと思われる。

［遺　　物］鉢形土器、高坏形土器、壺形土器、甕形土器、砥石が出土している。

［時　　期］弥生時代後期後半。

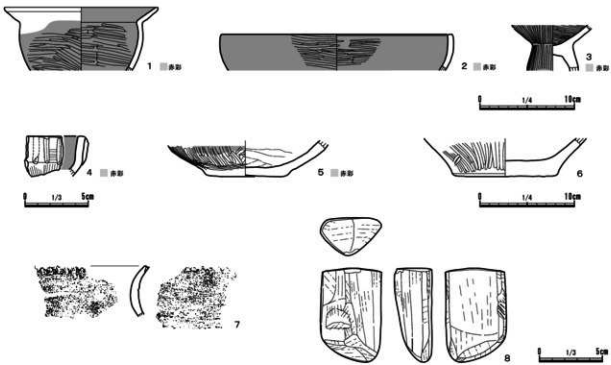
遺　物（第 89 図、図版 41 －２、第 43 表）

［土　　器］（第 89 図１～７、図版 41 －２－１～７、第 43 表）

１・２は鉢形土器の口縁部、３は高坏形土器の接合部、４は壺形土器の口縁部、５・６は壺形土器の底部、７は甕形土器の口縁部である。

［石 製 品］（第 89 図８、図版 41 －２－８、第 43 表）

８は砥石である。



第 89 図　613 号住居跡出土遺物（1／4・1／3）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴
第 89 図 1 図版 41・2・1	鉢	炉西側覆土中 (床上 17cm)	口縁部 ～胴部 10%	高　[6.7] 口　(16.2)	赤褐	黒色粒子・白色粒子・チャート・シャモット	外面口縁部横ナデ，体部横及び斜位の磨き／内面横磨き／内外面赤彩
第 89 図 2 図版 41・2・2	鉢	南東壁付近覆土中 (床上 2cm)	口縁部 5％ 未満	高　[3.8] 口　(24.3)	褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英・シャモット	外面横磨き／内面横ハケ後，横磨き／内外面赤彩
第 89 図 3 図版 41・2・3	高坏	中央部覆土中 (床上 22cm)	接合部 15%	高　[4.8]	にぶい 赤褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・シャモット・礫	外面縦磨き／内面坏部横磨き，脚部横ナデ
第 89 図 4 図版 41・2・4	壺	覆土中	口縁部 5％ 未満	高　[3.5]	にぶい 黄橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英・シャモット	受け口状口縁／外面口縁部横ハケ後，棒状浮文を３条貼り付け，頸部縦ハケ／内面横ナデ
第 89 図 5 図版 41・2・5	壺	西壁付近 (床上 8cm)	胴部～底部 20%	高　[3.4] 底　8.5	黒褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英・シャモット	外面ハケ調整後，縦及び横磨き，赤彩／内面横ナデ／
第 89 図 6 図版 41・2・6	壺	中央部覆土中 (床上 10cm)	胴部～底部 15%	高　[4.0] 底　11.0	にぶい橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・シャモット	外面縦磨き，赤彩／内面横ナデ
第 89 図 7 図版 41・2・7	甕	中央部覆土中 (床上 26cm)	口縁部 5％ 未満	厚　0.7	にぶい橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英・シャモット	外面縦ハケ後，口唇部に木口状工具によるキザミ／内面横ハケ

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石　材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特　徴
第 89 図 8 図版 41・2・8	砥石	北西壁付近覆土中 (床上 23cm)	完形	凝灰岩	74.3	48.5	30	146.9	全面に研磨痕／欠損部にも研磨痕があり再生されている／全体に滑らかになっているが，特に上端面が平滑

第 43 表　613 号住居跡出土遺物一覧

614 号住居跡

遺　　構（第 90 図）

［位　　置］（Ｃ・Ｄ－６）グリッド。

［検出状況］トレンチャーによる攪乱が床面下まで及ぶため、遺存状態は悪い。４柵に切られる。

［構　　造］**平面形：**隅丸台形を呈する。**規模：**3.13m ／ 2.99m ／深さ９㎝。**主軸方位：**Ｎ－ 35°－Ｗである。**壁溝：**検出されなかった。**床面：**貼床がなされ平坦であるが、北東側に向かい若干傾斜している。**炉：**中央やや北東に位置している。平面形は略楕円形を呈する。規模は 84 × 57㎝。掘り込みは確認されなかった。**柱穴：**検出されなかった。**貯蔵穴：**検出されなかった。**凸堤：**検出されなかった。**赤化砂利層：**検出されなかった。

［覆　　土］２層に分層される。２層が掘り方の埋土である。覆土は黒褐色土と暗黄褐色土による自然堆積である。

［遺　　物］図示できる遺物は出土していない。

［時　　期］弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭。

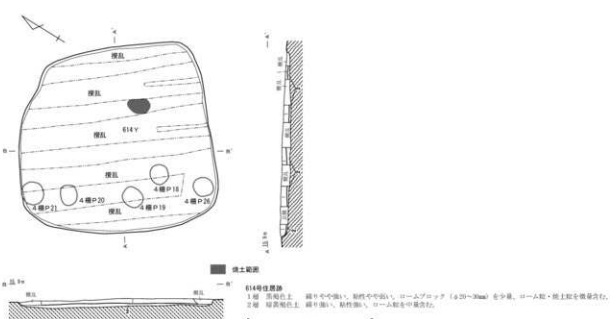
615 号住居跡

遺　　構（第 91 図）

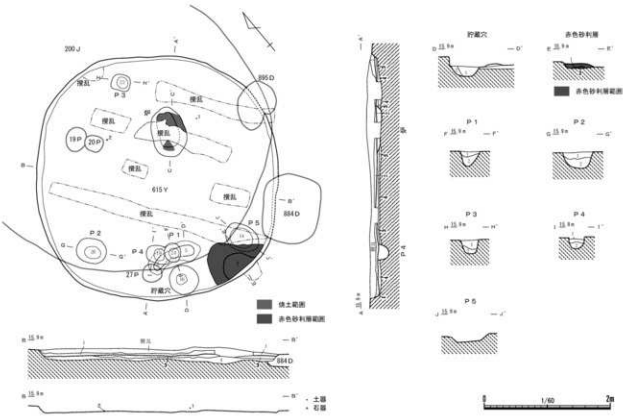
［位　　置］（Ｂ・Ｃ－４・５）グリッド。

［検出状況］大きく攪乱されているため、遺存状態は悪い。

［構　　造］**平面形：**略円形を呈する。**規模：**3.87m ／ 3.84m ／深さ７㎝。**主軸方位：**Ｎ－ 43°－Ｗである。**壁溝：**検出されなかった。**床面：**貼床がなされるが、若干凹凸が認められる。**炉：**住居跡中央やや北東で検出された。平面形は楕円形で、断面形は皿状を呈する。規模は 80 × 54㎝、深さ５㎝である。底面は被熱により赤化している。**柱穴：**５本検出された。Ｐ１は 31 × 26㎝、深さ 24㎝、Ｐ２は 48 ×



第 90 図　614 号住居跡（１／ 60）



615号住居跡
1層　暗褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を斑状に少量含む。
2層　暗褐色土　締りやや強い、粘性強い、焼土粒を多量含む。
3層　褐色土　締り非常に強い、粘性強い、暗褐色土を少量含む、強く被覆している（貼床）
4層　褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を斑状に少量含む。

貯蔵穴
1層　暗褐色土　締りやや強い、粘性強い、下層にローム粒を中量含む。
2層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。

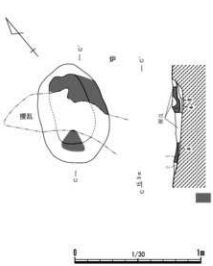
赤色砂利層
1層　暗赤褐色土　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム粒・ロームブロック（φ2～20mm）を多量、赤砂利を中量含む。
2層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、ロームブロック（～φ2mm）を微量含む。

P 1
1層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ2～20mm）を微量含む。
2層　暗黄褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を微量含む。

P 2
1層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、ロームブロック（φ1～4mm）を少量含む。
2層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。

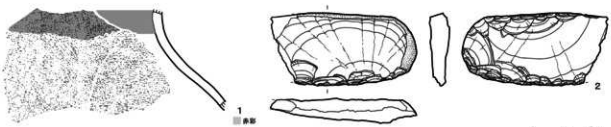
P 3
1層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を微量含む。
2層　褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を微量含む。

P 4
1層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
2層　褐色土　締りやや強い、粘性強い、暗褐色土を少量含む。



炉
1層　暗赤褐色土　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム粒を少量、焼土粒・焼土ブロック（φ2～20mm）を多量含む。
2層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒・焼土粒を微量含む。
3層　明赤褐色土　締り強い、粘性強い、暗褐色土を少量含む。
4層　褐色土　締り強い、粘性強い、炭化物・焼土粒を微量含む。

第 91 図　615 号住居跡（1／60）・炉（1／30）



第 92 図　615 号住居跡出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴
第 92 図 1 図版 42- 1 - 1	壺	中央部覆土中 (床上 5 ㎝)	頸部～胴部 10% 未満	厚　0.7	にぶい 黄橙	黒色粒子・白色粒子・ 赤色粒子・石英・ シャモット	S 字状結節を伴う無節 R L を 3 段以上横位施文、無文部磨き、赤彩／内面横ナデ、頸部赤彩

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (㎜)	幅 (㎜)	厚さ (㎜)	重量 (g)	特徴
第 92 図 2 図版 42- 1 - 2	削器	中央部東側 覆土中 (床上 2 ㎝)	右側 残存	粘板岩	57.6	(115.8)	19.5	159.5	左側を欠損／石匙丁と同じ使われ方か／下部は表裏面とも細かな調整が行われる／上部裏面は自然面に対し鋭角で、細かな調整が行われている

第 44 表　615 号住居跡出土遺物一覧

39㎝、深さ 26㎝、Ｐ３は 30 × 27㎝、深さ 22㎝、Ｐ４は 38 × 30㎝、深さ 19㎝、Ｐ５は 57 × 42㎝、深さ 14㎝である。Ｐ２・３・５が主柱穴で、北東側の柱穴を攪乱により欠くが、本来は４本主柱の住居跡であろう。Ｐ１・４は重複するがともに入り口部のピットであろう。**貯蔵穴**：南西壁中央やや東側に位置し、壁に接し築かれている。平面形は略円形で、断面は平坦底面から内湾して立ち上がる。規模は 47 × 46㎝、深さ 16㎝である。北東側に凸堤を伴う。**凸堤**：貯蔵穴の北側に位置し、緩い弧状を呈する。規模は幅 25 ～ 36㎝、高さ３～５㎝である。**赤色砂利層**：南壁に接して認められ、Ｐ５の掘り方を覆う。規模は 95 × 68㎝、高さ７㎝である。

［覆　　土］４層に分層される。暗褐色土を基本とした自然堆積である。

［遺　　物］壺形土器、削器が出土している。

［時　　期］弥生時代後期後半。

遺　物（第 92 図、図版 42 － 1、第 44 表）

［土　　器］（第 92 図 1、図版 42 － 1 － 1、第 44 表）

１は壺形土器の頸部から胴部上半である。

［石 製 品］（第 92 図 2、図版 42 － 1 － 2、第 44 表）

２は粘板岩製の削器である。

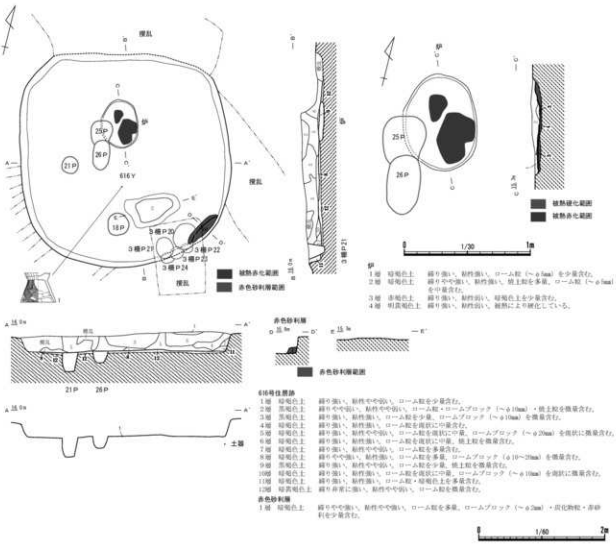
616 号住居跡

遺　構（第 93 図）

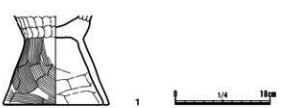
［位　　置］（Ｂ－５・６）グリッド。

［検出状況］北壁が攪乱されているが、概ね遺存状態は良好である。

［構　　造］**平面形**：平面形は隅丸方形を呈する。**規模**：3.38m ／ 3.37m ／深さ 30㎝。**主軸方位**：N



第 93 図　616 号住居跡（1／60）・炉（1／30）



第 94 図　616 号住居跡出土遺物（1／4）

掲図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴
第 94 図 1 図版 42- 2- 1	甕	中央部 掘り方	脚台部 20%	高 [9.4] 底 11.3	にぶい橙	黒色粒子・白色粒子・ シャモット	台付甕／外面接合部指押さえ痕、脚台部縦ハケ／内面胴部下端横ナデ、脚台部横ナデ

第 45 表　616 号住居跡出土遺物一覧

－71°－E。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：貼床がなされ、概ね平坦である。**炉**：住居跡中央やや北側に位置する。平面形は楕円形で、断面は皿状を呈する。規模は78×56㎝、深さは9㎝である。**柱穴**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**凸堤**：住居跡中央やや南東側に位置し、不整形を呈する。規模は幅26～48㎝、高さ2㎝の不整形の僅かな高まりである。**赤色砂利層**：南東隅壁に接して認められる。規模は64×17㎝、高さ11㎝である。

［覆　　土］12層に分層される。12層が掘り方の埋土である。覆土は黒褐色土から暗褐色土を基本とする。ブロック状に堆積することから人為堆積と思われる。

［遺　　物］甕形土器が出土している。

［時　　期］弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭。

遺　物（第94図、図版42－2、第45表）

［土　　器］（第94図1、図版42－2－1、第45表）

1は甕形土器の脚台部である。

617号住居跡

遺　構（第95図）

［位　　置］（A・B－6）グリッド。

［検出状況］炉と柱穴、わずかな床面の検出のみで、遺存状態は悪い。619Yと切り合うが、先後は不明である。3層に切られる。

［構　　造］**平面形**：略隅丸方形と推定される。**規模**：4.5m／4.22m／深さ3㎝。**主軸方位**：N－42°－W。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：床面の掘り方がわずかに検出された。**炉**：中央やや北東側に位置しているものと思われる。平面形は楕円形で、断面形は皿状を呈する。規模は73×62㎝、深さ5㎝である。**柱穴**：3本検出された。P1は35×33㎝、深さ54㎝、P2は48×40㎝、深さ48㎝、P3は30×27㎝、深さ36㎝である。いずれも主柱穴と思われる。**貯蔵穴**：検出されなかった。**凸堤**：検出されなかった。

赤色砂利層：検出されなかった。

［覆　　土］2層に分層される。2層が掘り方の埋土である。覆土は暗褐色土を呈する。

［遺　　物］図示できる遺物は出土していない。

［時　　期］弥生時代後期後半。

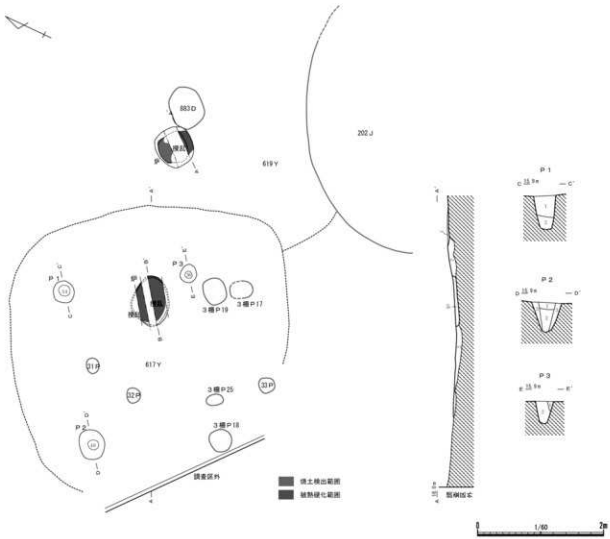
618号住居跡

遺　構（第96・97図）

［位　　置］（B・C－5・6）グリッド。

［検出状況］遺存状態は良好である。覆土の堆積状況の観察より内側の住居と外側の住居との切り合いはなく入れ籠状ではないことと、同心円状の住居の平面配置から拡張したものと考えられる。2・3層に切られる。

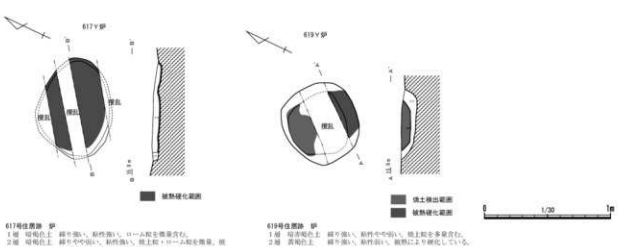
［構　　造］**平面形**：新旧の住居跡とも小判形を呈する。**規模**：拡張前住居跡で5.19m／3.93m、拡張後の住居跡で6.18m／4.85m／深さ34㎝。**主軸方位**：N－36°－W。**壁溝**：拡張前住居に伴うと考えられ、全周する。上幅13～25㎝／下幅9～14㎝／深さ7～15㎝。**床面**：やや凹凸が見られ、東側に向かい傾斜している。住居跡中央付近には硬化面が認められる。焼失住居と思われ、床面に部分的



617号住居跡
1層　暗褐色土　締り強い、粘性やや弱い、ロームブロック（～φ5mm）を微量含む。
2層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。

P1
1層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム粒を疎状に多量含む。
2層　暗黄褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。

P2
1層　暗褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を疎状に多量含む。
2層　黒褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
3層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム粒を多量含む。



617号住居跡　炉
1層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を微量含む。
2層　暗褐色土　締りやや強い、粘性強い、焼土粒・ローム粒を微量、焼土ブロックを含む。下層は被熱により硬化している。

619号住居跡　炉
1層　暗赤褐色土　締り強い、粘性やや弱い、焼土粒を多量含む。
2層　黄褐色土　締り強い、粘性弱い、被熱により硬化している。

第 95 図　617 号住居跡・619 号住居跡（1／60）・617 号住居跡炉・619 号住居跡炉（1／30）

に焼土、炭化材が認められる。**炉**：住居跡中央やや北西側に位置する。平面形は不整楕円形を呈し、断面形は丸みを帯びる底面から非常に緩やかに立ち上がる。底面は被熱により赤化している。規模は66×59㎝、深さ4㎝である。**柱穴**：6本検出された。P1は53×40㎝、深さ49㎝、P2は38×33㎝、深さ44㎝、P3は36×35㎝、深さ43㎝、P4は27×25㎝、深さ33㎝、P5は39×35㎝、深さ56㎝、P6は22×22㎝、深さ27㎝である。P1～3・5が主柱穴である。P1が旧住居跡壁溝と重複することから、拡張に伴いP1～3・5が作られたと考えられる。P6が位置と斜めに穿たれていることから入り口ピットと思われる。**貯蔵穴**：住居跡南東隅付近に位置する。平面形は楕円形で、断面形はテラスを持つ箱形を呈する。規模は74×60㎝、深さ18㎝である。**凸堤**：貯蔵穴北側から東側に位置し、弧状を呈する。規模は幅24～36㎝、高さ6㎝である。**赤色砂利層**：規模は71×42㎝、高さ16㎝である。

［覆　　土］18層に分層される。18層が掘り方の埋土である。覆土は暗褐色土を中心とする自然堆積を基本とする。

［遺　　物］壺形土器、甕形土器、磨製石斧、敲石・磨石が出土している。

［時　　期］弥生時代後期後半。

遺　　物（第98図、図版42－3、第46表）

［土　　器］（第98図1～3、図版42－3－1～3、第46表）

1は胴部下半に稜を持つ壺形土器、2・3は甕形土器の脚台部である。

［石　　器］（第98図4～6、図版42－3－4～6、第46表）

4は珪質岩の磨製石斧、5は緑色岩の磨製石斧、6は砂岩製の敲石・磨石である。

619号住居跡

遺　　構（第95図）

［位　　置］（A・B－6）グリッド。

［検出状況］炉のみの検出で、遺存状態は悪い。202Jを切り、3棚に切られる。617Yとの先後は不明である。

［構　　造］**平面形**：不明。**規模**：不明。**主軸方位**：不明。壁高：不明。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：不明。**炉**：平面形は略円形で、断面形は皿状を呈する。規模は63×60㎝、深さ11㎝である。底面は被熱により赤化する。**柱穴**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**凸堤**：検出されなかった。**赤色砂利層**：検出されなかった。

［覆　　土］不明。

［遺　　物］図示できる遺物は出土していない。

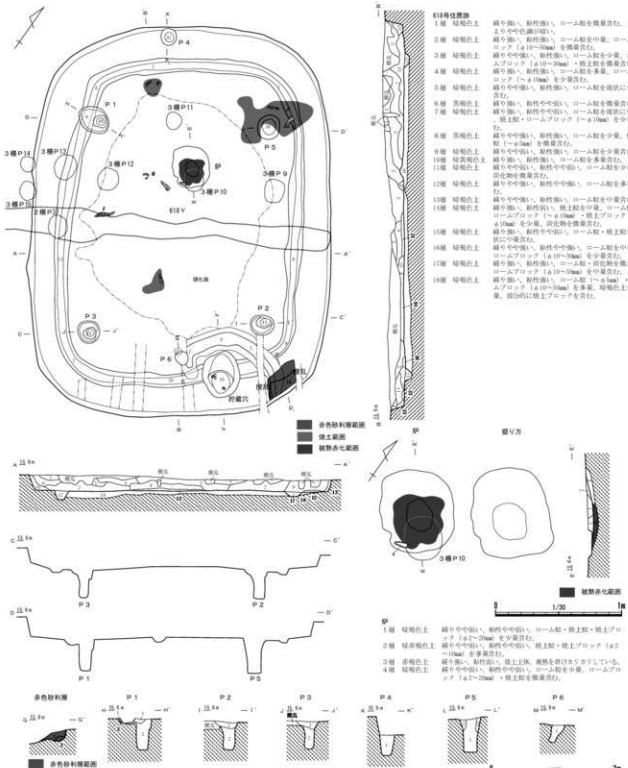
［時　　期］弥生時代後期後葉から古墳時代前期初頭。

620号住居跡

遺　　構（第99図）

［位　　置］（B・C－6・7）グリッド。

［検出状況］トレンチャーによる攪乱が床面下まで及ぶため、遺存状態は悪い。627Yと切り合うが、先後は不明である。



618号住居跡

1 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を微量含む。１層より中の色調が暗い。
2 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を中量、ロームブロック（φ10～30mm）を微量含む。
3 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を少量、ロームブロック（φ10～30mm・焼土粒を微量含む。
4 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量、ロームブロック（～φ10mm）を少量含む。
5 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を微状に少量含む。
6 層　黒褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を微量含む。
7 層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を微状に中量、焼土粒・ロームブロック（～φ10mm）を少量含む。
8 層　黒褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を少量、焼土粒（～φ5mm）を微量含む。
9 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
10層　暗黄褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。
11層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量、炭化物を微量含む。
12層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量含む。
13層　暗褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を中量含む。
14層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、焼土粒を中量、ローム粒・ロームブロック（～φ10mm）・焼土ブロック（～φ10mm）を少量、炭化物を微量含む。
15層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒・焼土粒を混状に中量含む。
16層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、ロームブロック（φ10～30mm）を少量含む。
17層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒・炭化物を微量、ロームブロック（φ10～30mm）を中量含む。
18層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒（～φ5mm）・ロームブロック（φ10～30mm）を多量、暗褐色土を少量、部分的に焼土ブロックを含む。

炉

1 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒・焼土粒・焼土ブロック（φ2～20mm）を少量含む。
2 層　暗赤褐色土　締りやや強い、粘性強い、焼土粒・焼土ブロック（φ2～10mm）を多量含む。
3 層　赤褐色土　締り強い、粘性強い、焼土と炭化物がブロック状にしまっている。
4 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量、ロームブロック（φ2～20mm）・焼土粒を微量含む。

赤色砂利層

1 層　暗赤褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ2～30mm）を少量、赤砂利を多量含む。
2 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ2～20mm）を中量、赤砂利を少量含む。

P 1

1 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック（φ2～20mm）を少量、黒褐色土粒を微量含む。
2 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ2～15mm）を微量含む。

P 2

1 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量、ロームブロック（φ2～20mm）を多量含む。
2 層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を微量含む。

P 3

1 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、ロームブロック（φ2～30mm）を微量含む。
2 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。

P 4

1 層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。

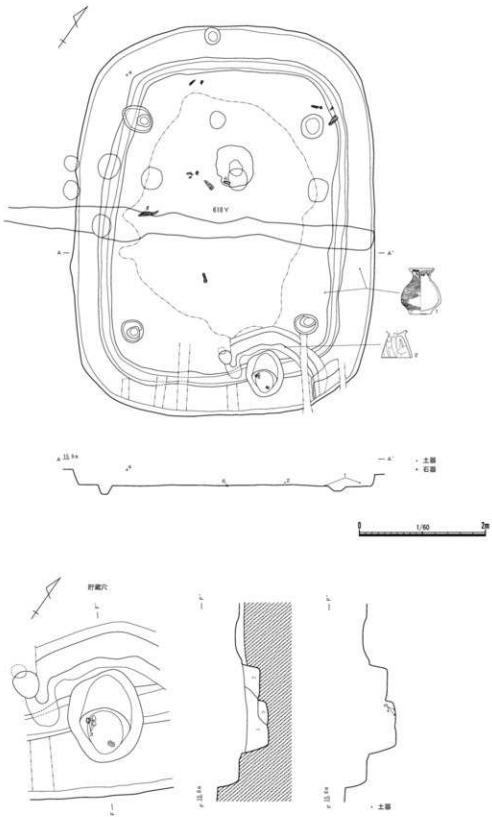
P 5

1 層　暗褐色　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量、ロームブロック（～φ2mm）を中量、炭化物を少量、焼土ブロック（φ2～5mm）を微量含む。
2 層　黄褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量、ロームブロック（φ2～5mm）を中量含む。

P 6

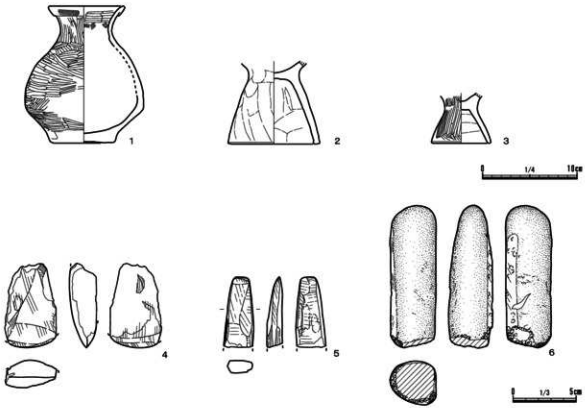
1 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を中量、ロームブロック（φ2～25mm）を微量含む。

第96図　618号住居跡（１／60）・炉（１／30）



貯蔵穴
1層　黒褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ2～15mm）を多量、炭化物を微量含む。
2層　暗黒褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、ロームブロック（φ2～50mm）を少量含む。
3層　黒褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量、ロームブロック（～φ50mm）を微量含む。

第 97 図　618 号住居跡遺物出土状態（１／60）・貯蔵穴（１／30）

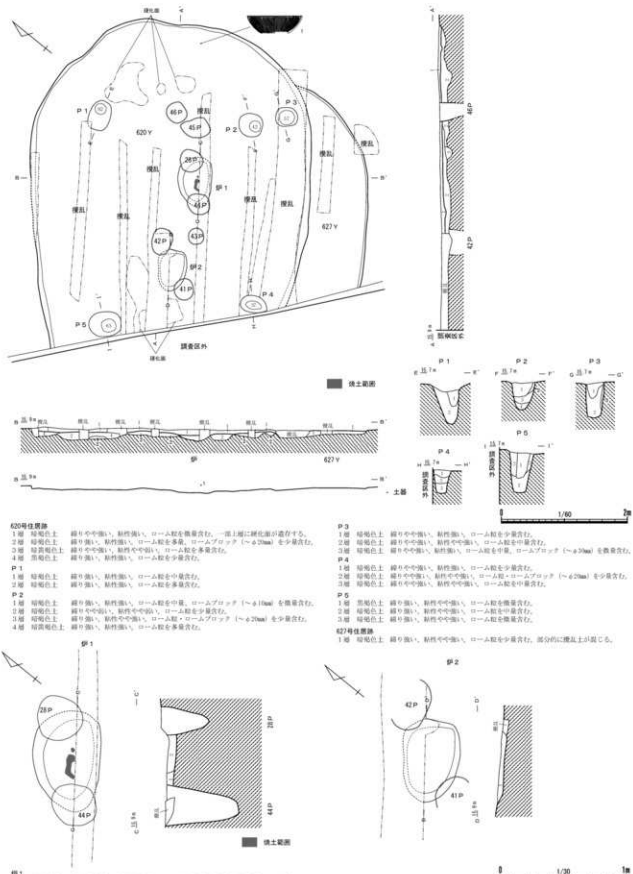


第 98 図　618 号住居跡出土遺物（１／４・１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴
第 98 図 1 図版 42・3・1	壺	(床面～床上 3 ㎝)	口縁部 ～底部 80%	高 14.5 口 (8.0) 底 7.6	にぶい褐	黒色粒子・白色粒子・ チャート・シャモット	口縁部折り返される／外面折り返し部横ハケ、胴部上半縦磨き後、胴部下半横磨き／内面ハケ調整後、横ナデ
第 98 図 2 図版 42・3・2	甕	(床上 4 ㎝)	脚台部 20%	高 [8.5] 底 9.3	橙	黒色粒子・白色粒子・ チャート・シャモット	台付甕／外面縦ナデ、接合部粘土粒付着／内面胴部下端横ナデ、脚台部横ナデ
第 98 図 3 図版 42・3・3	甕	貯蔵穴内部	脚台部 20%	高 [5.0] 底 6.3	褐灰	黒色粒子・白色粒子・ 赤色粒子・シャモット	台付甕／外面縦磨き／内面胴部下端横ナデ、脚台部横ナデ／輪穴結合

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (㎜)	幅 (㎜)	厚さ (㎜)	重量 (g)	特徴
第 98 図 4 図版 42・3・4	磨製 石斧	西部壁溝コーナー付近覆土中 (床上 28㎝)	刃部 残存	珪質岩	[63.3]	[40.9]	[21.5]	78.7	上部から裏面にかけて大きく欠損／欠損後も丁寧に研磨してさらに使い続けたか／刃部直刃
第 98 図 5 図版 42・3・5	磨製 石斧	覆土中	基部 残存	緑色岩	[55.9]	[24.0]	[12.8]	23.9	下部を大きく欠損／裏面は欠損した後、剥離調整、研磨し整形する／そのためややいびつになっている
第 98 図 6 図版 42・3・6	敲石 磨石	炉内部床面	ほぼ 完形	砂岩	112.9	36.5	35.5	241.4	側縁部に敲打に擦痕がみられる面あり／下端部は節理面で欠損後／節理面周辺で敲打が行われる

第 46 表　618 号住居跡出土遺物一覧



620号住居跡
1層　暗褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を微量含む。一部土壌に硬化面が遺存する。
2層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量、ロームブロック（～φ20mm）を少量含む。
3層　暗黒褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量含む。
4層　黒褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。

P 1
1層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を中量含む。
2層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。

P 2
1層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を中量、ロームブロック（～φ10mm）を微量含む。
2層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。
3層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（～φ20mm）を少量含む。
4層　暗黒褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。

P 3
1層　暗褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
2層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を中量含む。
3層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（～φ30mm）を微量含む。

P 4
1層　暗褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
2層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（～φ20mm）を少量含む。
3層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を中量含む。

P 5
1層　黒褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を微量含む。
2層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を中量含む。
3層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を微量含む。

627号住居跡
1層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。部分的に攪乱土が混じる。

炉 1
1層　暗赤褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量、焼土粒を少量、ロームブロック（φ20～30mm）を中量含む。
2層　暗赤褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を中量、焼土粒を微状に多量含む。

炉 2
1層　暗赤褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を微量、焼土ブロックを中量含む。

第 99 図　620 号住居跡・627 号住居跡（1／60）・620 号住居跡炉・627 号住居跡炉（1／30）

第 100 図　620 号住居跡出土遺物（１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴
第 100 図 1 図版 43－1－1	高坏	北東部覆土中 （床上 12cm）	口縁部 ～胴部 30%	高　[5.6] 口（17.4）	赤褐	黒色粒子・白色粒子・ シャモット	外面縦磨き／内面縦磨き

第 47 表　620 号住居跡出土遺物一覧

［構　　造］**平面形：**歪んだ小判形を呈する。**規模：**5.39m 以上／ 4.57m ／深さ 10cm。**主軸方位：**Ｎ－ 55°－Ｅである。**壁溝：**検出されなかった。**床面：**貼床されるが、起伏が認められる。部分的に硬化した所が認められる。**炉：**住居跡中央やや北東側に位置していると思われる。遺存状態は悪いが、平面形は楕円形で、断面形は皿状を呈する。規模は 80 × 54cm、深さ６cmである。**柱穴：**柱穴は５本検出された。。Ｐ１は 48 × 34cm、深さ 62cm、Ｐ２は 38 × 38cm、深さ 42cm、Ｐ３は 35 × 30cm、深さ 57cm、Ｐ４は 43 × 27cm、深さ 37cm、Ｐ５は 51 × 40cm、深さ 65cmである。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ５が主柱穴と思われる。**貯蔵穴：**検出されなかった。**凸堤：**検出されなかった。**赤色砂利層：**検出されなかった。

［覆　　土］４層に分層される。２～４層が掘り方の埋土である。覆土は暗褐色土の自然堆積である。

［遺　　物］高坏形土器が出土している。

［時　　期］弥生時代後期後葉から古墳時代前期初頭。

遺　物（第 100 図、図版 43－１、第 47 表）

［土　　器］（第 100 図１、図版 43－１－１、第 47 表）

１は高坏形土器の口縁部である。

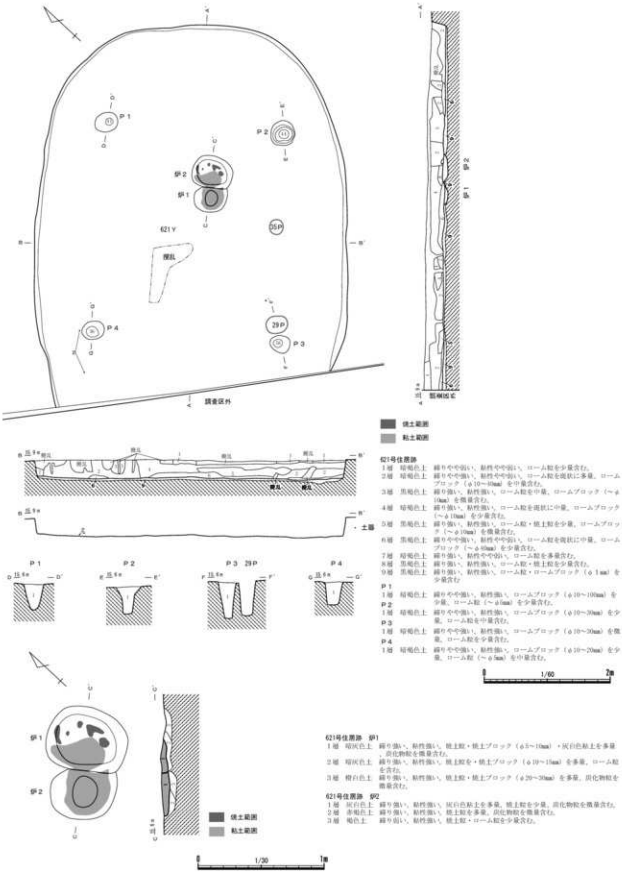
621 号住居跡

遺　構（第 101 図）

［位　　置］（Ｃ－７・８）グリッド。

［検出状況］覆土は攪乱されているが、概ね遺存状態は良好である。南西側は調査区外へ延びる。

［構　　造］**平面形：**隅丸長方形を呈する。**規模：**6.06m ／ 4.97m ／深さ 29cm。**主軸方位：**Ｎ－ 45°－Ｅである。**壁溝：**検出されなかった。**床面：**貼床されるが、やや起伏が認められる。**炉：**住居跡中央やや北東側に位置し、２基の炉が重複している。北東側の炉２が炉１より新しい。炉１の平面形は略円形で、断面形は皿状を呈する。規模は 51 × 46cm以上、深さ７cmである。炉２の平面形は楕円形に近く、断面形は皿状を呈する。規模は 64 × 51cm、深さ６cmである。ともに底面はよく焼けており赤化している。**柱穴：**４本検出された。Ｐ１は 37 × 31cm、深さ 41cm、Ｐ２は 40 × 39cm、深さ 44cm、Ｐ３は 32 × 27cm、深さ 58cm、Ｐ４は 36 × 28cm、深さ 36cmである。いずれも主柱穴である。**凸堤:**検出されなかった。**貯蔵穴：**検出されなかった。**赤色砂利層：**検出されなかった。


P 1
P 2
炉 2
炉 1
621Y
35P
撹乱
P 4
29P
P 3
調査区外
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
G
G'
H
H'
I
I'
J
J'
K
K'
L
L'
M
M'
N
N'
O
O'
P
P'
Q
Q'
R
R'
S
S'
T
T'
U
U'
V
V'
W
W'
X
X'
Y
Y'
Z
Z'
a
a'
b
b'
c
c'
d
d'
e
e'
f
f'
g
g'
h
h'
i
i'
j
j'
k
k'
l
l'
m
m'
n
n'
o
o'
p
p'
q
q'
r
r'
s
s'
t
t'
u
u'
v
v'
w
w'
x
x'
y
y'
z
z'
撹乱
撹乱
撹乱

第 102 図　621 号住居跡出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴
第 102 図 1 図版 43-2-1	壺	覆土中	底部 5％ 未満	厚　1.1	オリーブ 黒	黒色粒子・白色粒子・ 角閃石・チャート	外面に擦痕が認められる／砥石として利用か／内面はナデ
第 102 図 2 図版 43-2-2	甕	南西部覆土中 (床上３～５cm)	口縁部 ～胴部 10％	厚　0.5	にぶい 黄橙	黒色粒子・白色粒子・ チャート・シャモット	外面斜位のハケ後、横ナデ、口唇部に密なキザミ／内面ハケ調整後、横ナデ

第 48 表　621 号住居跡出土遺物一覧

［覆　　土］９層に分層される。９層が掘り方の埋土である。覆土は暗褐色土から黒色土を基本とする自然堆積である。

［遺　　物］壺形土器、甕形土器が出土している。

［時　　期］弥生時代後期後半。

遺　　物（第 102 図、図版 43－２、第 48 表）

［土　　器］（第 102 図１・２、図版 43－２－１・２、第 48 表）

１は壺形土器の底部、２は甕形土器の口縁部である。

622 号住居跡

遺　　構（第 103 図）

［位　　置］（Ｃ・Ｄ－６・７）グリッド。

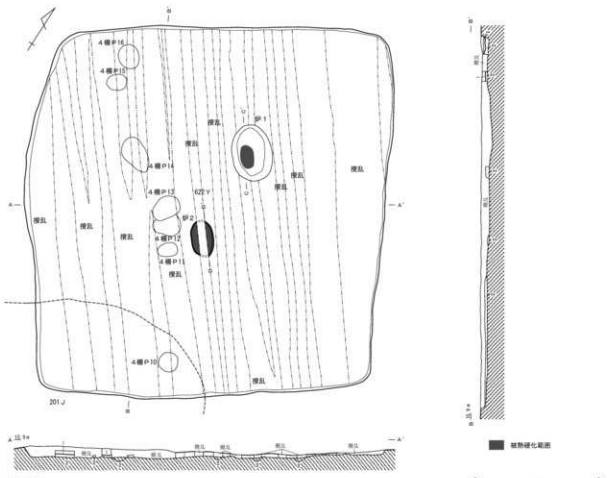
［検出状況］トレンチャーによる攪乱が床面下まで及ぶため、遺存状態は悪い。

［構　　造］**平面形：**隅丸方形を呈する。**規模：**5.94m ／ 5.86m ／深さ 10cm。**主軸方位：**Ｎ－ 59°－Ｅである。**壁溝：**検出されなかった。**床面：**貼床がなされ、概ね平坦である。**炉：**２基検出された。住居跡中央やや北西側に炉１が、中央やや南側に炉２が位置している。炉１の平面形は楕円形で、断面形は丸みのある底面から緩やかに立ち上がる。規模は 89 × 66cm、深さ 12cmである。底面の一部が被熱により赤化している。炉２の平面形は楕円形で、断面形は皿状を呈する。規模は 59 × 36cm、深さ３cmである。**柱穴：**検出されなかった。**貯蔵穴：**検出されなかった。**凸堤：**検出されなかった。**赤色砂利層：**検出されなかった。

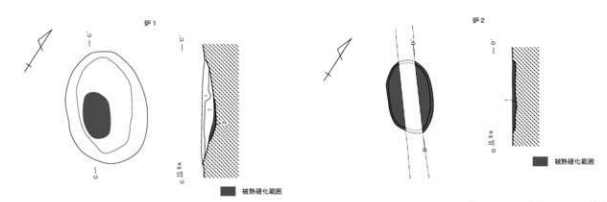
［覆　　土］２層に分層される。２層が掘り方の埋土である。暗赤褐色土を呈する自然堆積である。

［遺　　物］壺形土器が出土している。

［時　　期］弥生時代後期後半。



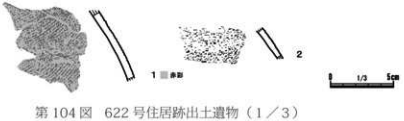
622号住居跡
1層　暗赤褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。
2層　暗黄褐色土　締り強い、粘性やや強い、ロームブロック（～φ10cm）を少量含む。



炉１
1層　暗赤褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒・焼土粒を少量含む。
2層　暗赤褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒・焼土粒を微量に多量含む。
3層　赤褐色土　締り強い、粘性弱い、暗褐色土を少量含む。被熱により硬化している。

炉２
1層　暗赤褐色土　締り強い、粘性弱い、黒褐色土を微量含む。被熱により硬化している。

第 103 図　622 号住居跡（１／60）・炉（１／30）



第 104 図　622 号住居跡出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴
第 104 図 1 図版 43- 3 - 1	壺	覆土中	胴部 5％ 未満	厚　0.6	黄橙	黒色粒子・白色粒子・ 赤色粒子・シャモット	Ｚ字状の結節作うＬＲ横位施文、無文部及び縄文部の一部赤彩／内面横ナデ
第 104 図 2 図版 43- 3 - 2	壺	覆土中	胴部 5％ 未満	厚　0.5	橙	黒色粒子・白色粒子・ 赤色粒子・石英	櫛描文による横位文施文後、櫛描波状文／内面横ナデ

第 49 表　622 号住居跡出土遺物一覧

遺　物（第 104 図、図版 43 －３、第 49 表）

［土　器］（第 104 図１・２、図版 43 －３－１・２、第 49 表）

１・２壺形土器の胴部上半である。

623 号住居跡

遺　構（第 105 図）

［位　置］（Ｃ－５）グリッド。

［検出状況］覆土は薄いが、遺存状態は良好である。２・３柵に切られる。626 Ｙとの先後は不明である。

［構　造］**平面形**：隅丸方形を呈する。**規模**：2.98m ／ 2.97m ／深さ６㎝。**主軸方位**：Ｎ－ 17°－Ｗ。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：貼床されるが、緩やかな起伏が認められる。**炉**：住居跡中央やや北東側に位置している。平面形は楕円形で、断面形は皿状を呈する。中央部分を攪乱されるが、ごく一部に被熱により硬化した部分が認められる。規模は 51 × 45㎝、深さ４㎝である。**柱穴**：検出されなかった。**凸堤**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**赤色砂利層**：検出されなかった。

［覆　土］２層に分層される。２層が掘り方の埋土である。覆土は暗褐色土の自然堆積と思われる。

［遺　物］図示できる遺物は出土していない。

［時　期］弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭。

624 号住居跡

遺　構（第 106・107 図）

［位　置］（Ｃ・Ｄ－５）グリッド。

［検出状況］覆土の上層が攪乱されるが、遺存状態は良好である。626 Ｙを切り、２・３柵に切られる。

［構　造］**平面形**：隅丸方形を呈する。**規模**：4.89m ／ 4.42m ／深さ 39㎝。**主軸方位**：Ｎ－ 69°－Ｅ。**壁溝**：全周する。上幅 12 ～ 26㎝／下幅２～９㎝／深さ３～８㎝。**床面**：貼床されるが、若干の起伏が認められる。炉周辺を中心に硬化面が認められる。**炉**：住居跡中央やや東側に位置する。平面形は略

楕円形で、断面形は皿状を呈する。底面の一部が被熱により赤化している。規模は 88 × 69㎝、深さ９㎝。**柱穴：**５本検出された。Ｐ１は 48 × 39㎝、深さ 48㎝、Ｐ２は 41 × 40㎝、深さ 45㎝、Ｐ３は 28 × 22㎝、深さ 47㎝、Ｐ４は 49 × 46㎝、深さ 45㎝、Ｐ５は 22 × 21㎝、深さ 20㎝である。Ｐ１～４が主柱穴で、Ｐ５が入り口ピットである。**貯蔵穴：**住居跡南西壁付近に位置する。平面形は円形で、断面形は丸みを帯びる底面から緩やかに立ち上がる。規模は 42 × 37㎝、深さ９㎝である。**凸堤：**検出されなかった。**赤色砂利層：**検出されなかった。

［覆　　土］17 層に分層される。黒褐色土から暗褐色土を基本とする自然堆積である。

［遺　　物］壺形土器、甕形土器が出土している。

［時　　期］弥生時代後期後半。

遺　　物（第 108・109 図、図版 43 － 4、図版 44 － 1、第 50 表）

［土　　器］（第 108・109 図 1 ～ 13、図版 43 － 4 － 1 ～ 5、図版 44 － 1 － 6 ～ 13、第 50 表）

１は壺形土器の胴部、２・３は壺形土器の胴部・底部、４は壺形土器の底部、５・６は台付の甕形土器、７は甕形土器の口縁部、８～ 10 は甕形土器の脚台部、11 ～ 13 は甕形土器の口縁部である。

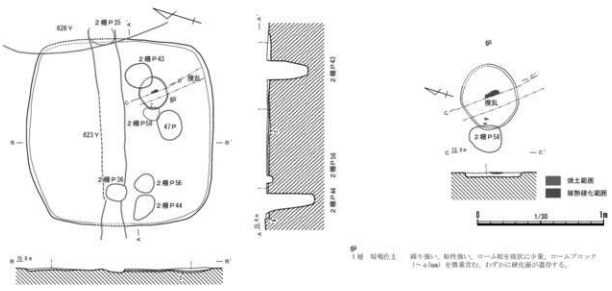
625 号住居跡

遺　　構（第 110 図）

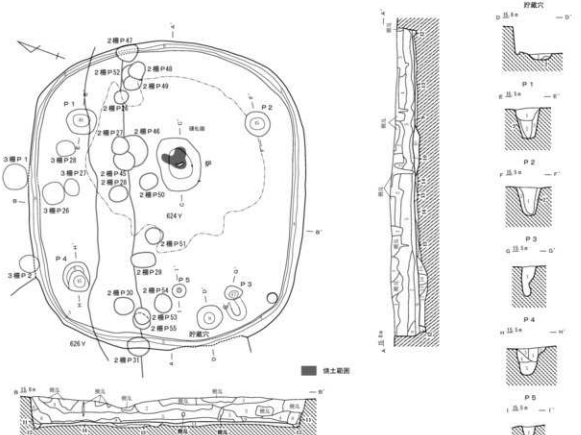
［位　　置］（Ｂ－６・７）グリッド。

［検出状況］トレンチャーにより床面下まで攪乱されるため、遺存状態は悪い。24 Ｈに切られ、202 Ｊを切る。

［構　　造］**平面形：**隅丸長方形を呈する。**規模：**4.45m 以上／ 3.8m 以上／深さ 13㎝。**主軸方位：**Ｎ



第 105 図　623 号住居跡（１／ 60）・炉（１／ 30）



624号住居跡

1層　黒褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。
2層　黒褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を微量に含む。
3層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を微量に含む。
4層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を微量に含む。焼土粒を微量含む。
5層　暗褐色土　　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を微量に含む。焼土粒を微量含む。
6層　暗黄褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を多量含む。
7層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を微量に含む。ロームブロック（～φ20mm）を微量含む。
8層　暗褐色土　　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を微量に中量、炭化物・焼土粒を微量含む。
9層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性強い、ロームブロック（φ5～50mm）を中量、焼土粒を部分的に中量含む。
10層　黒褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒・焼土粒を中量、経時により硬化したロームブロック（～φ10mm）を少量含む。
11層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量、下層に比べてやや色調が明るい。
12層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量、ロームブロック（φ2～5mm）を微量含む。
13層　黒褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を中量、ロームブロック（～φ10mm）をやや多く含む。
14層　黒褐色土　　締り強い、粘性強い、ロームブロック（～φ20mm）を多量含む。
15層　黒褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量、ロームブロック（～φ20mm）を中量、焼土粒を微量含む。
16層　黒褐色土　　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を微量に多量含む。
17層　黒褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック（～φ30mm）を多量含む。

貯蔵穴

1層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。
2層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量、ロームブロック（φ2～5mm）を微量含む。

P1

1層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ2～50mm）を中量含む。
2層　暗黒褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ2～50mm）を中量含む。
3層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、ロームブロック（φ2～20mm）を少量含む。

P2

1層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量、ロームブロック（φ1～30mm）を中量含む。
2層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を中量、ロームブロック（φ1～50mm）を微量含む。

P3

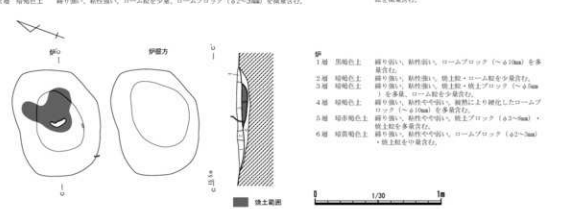
1層　暗黒褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量、ロームブロック（φ2～5mm）を少量含む。

P4

1層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量、ロームブロック（φ2～20mm）を少量、黒褐色土を微量含む。
2層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、ロームブロック（φ2～50mm）を微量含む。
3層　暗黒褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を中量、ロームブロック（～φ3mm）を微量含む。
4層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（φ5～25mm）を少量含む。
5層　暗黒褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。

P5

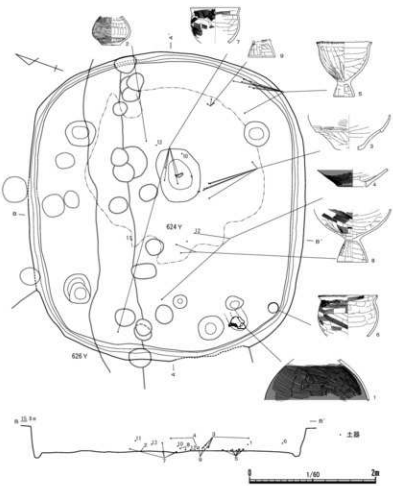
1層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、ロームブロック（φ2～10mm）を少量、黒褐色土粒を微量含む。



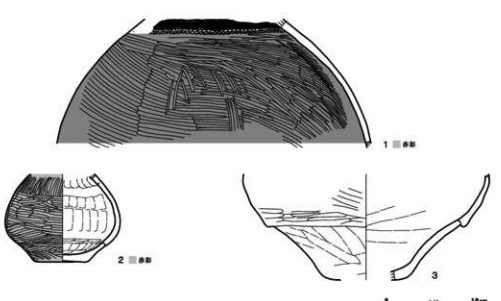
炉

1層　黒褐色土　　締り弱い、粘性弱い、ロームブロック（～φ10mm）を多量含む。
2層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、焼土粒・ローム粒を少量含む。
3層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、焼土粒・焼土ブロック（～φ5mm）を多量、ローム粒を少量含む。
4層　暗褐色土　　締りやや強い、粘性やや強い、経時により硬化したロームブロック（～φ10mm）を多量含む。
5層　暗赤褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、焼土ブロック（φ2～5mm）・焼土粒を多量含む。
6層　暗黒褐色土　締り強い、粘性やや強い、ロームブロック（φ2～3mm）・焼土粒を中量含む。

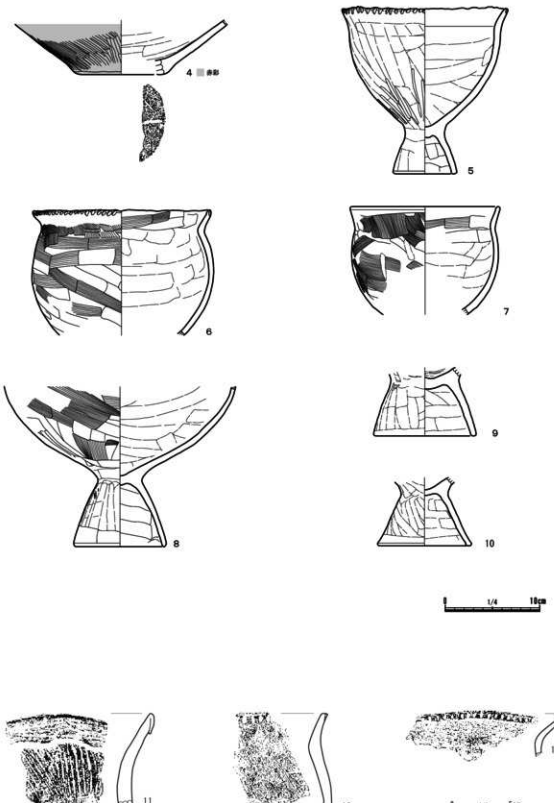
第 106 図　624 号住居跡（1／60）・炉（1／30）



第 107 図　624 号住居跡遺物出土状態（1／60）



第 108 図　624 号住居跡出土遺物（1）（1／4）



第 109 図　624 号住居跡出土遺物（２）（１／４・１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴
第108図1 図版43-4-1	壺	南西壁付近覆土中 (床上10cm)	胴部 20%	高 [14.0]	赤褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・シャモット	胴部上端にS字状結節を伴う無節羽状縄文、無文部横及び斜位磨き、赤彩／内面横ナデ、剥落が激しい
第108図2 図版43-4-2	壺	中央部覆土中 (床上3cm)	胴部～底部 80%	高 [9.3] 底 5.6	明褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・チャート・シャモット	外面胴部上半縦及び斜位の磨き、胴部下半斜位の磨き、その後胴部最大径付近横磨き、赤彩／内面横ナデ、胴部上半に輪積痕
第108図3 図版43-4-3	壺	炉南部・南東部覆土中 (床上7～23cm)	胴部～底部 60%	高 [11.1] 底 (9.0)	明赤褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・シャモット	外面胴部下方に段を持つ、段より上横ナデ、段より下縦ナデ／内面横ナデ
第109図4 図版43-4-4	壺	中央部・南西部覆土中 (床上7～23cm)	胴～底部 10%	高 [5.3] 底 (9.0)	にぶい赤褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・シャモット	外面縦ミガキ、赤彩、底部木葉痕／内面横ナデ
第109図5 図版43-4-5	甕	東壁付近覆土中 (床上4～6cm)	口縁部 ～底部 90%	高 17.4 口 17.6 底 6.8	褐灰	黒色粒子・白色粒子・石英・シャモット	台付甕／外面口縁部から胴部縦ナデ、口縁部部分的に横ナデ、脚台部縦ナデ後、接合部横ナデ／内面胴部横及び斜位のナデ、口縁部横ナデ、脚台部横ナデ
第109図6 図版44-1-6	甕	南壁付近覆土中 (床上14cm)	口縁部 ～胴部 80%	高 [13.2] 口 18.9	灰褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・シャモット	台付甕／外面口唇部に木口状工具によるキザミ、口縁部縦ハケ後、胴部上半横及び斜位のハケ、胴部下半縦ハケ、胴部上端部に煤付着、下半部被熱により剥落／内面口縁部横ハケ、胴部横ナデ、胴部下半に煤付着
第109図7 図版44-1-7	甕	炉内部・西壁付近覆土中 (床面～床上16cm)	口縁部 ～胴部 30%	高 [11.3] 口 (15.7)	橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・シャモット	外面胴部横位及び斜位のハケ後、口縁部斜位のハケ／内面胴部横ナデ、口縁部横ハケ後、横ナデ
第109図8 図版44-1-8	甕	中央部覆土中 (床上5～7cm)	口縁部 ～脚台部 80%	高 [16.8] 底 9.8	褐灰	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・シャモット	台付甕／脚台部と胴部の中心がずれる／外面胴部横ハケ後、縦ナデ、脚台部縦ナデ後、下端部横ナデ／内面胴部横ナデ、脚台部横ナデ
第109図9図版44-1-9	甕	東部覆土中 (床上4～9cm)	脚台部 20%	高 [7.2] 底 10.5	にぶい褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・シャモット	台付甕／外面脚台部縦ナデ、内面胴部下半横ナデ、脚台部横ハケ／柄穴結合
第109図10 図版44-1-10	甕	中央部覆土中 (床上10cm)	脚台部 20%	高 [7.2] 底 9.6	にぶい褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・シャモット	台付甕／外面接合部横ナデ、脚台部縦ナデ後、下端部横ナデ／内面胴部下半横ナデ、脚台部横ナデ
第109図11 図版44-1-11	壺	中央部覆土中 (床上19cm)	口縁部 5% 未満	厚 1.2	橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・シャモット	折り返し口縁／外面脚部縦ハケ後、横磨き、折り返し部横ハケ後、横磨き／内面横ハケ後、横磨き
第109図12 図版44-1-12	甕	中央部覆土中 (床上5cm)	口縁部 ～胴部 5% 未満	厚 1.0	褐灰	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英・シャモット	外面斜位のハケ、口唇部に木口状工具によるキザミ／内面横ハケ後、胴部上半横ナデ
第109図13 図版44-1-13	甕	中央部覆土中 (床上13cm)	口縁部 5% 未満	厚 0.5	黒褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英・シャモット	外面斜位のハケ後、横ナデ、口唇部に等間隔のキザミ／内面横ナデ

第50表　624号住居跡出土遺物一覧

－48°－E。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：貼床されるが、緩やかな起伏が認められる。**炉**：住居跡中央やや北東側に位置している。大半を攪乱と24Hに壊されている。平面形は楕円形で、断面形は皿状を呈すると思われる。規模は72×49㎝、深さ10㎝。**柱穴**：2本検出された。P1は29×28㎝、深さ45㎝、P2は33×28㎝、深さ30㎝である。**貯蔵穴**：住居跡北西側に位置している。平面形は略三角形で、断面形は箱形を呈する。規模は42×36㎝、深さ16㎝である。**凸堤**：検出されなかった。**赤色砂利層**：検出されなかった。

［覆　　土］4層に分層される。3・4層が掘り方の埋土である。覆土は黒褐色土から暗褐色土を基本とする自然堆積である。

［遺　　物］壺形土器、甕形土器が出土している。

［時　　期］弥生時代後期後半。

遺　　物（第111図、図版44－2、第51表）

［土　　器］（第111図1～4、図版44－2－1～4、第51表）

1は壺形土器の底部、2は壺形土器の口縁部、3は壺形土器の胴部、4は甕形土器の口縁部から胴部上半である。

626号住居跡

遺　　構（第112図）

［位　　置］（C－5）グリッド。

［検出状況］概ね遺存状態は良好である。624Y・2・3柵に切られる。623Yとの先後は不明である。

［構　　造］**平面形**：略円形を呈する。**規模**：4.31m／3.94m以上／深さ38㎝。**主軸方位**：N－4°－W。**壁溝**：北西から南東部分にかけてと、北壁中央付近に認められる。上幅5～11㎝／下幅1～6㎝／深さ5～9㎝。**床面**：貼床がなされ概ね平坦である。**炉**：住居跡中央部分から北側に位置している。平面形は不整楕円形で、断面形は凹凸のある底面から緩やかに立ち上がる。規模は125×81㎝、深さ6㎝である。**柱穴**：検出されなかった。**貯蔵穴**：住居跡南東壁中央付近に位置している。大半は624Yにより壊されている。平面形は長方形に近く、断面は幅狭底面から北側は直線的に、南側はテラスを持ち立ち上がる。規模は32以上×29㎝以上、深さ14㎝である。**凸堤**：貯蔵穴の北側に位置し、弧状を呈する。規模は幅23～31㎝　、高さ8㎝である。**赤色砂利層**：検出されなかった。

［覆　　土］15層に分層される。13～15層が掘り方の埋土である。ブロック状に堆積することから人為堆積と思われる。

［遺　　物］甕形土器、敲石・磨石、石皿・凹石が出土している。

［時　　期］弥生時代後期後半。

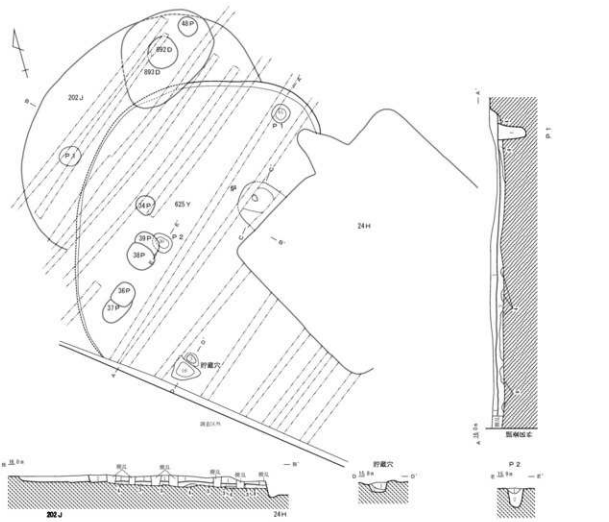
遺　　物（第113図、図版45－1、第52表）

［土　　器］（第113図1～4、図版45－1－1～4、第52表）

1は甕形土器の底部から脚台部、2～4は甕形土器の口縁部である。

［石　　品］（第113図5・6、図版45－1－5・6、第52表）

5は敲石・磨石、6は石皿・凹石である。

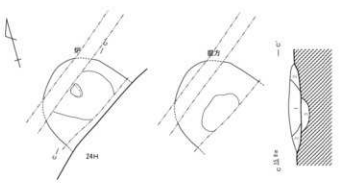


625号住居跡
1層　黒褐色土　　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。
2層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
3層　暗黒褐色土　締り強い、粘性強い、ロームブロック（～φ10cm）を少量、ローム粒を中量含む。
4層　黒褐色土　　締り強い、粘性やや強い、ロームブロック（φ10～20cm）を少量含む。

貯蔵穴
1層　黒褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を中量含む。
2層　暗色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒を微量含む。

P1
1層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、焼土粒・ローム粒（φ1～2cm）を微量含む。

P2
1層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
2層　暗褐色土　締り強い、粘性やや強い、ローム粒を中量含む。



炉
1層　黒褐色土　　締り強い、粘性強い、焼土ブロック・焼土粒を多量、ロームブロック（～φ10cm）を微量含む。
2層　暗褐色土　　締り強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック（φ2～20cm）・焼土粒・焼土ブロック（～φ2cm）を微量含む。
3層　暗黄褐色土　締り強い、粘性強い、ロームブロック（～φ10cm）を少量、ローム粒を中量含む。

第 110 図　625 号住居跡（1／60）・炉（1／30）

第 111 図　625 号住居跡出土遺物（１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴
第 111 図 1 図版 44・2・1	壺	覆土中	胴部～底部 5％ 未満	高　[2.7] 底　3.6	にぶい 黄橙	黒色粒子・チャート	外面ハケ調整後、磨き、赤彩／内面横ハケ
第 111 図 2 図版 44・2・2	壺	覆土中	口縁部 5％ 未満	厚　0.6	にぶい 黄橙	白色粒子・赤色粒子・チャート	外面縦位・横位ハケ後磨き／内面斜位及び横ハケ／口縁部内面及び口唇部赤彩
第 111 図 3 図版 44・2・3	壺	覆土中	胴部 5％ 未満	厚　0.5	にぶい 赤褐	赤色粒子・角閃石・チャート	ＲＬ横位施文／部分的（円形）赤彩／内面横ナデ
第 111 図 4 図版 44・2・4	甕	覆土中	口縁部 ～胴部 5％ 未満	厚　0.6	黒褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・シャモット	外面口縁部横ナデ、胴部上半斜位のハケ後、横ナデ／内面口縁部横ハケ、胴部上半横ナデ

第 51 表　625 号住居跡出土遺物一覧

627 号住居跡

遺　構（第 99 図）

[位　置]（Ｂ・Ｃ－７）グリッド。

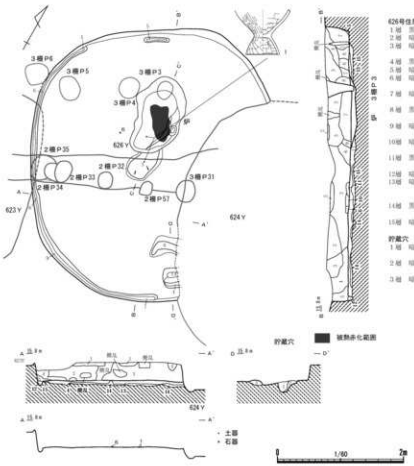
[検出状況] トレンチャーによる攪乱のため、遺存状態はやや悪い。620 Ｙと重複するが、切り合いは不明である。

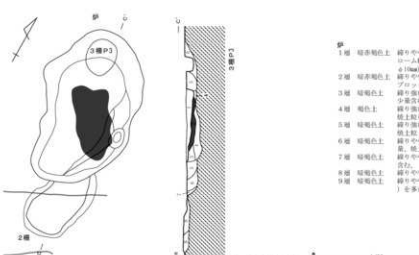
[構　造] **平面形**：略小判形を呈すると思われる。**規模**：3.09m 以上／ 1.3m 以上／深さ６㎝。**主軸方位**：不明。**壁溝**：検出されなかった。**床面**：起伏があり、北側に傾斜している。**炉**：検出されなかった。**柱穴**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。**凸堤**：検出されなかった。**赤色砂利層**：検出されなかった。

[覆　土] 単層である。掘り方埋土の可能性が高い。

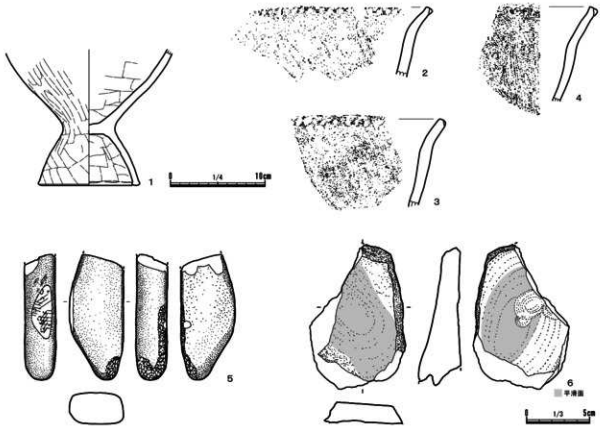
[遺　物] 図示できる遺物は出土していない。

[時　期] 弥生時代後期後葉から古墳時代前期初頭。





第 112 図　626 号住居跡（1／60）・炉（1／30）



第 113 図　626 号住居跡出土遺物（１／４・１／３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴
第 113 図 1 図版 45- 1 - 1	甕	覆土中	接合部 20%	高 [14.4] 底 10.1	橙	黒色粒子・白色粒子・ 赤色粒子	台付甕／外面胴部下半縦ナデ、脚台部縦及び斜位のハケ／内面胴部下半横ナデ、煤付着、脚台部横ナデ
第 113 図 2 図版 45- 1 - 2	甕	覆土中	口縁部 ～胴部 10%	厚 0.8	黒褐	黒色粒子・白色粒子・ 赤色粒子・石英・ シャモット	外面口縁部ヨコナデ、口縁部から胴部上半斜位のナデ／内面横ナデ
第 114 図 3 図版 45- 1 - 3	甕	覆土中	口縁部 ～胴部 10%	厚 0.9	褐灰	黒色粒子・白色粒子・ 赤色粒子・石英・ シャモット	外面口縁部ヨコナデ、口縁部から胴部上半斜位のナデ／内面横ナデ
第 113 図 4 図版 45- 1 - 4	甕	覆土中	口縁部 ～胴部 5％ 未満	厚 0.8	灰褐	黒色粒子・白色粒子・ 赤色粒子・石英・ シャモット	外面口縁部ヨコナデ、口縁部から胴部上半斜位のナデ／内面横ナデ

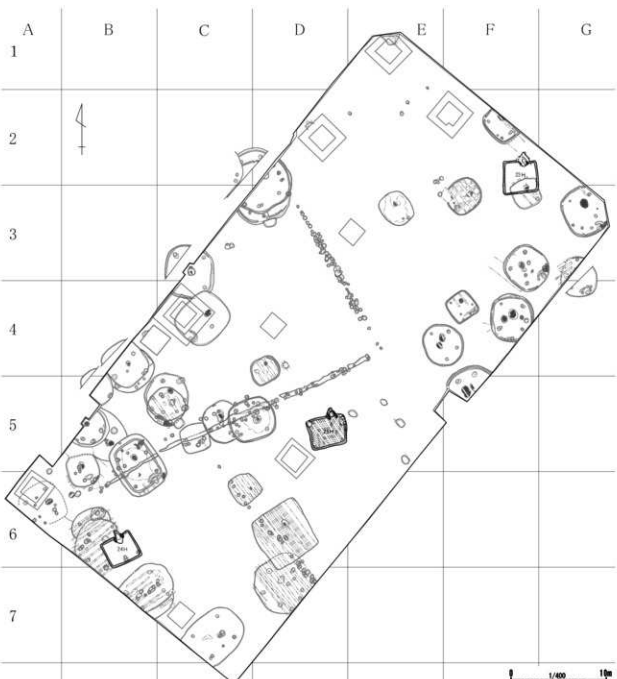
挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴
第 113 図 5 図版 45- 1 - 5	敲石 磨石	覆土中	下部残存	砂岩	(99.7)	(43.3)	(25.2)	182.5	上部欠損／板状な自然石で左側縁部の先端部は平坦で敲打痕を研磨し面状／右側面の敲打痕がみられる
第 113 図 6 図版 45- 1 - 6	石皿 凹石	炉西側 （床面）	中心部残存	緑泥 片岩	(114.5)	(75.8)	(35.0)	298.1	表面は浅い凹面で滑らか／裏面は節理面で、使用により平滑面を持ち、さらに凹石として使用され欠損している

第 52 表　626 号住居跡出土遺物一覧

第３節　奈良・平安時代

（1）概　要

今回の調査では奈良時代・平安時代の住居跡が３軒検出された。いずれも北壁にカマドを持ち主軸方位も近似している。住居跡間もそれぞれ 20 m以上離れ、点在している。住居跡内からの出土遺物は総じて少ない。出土した遺物は土師器甕形土器、坏形土器、須恵器の甕形土器であるが、いずれも破片である。



第 114 図　奈良・平安時代遺構全体図（1／400）

（２）住居跡

23 号住居跡

遺　構（第 115・116 図）

［位　置］（Ｆ－２・３）グリッド。

［住居構造］攪乱が床下まで及ぶため遺存状態は悪い。606 Ｙを切る。

［構　造］**平面形**：略方形を呈する。**規模**：3.72m／3.56m／深さ 32㎝。**主軸方位**：Ｎ－２°－Ｅ。**壁溝**：カマド部分を除き認められる。上幅 18 ～ 24㎝／下幅５～ 14㎝／深さ５～ 13㎝。**床面**：貼床がなされ、床面は概ね平坦である。**カマド**：北壁中央やや東側に位置し、黄白色粘土を用い築かれている。攪乱を受けており、遺存状態は悪く、僅かに袖の一部が残存する。煙道部は非常に緩やかに立ち上がる。規模は 73 × 59㎝、深さ 11㎝である。**柱穴**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。

［覆　土］14 層に分層される。12 ～ 14 層は掘り方の埋土である。覆土は黒褐色土を基本とする自然堆積層である。

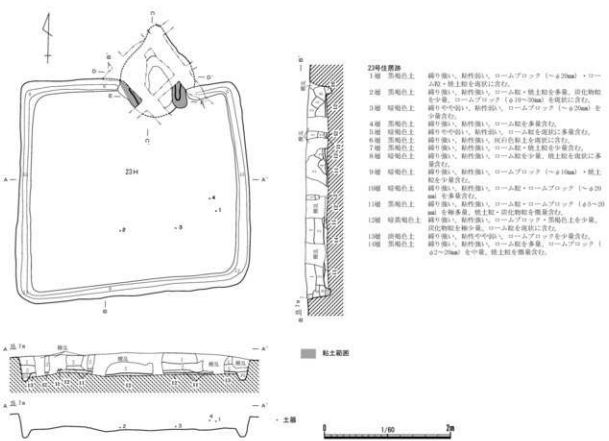
［遺　物］須恵器の坏形土器、甕形土器が出土している。

［時　期］奈良時代（８世紀後半か）。

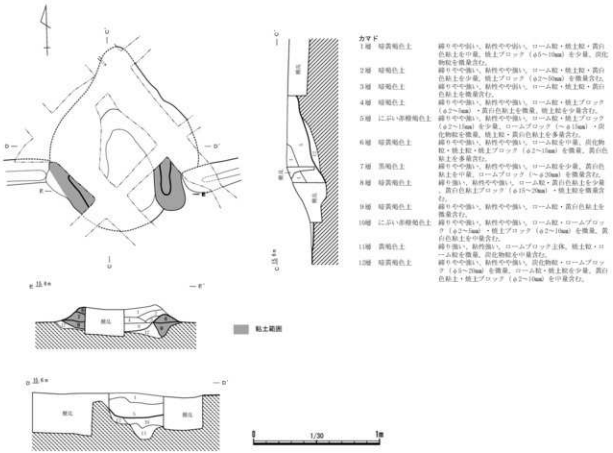
遺　物（第 117 図、図版 45 －２、第 53 表）

［土　器］（第 117 図１～４、図版 45 －２－１～４、第 53 表）

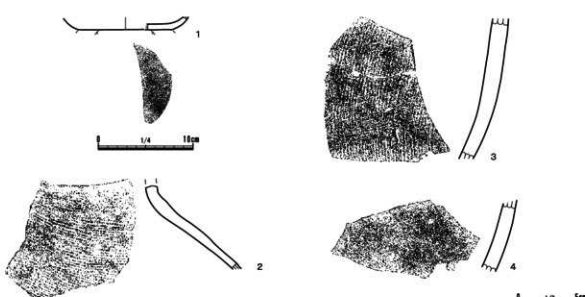
１は須恵器の坏形土器底部、２～４は須恵器の甕形土器胴部である。



第 115 図　23 号住居跡（１／ 60）



第116図　23号住居跡カマド（1／30）



第117図　23号住居跡出土遺物（1／4・1／3）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第117図1 図版45-2-1	須恵器 坏	東部覆土中 (床上16cm)	胴部～ 底部 5％ 未満	高　[1.3] 底　(10.1)	灰	黒色粒子・チャート・白色斜状物質	ロクロ成形／底部外面回転糸切り後、底部外縁部回転ヘラケズリ	鳴山窯 ８世紀後半か
第117図2 図版45-2-2	須恵器 甕	南部覆土中 (床上６cm)	胴部 10％	厚　0.8	灰	黒色粒子・チャート・石英	外面には平行線状のタタキ目／内面には当て具痕、横方向のナデ	
第117図3 図版45-2-3	須恵器 甕	貯蔵穴北側 覆土中 (床上８cm)	胴部 10％	厚　1.3	にぶい褐	赤色粒子・チャート・石英	外面には平行線状のタタキ目／内面横ナデ	
第117図4 図版45-2-4	須恵器 甕	東部覆土中 (床上17cm)	胴部 5％ 未満	厚　1.1	オリーブ黒	黒色粒子・白色粒子・チャート・石英	外面には平行線状のタタキ後ナデ／内面横ナデ	

第53表　23号住居跡出土遺物一覧

24号住居跡

遺　構（第118図）

［位　置］（Ｂ－６・７）グリッド。

［検出状況］床面付近まで攪乱されるため、遺存状態は悪い。625 Ｙを切る。

［構　造］**平面形**：長方形を呈する。**規模**：3.50m／3.08m／深さ33cm。**主軸方位**：Ｎ－30°－Ｗ。**壁溝**：カマド部分を除き認められる。上幅６～12cm／下幅６～13cm／深さ４～８cm。**床面**：貼床されるが、緩やかな起伏が認められる。**カマド**：住居跡北壁中央やや東側に位置し、袖部分が残存している。燃焼面は住居跡床面を僅かに掘り込んでいる。煙道部は階段状に立ち上がる。規模は157 × 117cm、深さ24cmである。**柱穴**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。

［覆　土］９層に分層される。

［遺　物］土師器の坏形土器が出土している。

［時　期］奈良・平安時代。

遺　物（第119図、図版45－３、第54表）

［土　器］（第119図１、図版45－３－１、第54表）

１は落合型の土師器坏形土器口縁部である。

25号住居跡

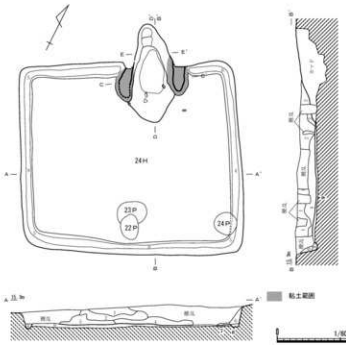
遺　構（第120・121図）

［位　置］（Ｄ－５）グリッド。

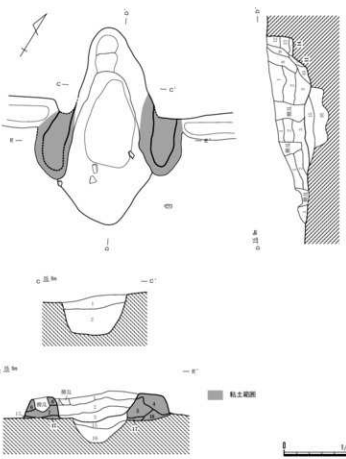
［検出状況］トレンチャーの攪乱が床下まで認められるため、遺存状態は悪い。

［構　造］**平面形**：歪んだ長方形を呈する。**規模**：4.18m／3.30m／深さ11cm。**主軸方位**：Ｎ－５°－Ｗ。**壁溝**：カマド部分と北壁北東隅部分を除き認められる。上幅７～14cm／下幅６～13cm／深さ９～14cm。**床面**：貼床がなされ概ね平坦である。**カマド**：北壁中央やや東側に位置し、白色粘土を基本に築かれている。攪乱されるため遺存状態は悪く、袖の一部が残存しているに過ぎない。燃焼部は住居跡の床面とほぼ同じ高さである。煙道部は垂直に近い角度で立ち上がる。規模は115 × 108cm、深さ16cmである。**柱穴**：検出されなかった。**貯蔵穴**：検出されなかった。

［覆　土］６層に分層される。暗褐色土を基本とする自然堆積である。



24号住居跡
1層　暗褐色土　締りやや弱い、粘性やや弱い、ロームブロック（～φ25mm）を少量、ローム粒を中量含む。攪乱土が混じる。
2層　黒褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を微状に多量、ロームブロック（～φ20mm）を微量含む。
3層　黒褐色土　締り強い、粘性強い、粘土ブロックを微量、ローム粒を少量、焼土粒を多量含む。
4層　黒褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を微状に多量、ロームブロック（～φ10mm）を微量含む。
5層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ロームブロック（～φ10mm）を少量、ローム粒を微状に中量含む。
6層　暗褐色土　締り強い、粘性やや弱い、ローム粒を微量含む。
7層　黒褐色土　締り強い、粘性強い、暗褐色土を少量含む。
8層　暗褐色土　締りやや弱い、粘性強い、ローム粒を多量含む。
9層　明黄褐色土　締り強い、粘性強い、土壁は強く硬化している。



カマド
1層　暗褐色土　締りやや弱い、粘性やや弱い、粘土ブロック（～φ5mm）を微量、小石（φ2～3mm）を少量含む。
2層　褐色土　締り強い、粘性強い、焼土粒・ローム粒を多量含む。炭化物粒を微量、小石（φ2～3mm）を1層より多く含む。
3層　褐色土　締り強い、粘性強い、2層より焼土粒・ローム粒を多量含む。
4層　暗黄褐色土　締りやや弱い、粘性やや弱い、ローム粒・小石を多量、粘土粒を少量含む。
5層　灰褐色土　締りやや弱い、粘性強い、焼土粒・ローム粒を少量、炭化物粒を微量、小石を多量含む。
6層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、焼土粒・ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。
7層　黒褐色土　締り強い、粘性強い、焼土粒を多量、ローム粒・炭化物粒を少量含む。
8層　暗赤褐色土　締りやや弱い、粘性やや弱い、焼土粒を多量、ローム粒・炭化物粒を少量、小石を含む。
9層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ロームブロック（φ20～30mm）を中量、焼土粒を少量、炭化物粒を微量含む。
10層　暗黄褐色土　締りやや弱い、粘性強い、ローム粒を多量、焼土粒を少量含む。
11層　黒褐色土　締りやや弱い、粘性強い、焼土粒を少量、ローム粒・炭化物粒を微量含む。
12層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、焼土粒・ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。
13層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、焼土粒・ローム粒・炭化物粒を微量含む。
14層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量、焼土粒・炭化物粒を微量含む。
15層　暗赤褐色土　締りやや弱い、粘性強い、焼土粒を多量、炭化物粒・ローム粒を少量、焼土ブロック（φ30～50mm）・小石（φ3～10mm）を含む。
16層　黒褐色土　締りやや弱い、粘性やや弱い、ローム粒を多量、焼土粒を少量、炭化物粒を微量含む。
17層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を多量、焼土粒・炭化物粒を少量含む。
18層　灰褐色土　締り強い、粘性強い、4層と似るが、より多くの小石・小礫（φ30～50mm）を含み、硬くしまる。

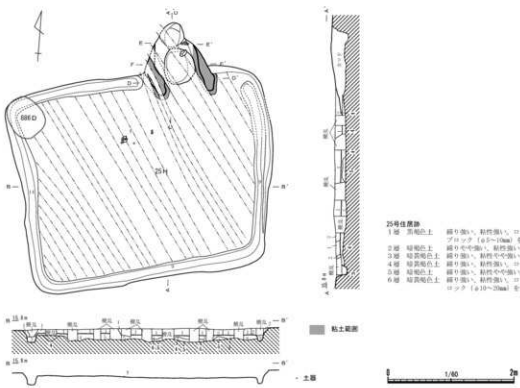
第 118 図　24 号住居跡（１／60）・カマド（１／30）

［遺　　物］土師器の甕形土器が出土している。
［時　　期］奈良時代（８世紀前葉）。
遺　　物（第 122 図、図版 45 － 4、第 55 表）
［土　　器］（第 122 図 1、図版 45 － 4 － 1、第 55 表）
１は土師器の甕形土器口縁部である。

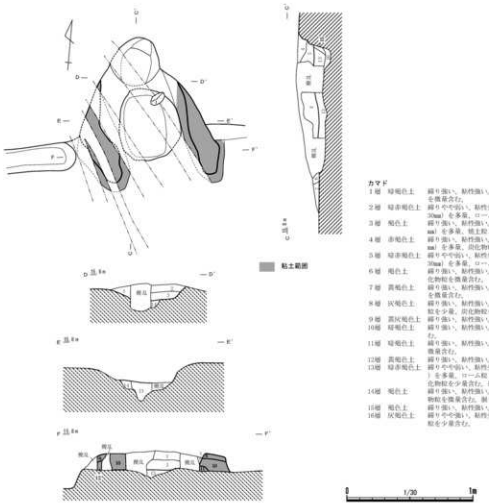
第 119 図　24 号住居跡出土遺物（１／４）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴	備　考
第 119 図 1 図版 45- 3- 1	土師器 坏	覆土中	口縁部 ～胴部 ５％ 未満	高　[3.1] 口　(15.1)	褐	赤色粒子・チャート・ 石英	内外面には横方向のナデ／外面体部下端ケズリ／口縁部内外面及び内面赤彩	落合型坏

第 54 表　24 号住居跡出土遺物一覧



第 120 図　25 号住居跡（１／60）



第121図　25号住居跡カマド（1／30）

第122図　25号住居跡出土遺物（1／4）

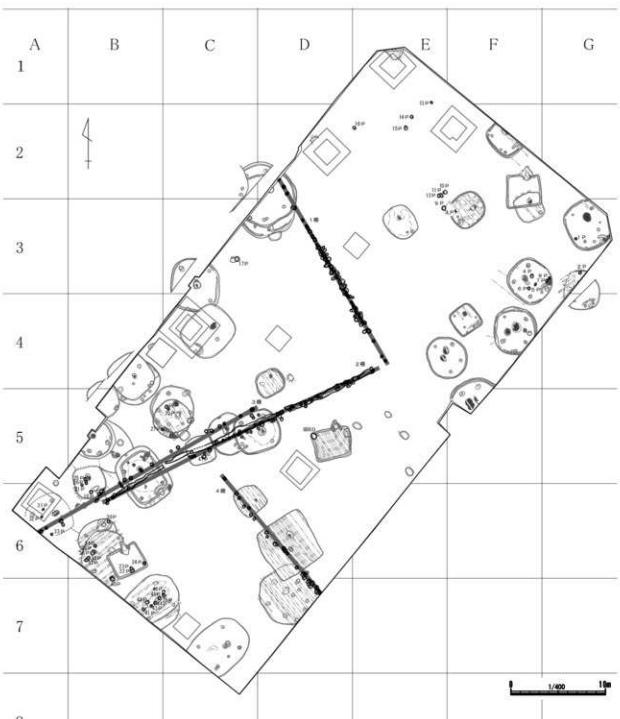
挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第122図1 図版45-4-1	土師器 甕	カマド南東側 床面	口縁部 ～胴部 10%	高 [6.7] 口 (20.0)	にぶい 赤褐	赤色粒子・角閃石・ チャート・石英	外面胴部横・斜位のケズリ／内面横ナデ／口縁部内外面横ナデ	武蔵型甕

第55表　25号住居跡出土遺物一覧

第４節　中世以降

（1）概　要

今回の調査では中世以降の柵列状遺構が４条、土坑が１基検出された。１号柵列状遺構が北西－南東方位、それからほぼ角度を90°違えて、２・３号柵列状遺構が位置している。その南東側に４号柵列状遺構が位置している。



第123図　中世以降の遺構全体図（１／400）

（２）柵列状遺構

１号柵列状遺構

遺　構（第 124 ～ 126 図、表 56・57）

［位　置］（Ｄ－２～４、Ｅ－４）グリッド。

［検出状況］89 Ｊ・198 Ｊを切る。

［構　造］ピットのみで構成される。**規模：**検出長 22.13m ／上幅 1.21m。遺構確認面からの深さ 13 ～ 138㎝。**走行方位：**Ｎ－ 31°－Ｗ。**ピット：**70 本（Ｐ１～ 70）。**ピット間関係：**両端部分はやや間隔があくが、中央部分は連続的にピットが認められる。個々のピットは円形あるいは楕円形を基本とする。他の柵列と組み合わさり機能していたものと思われる。

［覆　土］ピットの多くは黒褐色土を基本とした自然堆積で、柱痕跡が認められるものはない。

［遺　物］図示できる遺物は出土しなかった。

［時　期］中世以降。

２号柵列状遺構

遺　構（第 127 ～ 129 図、表 58 ～ 60）

［位　置］（Ｂ－５・６、Ｃ－５、Ｄ－４・５、Ｅ－４）グリッド。

［検出状況］618・623・624・626 Ｙを切る。

［構　造］溝跡とピットで構成される。**規模：**検出長 31.03m ／上幅 1.79m。遺構確認面からの深さ７～ 86㎝。**走行方位：**Ｎ－ 66°－Ｅ。**ピット：**58 本（Ｐ１～ 58）。**ピット間関係：**南西部、中央部、北東部のピットが群在する。溝底中央部にあるピットは少なく、溝の壁際あるいは外側で主に認められる。中央部分は連続的にピットが認められ、２～３本のピットが切りあうように認められる。個々のピットは円形あるいは楕円形を基本とする。他の柵列と組み合わさり機能していたものと思われる。

［覆　土］溝跡、ピット共に暗褐色土を基本とした自然堆積で、ピットに柱痕跡が認められるものはない。

［遺　物］図示できる遺物は出土しなかった。

［時　期］中世以降。

３号柵列状遺構

遺　構（第 130・131 図、表 61・62）

［位　置］（Ａ・Ｂ－６、Ｂ・Ｃ－５）グリッド。

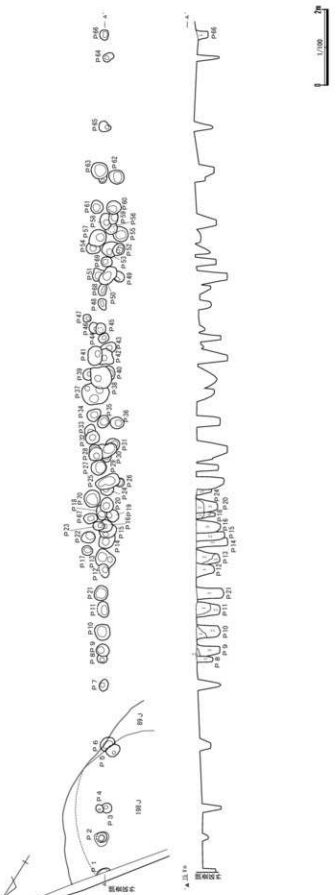
［検出状況］617 ～ 619・623・624・626 Ｙを切る。

［構　造］ピットのみで構成される。**規模：**検出長 25.72 m ／上幅 1.56m。遺構確認面からの深さ 15 ～ 78㎝。**走行方位：**Ｎ－ 60°－Ｅ。**ピット：**28 本（Ｐ１～ 28）。**ピット間関係：**Ｐ 20 ～ 24 が切り合うように構築される以外は散在している。他の柵列と組み合わさり有機的に機能していたものと思われる。

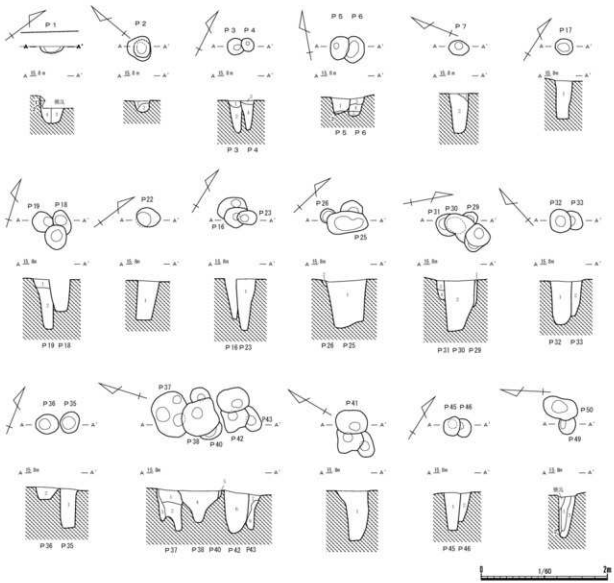
［覆　土］黒褐色土から暗褐色土を基本とした自然堆積で、柱痕跡が認められるものはない。

［遺　物］図示できる遺物は出土しなかった。

［時　期］中世以降。



第124図　1号柵列状遺構（1）（1／100）



P 1
1 堆　黒褐色土　　細ヤや弱い、粘性強い、褐色土ブロックを多量含む。
2 堆　黒褐色土　　細ヤ強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。
3 堆　黒褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ロームブロック（～φ10cm）を混状に含む。
4 堆　黒褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。

P 2
1 堆　暗褐色土　　細ヤ強い、粘性強い、ロームブロック・褐色土を少量含む。
2 堆　黒褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ロームブロック（～φ10cm）を少量含む。

P 3・4
1 堆　暗褐色土　　細ヤ強い、粘性強い、ロームブロック（～φ5cm）を少量含む。
2 堆　暗褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロック（～φ10cm）を混状に多量含む。
3 堆　暗褐色土　　細ヤ強い、粘性強い、ロームブロック（～φ5cm）を混状に多量含む。
4 堆　黒褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量含む。

P 5・6
1 堆　黒褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロックを多量含む。
2 堆　暗黒褐色土　細ヤやや強い、粘性やや強い、黒褐色土を少量含む。
3 堆　黒褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ローム粒を極少量含む。
4 堆　黒褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量含む。
5 堆　暗黒褐色土　細ヤやや強い、粘性やや強い、黒褐色土を少量含む。

P 7
1 堆　暗黒褐色土　細ヤ強い、粘性強い、ローム粒子を少量含む。
2 堆　黒褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量含む。

P 17
1 堆　黒褐色土　　細ヤ強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック（～φ30cm）を混状に多量含む。

P 19
1 堆　暗褐色土　　細ヤ強い、粘性やや強い、褐色土を多量含む。
2 堆　暗褐色土　　細ヤ強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。

P 22
1 堆　黒褐色土　　細ヤ強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック（～φ30cm）を混状に多量含む。

P 23
1 堆　黒褐色土　　細ヤやや強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロックを少量含む。

P 25・26
1 堆　黒褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ローム粒を極少量含む。
2 堆　褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量、暗褐色土を少量含む。

P 29・30・31
1 堆　黒褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ローム粒を極少量含む。
2 堆　黒褐色土　　細ヤ強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック（～φ30cm）を混状に多量含む。
3 堆　暗褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量含む。
4 堆　褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量、暗褐色土を少量含む。

P 32・33
1 堆　暗褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量含む。
2 堆　黒褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ローム粒を極少量含む。

P 35・36
1 堆　黒褐色土　　細ヤ強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック（～φ30cm）を混状に多量含む。
2 堆　暗褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量含む。

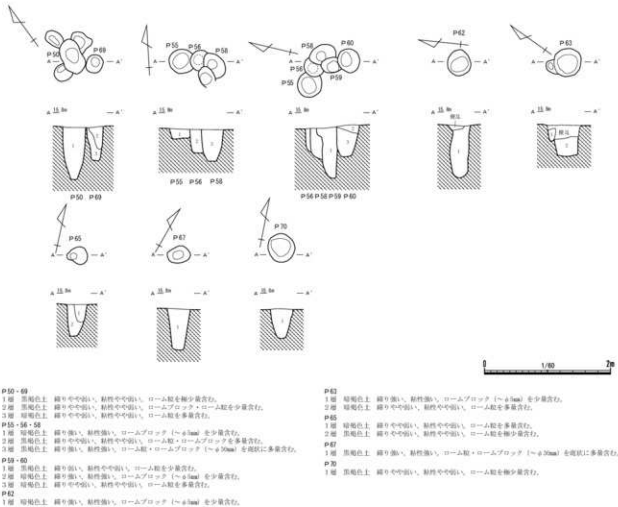
P 37・38・40・42・43
1 堆　黒褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロックを多量含む。
2 堆　暗褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量含む。
3 堆　黒褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ロームブロックを少量含む。
4 堆　黒褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロックを少量含む。
5 堆　暗褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ローム粒を多量含む。
6 堆　黒褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロックを混状に多量含む。
7 堆　黒褐色土　　細ヤ強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック（～φ30cm）を混状に多量含む。
8 堆　暗黒褐色土　細ヤやや強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。

P 41
1 堆　黒褐色土　　細ヤ強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック（～φ30cm）を混状に多量含む。

P 45・46
1 堆　黒褐色土　　細ヤ強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロック（～φ30cm）を混状に多量含む。
2 堆　黒褐色土　　細ヤやや強い、粘性強い、ローム粒・ロームブロックを少量含む。

P 49
1 堆　暗褐色土　　細ヤやや強い、粘性強い、ローム粒を少量含む。粘質？
2 堆　黒褐色土　　細ヤやや強い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロックを多量含む。
3 堆　暗褐色土　　細ヤやや強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。

第 125 図　1号柵列状遺構（2）（1／60）



第126図　１号柵列状遺構（３）（１／60）

４号柵列状遺構

遺　　構（第132・133図、表63）

［位　　置］（Ｃ－５・６、Ｄ－６・７）グリッド。

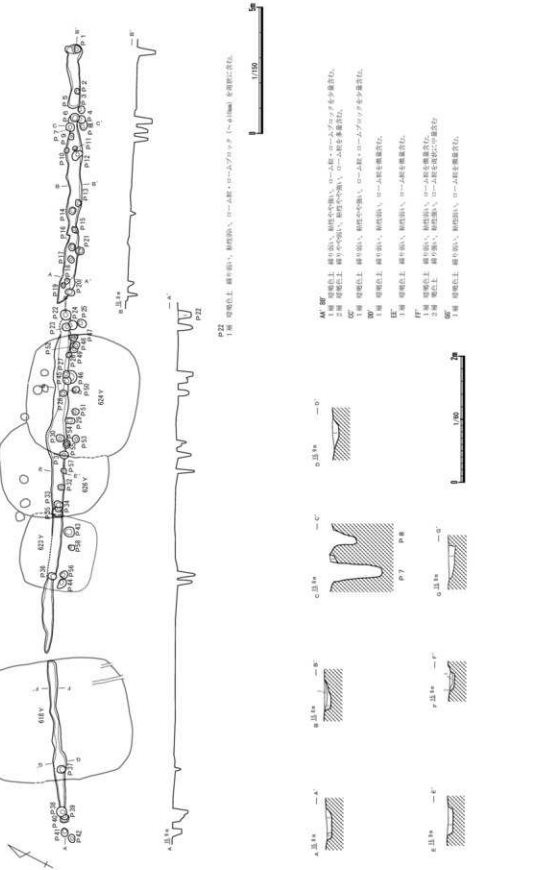
［検出状況］201 Ｊ・614 Ｙ・622 Ｙを切る。

［構　　造］ピットのみで構成される。**規模：**検出長15.64 m／上幅1.1m。遺構確認面からの深さ22～101㎝。**走行方位：**Ｎ－40°－Ｅ。**ピット：**27本（Ｐ１～27）。**ピット間関係：**Ｐ17～21・26・27は等間隔で並ぶ。中央部はＰ12・13のように近接してい築かれる部分もある。南東部は４～５本のピットが接するように築かれている。他の柵列と組み合わさり有機的に機能していたものと思われる。

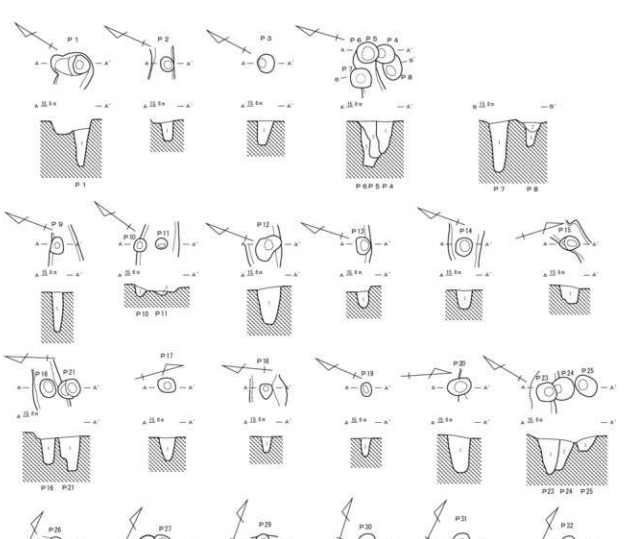
［覆　　土］暗褐色土を基本とした自然堆積で、柱痕跡が認められるものはない。

［遺　　物］図示できる遺物は出土しなかった。

［時　　期］中世以降。



第127図　２号柵列状遺構（１）（１／150・１／60）



P 1
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒・ロームブロックを少量含む。

P 2
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒・ロームブロックを少量含む。

P 3
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒・ロームブロックを少量含む。

P 4・5・6
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、ロームブロックを多量含む。
2 層　暗褐色土　締り弱い、粘性やや強い、ロームブロックを少量含む。
3 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒・ロームブロックを多量含む。

P 7・8
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性やや強い、ローム粒・ロームブロックを少量含む。
2 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。
3 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、1 層よりローム粒・ロームブロックを多量含む。

P 9・10・11・12・13・14・15・16・17・19・20・21
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒・ロームブロックを少量含む。

P 18
1 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや弱い、ローム粒・ロームブロックを多量含む。

P 23・24・25
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒・ロームブロック（～φ10mm）を微量に含む。
2 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、ロームブロック（～φ10mm）を極少量含む。
3 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒を少量、ロームブロック（～φ10mm）を極少量含む。

P 26
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、下層にローム粒を多量含む。

P 27
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、下層にローム粒を多量含む。
2 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒を少量含む。
3 層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性強い、ローム粒を多量含む。
4 層　黒褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒を微量含む。

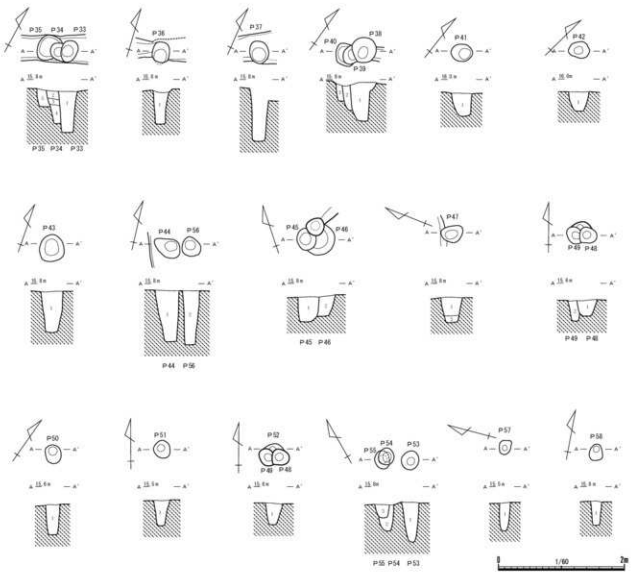
P 29
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、ロームブロック（～φ20mm）を微量含む。
2 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性弱い、ローム粒を微量含む。
3 層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、暗褐色土を多量含む。

P 30
1 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性弱い、ローム粒を微量含む。
2 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性やや強い、ローム粒を微量に中量含む。
3 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を微量に中量含む。

P 31
1 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性弱い、ローム粒を微量含む。

P 32
1 層　暗褐色土　締りやや強い、粘性弱い、ローム粒を微量含む。

第 128 図　２号柵列状遺構（２）（１／60）



P 33・34・35
1 層　暗褐色土　締り やや弱い、粘性弱い、ローム粒を微量含む。
2 層　暗褐色土　締り やや弱い、粘性弱い、ローム粒を斑状に少量含む。
3 層　黒褐色土　締り やや強い、粘性弱い、ローム粒を微量含む。
4 層　褐色土　締り やや強い、粘性弱い、ローム粒を微量含む。
5 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を斑状に少量含む。

P 36
1 層　黒褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒を斑状に多量含む。

P 38・39・40
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、ロームブロック（φ 20～40mm）を多量、ローム粒を少量含む。
2 層　暗褐色土　締り やや弱い、粘性弱い、ロームブロック（～φ 10mm）を斑状に多量、ローム粒を中量含む。
3 層　暗褐色土　締り やや弱い、粘性弱い、ロームブロック（φ 30～40mm）を斑状に多量、ローム粒を少量含む。

P 41
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、ロームブロック（φ 20～40mm）を多量、ローム粒を少量含む。

P 42
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、ロームブロック（φ 30～40mm）を多量、ローム粒を少量含む。

P 43
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒を多量、ロームブロック（～φ 30mm）を少量含む。

P 44・56
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒を微量含む。
2 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒を微量含む。

P 45・46
1 層　黒褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒を少量含む。
2 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒を多量、ロームブロック（～φ 30mm）を少量含む。

P 47
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、炭化物粒を微量含む。
2 層　暗黄褐色土　締り弱い、粘性弱い、ロームブロック（～φ 20mm）を多量含む。

P 48・49
1 層　黒褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒を少量含む。
2 層　黒褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒・ロームブロック（～φ 10mm）を微量含む。

P 50
1 層　黒褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒を少量含む。

P 51
1 層　黒褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒を少量含む。

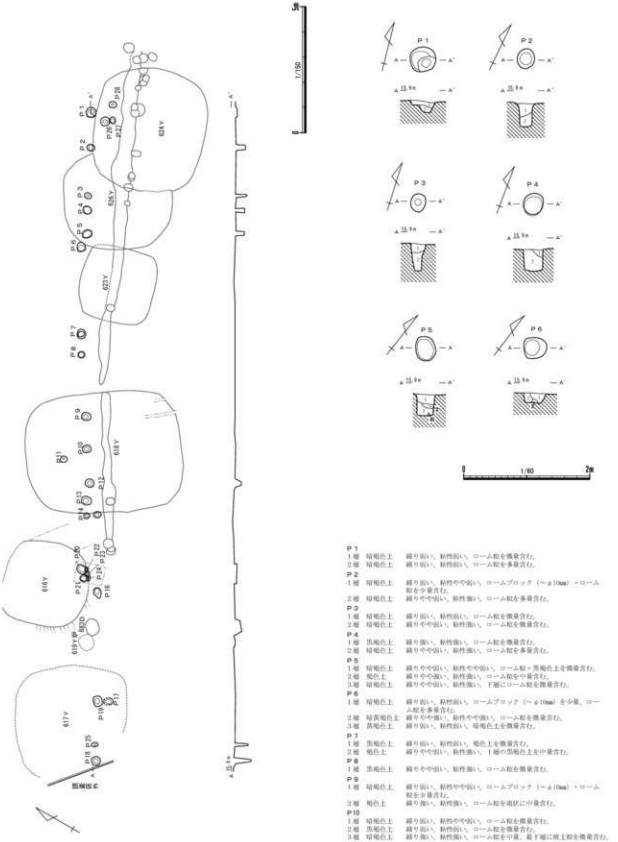
P 52
1 層　黒褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒を少量含む。

P 53・54・55
1 層　黒褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒を少量含む。
2 層　黒褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒を少量含む。
3 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒を中量含む。

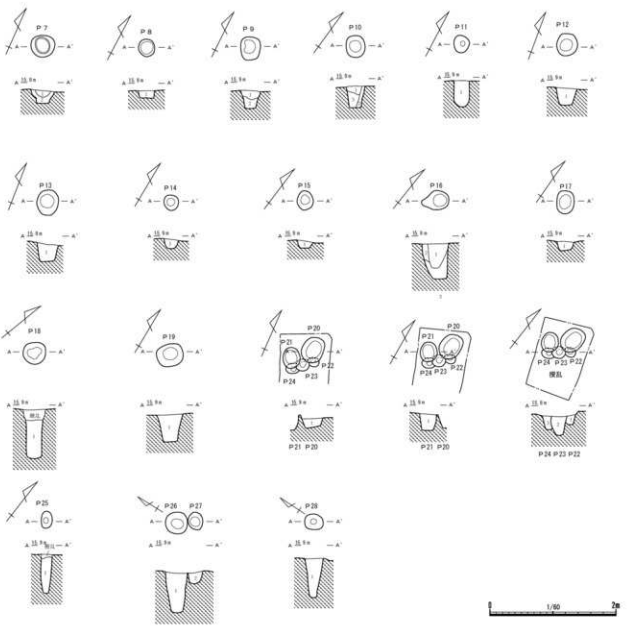
P 57
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒を微量、ロームブロック（φ 10～20mm）を少量含む。

P 58
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性弱い、ローム粒を微量含む。

第 129 図　２号柵列状遺構（３）（１／60）



第 130 図　３号柵列状遺構（１）（１／150・１／60）



P 7
1 層　黒褐色土　締り弱い、粘性強い、褐色土を微量含む。
2 層　褐色土　締りやや弱い、粘性強い、1 層が黒褐色土を中量含む。

P 8
1 層　黒褐色土　締りやや弱い、粘性強い、ローム粒を微量含む。

P 9
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性やや弱い、ロームブロック（～φ10cm）・ローム粒を少量含む。
2 層　褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を混核に中量含む。

P 10
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒を微量含む。
2 層　黒褐色土　締り弱い、粘性強い、ローム粒を微量含む。
3 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を中量、底下層に焼土粒を微量含む。

P 11
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒を中量含む。

P 12
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒を微量含む。

P 13
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒・ロームブロック（～φ10cm）を微量含む。

P 14
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性強い、ロームブロック（～φ20cm）・ローム粒を多量含む。

P 15
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性強い、ローム粒を微量含む。

P 16
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性やや弱い、ロームブロック（～φ10cm）・ローム粒を少量含む。
2 層　暗褐色土　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒を多量含む。
3 層　暗黄褐色土　締りやや強い、粘性強い、ロームブロック（～φ20cm）を微量含む。

P 17
1 層　黒褐色土　締りやや弱い、粘性強い、ロームブロック（～φ5cm）・ローム粒を微量含む。

P 18
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性強い、ローム粒を多量含む。

P 19
1 層　黒褐色土　締り弱い、粘性強い、ローム粒・攪乱土を多量含む。

P 20
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性強い、ローム粒を中量含む。

P 21
1 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を微量含む。

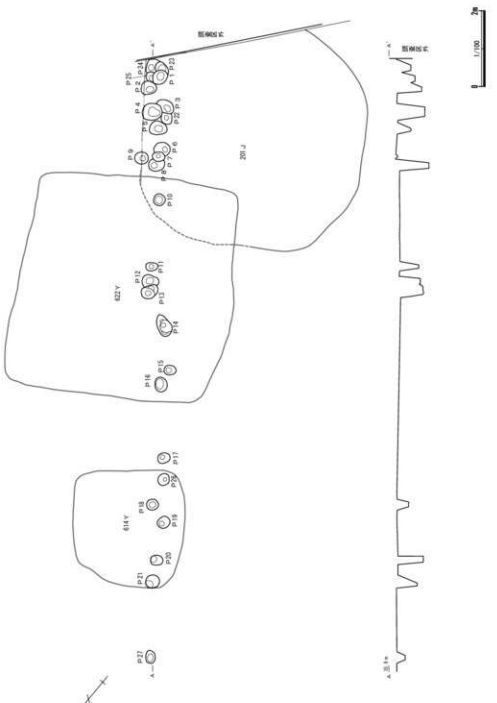
P 22・23・24
1 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を中量含む。
2 層　黒褐色土　締り弱い、粘性強い、ローム粒・攪乱土を多量含む。
3 層　暗褐色土　締り強い、粘性強い、ローム粒を中量含む。

P 25
1 層　黒褐色土　締り弱い、粘性やや弱い、ロームブロック（～φ10cm）を微量、ローム粒を中量含む。

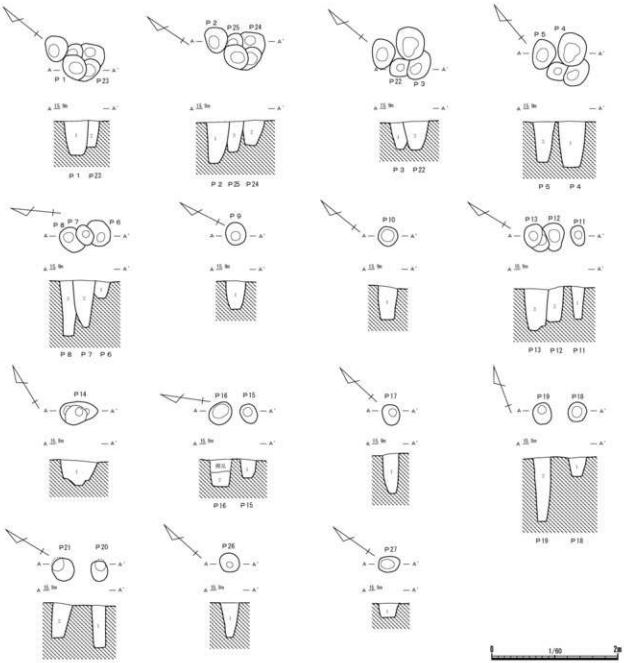
P 26・27
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒を多量含む。
2 層　暗褐色　締り弱い、粘性強い、ローム粒を少量含む。

P 28
1 層　暗褐色土　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒を多量含む。

第 131 図　３号柵列状遺構（２）（１／60）



第 132 図　４号柵列状遺構（１）（１／100）



P 1・23
1 層　暗褐色土　　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒・ロームブロック（φ 10～50mm）を少量含む。
2 層　暗褐色土　　締り弱い、粘性弱い、ロームブロック（φ 10～30mm）を少量含む。

P 2・24・25
1 層　暗褐色土　　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒・ロームブロック（φ 10～30mm）を中量含む。
2 層　暗褐色土　　締り弱い、粘性やや弱い、ロームブロック（φ 1～5mm）を中量含む。
3 層　暗褐色土　　締り弱い、粘性やや弱い、ロームブロック（φ 10～30mm）を少量含む。

P 3・22
1 層　暗褐色土　　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒・ロームブロック（φ 10～50mm）を少量含む。
2 層　暗褐色土　　締り弱い、粘性やや弱い、ロームブロック（φ 1～5mm）を中量含む。

P 4・5
1 層　暗黒褐色土　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒を多量、ロームブロック（φ 10～20mm）を少量含む。
2 層　暗褐色土　　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒・ロームブロック（φ 10～30mm）を中量含む。

P 6・7・8
1 層　暗褐色土　　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒・ロームブロック（φ 10～30mm）を中量含む。
2 層　暗黒褐色土　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒を多量、ロームブロック（φ 10～20mm）を少量含む。
3 層　褐色土　　締り弱い、粘性強い、ロームブロック（φ 10～20mm）を中量、ローム粒を少量含む。

P 9
1 層　暗褐色土　　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒・ロームブロック（φ 10～30mm）を中量含む。

P 10
1 層　暗褐色土　　締りやや弱い、粘性やや弱い、ローム粒を少量含む。

P 11・12・13
1 層　褐色土　　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒を中量含む。
2 層　暗褐色土　　締りやや弱い、粘性やや弱い、ローム粒を少量含む。
3 層　暗褐色土　　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒・ロームブロック（φ 10～30mm）を中量含む。

P 14
1 層　暗褐色土　　締りやや弱い、粘性やや弱い、ローム粒を微量含む。

P 15・16
1 層　暗褐色土　　締りやや弱い、粘性やや弱い、ローム粒を少量含む。
2 層　褐色土　　締り弱い、粘性強い、ローム粒・ロームブロックを多量含む。

P 17
1 層　暗褐色土　　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒・ロームブロック（φ 10～30mm）を中量含む。

P 18・19
1 層　暗褐色土　　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒・ロームブロック（φ 10～50mm）を少量含む。
2 層　暗褐色土　　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒・ロームブロック（φ 10～50mm）を少量含む。

P 20・21
1 層　暗褐色土　　締りやや弱い、粘性やや弱い、ロームブロック（φ 10～20mm）を中量、ローム粒を多量含む。
2 層　暗褐色土　　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒・ロームブロック（φ 10～30mm）を中量含む。

P 26
1 層　暗褐色土　　締りやや弱い、粘性やや弱い、ローム粒を少量含む。

P 27
1 層　暗褐色土　　締り弱い、粘性やや弱い、ローム粒・ロームブロック（φ 10～50mm）を少量含む。

第 133 図　４号柵列状遺構（２）（１／60）

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等
			長軸	短軸	深さ	
Ｐ１	１号棚列	楕円形	39	11以上	25	４層
Ｐ２	１号棚列	円形	29	26	19	２層
Ｐ３	１号棚列	円形	28	26	53	２層／Ｐ４に切られる
Ｐ４	１号棚列	円形	24	19	49	２層／Ｐ３を切る
Ｐ５	１号棚列	楕円形	39	30	27	２層／Ｐ６を切る
Ｐ６	１号棚列	楕円形	44	33	29	３層／Ｐ５に切られる
Ｐ７	１号棚列	楕円形	34	24	65	２層
Ｐ８	１号棚列	楕円形	17	12以上	27	単層／Ｐ９に切られる
Ｐ９	１号棚列	円形	22	21	38	２層／Ｐ８を切る
Ｐ10	１号棚列	隅丸方形	26	25	39	２層
Ｐ11	１号棚列	楕円形	26	18	39	２層
Ｐ12	１号棚列	楕円形	23	16	30	単層／Ｐ13を切る
Ｐ13	１号棚列	円形	34	28	39	２層／Ｐ12に切られる
Ｐ14	１号棚列	方形	43以上	41	－	単層／Ｐ15に切られる
Ｐ15	１号棚列	楕円形	48	31以上	－	単層／Ｐ16・Ｐ23に切られる
Ｐ16	１号棚列	楕円形	41以上	34	66	土層不明／Ｐ23に切られる
Ｐ17	１号棚列	円形	32	28	63	単層／ローム粒・ロームブロック（～φ30mm）を斑状に多量含む
Ｐ18	１号棚列	楕円形	42	28	－	土層不明／Ｐ19を切る、Ｐ20に切られる
Ｐ19	１号棚列	円形	32	29以上	83	２層／Ｐ18・Ｐ19を切る・Ｐ20に切られる
Ｐ20	１号棚列	楕円形	41	36	54	２層／Ｐ18・Ｐ19を切る
Ｐ21	１号棚列	円形	24	23	44	単層／ローム粒・ロームブロック（～φ30mm）を斑状に多量含む
Ｐ22	１号棚列	楕円形	38	33	64	単層／ローム粒・ロームブロック（～φ30mm）を斑状に多量含む
Ｐ23	１号棚列	楕円形	32	23	85	単層／ローム粒・ロームブロックを少量含む／Ｐ15・Ｐ16を切る
Ｐ24	１号棚列	隅丸長方形	37	21以上	－	単層／Ｐ25に切られる
Ｐ25	１号棚列	長楕円形	66	37	－	単層／Ｐ24・Ｐ26を切る
Ｐ26	１号棚列	円形	24	23以上	8	単層／Ｐ25に切られる
Ｐ27	１号棚列	円形	25	24	36	土層不明
Ｐ28	１号棚列	方形	44	38	－	土層不明／Ｐ30を切る
Ｐ29	１号棚列	楕円形	26以上	16以上	44	単層／Ｐ30に切られる
Ｐ30	１号棚列	長楕円形	49以上	37	83	単層／Ｐ29・Ｐ31を切る、Ｐ28に切られる
Ｐ31	１号棚列	隅丸方形	38	29以上	31	２層／Ｐ30に切られる
Ｐ32	１号棚列	楕円形	39	35	72	単層／Ｐ33を切る
Ｐ33	１号棚列	楕円形	37	26以上	57	単層／Ｐ32に切られる
Ｐ34	１号棚列	楕円形	26	21	－	土層不明
Ｐ35	１号棚列	楕円形	36	31	65	単層
Ｐ36	１号棚列	楕円形	38	32	20	単層
Ｐ37	１号棚列	隅丸長方形	76	59	66	３層／Ｐ38に切られる
Ｐ38	１号棚列	方形	63	58	51	単層／Ｐ37・Ｐ39・Ｐ40を切る
Ｐ39	１号棚列	円形	32	25以上	－	土層不明／Ｐ38に切られる
Ｐ40	１号棚列	円形	41	18以上	12	単層／Ｐ38に切られる

第56表　１号棚列状遺構内ピット一覧（１）

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等
			長軸	短軸	深さ	
Ｐ 41	１号柵列	楕円形	53	39	82	単層／ローム粒・ロームブロック（～φ 30㎜）を斑状に多量含む／Ｐ 42・Ｐ 43 を切る
Ｐ 42	１号柵列	方形	44	40 以上	67	単層／Ｐ 41 に切られる
Ｐ 43	１号柵列	長楕円形	41 以上	28	58	２層／Ｐ 41・Ｐ 42 に切られる
Ｐ 44	１号柵列	隅丸長方形	18	14	38	土層不明
Ｐ 45	１号柵列	隅丸方形	31	27	63	単層／Ｐ 46 を切る
Ｐ 46	１号柵列	円形	32	22 以上	45	単層／Ｐ 45 切られる
Ｐ 47	１号柵列	方形	14	14	－	土層不明
Ｐ 48	１号柵列	長楕円形	21	15	21	土層不明
Ｐ 49	１号柵列	楕円形	28 以上	28	68	３層／Ｐ 50 に切られる
Ｐ 50	１号柵列	長楕円形	59	36	86	単層／Ｐ 49・Ｐ 51・Ｐ 68 を切る
Ｐ 51	１号柵列	不整形	36	29	－	土層不明／Ｐ 50 に切られる
Ｐ 52	１号柵列	楕円形	23	18	－	土層不明／Ｐ 53 を切る
Ｐ 53	１号柵列	円形	26	25 以上	－	土層不明／Ｐ 52 に切られる
Ｐ 54	１号柵列	楕円形	24	15 以上	－	土層不明／Ｐ 57 に切られる
Ｐ 55	１号柵列	円形	41 以上	40	14	３層／Ｐ 56 に切られる
Ｐ 56	１号柵列	円形	34	21 以上	39	３層／Ｐ 55 を切り、Ｐ 58・Ｐ 59 に切られる
Ｐ 57	１号柵列	方形	29	26	－	土層不明／Ｐ 54 を切る
Ｐ 58	１号柵列	楕円形	46	30 以上	53	３層／Ｐ 56 を切り、Ｐ 59 に切られる
Ｐ 59	１号柵列	楕円形	35 以上	26	84	３層／Ｐ 56・Ｐ 58 を切り、Ｐ 60 に切られる
Ｐ 60	１号柵列	円形	40	38	52	２層／Ｐ 59 を切る
Ｐ 61	１号柵列	円形	21	21	－	土層不明
Ｐ 62	１号柵列	円形	42	38	86	単層／ロームブロック（～φ５㎜）を少量含む
Ｐ 63	１号柵列	円形	60	47	52	２層
Ｐ 64	１号柵列	不整形	18	13	38	土層不明
Ｐ 65	１号柵列	円形	33	29	52	２層
Ｐ 66	１号柵列	楕円形	17	14	18	単層／ローム粒を極少量含む
Ｐ 67	１号柵列	楕円形	36	27	67	単層／ローム粒・ロームブロック（～φ 30㎜）を斑状に多量含む
Ｐ 68	１号柵列	長楕円形	32 以上	23	16	土層不明
Ｐ 69	１号柵列	楕円形	31	29	55	２層
Ｐ 70	１号柵列	円形	48	44	49	単層／ローム粒を極少量含む

第 57 表　１号柵列状遺構内ピット一覧（２）

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等
			長軸	短軸	深さ	
Ｐ１	２号柵列	楕円形	29	27	59	単層／ローム粒・ロームブロックを少量含む
Ｐ２	２号柵列	楕円形	24	22	31	単層／ローム粒・ロームブロックを少量含む
Ｐ３	２号柵列	円形	29	28	38	単層／ローム粒・ロームブロックを少量含む
Ｐ４	２号柵列	円形	30	28 以上	51	単層／Ｐ８を切り、Ｐ５に切られる

第 58 表　２号柵列状遺構内ピット一覧（１）

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等
			長軸	短軸	深さ	
Ｐ５	２号棚列	円形	34	33	58	単層／Ｐ４を切り
Ｐ６	２号棚列	不明	23 以上	－	72	単層
Ｐ７	２号棚列	方形	33	30	79	単層
Ｐ８	２号棚列	楕円形	42 以上	29	38	２層
Ｐ９	２号棚列	長方形	27	22	63	単層／ローム粒・ロームブロックを少量含む
Ｐ 10	２号棚列	楕円形	22	19	15	単層／ローム粒・ロームブロックを少量含む
Ｐ 11	２号棚列	円形	19	17	7	単層／ローム粒・ロームブロックを少量含む
Ｐ 12	２号棚列	楕円形	47	34	58	単層／ローム粒・ロームブロックを少量含む
Ｐ 13	２号棚列	楕円形	30	24	26	単層／ローム粒・ロームブロックを少量含む
Ｐ 14	２号棚列	円形	29	27	29	単層／ローム粒・ロームブロックを少量含む
Ｐ 15	２号棚列	楕円形	32	23	27	単層／ローム粒・ロームブロックを少量含む
Ｐ 16	２号棚列	楕円形	30	25	41	単層／ローム粒・ロームブロックを少量含む
Ｐ 17	２号棚列	楕円形	28	23	36	単層／ローム粒・ロームブロックを少量含む
Ｐ 18	２号棚列	楕円形	25	20	25	単層／ローム粒・ロームブロックを多量含む
Ｐ 19	２号棚列	楕円形	22	18	29	単層／ローム粒・ロームブロックを少量含む
Ｐ 20	２号棚列	楕円形	39	27	57	単層／ローム粒・ロームブロックを少量含む
Ｐ 21	２号棚列	円形	36	31	54	単層／ローム粒・ロームブロックを少量含む
Ｐ 22	２号棚列	隅丸方形	43	40	52	土層不明
Ｐ 23	２号棚列	円形	31	30	56	単層／Ｐ 24 を切る
Ｐ 24	２号棚列	円形	37	35	48	単層／Ｐ 23 に切られる
Ｐ 25	２号棚列	楕円形	39	30	21	単層
Ｐ 26	２号棚列	円形	26	20	49	単層／下層にローム粒を多量含む
Ｐ 27	２号棚列	円形	30	27	62	４層／Ｐ 45・Ｐ 46 を切る
Ｐ 28	２号棚列	円形	30	25	43	土層不明
Ｐ 29	２号棚列	隅丸長方形	39	23	80	３層
Ｐ 30	２号棚列	円形	31	29	46	２層
Ｐ 31	２号棚列	円形	34	29	53	単層／ローム粒を微量含む
Ｐ 32	２号棚列	隅丸方形	27	23	53	単層／ローム粒を微量含む
Ｐ 33	２号棚列	楕円形	38	26	65	単層／Ｐ 34 を切る
Ｐ 34	２号棚列	楕円形	28	25 以上	51	３層／Ｐ 35 を切り、Ｐ 33 に切られる
Ｐ 35	２号棚列	楕円形	43	32 以上	27	単層／Ｐ 34 に切られる
Ｐ 36	２号棚列	隅丸長方形	32	27	50	単層／ローム粒を斑状に多量含む
Ｐ 37	２号棚列	円形	37	30	75	土層不明
Ｐ 38	２号棚列	円形	41	40	62	単層／Ｐ 39 を切る
Ｐ 39	２号棚列	楕円形	37 以上	25	40	単層／Ｐ 40 を切り、Ｐ 38 に切られる
Ｐ 40	２号棚列	円形	40	27 以上	25	単層／Ｐ 39 に切られる
Ｐ 41	２号棚列	楕円形	34	28	35	単層／ロームブロック（φ 20 ～ 40mm）を多量、ローム粒を少量含む
Ｐ 42	２号棚列	楕円形	33	27	31	単層／ロームブロック（φ 20 ～ 40mm）を多量、ローム粒を少量含む
Ｐ 43	２号棚列	楕円形	43	39	65	単層／ローム粒を多量、ロームブロック（～φ 30mm）を少量含む
Ｐ 44	２号棚列	楕円形	46	29	81	単層

第 59 表　２号棚列状遺構内ピット一覧（２）

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等
			長軸	短軸	深さ	
Ｐ 45	２号棚列	円形	35	31	40	２層／Ｐ 46 を切り、Ｐ 27 に切られる
Ｐ 46	２号棚列	円形	50	31 以上	32	２層／Ｐ 27・Ｐ 45 に切られる
Ｐ 47	２号棚列	楕円形	34	30	40	２層
Ｐ 48	２号棚列	楕円形	27	25	27	単層／Ｐ 49 を切る
Ｐ 49	２号棚列	隅丸方形	28	21	33	単層／Ｐ 48 に切られる
Ｐ 50	２号棚列	楕円形	30	25	47	単層／ローム粒を少量含む
Ｐ 51	２号棚列	円形	28	26	40	単層／ローム粒を少量含む
Ｐ 52	２号棚列	円形	35 以上	７以上	34	単層／ローム粒を少量含む
Ｐ 53	２号棚列	円形	30	28	63	単層
Ｐ 54	２号棚列	円形	27	24	41	単層／Ｐ 55 を切る
Ｐ 55	２号棚列	楕円形	29	22 以上	21	単層／Ｐ 54 に切られる
Ｐ 56	２号棚列	円形	32	30	86	単層
Ｐ 57	２号棚列	方形	23	19	45	単層／ローム粒を微量、ロームブロック（φ 10 ～ 20mm）を少量含む
Ｐ 58	２号棚列	楕円形	26	22	38	単層／ローム粒を微量含む

第 60 表　２号柵列状遺構内ピット一覧（３）

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等
			長軸	短軸	深さ	
Ｐ１	３号棚列	円形	41	40	17	２層
Ｐ２	３号棚列	円形	32	28	37	２層
Ｐ３	３号棚列	楕円形	28	24	43	２層
Ｐ４	３号棚列	円形	34	29	35	２層
Ｐ５	３号棚列	楕円形	40	32	33	３層
Ｐ６	３号棚列	方形	37	33	16	３層
Ｐ７	３号棚列	円形	38	36	20	２層
Ｐ８	３号棚列	円形	29	26	11	単層／ローム粒を微量含む
Ｐ９	３号棚列	隅丸方形	37	32	29	２層
Ｐ 10	３号棚列	隅丸方形	35	30	34	３層
Ｐ 11	３号棚列	円形	28	25	42	単層／ローム粒を中量含む
Ｐ 12	３号棚列	円形	35	34	26	単層／ローム粒を微量含む
Ｐ 13	３号棚列	円形	40	34	27	単層／ローム粒・ロームブロック（～φ 10mm）を微量含む
Ｐ 14	３号棚列	円形	24	23	15	２層
Ｐ 15	３号棚列	楕円形	31	25	11	単層／ローム粒を微量含む
Ｐ 16	３号棚列	不整形	44	31	56	３層
Ｐ 17	３号棚列	隅丸長方形	36	27	15	単層／ロームブロック（～φ５m）・ローム粒を微量含む
Ｐ 18	３号棚列	円形	37	36	78	単層／ローム粒を多量含む
Ｐ 19	３号棚列	長方形	42	36	43	単層／ローム粒・攪乱土を多量含む
Ｐ 20	３号棚列	楕円形	42	31	14	単層／ローム粒を中量含む／Ｐ 22・Ｐ 23 を切る
Ｐ 21	３号棚列	楕円形	31	28	－	単層／ローム粒を微量含む／Ｐ 23・Ｐ 24 を切る
Ｐ 22	３号棚列	円形	19	15	－	単層Ｐ 20・Ｐ 23 に切られる

第 61 表　３号柵列状遺構内ピット一覧（１）

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等
			長軸	短軸	深さ	
Ｐ 23	３号棚列	円形	22	19	－	単層Ｐ 22・Ｐ 24 を切り、Ｐ 20・Ｐ 21 に切られる
Ｐ 24	３号棚列	楕円形	19 以上	14 以上	－	単層Ｐ 21・Ｐ 23 に切られる
Ｐ 25	３号棚列	長楕円形	28	17	62	単層／ローム ブロック（～φ 10㎜）を微量，ローム粒を中量含む
Ｐ 26	３号棚列	円形	36	36	63	単層
Ｐ 27	３号棚列	楕円形	28	24	17	単層
Ｐ 28	３号棚列	楕円形	31	26	62	単層／ローム粒を多量含む

第 62 表　３号棚列状遺構内ピット一覧（２）

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等
			長軸	短軸	深さ	
Ｐ 1	４号棚列	楕円形	43	35	54	単層／Ｐ 23・Ｐ 24・Ｐ 25 を切る
Ｐ 2	４号棚列	楕円形	40	34	66	単層
Ｐ 3	４号棚列	楕円形	49	33 以上	42	単層／Ｐ 22 を切る、Ｐ 4 に切られる
Ｐ 4	４号棚列	隅丸方形	53	45	71	単層／Ｐ 2 を切る
Ｐ 5	４号棚列	楕円形	47	35	64	単層
Ｐ 6	４号棚列	楕円形	43	36	27	単層／Ｐ 7 に切られる
Ｐ 7	４号棚列	楕円形	32	25	75	単層／Ｐ 6・Ｐ 8 を切る
Ｐ 8	４号棚列	楕円形	43	32	86	単層／Ｐ 7 に切られる
Ｐ 9	４号棚列	楕円形	35	32	45	単層／ローム粒・ローム ブロック（φ 10 ～ 30㎜）を中量含む
Ｐ 10	４号棚列	円形	31	30	52	単層／ローム粒を少量含む
Ｐ 11	４号棚列	長楕円形	32	22	52	単層
Ｐ 12	４号棚列	楕円形	44	34 以上	54	単層／Ｐ 13 に切られる
Ｐ 13	４号棚列	楕円形	47	33	66	単層／Ｐ 12 を切る
Ｐ 14	４号棚列	長楕円形	59	36	39	単層／ローム粒を微量含む
Ｐ 15	４号棚列	楕円形	32	26	29	単層
Ｐ 16	４号棚列	楕円形	39	33	43	単層
Ｐ 17	４号棚列	楕円形	33	28	63	単層／ローム粒・ローム ブロック（φ 10 ～ 30㎜）を中量含む
Ｐ 18	４号棚列	円形	32	29	30	単層
Ｐ 19	４号棚列	楕円形	34	29	101	単層
Ｐ 20	４号棚列	楕円形	32	27	67	単層
Ｐ 21	４号棚列	円形	37	34	55	単層
Ｐ 22	４号棚列	隅丸長方形	28	25	44	2 層／Ｐ 3 に切られる
Ｐ 23	４号棚列	楕円形	44	28 以上	42	単層／Ｐ 24 を切る、Ｐ 1 に切られる
Ｐ 24	４号棚列	円形	53 以上	23 以上	41	単層／Ｐ 1・Ｐ 23・Ｐ 25 に切られる
Ｐ 25	４号棚列	楕円形	27 以上	17 以上	49	単層／Ｐ 24 を切る、Ｐ 1 に切られる
Ｐ 26	４号棚列	円形	32	30	55	単層／ローム粒を少量含む
Ｐ 27	４号棚列	楕円形	33	25	22	単層／ローム粒・ローム ブロック（φ 10 ～ 50㎜）を少量含む

第 63 表　４号棚列状遺構内ピット一覧

（３）土　坑

886 号土坑

遺　構（第 134 図）

［位　置］（D－５）グリッド。

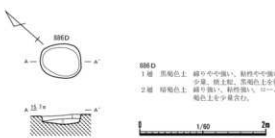
［検出状況］単独。

［構　造］平面楕円形、断面浅い箱形。**規模**：64 × 55cm。**深さ**：14cmである。**長軸方位**：N－ 41°－W。

［覆　土］２層に分層される。

［遺　物］図示できる遺物は出土していない。

［時　期］中世以降。



第 134 図　886 号土坑（１／60）

（４）ピット

本地点で検出されたピットは 47 本（１～ 29 P・31 ～ 48 P）である。各ピットの内容については、第 64・65 表に示した。それぞれのピットの時期については縄文時代から中世までのもが認められたが、遺構の時期を限定しえないため、一括してここに掲載する。

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
１P	G３	楕円形	27	23	31	３層／605 Y を切る	なし	中世以降
２P	G３	略楕円形	31	26	6	単層	なし	中世以降
３P	F３	楕円形	28 以上	15 以上	24	２層／608 Y を切る	なし	中世以降
４P	F３	略楕円形	43	34	41	３層／611 Y を切る	なし	中世以降
５P	F３	不整楕円形	32	2	26	２層／611 Y を切る	なし	中世以降
６P	F４	円形	31	31	23	３層／611 Y を切る	なし	中世以降
７P	G３	楕円形	33	23	29	２層／611 Y を切る	なし	中世以降
８P	G３	略円形	25	21	25	２層	なし	中世以降
９P	E３	略円形	49	42	2	単層	なし	中世以降
10 P	E２	不整形	42	41	65	単層	なし	中世以降
11 P	E２	楕円形	47	32	42	単層／12 P に切られる	なし	中世以降

第 64 表　ピット一覧（１）

遺構名	位置	平面形	規模（cm）			覆土及び特徴等	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
12 P	E 2	隅丸長方形	38	29	71	単層／11 Pを切る	なし	中世以降
13 P	E 1	楕円形	3	22	35	単層	なし	中世以降
14 P	E 2	楕円形	35	32	33	単層	なし	中世以降
15 P	E 2	不整形	44	36	63	単層	なし	中世以降
16 P	E 2	楕円形	37	3	26	単層	なし	中世以降
17 P	C 3	不整形	52	47以上	16	上層不明／881 Dに切られる	なし	中世以降
18 P	B 6	略円形	35	34	41	3層	なし	中世以降
19 P	C 5	略円形	38	31以上	41	3層／20 Pに切られる	なし	中世以降
20 P	C 5	略円形	29	25	21	2層／19 Pに切られる	なし	中世以降
21 P	B 6	円形	28	26	3	単層	なし	中世以降
22 P	B 6	略楕円形	41	28	13	単層／23 Pに切られる	なし	中世以降
23 P	B 6	略楕円形	48	38	28	単層／22 Pを切る	なし	中世以降
24 P	B 6	略円形	36	35	15	単層	なし	中世以降
25 P	B 5	不整形	38以上	35	28	単層／26 Pを切る	なし	中世以降
26 P	B 5	楕円形	47	26	32	単層／25 Pに切られる	なし	中世以降
27 P	B 5・C 5	略円形	3	28	21	単層	なし	中世以降
28 P	B 7・C 7	不整形	37	36	33	単層	なし	中世以降
29 P	C 7	楕円形	34	28	55	上層不明／621 Yを切る	なし	中世以降
31 P	A 6	楕円形	25	21	17	単層	なし	中世以降
32 P	A 6	楕円形	24	22	25	単層	なし	中世以降
33 P	A 6	不整形	25	25	24	単層	なし	中世以降
34 P	B 6	不整形	3	29	27	2層／625 Yを切る	なし	中世以降
35 P	C 7	円形	24	22	28	単層／621 Yを切る	なし	中世以降
36 P	B 6	隅丸長方形	39	33	33	2層／625 Yを切る	なし	中世以降
37 P	B 6	楕円形	53以上	34	2	2層／625 Yを切る	なし	中世以降
38 P	B 6	楕円形	46	38	85	2層／625 Yを切る、39 Pに切られる	なし	中世以降
39 P	B 6	楕円形	42	31以上	17	単層／625 Y・38 Pを切る	なし	中世以降
40 P	B 6・B 7	楕円形	57	44	29	2層	なし	中世以降
41 P	B 7	円形	34	3	42	単層	なし	中世以降
42 P	B 7	略楕円形	42	33	6	2層／620 Yに切られる	なし	中世以降
43 P	B 7	円形	25	25	46	単層	なし	中世以降
44 P	B 7	不整形	34	34	47	単層	なし	中世以降
45 P	B 7・C 7	不整形	49	33	47	単層	なし	中世以降
46 P	B 7・C 7	隅丸方形	33	31	51	2層	なし	中世以降
47 P	C 5	楕円形	47	38	19	3層	なし	中世以降
48 P	B 6	略円形	31	29	19	単層	なし	中世以降

第65表　ピット一覧（2）

第５節　遺構外出土遺物

（１）概　要

他時期の遺構からの出土ではあるが、良質な資料と考えられる遺物をここで報告する。遺物の種類としては、縄文時代の石器、土器、土製品である。

（２）遺　物

［石　　器］（第 135・136 図１～ 11、図版 46 － 1 － 1 ～ 11、第 66 表）

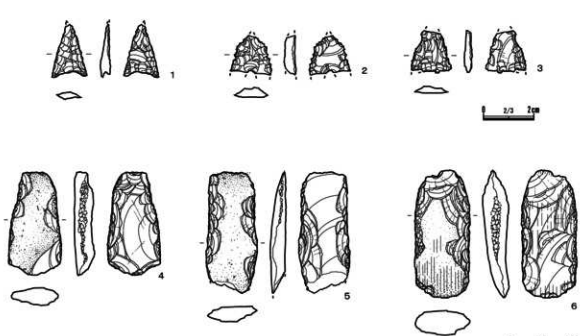
１はチャートの無茎石鏃、２・３は黒曜石の無茎石鏃、４～６・８・９は砂岩の打製石斧、７は黒色頁岩の打製石斧、10 は斑糲岩の敲石、11 は安山岩の蜂の巣石・敲石である。

［土　　器］（第 136 ～ 138 図 12 ～ 52、図版 47 － 1 － 12 ～ 34、図版 48 － 1 － 35 ～ 52、第 67 ～ 69 表）

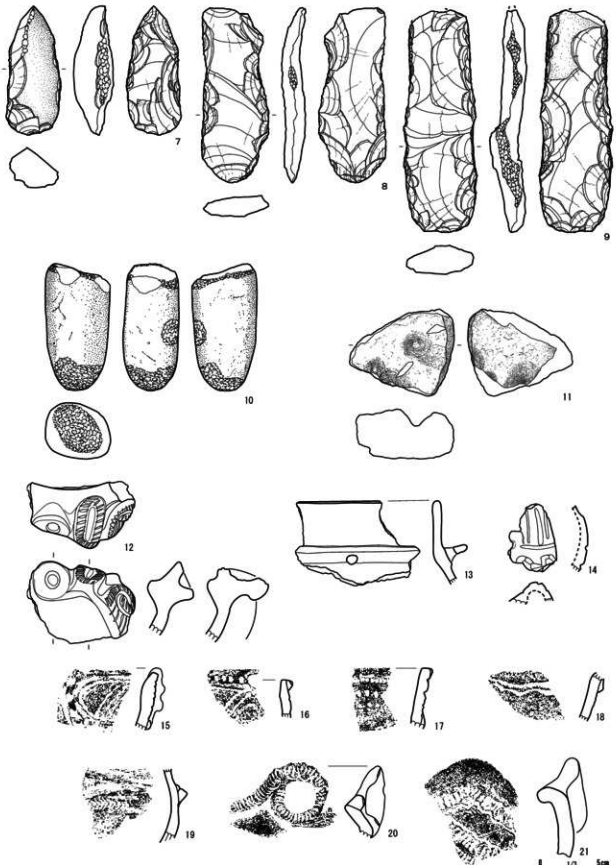
12・20・21 は勝坂式（藤内式段階）の深鉢形土器口縁部、13 は勝坂式の有孔鍔付土器、22 ～ 32 は勝坂式（藤内式段階）の深鉢形土器胴部である。14 は曽利式と推定される深鉢形土器胴部、15 ～ 17 は阿玉台Ⅰｂ式の深鉢形土器口縁部、18 は阿玉台Ⅱ式の深鉢形土器胴部、19 は阿玉台Ⅲ式の深鉢形土器胴部である。33 ～ 40 は勝坂式（井戸尻式段階）の深鉢形土器で、33 は口縁部、34 は頸部、35 ～ 40 は胴部である。41 は中期後半の深鉢形土器胴部、42 ～ 45 は加曽利ＥⅠ式の深鉢形土器胴部、46・47 は加曽利ＥⅡ式の深鉢形土器胴部である。48 は曽利Ⅱ式の胴部、49・50 は連弧文土器で、深鉢形土器の口縁部と胴部である。51・52 は加曽利ＥⅢ式の深鉢形土器口縁部と胴部である。

［土 製 品］（第 138 図 53 ～ 55、図版 48 － 1 － 53 ～ 55、第 69 表）

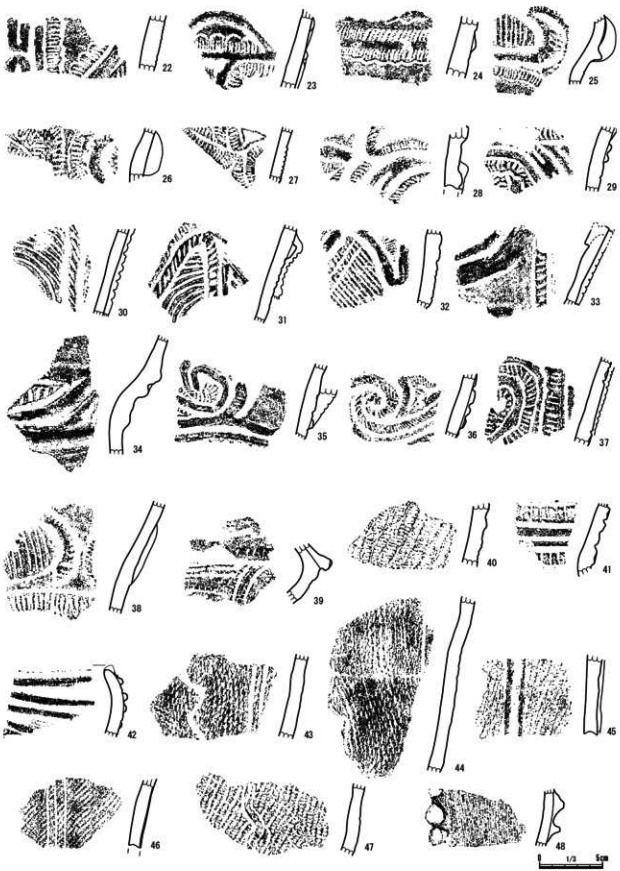
53 は勝坂式（井戸尻式段階）の土器片錘、54・55 は阿玉台式の土器片錘である。



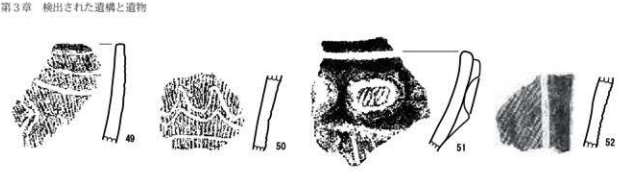
第 135 図　遺構外出土遺物（１）（２／３・１／３）



第 136 図　遺構外出土遺物（2）（1／3）



第137図　遺構外出土遺物（３）（１／３）



第 138 図　遺構外出土遺物（４）（１／３）

挿図番号 図版番号	器 種	出土位置	遺存度	石 材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特　徴	備 考
第 135 図 1 図版 46- 1 - 1	石鏃	605 Y	基部 残存	チャート	(21.2)	(14.0)	4.1	0.8	凹基無茎で先端部欠損／左右非対称／脚辺は二等辺三角形状でやや丸みを持つ	
第 135 図 2 図版 46- 1 - 2	石鏃	605 Y	基部 残存	黒曜石	(16.0)	(16.5)	5.1	1.1	凹基無茎で脚部・先端部欠損／肉厚／両側縁とも鋸歯状で、一辺に一か所稜を持つ	
第 135 図 3 図版 46- 1 - 3	石鏃	617 Y	基部 残存	黒曜石	(17.0)	16.5	3.2	0.7	平基無茎、先端部と左脚部を欠損／表裏とも素材面を大きく残す／調整が残で辺縁が凸凹している	
第 135 図 4 図版 46- 1 - 4	打製 石斧	1 号櫃列 P 27	完形	砂岩	81.7	42.3	16	67.4	完形／撥型／表に大きく自然面を残し、裏面は主要剥離面を大きく残す。敲打により潰溝しが行われている	
第 135 図 5 図版 46- 1 - 5	打製 石斧	24 H	上部 残存	砂岩	(96.0)	40.6	(12.8)	61.5	非常に薄い素材を使用／短冊型／下部欠損／表面に大きく自然面を残し側縁部からの連続する調整が行われる	
第 135 図 6 図版 46- 1 - 6	打製 石斧	1 号櫃列 P 27	完形	砂岩	100.9	43.8	21.5	107	完形／短冊型／表面に大きく自然面を残す／両側縁部は敲打により潰溝しが行われている／刃部、裏面中央よりやや上部では使用により摩滅している	
第 136 図 7 図版 46- 1 - 7	打製 石斧	625 Y	完形	黒色頁岩	102.2	43.5	31.3	137.7	完形／短冊型／非常に肉厚で表に大きく自然面を残す／肉厚のため、剥離の角度が急になるため側縁部には丁寧に敲打により潰溝しが行われている	
第 136 図 8 図版 46- 1 - 8	打製 石斧	1 号櫃列 P 27	完形	砂岩	138.3	53.6	17	149.3	完形で撥型／下部刃部部分は使用により摩滅している／全体に大きな剥離によって加工	
第 136 図 9 図版 46- 1 - 9	打製 石斧	293 Y	下部 残存	砂岩	(175.6)	58.3	28	295.9	上部一部欠損／短冊型で大型／使用中に表上面が欠損したが、再調整を行い使用／側縁部には潰溝しの敲打が行われている	
第 136 図 10 図版 46- 1 -10	敲石	1 号櫃列 P 28	下部 残存	斑糲岩	100.5	51.5	44	340.4	下端部は先端部が平になるほど敲打が行われている／上部は欠損後、稜線部で敲打を行い、丸みを帯びる	
第 136 図 11 図版 46- 1 -11	蜂の巣石 凹石	1 号櫃列 P 61	一部 残存	安山岩	(69.1)	(83.5)	(39.1)	197.7	大きく欠損／表裏面とも凹みが多数あり、深いものは 13 mmにもなる	

第 66 表　遺構外出土遺物一覧（１）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第136図12 図版47-1-12	深鉢	615 Y 盛り方	口縁部 5％ 未満	高 [5.8]	橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英	口縁部にキザミのある曲線的な隆帯を貼り付け／内面横ナデ	勝坂式 (藤内式段階)
第136図13 図版47-1-13	有孔鍔付土器	613 Y	口縁部 5％ 未満	高 [6.7] 口 (6.8)	にぶい橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英	外面横ナデ／鍔貼り付け後、鍔部に直行して刺突／内面横ナデ	勝坂式
第136図14 図版47-1-14	深鉢	615 Y	胴部 5％ 未満	厚　0.8	黒褐	黒色粒子・白色粒子・石英・礫	口縁部の貼り付け突起か／沈線	曽利式か
第136図15 図版47-1-15	深鉢	615 Y	口縁部 5％ 未満	厚　0.9	橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英・雲母	口縁部小突起／押圧のある隆帯で楕円形に区画、内側に押引文でモチーフを充填／内面横ナデ	阿玉台Ⅰb式
第136図16 図版47-1-16	深鉢	293 Y	口縁部 5％ 未満	厚　0.7	褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・雲母	口縁部キザミ／押引文によりモチーフを描く／内面横ナデ	阿玉台Ⅰb式
第136図17 図版47-1-17	深鉢	609 Y	口縁部 5％ 未満	厚　0.8	灰褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英	押引文が沿う隆帯により区画、刺突列を充填／内面横ナデ	阿玉台Ⅰb式
第136図18 図版47-1-18	深鉢	293 Y	胴部 5％ 未満	厚　0.7	にぶい褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・石英・雲母	隆帯に沿って波状沈線／内面横ナデ	阿玉台Ⅱ式
第136図19 図版47-1-19	深鉢	616 Y	胴部 5％ 未満	厚　0.7	黒褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英・雲母	隆帯に沿って押引文が沿う／内面横ナデ	阿玉台Ⅲ式
第136図20 図版47-1-20	深鉢	293 Y	口縁部 5％ 未満	厚　0.9	にぶい赤褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英	口縁部に円形突起／隆帯上を連続爪形文	勝坂式 (藤内式段階)
第136図21 図版47-1-21	深鉢	624 Y	口縁部 5％ 未満	厚　1.2	にぶい橙	黒色粒子・白色粒子・礫	波状口縁、内面口縁部沿って隆帯貼り付け／隆帯に沿ってキャタピラー文・蛇行沈線／内面横ナデ	勝坂式 (藤内式段階)
第137図22 図版47-1-22	深鉢	293 Y	胴部 5％ 未満	厚　1.3	黒褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・礫	半截竹管状工具による隆帯に沿ってキャタピラー文、刺突、波状沈線／内面横ナデ	勝坂式 (藤内式段階)
第137図23 図版47-1-23	深鉢	618 Y	胴部 5％ 未満	厚　1.1	明褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英	隆帯により区画し、内側にキャタピラー文・半截竹管状工具による刺突を充填／内面横ナデ	勝坂式 (藤内式段階)
第137図24 図版47-1-24	深鉢	293 Y	胴部 5％ 未満	厚　1.4	黄橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・石英	横位隆帯に沿ってキャタピラー文、波状沈線／内面横ナデ	勝坂式 (藤内式段階)
第137図25 図版47-1-25	深鉢	624 Y	胴部 5％ 未満	厚　0.9	明赤褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英	部分的にキザミのある隆帯で楕円区画し縦位沈線を充填、横位隆帯に沿ってキャタピラー文・蛇行沈線／内面横ナデ	勝坂式 (藤内式段階)
第137図26 図版47-1-26	深鉢	618 Y	胴部 5％ 未満	厚　1.1	明赤褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・石英	隆帯により区画し、内側にキャタピラー文・半截竹管状工具による刺突を充填／内面横ナデ	勝坂式 (藤内式段階)
第137図27 図版47-1-27	深鉢	615 Y	胴部 5％ 未満	厚　0.8	灰褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英	沈線間にキャタピラー文を付しモチーフを描く／内面横ナデ	勝坂式 (藤内式段階)
第137図28 図版47-1-28	深鉢	293 Y	胴部 5％ 未満	厚　1.1	にぶい橙	黒色粒子・白色粒子・角閃石・石英	キザミのある隆帯で区画し、沈線とキザミを充填／内面横ナデ	勝坂式 (藤内式段階)
第137図29 図版47-1-29	深鉢	615 Y	胴部 5％ 未満	厚　1.1	灰褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英	キザミのある横位隆帯と短沈線のある隆帯で区画、内側にキャタピラー文・波状沈線を充填	勝坂式 (藤内式段階)
第137図30 図版47-1-30	深鉢	615 Y	胴部 5％ 未満	厚　0.9	黒褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英	キザミのある隆帯で区画、曲線的な沈線を充填／内面横ナデ	勝坂式 (藤内式段階)
第137図31 図版47-1-31	深鉢	293 Y	胴部 5％ 未満	厚　1.1	橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英	キザミのある隆帯により区画し、斜位沈線を充填	勝坂式 (藤内式段階)

第67表　遺構外出土遺物一覧（2）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法　量 (cm)	色　調	胎　土	特　徴	備　考
第 137 図 32 図版 47・1-32	深鉢	293 Y	胴部 5％ 未満	厚　1.1	暗褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・チャート・石英・礫	隆帯により区画し、斜位沈線を充填／内面縦ナデ	勝坂式 （藤内式段階）
第 137 図 33 図版 47・1-33	深鉢	615 Y	口縁部 5％ 未満	厚　0.9	暗褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英	波状口縁／口唇部に沈線／波頂部からキザミのある隆帯を垂下／内面横ナデ	勝坂式 （井戸尻段階）
第 137 図 34 図版 47・1-34	深鉢	294 Y	頸部 5％ 未満	高 [9.1]	褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英・シャモット	沈線が沿う隆帯で区画し、縦位沈線充填／内面横ナデ	勝坂式 （井戸尻式段階）
第 137 図 35 図版 48・1-35	深鉢	293 Y	胴部 5％ 未満	厚　1.1	明赤褐	黒色粒子・白色粒子・チャート・石英	横位隆帯に接続してキザミのある隆帯で楕円区画、内部にモチーフを配す／内面横ナデ	勝坂式 （井戸尻式段階）
第 137 図 36 図版 48・1-36	深鉢	293 Y	胴部 5％ 未満	厚　1.4	にぶい褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・石英	キザミのある渦巻状の隆帯と沈線、三叉文	勝坂式 （井戸尻式段階）
第 137 図 37 図版 48・1-37	深鉢	624 Y	胴部 5％ 未満	厚　1.0	黒褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英	キザミのある縦位隆帯、沈線とキザミを交互配置し渦巻文を描く／内面横ナデ	勝坂式 （井戸尻式段階）
第 137 図 38 図版 48・1-38	深鉢	293 Y	胴部 5％ 未満	厚　1.1	明赤褐	黒色粒子・白色粒子・石英	ＬＲ斜位施文／キザミのある隆帯により楕円形に区画し、縦位沈線を充填／内面横ナデ	勝坂式 （井戸尻式段階）
第 137 図 39 図版 48・1-39	深鉢	609 Y	胴部 5％ 未満	厚　1.2	褐灰	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英	キザミのある隆帯、以下に沈線とキザミ／内面横ナデ	勝坂式 （井戸尻式段階）
第 137 図 40 図版 48・1-40	深鉢	615 Y	胴部 5％ 未満	厚　1.1	橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・チャート・石英	０段多条のＲＬ斜位施文／内面横ナデ	勝坂式 （井戸尻式段階）
第 137 図 41 図版 48・1-41	深鉢	615 Y	胴部 5％ 未満	厚　1.2	浅黄橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英	横位沈線・縦位キザミ／内面横ナデ	中期後半
第 137 図 42 図版 48・1-42	深鉢	293 Y	胴部 5％ 未満	厚　1.1	褐灰	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子	横位隆帯／内面横ナデ	加曽利Ｅ Ⅰ式
第 137 図 43 図版 48・1-43	深鉢	293 Y	胴部 5％ 未満	厚　1.1	橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・石英	撚糸Ｒ縦位施文／縦位直線・蛇行文／内面横ナデ	加曽利Ｅ Ⅰ式
第 137 図 44 図版 48・1-44	深鉢	293 Y	胴部 10％	厚　1.1	橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・石英	撚糸Ｒ縦位施文／縦位沈線／内面横ナデ	加曽利Ｅ Ⅰ式
第 137 図 45 図版 48・1-45	深鉢	293 Y	胴部 5％ 未満	厚　1.0	灰褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角石英	ＲＬ縦位施文／縦位隆帯／内面横ナデ	加曽利Ｅ Ⅰ式
第 137 図 46 図版 48・1-46	深鉢	609 Y	胴部 5％ 未満	厚　1.0	にぶい褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英	ＲＬ縦位施文／縦位沈線／内面横ナデ	加曽利Ｅ Ⅱ式
第 137 図 47 図版 48・1-47	深鉢	610 Y	胴部 5％ 未満	厚　1.0	暗褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英	ＲＬ縦位施文／縦位蛇行沈線／内面横ナデ	加曽利Ｅ Ⅱ式
第 137 図 48 図版 48・1-48	深鉢	覆土中	胴部 5％ 未満	厚　0.8	にぶい橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英	櫛歯状工具による縦位条線／押圧のある縦位隆帯／内面縦ナデ	曽利Ⅱ式
第 138 図 49 図版 48・1-49	深鉢	覆土中	口縁～ 胴部 5％ 未満	厚　1.0	暗赤褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・角閃石・石英	撚糸Ｒ縦位施文／連弧文、半截竹管状工具による蛇行沈線／内面横ナデ	連弧文土器
第 138 図 50 図版 48・1-50	深鉢	覆土中	胴部 5％ 未満	厚　0.9	明赤褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英	撚糸Ｒ縦位施文／胴部中位に横位沈線、それ以上に連弧文／内面横ナデ	連弧文土器
第 138 図 51 図版 48・1-51	深鉢	618 Y	口縁部 5％ 未満	厚　1.0	にぶい橙	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英	ＲＬ縦位施文／口縁部隆帯により楕円区画、胴部磨消／内面横ナデ	加曽利Ｅ Ⅲ式

第 68 表　遺構外出土遺物一覧（３）

挿図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第138図52 図版48-1-52	深鉢	624 Y	胴部 5％ 未満	厚 1.1	にぶい褐	黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英	RL縄位施文／沈線を伴う縄位磨消／内面横ナデ	加曽利EⅢ式

挿図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第138図53 図版48-1-53	土器 片錘	620 Y	－	4.7	5.0	1.5	40.1	隆帯間に交互刺突／内面横ナデ／割れ口の両端にキザミを付し土器片錘として利用	勝坂式 （井戸尻式段階）
第138図54 図版48-1-54	土器 片錘	615 Y	－	4.3	5.1	0.8	22.9	内外面ナデ／割れ口の両端にキザミを付し土器片錘として利用	阿玉台式
第138図55 図版48-1-55	土器 片錘	293 Y	－	2.7	3.3	1.0	10.7	内外面横ナデ／割れ口の両端をキザミを付し土器片錘として利用	阿玉台式

第69表　遺構外出土遺物一覧（4）

第４章　調査のまとめ

第１節　縄文時代

（１）出土土器について

中期中葉の阿玉台式土器・勝坂式土器、中期後半の加曽利Ｅ式土器・曽利式土器・連弧文土器が出土している。そのうち主体となるのは勝坂式、加曽利Ｅ式である。中期中葉では勝坂式の後半、井戸尻編年でいう藤内式、井戸尻式が主体となっている。阿玉台式が少量出土しているがⅠｂ～Ⅱ式が中心である。つまり阿玉台式は今回の調査地点で主体をなす勝坂式の後半に平行する土器ではなく、それに先行する土器が確認されている。阿玉台式土器はいずれも覆土内からの出土であり、遺構に伴ったものではないが、遺跡全体を見たときにその集落の開始期を考える上で重要であろう。

中期後半では加曽利Ｅ式土器を主体とし曽利式・連弧文土器が出土している。その中で 195・198 Ｊでは埋甕として曽利式の深鉢形土器が使用されている。特に 198 Ｊは住居全体がやや歪んだ楕円形に近い。埋甕と炉を結ぶ軸が短く、それに直交する軸が長く、横広がりの住居跡で曽利式系の住居跡に見られる形態であるという（註１）。集落内でこれらの住居跡の平面的位置の検討を含め課題となろう。

連弧文土器は炉体土器・埋甕として使用されたものはないが、出土数は多い。特に 195・198 Ｊで出土数が多い。連弧文土器はそのモチーフが下向きの連弧を描くものと波状になるものがある。沈線は２本及び３本で連弧文を描いている。地文は条線・縄文・撚糸が認めれ、撚糸Ｌが卓越している。これらの特徴から永瀬氏のいう連弧文土器１段階から２段階の資料を主体とする（永瀬　2008）。本調査地点では加曽利ＥⅠ～Ⅱ式を中心とするので、その組み合わせに特に矛盾はない。

（２）有孔鍔付土器について

今回の調査では有孔鍔付土器が破片ながら３点出土している。何れも鍔部から口縁部にかけてであり、全形は不明で文様もわからない。しかし、有孔の位置についてみると二種認められる。すなわち鍔の直上に水平方向に穿孔するもの（Ａ類）と、鍔部に垂直方向に穿孔するもの（Ｂ類）である。後者は加曽利ＥⅡ式以降に出現するという（阿部　2008）。破片であるが従前の調査でも、第 55・151 号住居跡でＢ類が出土している（佐々木他　2009）、加曽利Ⅱ式期の住居跡である。今回の調査地点ではＡ類が 200 Ｊの勝坂式（井戸尻式段階）、Ｂ類の 87 Ｊが加曽利ＥⅡ式期で上記の傾向と一致する。

（３）炉体土器・埋甕について

炉体土器に関しては 87・200・203・204 Ｊから出土している。出土器種は 87・203 Ｊは深鉢形土器の胴部下位以下を、204 Ｊは浅鉢形土器の底部を打ち欠き炉体土器としている。200 Ｊはやや特異で、深鉢形土器２個体と浅鉢形土器２器体の口縁部を用い円形に囲っている。87 Ｊについては石囲炉で燃焼部の南側に位置し埋甕炉としてよいかは疑問である。いずれにせよ多様な炉の形態が認められる。

埋甕は 89・195・198 Ｊで確認できる。改めてその特徴を述べる。使用されている土器は 89 Ｊが加曽利ＥⅡ式の深鉢形土器の口縁部と底部を打ち欠き、195・198 Ｊは曽利式の深鉢の胴部中位以下を打ち欠き用いている。何れも正位で据えられている。本遺跡では従前の調査で、19 基の埋甕が知られ

ている（第70表）。時期は加曽利ＥⅠ～Ⅳ式である。加曽利ＥⅠ～Ⅱ式にかけては、口縁部と胴部下半を打ち欠き胴部中位を用いるものが多く、加曽利ＥⅡ式以降は胴部中位から口縁部が残存するものを用いている。このことから、時期が下るにつれ残存部位の位置が変わり、それに伴い埋甕の器高も高くなる傾向が認められるであろう。今回の調査地点の埋甕もこれらの傾向と違わない。

地　点	住居	器種	時期	検出状況	使用状況	出土位置	器高
区23Ⅰ	第34号住	深鉢	加曽利ＥⅠ	正位	胴部のみ	南壁付近壁溝に接する	約7cm
区130	第144号住	深鉢	加曽利ＥⅠ	正位	胴部上半から口縁部	南壁付近壁溝に接する	約11cm
区130	第151号住	深鉢	加曽利ＥⅡ	正位	胴部中位	旧壁溝のやや内側	約8cm
区130	第151号住	深鉢	加曽利ＥⅡ	正位	胴部中位	壁際か	約8cm
区25Ⅴ	第53号住	深鉢	加曽利ＥⅡ	正位	胴部のみ	住居西側	約9cm
区26	第56号住	深鉢	加曽利ＥⅡ	正位	胴部のみ	炉の南側	約13cm
43	第65号住	深鉢	加曽利ＥⅡ	正位	胴部上半から口縁部	南側壁際	約17cm
区130	第151号住	深鉢	加曽利ＥⅡ	正位（やや斜位）	胴部から口縁部　底部欠	南西壁付近壁溝よりやや離れる	約19cm
67	第131号住	深鉢	加曽利ＥⅡ	正位	胴部中位から口縁部	南西壁の中央付近	約19cm
区130	第155号住	深鉢	加曽利ＥⅡ	正位	胴部中位から口縁部	南西壁付近壁溝に接する	約19cm
区13Ⅲ	第85号住	深鉢	加曽利ＥⅡ	正位	胴部下半から口縁部	西壁付近壁溝よりやや離れる	約20cm
区130	第151号住	浅鉢	加曽利ＥⅡ	逆位	底部欠く	旧壁溝のやや内側	約20cm
67	第132号住	深鉢	加曽利ＥⅡ	正位	胴部中位から口縁部	南壁中央付近	約22cm
区17/区24Ⅱ	第22号住	深鉢	加曽利ＥⅡ	正位	胴部上半から口縁部	南壁付近壁溝に接する	約24cm
区130	第149号住	深鉢	加曽利ＥⅡ	正位	ほぼ完形	南西壁付近壁溝よりやや離れる	約41cm
174①	第174号住	深鉢	加曽利ＥⅠ～Ⅲ	正位	胴部中位から口縁部	南壁周溝付近	約19cm
174①	第174号住	深鉢	加曽利ＥⅠ～Ⅲ	正位	胴部中位から口縁部	南壁周溝付近	約20cm
174①	第174号住	深鉢	加曽利ＥⅠ～Ⅲ	正位	胴部中位から口縁部	南壁周溝付近	約24cm
区26	第54号住	双耳壺	加曽利ＥⅣ	正位	ほぼ完形	西壁やや内側	約31cm

第70表　西原大塚遺跡埋甕一覧

第2節　弥生時代後期～古墳時代前期

（1）出土土器について

今回の調査では、弥生時代後期後半から古墳時代前期初頭の住居跡が26軒検出された。出土した土器の器種は、壺形土器・広口壺形土器・甕形土器・高杯形土器である。各住居跡内からこれらすべてを網羅して出土したものはない。もっとも多くの土器が出土している624Ｙでも、器形が辛うじて確認できる壺形土器と甕形土器のセットが出土しているに過ぎない。その他の住居跡の多くでは、完形近くまで復元できる個体が１・２点で、器種組成を把握することはできない。つまり、個々の器種間のバラエティーを把握できる資料は出土していない。これは今回の調査地点に限らず、本遺跡の過去の調査内容を瞥見しても同一である。以下では、個別個体がもとになるが、周辺地域の遺跡出土土器を比較しその編年的位置を知る手掛かりとしたい。

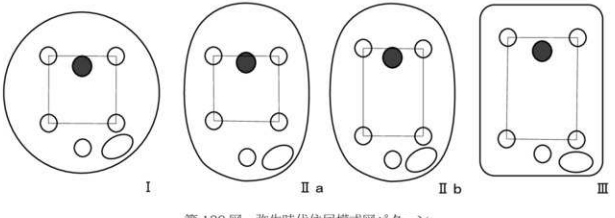
（2）連続鋸歯文をもつ壺形土器について

連続鋸歯文をもつ壺形土器が605・611Ｙで５点出土している。何れも破片資料である。施文域は胴部上半から胴部中位にかけてである。605Ｙの３は下向きの鋸歯文で内部に磨消による縄文が認められる。一方、611Ｙは縄文を地文として４・７は１列の連続鋸歯文が、５・６は複列の連続鋸歯文帯が認められ、磨消縄文技法を用いない。５は鋸歯文を半単位ずらしている。６は３帯の鋸歯文で上部２帯が単位をずらさず施され、３帯目が半単位ずらしている。上下２帯は同じ下向きの鋸歯部分を赤彩し、３帯目が上向きの鋸歯部分に赤彩を施している。２帯目と３帯目の鋸歯の頂点が接していて、斜格子文状に見える。何れもヘラ状工具により描かれているが、611Ｙのものは細く深い線であるのに対して605Ｙのものは若干太く浅い。

集落遺跡として周辺では、中期末から後期にかけて連続する遺跡として和光市午王山遺跡がある。柿沼幹夫氏により後期の詳細な段階設定が行われているが、類例を見出すことができない（柿沼2019）。東京都新宿区下戸塚遺跡では連続鋸歯文を持つものが９・44・46・59号竪穴住居址で出土しているが、鋸歯の描き方に若干違いが認められる（松本・車崎ほか　1996）。やや離れた地域ではあるが、半単位ずらした鋸歯文が重畳されるものが、市原市長平台遺跡の方形周溝墓から出土している（小橋ほか　2006）。ただこれは鋸歯文の上下を明確に沈線で区画している。また、千葉県鋸南町田子台遺跡の分析から久ヶ原式の細分に言及した鈴木正博氏も、沈線区画内の鋸歯文及び斜格子文を久ヶ原２式の指標としている（鈴木　2009）。今回の調査の資料は鋸歯文を呈し、一部構図が斜格子状になるが、破片資料のため横位区画沈線は認められない。また、611Ｙでは磨消技法は用いていない。これが時期的な差か地域的な差であるかは俄かに断じ難いが、久ヶ原Ⅱ式の系統にあることは首肯できるであろう。破片であり住居跡覆土中よりの出土であるため、確証を欠くが、本遺跡の弥生時代後期の集落の開始が後期中葉段階にまで遡る可能性を指摘しておきたい。

（3）住居構造について

住居跡の平面形を基本とした分類に関しては、以前に中野遺跡の報告書で試みている（宅間ほか2017）。以下にその分類を述べる（第139図）。



第139図　弥生時代住居模式図パターン

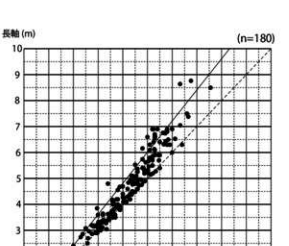
Ⅰ類　　平面形は円形に近く、主柱穴を結ぶ線が方形になるもの。
Ⅱa類　平面形は小判形に近く、主柱穴を結ぶ線が方形になるもの。
Ⅱb類　平面形は小判形に近く、主柱穴を結ぶ線が長方形をなるもの。
Ⅲ類　　平面形は隅丸長方形で、主柱穴を結ぶ線が長方形になるもの。
以上の分類が、当該地域で基本的な弥生時代後期の住居跡に対応するものであろう。

検出された住居跡は上述のように調査区中央より、調査区際から検出されることが多く。そのため、全形が不確かなものが多いが、隅丸長方形と隅丸方形を基本としている。今回は隅丸方形のものも中野遺跡分類のⅠ類として考えておく。方形化が著しいものはその帰属時期を含め今後の課題としたい。今回の調査では610 YがⅠ類、605・611・624 YがⅡa類、618・620 YがⅡb類である。その他は柱の位置が判然としないものが多いがⅡa・bが典型であると思われる。次に、全形が判明しているものを見ると住居跡には壁溝、炉跡、主柱穴、入り口部ピット・凸堤・貯蔵穴・赤色砂利層などの構成様相があるが配置に高い規格性がうかがえる。その典型は、平面形が隅丸長方形で4本主柱で短辺側に入り口部ピットをその延長線上かややづれた位置に炉を持ち、入り口ピットの右側に貯蔵穴と凸堤を持ち、赤色砂利層は貯蔵穴付近のコーナー部に位置している。多くの住居跡はこれらすべてを網羅しているものではなく、その一部や多くが欠落したものも認められるが、それぞれの設置位置は一部の例外を除き頑なに守られている。入り口部をもとに考えると妻入りの建物が典型となる。一部の例外の可能性として293 Yが挙げられる。付属施設として貯蔵穴と炉が付属施設として挙げられる。貯蔵穴の位置から推して、南西側に入り口部が位置するものと思われる。即ち、住居の長辺側に入り口部を持つものと思われ、平入り建物の可能性がある。今回の調査ではこれ以外は高い規格性に基づき築かれている。これは従前の調査でも同様であろう。

次に住居跡の規模についてみてみる。弥生時代には大形住居跡が検出されることが広く知られている。大形住居に関しては小久保徹氏がその特徴の一つに「最大規模をもち他の住居と絶対的規模を大にして出現していること」を挙げている（小久保　1977）。第140図は、従前の本遺跡の調査から長軸・短軸が判明しているもの185軒をグラフ化したものである。ここでわかる傾向は規模が大きくなるにつれ住居跡が長方形を志向しており、その長短比のが1.2を超えるものが多くなってくる。住居規模は連続し規模による分類ができにくいことが挙げられる。相対的に大きな住居跡でも長軸が9ｍを超えるものは存在しない。グラフが示すように確かに稀少性は認められるが他の住居跡に対して絶対的規模を大

にしているとはいいがたい。この意味で大形住居と呼べるものが本遺跡には今のところ存在しない。同時代の吉ヶ谷式の集落では大形住居が確認できる。最近広範囲にわたり調査が行われた坂戸市下田遺跡でも長辺が 12 mを超える大形住居跡が調査されている（加藤・本荘　2017）。本遺跡と比較して興味深い。大形住居の機能をどのように考えるかによるが、本遺跡でもその機能を代替えあるいは置換できる施設があったものと考えられる。大形住居を祭祀の場として考えれば、本遺跡では赤色砂利層が祭祀に関連する可能性がある。今後、赤色砂利層の検出される遺跡の分布域と大形住居跡の分布域の比較をすることが必要となろう。

　従前の調査及び今回の調査を合わせ様々の課題が明確になってきたと思われる。



第 140 図　西原大塚遺跡　弥生住居規模散布図

［註］

註１　笹森健一氏の御教示。

［引用文献］

阿部昭典　2008「有孔鍔付土器」『総覧縄文土器』（株）アム・プロモーション
尾形則敏・佐々木保俊・内野美津江　2001『志木市遺跡群 11』志木市の文化財第 30 集　埼玉県志木市教育委員会
尾形則敏・深井恵子　2006『志木市遺跡群 15』志木市の文化財第 37 集　埼玉県志木市教育委員会
尾形則敏・徳留彰紀・藤波啓容・松木綾子　2013『西原大塚遺跡第 174 ①地点　埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第 55 集　埼玉県志木市教育委員会
柿沼幹夫　2019「第３節　午王山遺跡出土弥生土器の編年的位置づけ」『午王山遺跡総括報告書』　和光市埋蔵文化財調査報告書第 66 集
加藤恭朗・本荘剛志　2017『下田遺跡２』坂戸市教育委員会
小久保徹　1977「弥生時代の大形住居について－南関東地方の実態と諸様相－」『埼玉考古』第 17 号
小橋健司ほか　2006『市原市長平台遺跡』市原市文化財センター調査報告書第ⅩⅥ集
佐々木保俊・内野美津江・宮川佳幸　2009『西原大塚遺跡Ⅰ～Ⅲ　西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告　第 13 集　埼玉県志木市西原特定土地区画整理組合　志木市遺跡調査会
鈴木正博　2009「久ヶ原２式」『南関東の弥生土器２～後期土器を考える～』考古学リーダー 16 六一書房
宅間清公ほか　2017『中野遺跡第 91 地点』志木市の文化財第 67 集　埼玉県志木市教育委員会
徳留彰紀　2015「埼玉県志木市西原大塚遺跡における縄文中期集落研究の基礎的資料」『あらかわ』第 16 号あらかわ考古学談話会
永瀬史人　2008「連弧文土器」『総覧縄文土器』（株）アム・プロモーション
松本完・堀越正彦ほか　1996『下戸塚遺跡の調査　第２部　弥生時代から古墳時代前期』　早稲田大学

[付　編]

自然科学分析

黒曜石の産地推定結果報告書

株式会社東京航業研究所　地球化学分析室

1．はじめに

埼玉県志木市西原大塚遺跡第228地点出土の黒曜石遺物125点について、蛍光X線による非破壊分析で、産地推定を行った。

2．原理

黒曜石は、主として旧石器時代から縄文時代にかけて、石器の材料として大量に使用されている。しかし、その産出地点は限られているため、先史時代人は、直接採取に行くか、あるいは交易など様々な手段を駆使して黒曜石を入手し、その需要を満たしていたと考えられる。

この黒曜石は、産地毎に元素組成が異なるため、黒曜石製の石器の元素組成を測定することによって、その産地を推定することが可能である。産地が推定できれば、石器材料である黒曜石原石か、あるいは製作された石器が先史時代人によって運搬されたことについて、出発地点である産地と、最終到達地点である遺跡の位置が明らかとなり、具体的な人や物の動きを議論することが可能となる。

なお、測定に使用した蛍光X線分析法は、測定対象の表面にX線を照射し、表面に含まれている元素と照射したX線の相互作用によって、元素特有の蛍光X線が含有量に応じて発生することに着目し、この蛍光X線のエネルギー量(波長)から元素の種類を、検出量から元素の含有量を求める方法である。

蛍光X線分析法については、以下の点に注意が必要である。

① 相対分析法であるので、元素濃度を決定するためには、被検試料に対して組成と形状が類似した濃度既知の標準物質を予め測定し、これとの対比で元素組成を求める必要がある。黒曜石については、元素組成と形状が類似した標準物質が市販されていないため、一般的には組成は類似しているが形状が異なる標準物質を使用して元素組成を求めることとなる。

② 蛍光X線分析法で正確な濃度を求めるためには、幾つかの前提条件を満たす必要があり、その一つに、測定物質の表面形状が平滑な平面であることがあげられる。産地の基準試料は研磨によって平滑面を作り出して測定しているが、遺物については加工することができないため、遺物の測定面は一般的には平滑ではあるが平面ではない。従って、厳密な意味で正確な濃度を求めることは難しい。

③ 遺物の表面には、風化によって変質した部分や土壌によって汚染された部分が存在している。これは、新鮮な剥離面が光沢を帯びていることに対して、遺物表面の光沢が弱いことからも明らかである。一般に水和層と呼ばれる黒曜石表面の風化層は、元素組成についても厳密な意味では本来の値とは異なっていることが予想される。

④ 元素ごとに検出限界は異なっており、検出限界以下の含有量では、たとえその元素が含まれていても非検出(ＮＤ)となり、同様に検出限界付近では、その値が大きくぶれて、誤差が大きくなる。

⑤ 含有量が少ない元素については、十分な蛍光X線を得る為に一定の照射面積が必要である。しかし微細な剥片ではこの条件を満たすことができない。そのため、小破片の含有量が少ない元素については、検出できない場合や値が不正確になる場合がある。

⑥ 同様に、試料の厚さが十分に厚くない場合、照射したX線の一部が透過し、値が不正確になる場合がある。

⑦ 蛍光X線の検出強度は、測定値からバックグラウンドの値を差し引いて求められるが、バックグラウンドの設定は、元素ごとに一定の方式で行っており、個別の試料ごとに変更をしていない。したがって、測定限界付近の濃度の場合、検出強度が計算上、負の値として算出される場合がある。

このように、蛍光X線分析法で遺物を測定する場合には、幾つかの問題が存在しており、厳密な元素組成を求めることは難しいが、黒曜石の場合には、産地間の元素組成の差が著しいために、一定の誤差を前提とした上で、実用的な産地推定法が成立している。

なお、現在最も多く用いられている方法は、望月明彦氏によって提案された、Rb 分率と Sr 分率を用いる判別図によるものであり、ここでもこの方法によっている。

望月による方法の特徴は、標準試料をもとにして算出された元素濃度を用いるのではなく、各元素固有の検出強度を用いている点にある。この検出強度は、バックグラウンドは差し引かれているものの、重なり補正が行われていないため、元素濃度に必ずしも比例せず、各分析装置固有の値であるという問題点がある。しかし、産地推定に有効であることが多くの研究者の経験によって裏付けられている。ここでは、この判別図を望月ダイアグラムと称した。

3．操作

① エネルギー分散型蛍光X線分析装置を使用して、被検試料である黒曜石の蛍光X線の強度を測定した。

② 地球化学分析室には、予め、原産地から採取した黒曜石基準試料が準備されており、その測定値が登録されている。

③ 黒曜石製の遺物試料を測定した値について、原産地の試料から想定した判別群と照合し、帰属する判別群を推定した。

④ 判別群の呼称は、原則として東京航業研究所 地球化学分析室編「日本の黒曜石」の記載に準拠した。

⑤ 判別群の推定に際しては、現在、最も普及している望月の方法を利用した。具体的には、Rb 分率として、横軸に (Rb × 100) ／ (Rb ＋ Sr ＋ Y ＋ Zr)、縦軸に (Mn × 100) ／ Fe を取った判別図を作成した。また Sr 分率として、横軸に (Sr × 100) ／ (Rb ＋ Sr ＋ Y ＋ Zr)、縦軸に log10(Fe ／ K) を取った判別図を作成した。なお、数値の単位は絶対濃度ではなく、蛍光X線の検出強度 (バックグラウンドを除去した積分強度) である点に注意されたい。

⑥ 2枚の判別図には、予め原産地から採取した黒曜石から求めた値によって各判別群のエリアを想定しており、遺物の測定値がどのエリアにプロットされるかによって、判別群を判断した。

⑦ なお試料では、大きさ、厚さ、風化、あるいは汚染の問題があるために、原石から想定したエリアを大きく外れる場合がある。そのため、標準試料から求めた元素濃度でも、判別群への帰

属を検討した。

4．測定条件

① 測定には、リガク製エネルギー分散型蛍光X線分析装置ＮＥＸ－ＤＥを使用した。
② 測定元素は、主成分元素はNa、Mg、Al、Si、P、K、Ca、Ti、Mn、Feの10種類、微量成分元素はRb、Sr、Y、Zr、Nb、Baの６種類である。
③ 検出強度は、分析装置が算出した値を用いた。
④ 元素濃度は、主成分は酸化物濃度で、微量成分は元素濃度でそれぞれ求めた。
⑤ 測定時間は、各グループ250秒とした。
⑥ X線管球は60k V、12 W、Agターゲットのものを使用した。
⑦ X線の照射径は10㎜とし、ターレットを使用せず、1個体ずつ測定窓の上に設置して測定した。
⑧ 測定時の雰囲気は、ヘリウム雰囲気とした。
⑨ X線が下面から照射されるエンドウインドウタイプなので、測定窓に4μm厚の専用プロレンフィルムを貼った。
⑩ その他の条件については、第71表に示した。

元素名	算出形態	測定条件	分析線	1次フィルタ	管電圧 /k V	管電流 / μ A	測定時間 /sec
Na	Na2O	Low- Z	K α	Open	6.5	適宜設定	250
Mg	MgO	Low- Z	K α	Open	6.5	適宜設定	250
Al	Al2O3	Low- Z	K α	Open	6.5	適宜設定	250
Si	SiO2	Low- Z	K α	Open	6.5	適宜設定	250
P	P2O5	Low- Z	K α	Open	6.5	適宜設定	250
K	K2O	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Ca	CaO	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Ti	TiO2	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Mn	MnO	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Fe	Fe2O3	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Rb	Rb	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Sr	Sr	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Y	Y	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Zr	Zr	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Nb	Nb	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Ba	Ba	High-Z_F	K α	F	60.0	適宜設定	250

第71表　分析の各種条件

5．結果

① 黒曜石遺物125点の中には極小の剥片も多く、それらは分析の前提である十分な厚みをもたず、測定結果をもとにした考察には適さない。そのため本分析では、質量が0.50g以上の遺物56点について考察を行った。質量が0.50g未満の遺物69点については⑨、⑩、⑪に記した。
② 56点の遺物から得られたX線強度を第72表に示した。また、X線強度から算出した元素濃度を第73表に示した。
③ 測定結果を第141～148図の望月ダイアグラムに示した。第141図はRb分率図、第142図はSr分率図であり、各図中の黒丸は、分析した黒曜石遺物125点の中で0.50g以上の56点の

値をプロットしたものである。また、第 143 図、第 145 図、第 147 図は Rb 分率拡大図、第 144 図、第 146 図、第 148 図は Sr 分率拡大図で、No.6(柏峠判別群と推定)、No.33(畑宿判別群と推定) を除く遺物 54 点のうち番号の小さい方から 27 点を第 143 図、第 144 図に、残りの 27 点を第 145 図、第 146 図に黒丸でプロットした。

④ 望月ダイアグラム上のプロットを産地毎の黒曜石基準試料の分布と比較して推定した産地を第 74 表に示した。

⑤ 測定した遺物 56 点のうち、No.1、3、9、10、12、15、19、20、28、29、35、47、51 ～ 53、56、123 の 17 点は、星ヶ塔判別群と判定された。また、No.4、5、7、11、13、17、18、21 ～ 23、25 ～ 27、30、31、34、38 ～ 43、48、50、54、55、124 の 27 点は恩馳島判別群と判定された。さらに、No.33 は畑宿判別群と判定された。

⑥ No.6 は Rb 分率図で僅かに柏峠判別群の値を外れたが、測定誤差の範囲内と判断し、柏峠判別群と判定した。

⑦ No.2、8、24、36、37、44、46、49、57 の 9 点は Rb 分率図または Sr 分率図で僅かに星ヶ塔判別群の値を外れたが、測定誤差の範囲内と判断し、星ヶ塔判別群と判定した。星ヶ塔判別群から僅かに外れているのは、風化あるいは測定面の凸凹によることが原因と考えられる。

⑧ No.45 は Rb 分率図、Sr 分率図ともにどの判別群にも該当しなかったため、産地は不明とした。No.45 の表面は、通常の風化の様子とは異なり磨りガラス状を呈していることから、熱を受けた可能性が高く、被熱による表面の化学変化が測定値に影響を及ぼした可能性がある。なお「秋田県・岩手県内遺跡出土黒曜石製石器の原産地推定」(吉川・佐々木 2017) によると、熱を受けた黒曜石については K と Rb の検出強度が高くなる傾向にあるとされている。これにしたがえば、被熱前の No.45 は Rb 分率図では左に、Sr 分率図では右上 (右のずれは軽微) に位置していたと推測され、恩馳島判別群に属する可能性がある。

⑨ 質量が 0.50g 未満の黒曜石遺物 69 点についても測定を行った。これは、微細な剥片を測定することによって、遺跡内でどの判別群の黒曜石が加工されたかが把握できるためである。

⑩ ⑨の測定結果を第 147 図、第 148 図の望月ダイアグラムに示した。第 147 図は Rb 分率拡大図、第 148 図は Sr 分率拡大図である。各図中の黒丸は、分析した黒曜石遺物 69 点の値をプロットしたものである。

⑪ プロットされた点の拡がり方から、これら 69 点の遺物のうち 58 点は恩馳島判別群に属する可能性が高いと考えられ、Rb 分率図では恩馳島判別群の右下方向に拡がるように、Sr 分率図では一部が縦方向にずれてプロットされた。また 69 点の遺物のうち 11 点は星ヶ塔判別群に属する可能性が高いと考えられる。これらは Rb 分率図で星ヶ塔判別群の右方向にずれてプロットされたものの、Sr 分率図では全てが星ヶ塔判別群にプロットされた。

⑫ 遺物が各判別群の定義範囲に該当すれば産地として推定可能であるが、多くの判別群では、未だ十分に分布範囲が確定されているとはいえない。複数地点からの試料によって範囲を確定させるとともに、風化や被熱の影響によるずれについても、データを蓄積する必要がある。

[引用・参考文献]

吉川耕太郎　佐々木繁喜　2017「秋田県・岩手県内遺跡出土黒曜石製石器の原産地推定」『秋田県立博物館研究報告』第 42 号。

番号	Na-K α	Mg-K α	Al-K α	Si-K α	P-K α	K-K α	Ca-K α	Ti-K α	Mn-K α	Fe-K α	Rb-K α	Sr-K α	Y-K α	Zr-K α	Nb-K α	Ba-K α
1	0.552	0.253	33.9	448	0.066	1.213	0.328	0.101	0.382	5.18	3.94	1.35	1.67	3.33	0.399	2.67
2	0.482	0.247	31.4	431	0.020	1.216	0.338	0.097	0.365	4.85	3.64	1.24	1.50	2.97	0.339	1.99
3	0.150	0.286	16.8	253	0.022	0.836	0.238	0.067	0.263	3.54	2.80	0.97	1.17	2.33	0.273	1.63
4	0.347	0.299	28.3	393	0.042	0.990	0.409	0.124	0.341	6.05	1.78	2.51	1.15	3.28	0.282	3.94
5	0.413	0.287	28.1	385	0.037	0.864	0.415	0.133	0.343	6.05	1.72	2.51	1.11	3.17	0.274	3.60
6	0.369	0.336	28.9	382	0.171	0.670	0.714	0.219	0.252	13.83	1.27	3.16	1.62	7.85	0.196	3.60
7	0.635	0.287	32.2	421	0.064	0.837	0.428	0.171	0.358	6.52	1.76	2.34	1.13	3.34	0.279	3.91
8	0.381	0.249	26.9	373	0.028	1.139	0.306	0.090	0.328	4.31	3.35	1.12	1.39	2.75	0.311	1.93
9	0.340	0.250	25.9	366	0.018	1.091	0.303	0.089	0.333	4.47	3.55	1.21	1.47	2.94	0.342	1.45
10	0.542	0.243	33.4	451	0.038	1.195	0.329	0.102	0.361	4.85	3.95	1.34	1.64	3.30	0.401	2.31
11	0.458	0.277	28.5	395	0.041	0.806	0.415	0.141	0.357	6.25	1.84	2.45	1.21	3.37	0.294	3.35
12	0.545	0.259	35.4	453	0.132	1.211	0.329	0.105	0.371	5.18	3.93	1.34	1.64	3.29	0.383	1.81
13	0.494	0.282	25.9	344	0.050	0.792	0.389	0.131	0.337	6.05	1.58	2.07	1.01	2.85	0.260	3.39
15	0.618	0.222	33.4	442	0.035	1.128	0.310	0.089	0.339	4.50	3.44	1.17	1.44	2.89	0.321	1.91
17	0.520	0.285	28.9	375	0.107	0.744	0.374	0.125	0.325	5.79	1.64	2.30	1.08	3.07	0.267	3.64
18	0.260	0.286	19.6	268	0.041	0.678	0.410	0.118	0.293	5.36	1.35	2.01	0.86	2.61	0.203	2.24
19	0.463	0.254	31.0	430	0.023	1.179	0.325	0.089	0.354	4.75	3.71	1.25	1.58	3.18	0.337	2.03
20	0.702	0.221	39.1	502	0.060	1.275	0.343	0.106	0.379	5.11	4.02	1.37	1.69	3.40	0.388	2.23
21	0.776	0.270	37.9	501	0.060	0.877	0.442	0.146	0.380	6.66	1.92	2.62	1.25	3.55	0.292	3.76
22	0.646	0.263	35.3	470	0.046	0.839	0.436	0.142	0.360	6.40	1.84	2.53	1.20	3.37	0.293	3.18
23	0.673	0.283	35.8	471	0.077	0.868	0.433	0.147	0.379	6.67	1.91	2.52	1.22	3.43	0.313	3.46
24	0.442	0.240	28.8	391	0.037	1.167	0.328	0.094	0.345	4.64	3.32	1.12	1.36	2.69	0.308	1.56
25	0.702	0.262	37.8	488	0.070	0.986	0.493	0.155	0.381	6.87	1.95	2.76	1.26	3.78	0.323	3.31
26	0.581	0.294	33.8	444	0.074	0.812	0.406	0.141	0.353	6.25	1.80	2.37	1.14	3.36	0.255	2.39
27	0.533	0.288	33.1	443	0.068	0.844	0.426	0.146	0.371	6.59	1.80	2.41	1.16	3.28	0.279	2.93
28	0.455	0.276	31.1	427	0.039	1.181	0.319	0.094	0.351	4.69	3.73	1.25	1.56	3.10	0.370	1.57
29	0.559	0.243	33.9	459	0.047	1.207	0.335	0.100	0.366	4.87	3.88	1.31	1.61	3.21	0.355	1.46
30	0.687	0.271	36.4	484	0.058	0.860	0.449	0.136	0.377	6.60	1.90	2.56	1.19	3.46	0.319	3.08
31	0.536	0.306	30.9	422	0.052	0.853	0.434	0.139	0.379	6.63	1.87	2.52	1.22	3.38	0.287	2.58
33	0.508	0.379	26.2	345	0.116	0.325	0.809	0.323	0.437	18.89	0.46	3.85	1.29	5.44	0.160	2.35
34	0.811	0.290	39.2	506	0.044	0.909	0.456	0.147	0.389	6.90	1.97	2.61	1.28	3.60	0.322	3.30
35	0.540	0.249	34.3	452	0.057	1.252	0.337	0.101	0.370	5.11	3.96	1.35	1.67	3.31	0.370	1.74
36	0.429	0.254	28.4	396	0.016	1.112	0.313	0.091	0.333	4.47	3.30	1.11	1.34	2.68	0.311	1.33
37	0.422	0.257	28.9	403	0.019	1.137	0.314	0.096	0.342	4.64	3.61	1.20	1.46	2.92	0.338	1.21
38	0.632	0.286	36.7	468	0.231	0.864	0.443	0.149	0.378	6.75	1.87	2.50	1.23	3.53	0.280	2.99
39	0.777	0.276	37.8	490	0.081	0.901	0.463	0.149	0.388	6.94	1.90	2.60	1.21	3.56	0.306	3.01
40	0.842	0.278	39.8	520	0.056	0.908	0.439	0.146	0.392	6.91	1.95	2.59	1.28	3.59	0.297	2.98
41	0.635	0.264	33.1	435	0.054	0.767	0.386	0.125	0.333	5.86	1.64	2.19	1.06	3.06	0.262	2.89
42	0.772	0.273	37.4	476	0.105	0.865	0.465	0.142	0.371	6.63	1.89	2.51	1.21	3.40	0.292	3.14
43	0.499	0.286	30.7	420	0.067	0.803	0.414	0.134	0.358	6.30	1.80	2.37	1.16	3.23	0.281	2.52
44	0.519	0.247	33.5	455	0.046	1.236	0.340	0.099	0.363	4.95	3.87	1.29	1.57	3.15	0.351	1.10
45	0.221	0.264	16.8	215	0.045	0.681	0.256	0.061	0.153	2.89	1.13	1.07	0.54	1.40	0.118	1.39
46	0.527	0.247	33.5	454	0.036	1.202	0.323	0.093	0.355	4.80	3.77	1.26	1.57	3.11	0.350	1.45
47	0.813	0.229	41.2	527	0.082	1.280	0.359	0.105	0.372	5.18	4.07	1.38	1.71	3.40	0.388	1.81
48	0.622	0.315	35.8	464	0.109	0.854	0.431	0.152	0.382	6.84	1.88	2.49	1.21	3.46	0.289	2.59
49	0.535	0.214	30.1	400	0.037	1.094	0.289	0.081	0.318	4.33	3.58	1.12	1.44	2.80	0.316	1.54
50	0.578	0.296	35.2	474	0.052	0.996	0.442	0.142	0.368	6.65	1.82	2.43	1.17	3.45	0.268	2.17
51	0.750	0.204	37.5	489	0.028	1.203	0.348	0.099	0.362	4.91	3.60	1.24	1.50	2.99	0.327	1.34
52	0.582	0.250	35.1	474	0.021	1.240	0.344	0.100	0.374	5.02	3.91	1.31	1.61	3.36	0.331	1.29
53	0.466	0.245	28.4	380	0.042	1.012	0.287	0.079	0.298	4.10	3.02	1.02	1.26	2.50	0.272	1.09
54	0.363	0.257	23.9	334	0.038	0.735	0.363	0.125	0.312	5.62	1.47	1.87	0.91	2.56	0.220	1.63
55	0.582	0.270	33.3	449	0.063	0.841	0.439	0.138	0.356	6.39	1.76	2.38	1.13	3.15	0.282	2.30
56	0.589	0.262	37.6	460	0.091	1.273	0.336	0.106	0.367	5.14	3.71	1.24	1.52	3.13	0.346	1.60
57	0.607	0.205	38.1	489	0.057	1.342	0.345	0.102	0.350	4.91	3.71	1.25	1.55	3.13	0.349	1.58
123	0.334	0.264	26.3	365	0.041	1.094	0.310	0.094	0.339	4.75	3.68	1.23	1.51	3.15	0.359	1.54
124	0.368	0.291	23.8	329	0.042	0.668	0.321	0.115	0.280	5.17	1.38	1.78	0.88	2.47	0.205	2.56

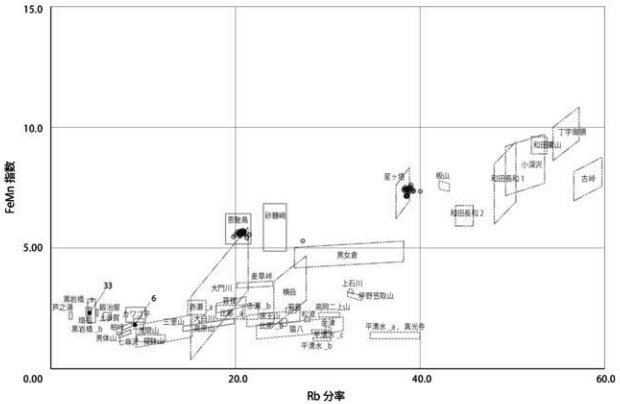
※　単位は cps/ μ A

第 72 表　試料の X 線強度

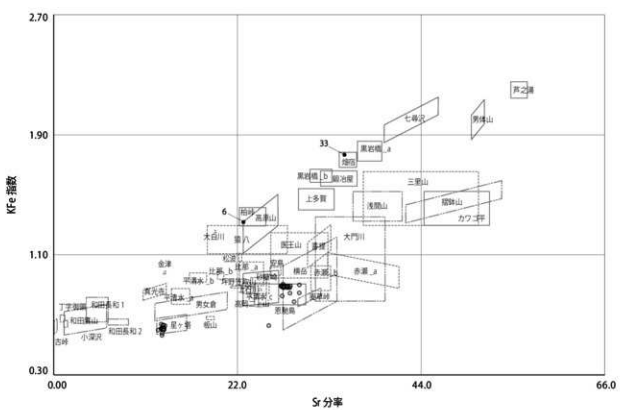
番号	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	P2O5	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	Rb	Sr	Y	Zr	Nb	Ba
1	3.7	0.11	12.8	77.1	0.039	4.8	0.55	0.09	0.081	0.71	0.0150	0.0048	0.0031	0.0082	0.00096	0.037
2	3.3	0.11	12.3	77.8	0.012	5.0	0.60	0.09	0.080	0.69	0.0143	0.0045	0.0027	0.0076	0.00088	0.028
3	1.4	0.24	9.2	82.9	0.018	4.7	0.58	0.08	0.080	0.70	0.0152	0.0050	0.0030	0.0082	0.00091	0.032
4	2.5	0.21	11.8	79.1	0.027	4.3	0.85	0.12	0.080	0.91	0.0074	0.0098	0.0029	0.0087	0.00070	0.060
5	3.1	0.19	11.8	79.0	0.024	3.8	0.89	0.13	0.081	0.92	0.0072	0.0099	0.0028	0.0084	0.00071	0.055
6	2.7	0.27	12.2	77.7	0.112	2.9	1.66	0.22	0.059	2.08	0.0053	0.0124	0.0049	0.0213	0.00035	0.055
7	4.4	0.17	12.7	77.2	0.040	3.4	0.87	0.16	0.078	0.93	0.0069	0.0086	0.0028	0.0084	0.00066	0.056
8	2.9	0.12	11.6	78.9	0.018	5.1	0.58	0.09	0.079	0.67	0.0144	0.0046	0.0028	0.0077	0.00084	0.030
9	2.6	0.12	11.3	79.5	0.011	4.9	0.59	0.09	0.081	0.70	0.0155	0.0049	0.0031	0.0083	0.00098	0.023
10	3.6	0.10	12.7	77.4	0.022	4.7	0.56	0.09	0.076	0.66	0.0150	0.0048	0.0030	0.0082	0.00096	0.032
11	3.3	0.17	11.9	79.0	0.026	3.5	0.89	0.14	0.083	0.94	0.0077	0.0096	0.0030	0.0089	0.00082	0.051
12	3.6	0.12	13.3	76.7	0.079	4.7	0.55	0.09	0.077	0.70	0.0147	0.0047	0.0029	0.0080	0.00094	0.025
13	3.9	0.19	11.6	78.5	0.035	3.7	0.89	0.13	0.084	0.97	0.0070	0.0086	0.0027	0.0081	0.00075	0.055
14	4.1	0.06	12.8	77.1	0.021	4.5	0.53	0.08	0.072	0.62	0.0132	0.0042	0.0027	0.0072	0.00075	0.027
15	3.9	0.18	12.2	78.4	0.073	3.3	0.82	0.12	0.077	0.89	0.0069	0.0092	0.0029	0.0082	0.00071	0.056
16	2.4	0.23	10.2	81.1	0.033	3.7	1.12	0.14	0.085	1.00	0.0070	0.0097	0.0028	0.0085	0.00072	0.042
17	3.2	0.12	12.2	78.2	0.013	4.8	0.57	0.08	0.078	0.67	0.0145	0.0046	0.0030	0.0081	0.00088	0.029
18	4.3	0.05	13.7	75.9	0.033	4.6	0.53	0.09	0.074	0.64	0.0140	0.0045	0.0028	0.0077	0.00088	0.028
19	4.8	0.13	13.4	76.5	0.033	3.2	0.80	0.12	0.075	0.85	0.0067	0.0087	0.0027	0.0079	0.00059	0.048
20	4.2	0.12	13.1	77.4	0.026	3.2	0.83	0.12	0.074	0.85	0.0068	0.0088	0.0027	0.0079	0.00073	0.043
21	4.8	0.13	13.4	76.5	0.033	3.2	0.80	0.12	0.075	0.85	0.0067	0.0087	0.0027	0.0079	0.00059	0.048
22	4.3	0.16	13.2	77.0	0.045	3.3	0.82	0.12	0.078	0.89	0.0070	0.0087	0.0027	0.0080	0.00072	0.046
23	4.3	0.16	13.2	77.0	0.045	3.3	0.82	0.12	0.078	0.89	0.0070	0.0087	0.0027	0.0080	0.00072	0.046
24	3.2	0.10	11.9	78.2	0.023	5.0	0.61	0.09	0.080	0.69	0.0138	0.0044	0.0027	0.0072	0.00081	0.024
25	4.4	0.12	13.5	76.3	0.039	3.7	0.90	0.13	0.076	0.88	0.0069	0.0093	0.0027	0.0085	0.00070	0.043
26	3.9	0.18	13.0	77.7	0.045	3.2	0.80	0.13	0.076	0.87	0.0069	0.0085	0.0027	0.0082	0.00065	0.033
27	3.6	0.17	12.8	77.9	0.041	3.4	0.85	0.13	0.080	0.92	0.0069	0.0087	0.0027	0.0080	0.00065	0.041
28	3.1	0.16	12.3	78.1	0.024	4.9	0.56	0.09	0.077	0.67	0.0147	0.0046	0.0029	0.0080	0.00099	0.023
29	3.7	0.09	12.8	77.3	0.027	4.7	0.56	0.09	0.077	0.66	0.0145	0.0046	0.0028	0.0078	0.00084	0.020
30	4.4	0.13	13.2	77.1	0.033	3.2	0.84	0.11	0.076	0.86	0.0069	0.0087	0.0026	0.0079	0.00071	0.041
31	3.7	0.21	12.3	78.1	0.032	3.5	0.89	0.13	0.084	0.95	0.0074	0.0093	0.0030	0.0084	0.00067	0.037
33	3.9	0.37	11.5	77.2	0.079	1.5	2.04	0.35	0.106	2.98	0.0021	0.0158	0.0045	0.0150	0.00024	0.037
34	4.9	0.16	13.6	76.0	0.023	3.3	0.82	0.12	0.075	0.87	0.0068	0.0086	0.0027	0.0079	0.00068	0.042
35	3.6	0.10	13.0	77.0	0.034	4.9	0.57	0.09	0.078	0.69	0.0149	0.0047	0.0031	0.0081	0.00095	0.024
36	3.1	0.12	11.8	78.7	0.010	4.8	0.58	0.09	0.077	0.67	0.0137	0.0043	0.0026	0.0072	0.00081	0.020
37	3.0	0.13	11.8	78.6	0.011	4.9	0.58	0.10	0.078	0.69	0.0148	0.0046	0.0028	0.0078	0.00092	0.018
38	4.1	0.16	13.5	76.8	0.137	3.3	0.84	0.13	0.078	0.90	0.0069	0.0087	0.0028	0.0083	0.00062	0.040
39	4.8	0.14	13.4	76.2	0.045	3.3	0.85	0.12	0.077	0.89	0.0068	0.0087	0.0026	0.0080	0.00070	0.039
40	5.0	0.14	13.6	76.1	0.030	3.2	0.77	0.12	0.075	0.85	0.0067	0.0083	0.0027	0.0078	0.00067	0.037
41	4.3	0.13	12.9	77.7	0.033	3.1	0.77	0.11	0.072	0.82	0.0064	0.0079	0.0025	0.0075	0.00065	0.041
42	4.9	0.14	13.6	76.1	0.061	3.2	0.87	0.12	0.075	0.87	0.0068	0.0085	0.0026	0.0078	0.00071	0.041
43	3.5	0.18	12.3	78.6	0.043	3.3	0.86	0.13	0.080	0.91	0.0072	0.0089	0.0028	0.0082	0.00067	0.037
44	3.4	0.10	12.7	77.5	0.027	4.9	0.57	0.09	0.076	0.67	0.0146	0.0045	0.0027	0.0077	0.00085	0.015
45	2.2	0.20	9.7	82.2	0.041	4.1	0.72	0.08	0.050	0.60	0.0064	0.0058	0.0016	0.0052	0.00048	0.029
46	3.5	0.10	12.7	77.5	0.021	4.7	0.54	0.08	0.075	0.66	0.0143	0.0044	0.0029	0.0076	0.00085	0.020
47	4.8	0.06	13.9	75.3	0.044	4.5	0.54	0.08	0.070	0.63	0.0137	0.0043	0.0027	0.0074	0.00085	0.022
48	4.0	0.21	13.3	77.1	0.064	3.3	0.82	0.13	0.079	0.92	0.0070	0.0086	0.0027	0.0081	0.00062	0.035
49	3.8	0.05	12.3	77.8	0.023	4.6	0.52	0.08	0.072	0.64	0.0146	0.0043	0.0027	0.0074	0.00080	0.023
50	3.7	0.18	13.0	77.3	0.029	3.8	0.82	0.13	0.075	0.88	0.0067	0.0083	0.0026	0.0080	0.00062	0.029
51	4.7	0.03	13.3	76.1	0.015	4.5	0.56	0.09	0.072	0.63	0.0127	0.0041	0.0025	0.0069	0.00080	0.017
52	3.7	0.10	12.9	77.0	0.011	4.7	0.57	0.09	0.077	0.67	0.0143	0.0045	0.0028	0.0080	0.00082	0.017
53	3.4	0.11	12.1	78.5	0.027	4.4	0.55	0.08	0.070	0.63	0.0128	0.0040	0.0025	0.0069	0.00071	0.017
54	2.9	0.14	11.0	80.2	0.027	3.5	0.86	0.14	0.081	0.94	0.0067	0.0081	0.0025	0.0075	0.00065	0.027
55	3.9	0.14	12.7	77.9	0.038	3.3	0.87	0.13	0.076	0.88	0.0067	0.0086	0.0026	0.0076	0.00064	0.032
56	3.8	0.12	13.9	75.8	0.053	4.9	0.55	0.09	0.075	0.68	0.0136	0.0043	0.0026	0.0075	0.00082	0.021
57	3.8	0.03	13.6	76.2	0.032	5.0	0.54	0.09	0.070	0.63	0.0133	0.0042	0.0026	0.0073	0.00080	0.020
123	2.5	0.15	11.5	79.3	0.027	5.0	0.61	0.10	0.082	0.75	0.0160	0.0050	0.0030	0.0089	0.00098	0.024
124	3.0	0.21	11.1	80.5	0.031	3.2	0.77	0.13	0.073	0.87	0.0064	0.0078	0.0025	0.0073	0.00065	0.043

※　単位は mass%

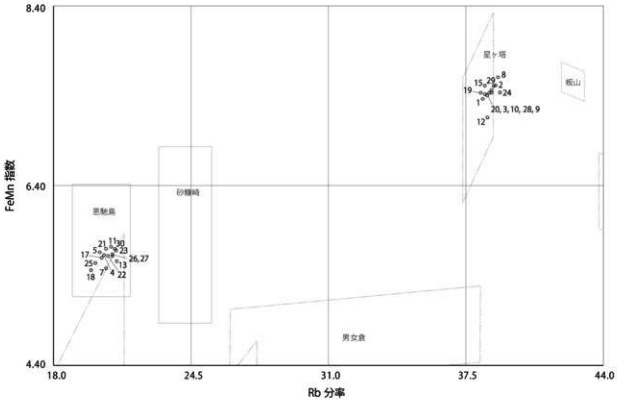
第 73 表　試料の元素濃度



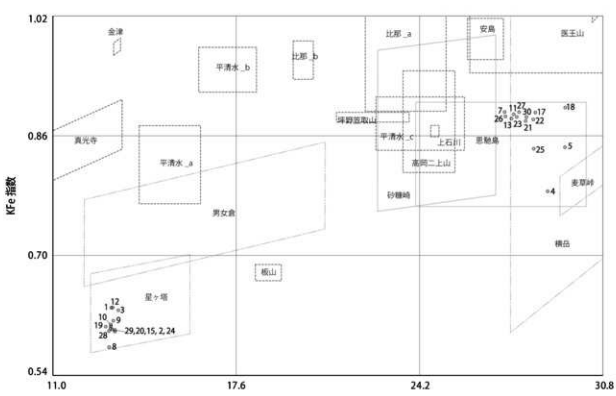
第 141 図　望月ダイアグラム（Rb 分率図／ 0.5g 以上）



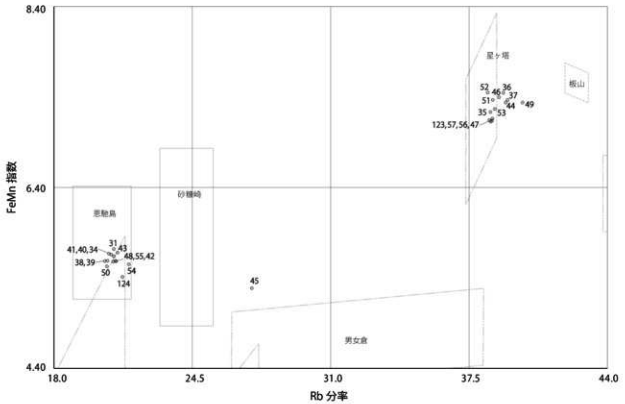
第 142 図　望月ダイアグラム（Sr 分率図／ 0.5g 以上）



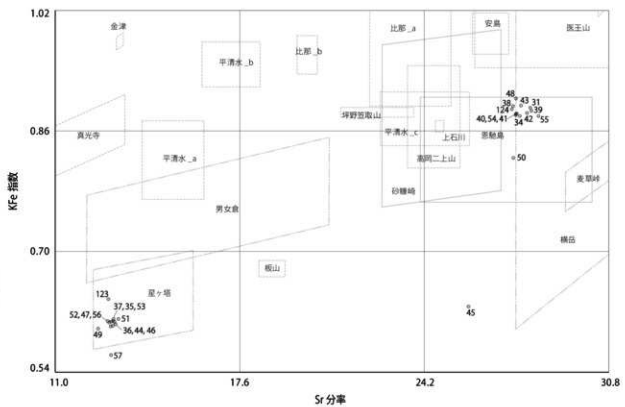
第 143 図　望月ダイアグラム（Rb 分率拡大図／ 0.5g 以上①）



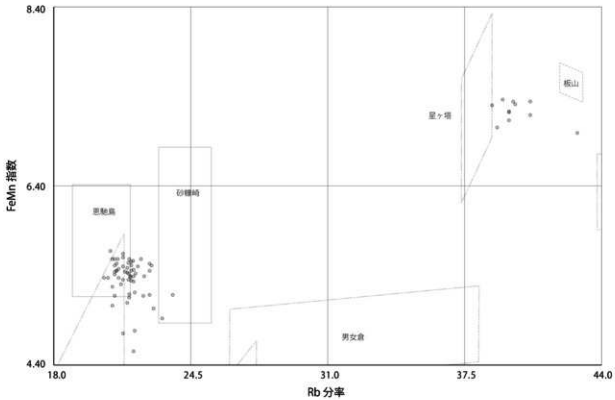
第 144 図　望月ダイアグラム（Sr 分率拡大図／ 0.5g 以上①）



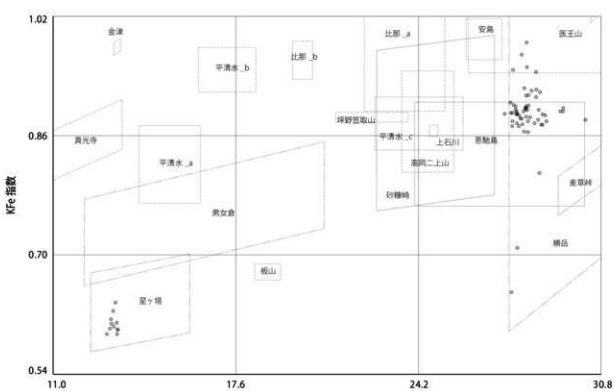
第 145 図　望月ダイアグラム（Rb 分率拡大図／ 0.5g 以上②）



第 146 図　望月ダイアグラム（Sr 分率拡大図／ 0.5g 以上②）



第 147 図　望月ダイアグラム（Rb 分率拡大図／ 0.5g 未満）



第 148 図　望月ダイアグラム（Sr 分率拡大図／ 0.5g 未満）

番号	遺構名	注記	黒曜石質量 /g	推定された判別群	挿図番号	図版番号
1	D3	Ni228 D3	9.50	星ヶ塔		
2	615Y	Ni228 615Y 1区	6.11	(星ヶ塔)		
3	198J	Ni228 198J 上層	5.93	星ヶ塔		
4	195J	Ni228 195J P5	4.97	恩馳島		
5	618Y	Ni228 618Y	3.63	恩馳島		
6	201J	Ni228 201J 掘方	3.24	(和田)		
7	197J	Ni228 197J	3.18	恩馳島		
8	87J	Ni228 87J-S-55	2.97	(星ヶ塔)		
9	198J	Ni228 198J-S-9	2.56	星ヶ塔		
10	615Y	Ni228 615Y 3区	2.56	星ヶ塔		
11	198J	Ni228 198J-S-13	2.55	恩馳島		
12	198J	Ni228 198J-S-10	2.16	星ヶ塔		
13	617Y	Ni228 617Y 掘方	2.08	恩馳島		
14	198J	Ni228 198J-S-163	1.96	星ヶ塔		
15	87J	Ni228 87J-S-39	1.78	恩馳島		
16	195J	Ni228 195J P5	1.76	恩馳島		
17	198J	Ni228 198J フク土 西カベ	1.70	星ヶ塔		
18	198J	Ni228 198J-S-14	1.64	星ヶ塔	第30図－42	図版32-1-42
19	調査区南側表土	Ni228 第2I区 南側表土	1.63	恩馳島		
20	198J	Ni228 198J-S-159	1.53	恩馳島		
21	618Y	Ni228 618Y 4区	1.34	恩馳島		
22	1号柵列	Ni228 1サク P4(18-4)	1.34	(星ヶ塔)		
23	攪乱	Ni228 2区カク乱	1.21	恩馳島		
24	618Y	Ni228 618Y フク土	1.17	恩馳島		
25	605Y	Ni228 605Y 4区	1.13	恩馳島	第135図－2	図版46-1-2
26	87J	Ni228 87J-S-19	1.10	星ヶ塔		
27	198J	Ni228 198J-S-7	1.08	星ヶ塔		
28	198J	Ni228 198J-S-186	1.02	恩馳島		
29	203J	Ni228 203J 4区	1.01	恩馳島		
30	89J	Ni228 89J P2	0.97	柵宿		
31	204J	Ni228 204J 1区	0.90	恩馳島		
32	616Y	Ni228 616Y 4区	0.86	星ヶ塔		
33	198J	Ni228 198J-S-14	0.85	(星ヶ塔)		
34	615Y	Ni228 615Y 床	0.84	(星ヶ塔)		
35	198J	Ni228 198J-S-6	0.82	恩馳島		
36	198J	Ni228 198J-S-167	0.81	恩馳島	第30図－43	図版32-1-43
37	195J	Ni228 195J-S-9	0.79	恩馳島		
38	198J	Ni228 198J-S-3	0.79	恩馳島		
39	198J	Ni228 198J-S-4	0.76	恩馳島		
40	198J	Ni228 198J-S-164	0.74	恩馳島		
41	D4	Ni228 D4	0.74	(星ヶ塔)		
42	1号柵列	Ni228 1サク P1(18-1)	0.73	不明		
43	D3	Ni228 D3	0.73	(星ヶ塔)		
44	87J	Ni228 87J-S-20	0.70	星ヶ塔		
45	617Y	Ni228 617Y 掘方	0.69	恩馳島	第135図－3	図版46-1-3
46	198J	Ni228 198J-S-12	0.66	(星ヶ塔)		
47	36号ピット	Ni228 36P(17-37)	0.65	恩馳島		
48	605Y	Ni228 605Y 2区	0.64	星ヶ塔		
49	622Y	Ni228 622Y 3区	0.60	星ヶ塔		
50	87J	Ni228 87J-S-80	0.59	星ヶ塔	第12図－27	図版24-1-27
51	201J	Ni228 201J	0.56	恩馳島		
52	198J	Ni228 198J-S-11	0.53	恩馳島		
53	618Y	Ni228 618Y 掘方	0.52	星ヶ塔		
54	618Y	Ni228 618Y	0.52	(星ヶ塔)		
123	第二工区表土	Ni228 第2I区 表土	1.45	星ヶ塔		
124	第二工区表土	Ni228 第2I区 表土	0.95	恩馳島		

注：括弧なしは判定プログラムの結果、括弧つきは分析者が推定した判別群。

第74表　推定された判別群

図　　版

1．　調査区全景

図版2

1．87 号住居跡（東から）

2．87 号住居跡遺物出土状態（東から）

3．87 号住居跡炉（北東から）

4．89 号住居跡・198 号住居跡（南東から）

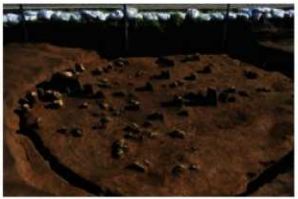
5．89 号・198 号住居跡
遺物出土状態（東から）

6．89 号住居跡埋甕（南から）

7．89 号住居跡・198 号住居跡
埋甕出土状態（南東から）

8．195 号住居跡埋甕（北から）

1．195 号住居跡炉（東から）



2．195 号住居跡遺物出土状態（西から）

3．195 号住居跡貯蔵穴（南から）

4．196 号住居跡（北から）

5．196 号住居跡炉 1（南から）

6．197 号住居跡（北から）

7．198 号住居跡埋甕（南から）

8．198 号住居跡炉土層断面（南から）

図版4

1．199 号住居跡（南東から）

2．200 号住居跡（南東から）

3．200 号住居跡遺物出土状態（東から）

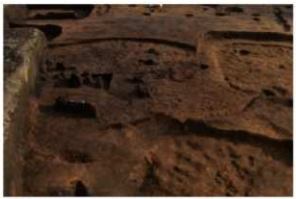
4．200 号住居跡埋甕炉

5．201 号住居跡（南東から）

6．201 号住居跡炉（南東から）

7．202 号住居跡（西から）

8．203 号住居跡（北東から）



1．203 号住居跡遺物出土状態（南から）

2．203 号住居跡埋甕（南から）

3．204 号住居跡遺物出土状態（東から）

4．204 号住居跡炉体土器（東から）

5．881 号土坑・17 P（南東から）

6．882 号土坑遺物出土状態（東から）

7．883 号土坑（南から）

8．884 号土坑遺物出土状態（東から）

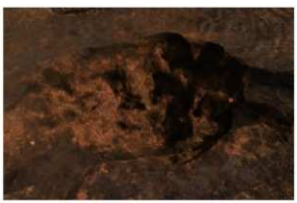
図版6

1．885 号土坑（南から）

2．887 号土坑（南から）

3．888 号土坑（南から）

4．889 号土坑（南から）



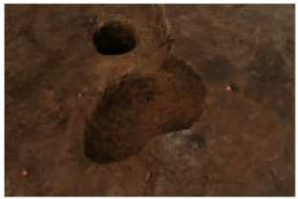
5．890 号土坑（南から）

6．891 号土坑（南から）

7．892 号土坑（西から）

8．893 号土坑（東から）

1．894 号土坑（南から）



2．895 号土坑（南東から）

3．896 号土坑（南から）

4．897 号土坑（南から）

5．898 号土坑（東から）

6．898 号土坑（南から）

7．899 号土坑（南から）

8．900 号土坑（東から）

図版8

1．199 号住居跡・293 号住居跡（北東から）

2．293 号住居跡（北から）

3．293 号住居跡炉（南から）

4．293 号住居跡貯蔵穴（北から）

5．294 号住居跡（東から）

6．294 号住居跡貯蔵穴（南から）

7．337 号住居跡（北から）

8．605 号住居跡（南から）

1．605 号住居跡焼土・炭化材出土状態（北から）

2．605 号住居跡炉（西から）

3．605 号住居跡貯蔵穴（西から）

4．605 号住居跡赤色砂利層（西から）

5．606 号住居跡（西から）

6．606 号住居跡炉（南から）

7．606 号住居跡貯蔵穴（南から）

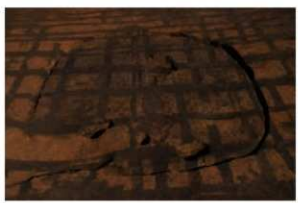
8．607 号住居跡（南から）

図版10

1．607 号住居跡焼土・炭化材検出状態（北から）

2．607 号住居跡炉（南から）

3．607 号住居跡貯蔵穴土層断面（南から）



4．608 号住居跡（南から）

5．608 号住居跡炉（東から）

6．608 号住居跡貯蔵穴（南から）

7．609 号住居跡（南から）

8．609 号住居跡貯蔵穴（東から）

1．609 号住居跡炉（西から）

2．610 号住居跡（南から）

3．610 号住居跡遺物出土状態（北から）

4．610 号住居跡炉（南から）

5．611 号住居跡（北西から）

6．611 号住居跡炭化材出土状態（北から）

7．611 号住居跡遺物出土状態（北東から）

8．611 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）

図版12

1．611 号住居跡赤色砂利層（西から）

2．612 号住居跡（南から）

3．612 号住居跡炉（南から）

4．613 号住居跡（南から）

5．613 号住居跡遺物出土状態（東から）

6．613 号住居跡炉（東から）

7．614 号住居跡（南西から）

8．615 号住居跡（西から）

1．615 号住居跡遺物出土状態（南から）

2．615 号住居跡炉（南から）

3．615 号住居跡貯蔵穴（南から）

4．615 号住居跡貯蔵穴・赤色砂利層（西から）

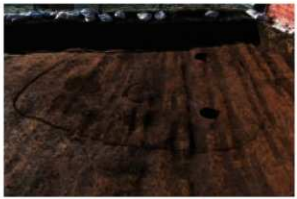
5．616 号住居跡（東から）

6．616 号住居跡遺物出土状態（東から）

7．616 号住居跡炉（南から）

8．616 号住居跡赤色砂利層（西から）

図版14



1．617 号住居跡（東から）

2．617 号住居跡炉（南から）

3．618 号住居跡（西から）

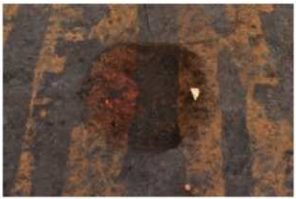
4．618 号住居跡遺物出土状態（東から）

5．618 号住居跡磨製石斧出土状態（東から）

6．618 号住居跡炉（南から）

7．618 号住居跡貯蔵穴（南から）

8．619 号住居跡（南東から）



1．619 号住居跡炉（南から）

2．620 号住居跡・627 号住居跡（東から）

3．620 号住居跡炉（南東から）

4．621 号住居跡（北東から）

5．621 号住居跡炉（南から）

6．621 号住居跡炉（新・旧）掘り方（東から）

7．622 号住居跡（東から）

8．622 号住居跡炉（南から）

図版16

1．622 号住居跡炉 2（南から）

2．623 号住居跡（南から）

3．623 号住居跡炉（東から）

4．624 号住居跡（南西から）

5．624 号住居跡遺物出土状態（東から）

6．624 号住居跡土器出土状態（北から）

7．624 号住居跡土器出土状態（東から）

8．624 号住居跡土器出土状態（東から）

1．624 号住居跡炉（北から）

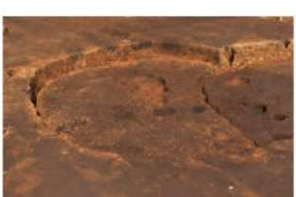
2．624 号住居跡貯蔵穴（北から）

3．624 号住居跡炉（南から）

4．625 号住居跡（北西から）

5．625 号住居跡炉 （東から）

6．625 号住居跡貯蔵穴（東から）

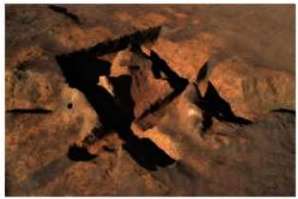


7．626 号住居跡（東から）

8．626 号住居跡炉（東から）

図版18

1．23号住居跡（南から）



2．23号住居跡カマド（南から）

3．24号住居跡（南東から）

4．24号住居跡遺物出土状態（南西から）

5．24号住居跡カマド（南東から）

6．25号住居跡（南から）

7．25号住居跡カマド（南から）

8．1号柵列（北西から）

1．1・2号柵列状遺構（東から）

2．1号柵列状遺構P 8・9土層断面（南から）

3．1号柵列状遺構P 14～17･22･23･45･70（南から）

4．1号柵列状遺構P 14～16土層断面（南から）

5．1号柵列状遺構P 27土層断面（北から）

6．1号柵列状遺構P 29～31土層断面（南西から）

7．1号柵列状遺構P 34土層断面（南東から）

8．1号柵列状遺構P 37～40（南から）

図版20

1．2号柵列状遺構（南から）

2．2号柵列状遺構（北から）

3．2号柵列状遺構断面（南から）

4．2号柵列状遺構Ｐ４～６土層断面（南から）

5．2号柵列状遺構Ｐ 18 ～ 20（東から）

6．2号柵列状遺構Ｐ 23 ～ 25（東から）

7．2号柵列状遺構Ｐ 23 ～ 25 土層断面(東から)

8．2号柵列状遺構Ｐ 33 ～ 35 土層断面（東から）

1．2号柵列状遺構Ｐ 38 ～ 40（東から）

2．2号柵列状遺構Ｐ 38 ～ 40 土層断面（東から）

3．2・3号柵列状遺構（南から）

4．2・3号柵列状遺構（北から）

5．3号柵列状遺構Ｐ 1 土層断面（東から）

6．3号柵列状遺構Ｐ 5（東から）

7．3号柵列状遺構Ｐ 7 土層断面（東から）

8．3号柵列状遺構Ｐ 22 ～ 24（北西から）

図版22

1．4号柵列状遺構（西から）

2．4号柵列状遺構（東から）

3．4号柵列状遺構P1土層断面（北から）

4．4号柵列状遺構P2土層断面（南から）

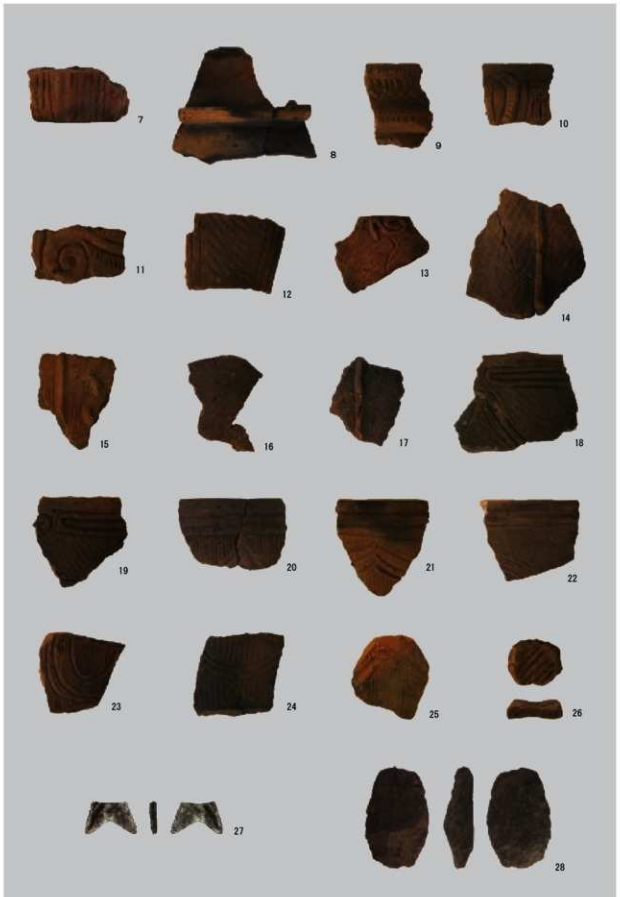
5．4号柵列状遺構P6～8（北から）

6．4号柵列状遺構P12・13土層断面（南から）

7．4号柵列状遺構P21（南から）

8．18・19号ピット（南から）

1．87号住居跡出土遺物（1）



1．87号住居跡出土遺物（2）

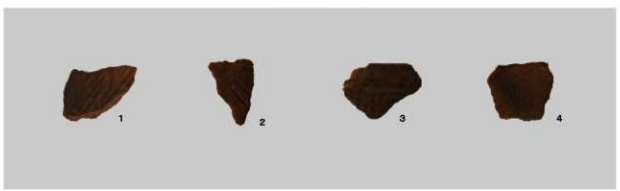
1．87号住居跡出土遺物（3）

2．89号住居跡出土遺物

1．195号住居跡出土遺物（1）

1．195号住居跡出土遺物（2）

1．195 号住居跡出土遺物（3）



2．196 号住居跡出土遺物

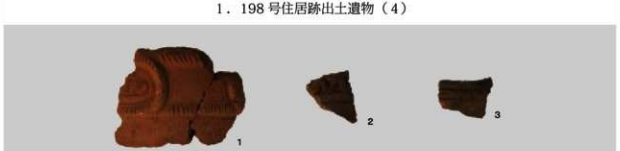
3．197 号住居跡出土遺物

1．198号住居跡出土遺物（1）

1．198号住居跡出土遺物（2）

1．198号住居跡出土遺物（3）

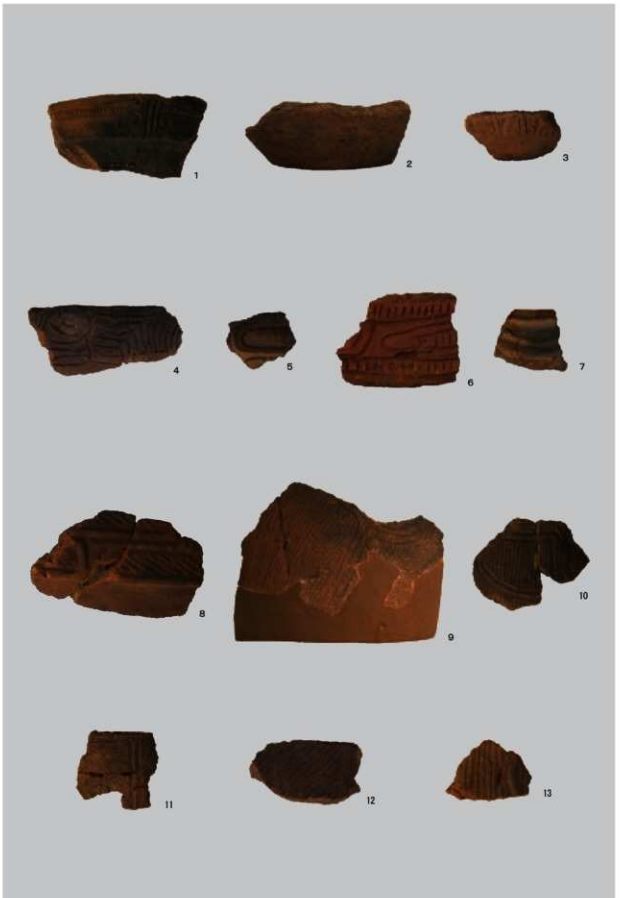
1．198 号住居跡出土遺物（4）



2．199 号住居跡出土遺物

1．200号住居跡出土遺物（1）

1．200号住居跡出土遺物（2）



1．201号住居跡出土遺物

1．202 号住居跡出土遺物

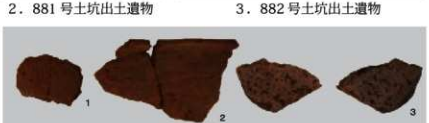
2．203 号住居跡出土遺物

3．204 号住居跡出土遺物（1）

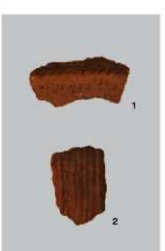
1．204 号住居跡出土遺物（2）

2．881 号土坑出土遺物

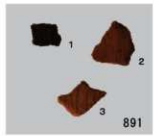
3．882 号土坑出土遺物



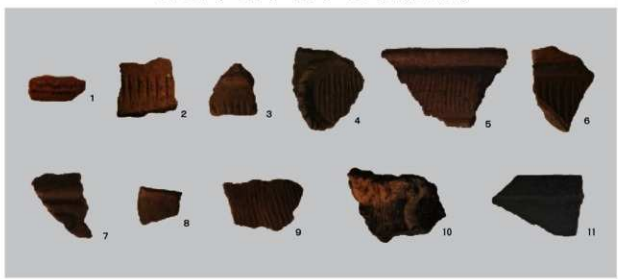
4．883 号土坑出土遺物



5．884 号土坑出土遺物



1．885 号・889 号・891 号・892 号土坑出土遺物



2．893 号土坑出土遺物

3．896 号土坑出土遺物

4．897 号土坑出土遺物

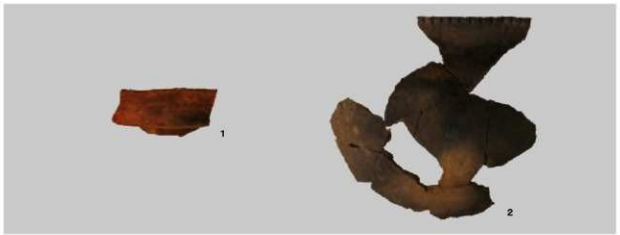
5．898 号土坑出土遺物

6．899 号土坑出土遺物

1．293 号住居跡出土遺物

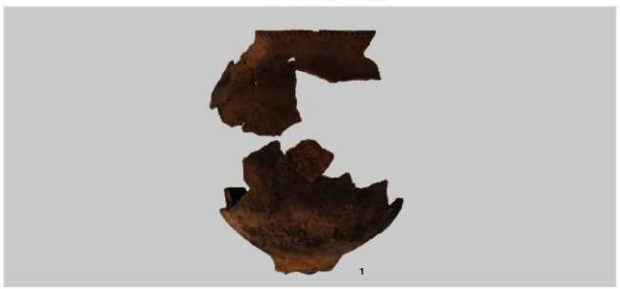
2．294 号住居跡出土遺物

3．605 号住居跡出土遺物



1．606 号住居跡出土遺物

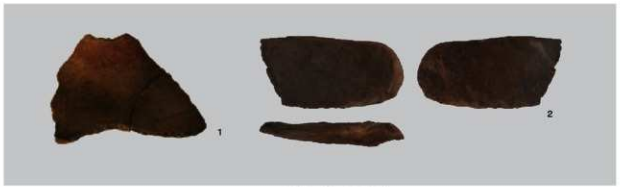
2．607 号住居跡出土遺物



3．610 号住居跡出土遺物

1．611号住居跡出土遺物

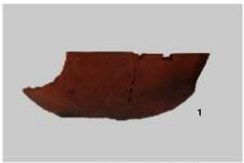
2．613号住居跡出土遺物



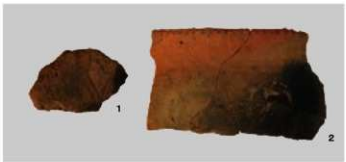
1．615号住居跡出土遺物

2．616号住居跡出土遺物

3．618号住居跡出土遺物



1．620 号住居跡出土遺物



2．621 号住居跡出土遺物

3．622 号住居跡出土遺物

4．624 号住居跡出土遺物（1）

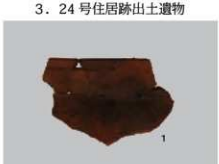
1．624号住居跡出土遺物（2）

2．625号住居跡出土遺物

1．626 号住居跡出土遺物

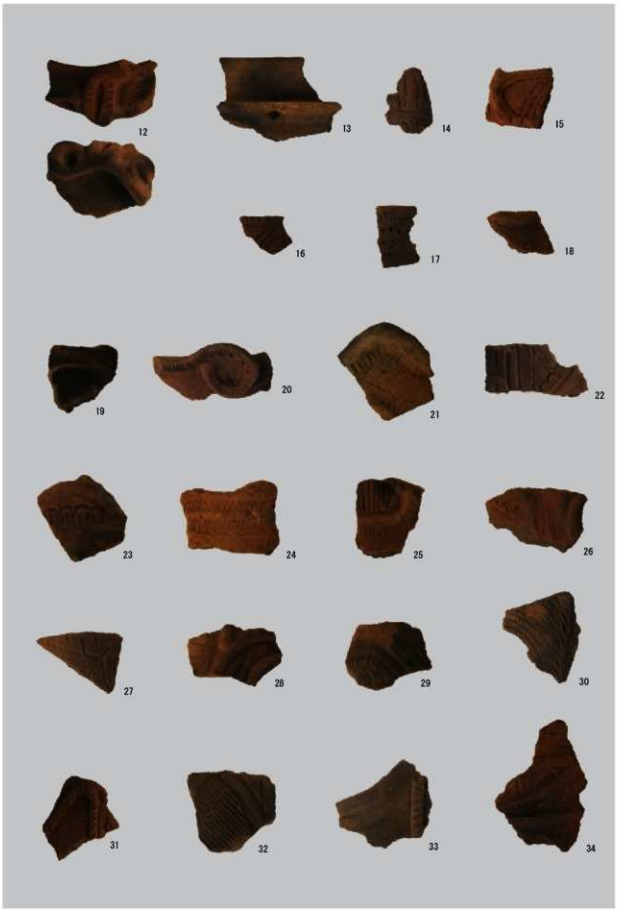
2．23 号住居跡出土遺物

3．24 号住居跡出土遺物

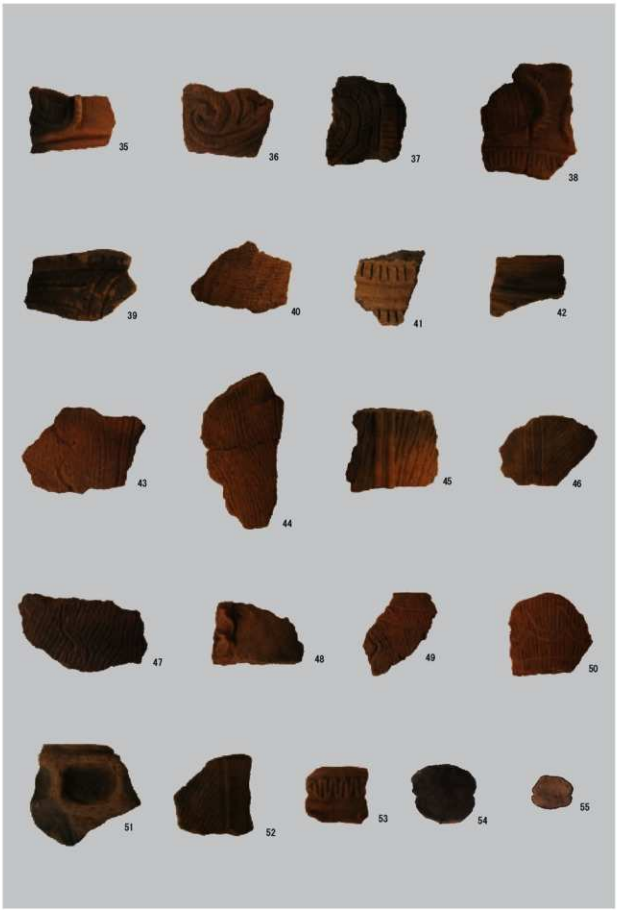


4．25 号住居跡出土遺物

1．遺構外出土遺物（1）



1．遺構外出土遺物（2）



1．遺構外出土遺物（3）

報告書抄録

ふりがな	にしはらおおつかいせきだい228ちてん
書名	西原大塚遺跡第228地点
シリーズ名	志木市の文化財
シリーズ番号	第79集
編著者名	尾形則敏・德留彰紀・大久保聡・宅間清公・小森暁生
編集機関	埼玉県志木市教育委員会
所在地	〒353-0002　埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号　TEL048（473）1111
発行年月日	令和3（2021）年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 (°′″)	東経 (°′″)	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
にしはらおおつかいせき 西原大塚遺跡 （第228地点）	しきしさいわいちょう 志木市幸町 3丁目 7193～7195	11228	09-007	35° 49′ 29″	139° 33′ 59″	20190902 ～ 20200325	2,156㎡	分譲住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西原大塚遺跡 （第228地点）	集落跡	縄文時代	住居跡　12軒 土坑　19基	土器・土製品・石器 土器・石器	曾利式の埋甕を検出
		弥生時代後期～古墳時代前期	住居跡　26軒	土器・石器	
		奈良・平安時代	住居跡　3軒	土器	
		中世以降	柵列状遺構4条 土坑　1基	なし なし	

要約

西原大塚遺跡は柳瀬川の南東、武蔵野台地北東端に所在する旧石器時代から近世までの複合遺跡である。第228地点は遺跡の中央部に位置し、調査では縄文時代、弥生時代後期～古墳時代前期、奈良・平安時代、中世以降の各時期の遺構が多数検出された。

縄文時代調査では中期中葉から後葉にかけての住居跡と土坑が検出した。当該調査地点は縄文時代の環状集落の東端にあたり、4軒の埋甕炉を持つ住居跡と、3軒の埋甕を持つ住居跡を含む12軒が確認されている。この内、200Jは4個体の口縁部片を組み合わせた特異なものである。

弥生時代後期～古墳時代前期では、26軒の住居跡が調査され、中には凸堤が付帯する貯蔵穴と赤色砂利層が認められた。遺物は口縁部にキザミが施される甕形土器、赤彩された壺形土器が出土している。

奈良・平安時代では3軒の住居跡を調査した。いずれもカマドは北壁に設けられる。遺物は須恵器と土師器の坏形土器や甕形土器などが出土した。

中世以降では4条の柵列状遺構が検出さた。相互に有機的に機能していたものと見られ、中世以降における当該地のに土地利用状況を窺わせる。

志木市の文化財　第79集

西原大塚遺跡第228地点
埋蔵文化財発掘調査報告書

発　行　埼玉県志木市教育委員会
　　埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号
発行日　令和3（2021）年3月31日
印　刷　関東図書株式会社